

(2) 土坑(第211～213図 PL.159～162・221・222 遺物観察表P.462・463)

V区古代～古墳時代遺構面で検出された土坑は、南区で5基、北区で21基である。土坑は北区に偏在しており、南区では散在していた。北区では堅穴住居やピット群の分布を取り巻くような位置にあり、集落内に有機的配置があったことが想定される。この遺構集中分布はIV区北西隅の遺構分布へ連続しているものである。ほとんどの土坑が浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっており、古墳時代の土坑と推定される。中央区では本面の遺構確認を実施していないので、西側への土坑分布の広がりについては不明と言わざるを得ない。

それぞれの土坑の位置や規模は、P.434の表にまとめた。以下各遺構の調査所見を、南区～北区の順に記載する。

a. 南区の土坑

20号土坑は不整楕円形の土坑で、22号溝の西側で検出された。断面形は皿状。黒褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

21号土坑は不整楕円形の土坑で、22号溝の東側で検出された。断面形は浅いボール状。浅間C軽石を微量含む暗灰色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

22号土坑は不整長方形の土坑で、1号流路の東側で検出された。断面形は浅いボール状。底面には凹凸がある。微量の浅間C軽石、黒色粘質土塊を含む暗灰色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

23号土坑は不整楕円形の土坑で、22号土坑の北東側で検出された。断面形はボール状。上層は浅間C軽石を微量含む灰色粘質土で、下層は暗灰色粘質土と黒色粘質土、黄灰色粘質土の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

24号土坑は不整楕円形の土坑で、23号土坑の東側で検出された。断面形は浅いボール状。底面は南東部がやや深くなっている。微量の浅間C軽石、黒色粘質土塊を含む暗灰色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

b. 北区の土坑

36号土坑はほぼ円形の土坑で、36号溝に区切られた北側のほぼ中央で検出された。断面形はやや上方に開く箱形。上層は浅間C軽石・地山ローム粒を含む黒褐色軽植

土で、下層は浅間C軽石・地山ローム塊を含む黒色軽植土で埋まっていた。遺物は比較的多く出土した。図示した土師器壺(第211図1)は北壁際底面上27.4cmで出土した。他に埋没土中から土師器壺破片5点、高環破片1点、甕破片45点、S字甕破片23点、台付甕破片1点が出土した。土坑の時期は古墳時代前期と推定される。

37号土坑は円形の土坑で、36号土坑の東側に検出された。断面はフラスコ状。浅間C軽石・地山ローム粒を含む黒色軽植土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。土坑の時期は埋没土の特徴から古墳時代前期と推定される。

51号土坑はほぼ円形の土坑で、37号土坑の南側で検出された。上層は浅間C軽石・暗褐色壤土塊を含む黒褐色軽植土で、下層は暗褐色土と地山ローム塊の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

52号土坑は丸い楕円形の土坑で、51号土坑の南西側で検出された。浅間C軽石・暗褐色壤土塊を含む黒色重植土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片21点、器台破片1点、S字甕破片39点が出土した。出土遺物から土坑の時期は古墳時代前期と考えられる。

53号土坑はほぼ円形の土坑で、61号土坑の北側で検出された。断面形は筒形。上層は浅間C軽石・暗褐色壤土塊を含む黒褐色壤土で、下層は浅間C軽石・炭化物粒を含む黒色壤土で埋まっていた。図示した土師器壺(第211図2)は南部底面上15.4cmで出土した。他に埋没土中から土師器壺破片31点、S字甕破片29点が出土した。土坑の時期は古墳時代前期と考えられる。

54号土坑は楕円形の土坑で、62号土坑の北側で検出された。断面形は浅いボール状。浅間C軽石・地山ローム塊を含む黒褐色壤土で埋まっていた。埋没土中からS字甕破片4点が出土した。出土遺物から土坑の時期は古墳時代前期と考えられる。

55号土坑は小型の円形土坑で、発掘区北端で69号土坑と並んで検出された。断面形は皿状。地山ローム粒を含む黒褐色壤土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

58号土坑は不整楕円形の土坑で、断面形は筒形。上層は浅間C軽石を含む黒褐色壤土で、下層は浅間C軽石・地山ローム粒を含む黒色軽植土、黒色シルト質土で埋まっていた。図示した土師器器台(第212図1)は南部底面上27.5cmで、S字甕(3・4)は中央部底面上28.8cm、

壺(2)は北部底面直上で出土した。他に埋没土中から土師器壺破片3点、高坏破片1点、S字襷破片8点が出土した。土坑の時期は古墳時代前期と推定される。

59号土坑は楕円形の土坑で、68号土坑と接して検出された。断面形は上方が開く筒形。上層は浅間C軽石を含む黒褐色・黒色軽植土で、下層は浅間C軽石・暗褐色壤土粒・地山ローム粒等を含む黒色壤土、黒色軽植土で埋まっていた。図示した土師器S字襷(第212図5)は中央部底面上2.5cmで出土した。他に埋没土中から、土師器ミニチュア破片1点、壺破片65点、埴破片4点、S字襷破片76点が出土した。土坑の時期は古墳時代前期と推定される。

60号、68号土坑と44号ピットは、59号土坑の南側に接して検出された。68号土坑が最も古く、44号ピット、60号土坑の順に掘られたものとみられる。60号土坑は楕円形の土坑で、上層は浅間C軽石を含む黒褐色重植土、下層は浅間C軽石・黄褐色シルト質壤土塊を含む黒褐色軽植土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

68号土坑は小型の楕円形の土坑で、白色軽石・暗褐色壤土小塊を含む黒褐色軽植土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

61号土坑は円形の土坑で、59号土坑の東側で検出された。断面形はフラスコ状。上半部は浅間C軽石を含む黒色壤土で、白色軽石を含む黒褐色重植土で埋まっていた。図示した土師器小型丸底壺(第212図6)は埋没土中から出土した。他に土師器壺破片2点、S字襷破片16点が埋没土中から出土した。土坑の時期は古墳時代前期と推定される。

62号土坑は楕円形の土坑で、54号土坑の南側で検出された。底面には凹凸が著しい。浅間C軽石・黄褐色シルト質壤土小塊を含む黒褐色軽植土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片8点、S字襷破片14点が出土した。

64号土坑は丸い楕円形の土坑で、58号土坑の東側で検出された。断面形は皿状。浅間C軽石を比較的多く含む黒色軽植土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

65号土坑は発掘区東端にあり、東半分が発掘区域外となり、全形がとらえられなかったが、楕円形と推定される。浅間C軽石を含む黒色軽植土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片12点、高坏破片1点、坏破片1点、襷破片7点、S字襷破片51点が出土した。埋没土と出土

遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

69号土坑は円形の土坑で55号土坑に接して検出された。断面形は皿状。地山ローム粒を含む黒褐色壤土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

70号土坑は隅丸長方形の土坑で、36号溝の西端近くで重複して検出された。溝との新旧関係は不明である。浅間C軽石・地山ローム塊を含む黒褐色軽植土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片1点、S字襷破片3点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

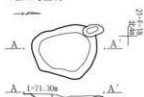
71号土坑は楕円形の土坑で、発掘区北部39号溝の南側で検出された。断面形はすり鉢状。上位に浅間C軽石を含む黒褐色壤土塊、下層には地山ローム塊を含む黒褐色壤土で埋まっていた。本土坑からは遺物が多量に出土した。図示した土師器器台(第213図1)は北壁沿い底面上11.7cmで出土した。他に埋没土中から土師器壺破片53点、埴破片4点、S字襷18点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

72号土坑は北半分が発掘区域外になり、全形がとらえられなかったが、楕円形と推定される。断面形は皿状。浅間C軽石を含む黒色軽植土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

74号土坑は小型の円形の土坑で、72号土坑の南東部に近接して検出された。断面形は筒状。上層は浅間C軽石・砂粒を含む黒褐色砂質壤土で、下層は浅間C軽石・褐色シルト質壤土塊を含む黒褐色壤土で埋まっていた。図示した土師器(第213図2)は中央部底面上19.5cmで出土した。他に埋没土中から土師器S字襷18点が出土した。埋没土や出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

76号土坑は北側の大部分が発掘区域外になり、全形がとらえられなかったが、楕円形あるいは円形と推定される。断面形は皿状。61号、85号ピットと重複していたが、新旧関係は不明である。浅間C軽石を含む黒褐色軽植土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片1点、S字襷7点が出土した。埋没土と出土遺物から古墳時代前期の土坑と推定される。

V区20号土坑



V区20号土坑A-A'
1. 黒褐色粘質土

V区21号土坑



V区21号土坑A-A'
1. 暗灰色粘質土 As-Cを微量含む。極めて粘性の強い層。

V区22号土坑



V区22号土坑A-A'
1. 暗灰色粘質土 As-Cを微量含む。暗灰色粘質土中に黒色粘質土塊を少量含む。

V区23号土坑



V区23号土坑A-A'
1. 灰色粘質土 As-Cを極微量含む粘質土。鉄分と思われる黄色細粒を均一に含む。
2. 暗灰色粘質土・暗灰色粘質土・黒色粘質土・黄灰色粘質土との混土。
3. 灰色粘質土 均一な灰色粘質土(掘り過ぎかもしれない)

V区24号土坑



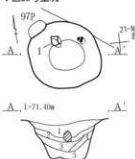
V区24号土坑A-A'
1. 暗灰色粘質土 白色細粒・軽石を微量含む。
2. 掘り過ぎ

V区37号土坑



V区37号土坑A-A'
1. 黒色軽質土 As-Cを含む。底部近くに地山褐色ロームのぼやけた斑3%含む。ややしまっている。

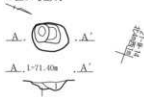
V区36号土坑



V区36号土坑A-A'

1. 黒色軽質土 As-Cを含む。地山褐色ローム小塊1%含む。しまっている。
2. 黒褐色軽質土 As-Cを含む。地山褐色ローム粒5%含む。ややしまっている。
3. 黒色軽質土 As-Cを含む。地山褐色ロームのぼやけた斑7%含む。ややしまっている。
4. 黒色軽質土 As-Cを含む。にぶい黄褐色土シルト質塊土(地山P相当附近)の小塊3%含む。ややしまっている。
5. 黒色重質土 As-Cを含む。地山褐色ロームのぼやけた斑3%含む。しまり弱い。

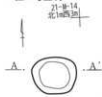
V区51号土坑



V区51号土坑A-A'

1. 黒褐色重質土 As-C含む。暗褐色塊土を斑状に2%含む。固くしまっている。
2. 混土 1層50%。暗褐色～褐色地山ローム塊50%の混土。固くしまっている。

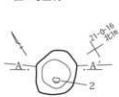
V区52号土坑



V区52号土坑A-A'

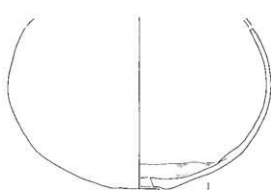
1. 黒色重質土 As-C含む。暗褐色塊土小塊を1%含む。固くしまっている。

V区53号土坑



V区53号土坑A-A'

1. 黒褐色塊土 As-Cを含む。暗褐色塊土の小塊7%含む。しまりやや弱い。
2. 黒色塊土 As-C少量含む。炭化物粒少量含む。ややしまっている。壁面近くは木の根により攪乱を受けている。



V区54号土坑



V区54号土坑A-A'

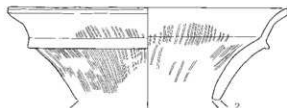
1. 黒褐色重質土 As-Cを含む。にぶい黄褐色(地山ローム)を斑状に1%含む。固くしまっている。

V区55号土坑



V区55号土坑A-A'

1. 黒褐色塊土 混入物少ない。地山ローム粒を含む。ややしまっている。

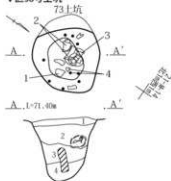


0 1:3 5cm

0 1:60 2m

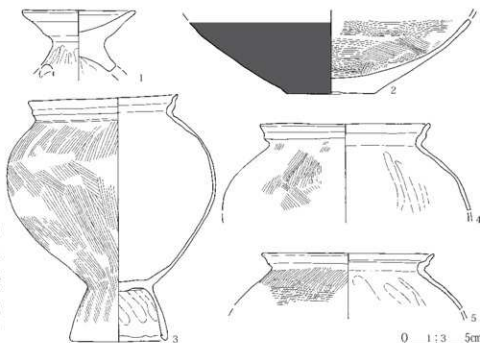
第211図 V区土坑(1)と出土遺物

V区58号土坑

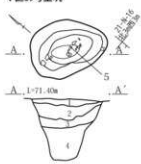


V区58号土坑A-A'

1. 黒褐色重埴土 白色軽石粒含む、固くしまっている。
2. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む、ややしまっている。
3. 黒色軽埴土 As-Cを含む、褐色(地山ローム)粒1%含む。土器片を含む。しまりやや弱い。
4. 黒色シルト質埴土 As-Cを含む、黒褐色を斑状に5%含む、しまり弱い。



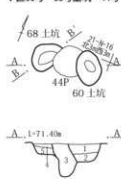
V区59号土坑



V区59号土坑A-A'

1. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む、固くしまっている。
2. 黒色軽埴土 As-C比較的多く含む。暗褐色土斑1%含む。しまっている。
3. 黒色埴土 As-Cを含む、暗褐色土粒多く含む。にぶい黄褐色シルト質埴土斑1%含む。ややしまっている。
4. 黒色軽埴土 As-Cを含む、暗褐色土小塊5%含む、しまり弱い。

V区60号・68号土坑・44号ピット



B. 1.71.00m B'

B. 1.71.00m B'

B. 1.71.00m B'

B. 1.71.00m B'

B. 1.71.00m B'

B. 1.71.00m B'

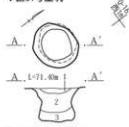
V区60号土坑A-A'

1. 黒褐色重埴土 As-Cを含む、固くしまっている。(60号土坑埋没上)
2. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む、にぶい黄褐色シルト質埴土(地山YP相当層近く)の小塊1%含む。しまっている。(60号土坑埋没上)
3. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む、暗褐色土小塊を1%含む、ややしまっている。(44号ピット埋没上)
4. 黒褐色軽埴土 白色軽石粒含む、しまっている。(68号土坑埋没上)
5. 黒褐色軽埴土 白色軽石粒含む。暗褐色土の小塊1%含む。しまっている。(68号土坑埋没上)

V区68号土坑B-B'

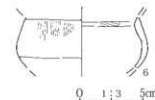
1. 地山ローム塊が酸化したもので、鉄分を含み固くなっている。
2. 黒褐色重埴土 As-Cを含む、ローム粒を含む、固くしまっている。
3. 黒褐色重埴土 As-Cを含む、褐色土を斑状に7%含む、固くしまっている。

V区61号土坑



V区61号土坑A-A'

1. 黒色埴土 As-Cを含む、暗褐色～褐色地山ローム塊の小塊3%含む。しまりやや弱い。
2. 黒色埴土 As-Cを含む、他の混入物少ない、ややしまっている。
3. 黒褐色重埴土 白色軽石粒含む、固くしまっている。



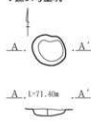
V区62号土坑



V区62号土坑A-A'

1. 黒褐色軽埴土 As-Cを含む。下位ににぶい黄褐色シルト質埴土(地山YP相当層近く)の小塊を3%含む、しまっている。

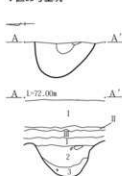
V区64号土坑



V区64号土坑A-A'

1. 黒色軽埴土 As-Cを比較的多く含む、固くしまっている。

V区65号土坑



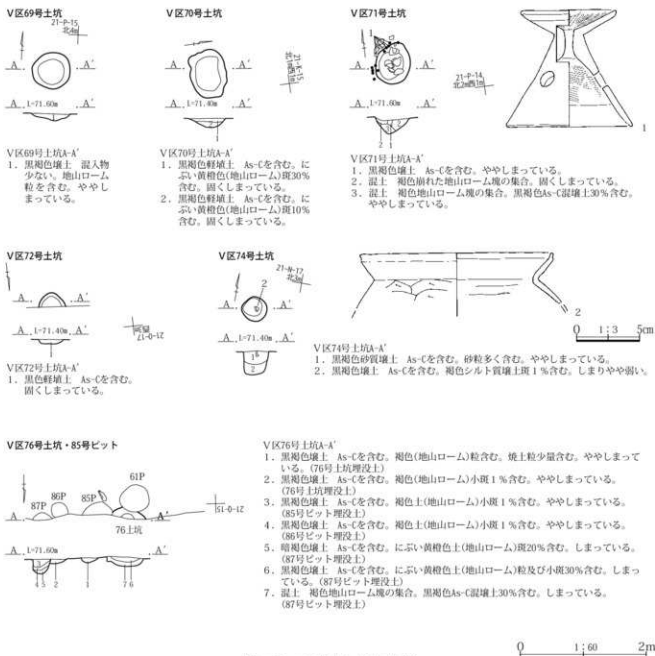
V区65号土坑A-A'

1. 灰褐色土 表土。
2. 黄褐色シルト 洪水層。
3. 黒褐色砂質土 As-Bを含む。
4. 黒色軽埴土 混入物少ない、As-Cを含まない、しまり弱い。
5. 黒色軽埴土 As-Cを含む、鉄分の凝集粒を含む、しまりやや弱い。
6. 黒褐色重埴土 白色軽石粒含む、固くしまっている。



第212図 V区土坑(2)と出土遺物

第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物



第213図 V区土坑(3)と出土遺物

(3) ピット (第214～216図 PL.162～165)

V区古代～古墳時代遺構面で検出したピットは、南区で2基、北区で55基である。西区では古代～古墳時代遺構面のピットは検出されなかった。検出されたピットはほとんどが浅間C軽石と推定される白色軽石を含む黒褐色土で埋まっており、すべてではないが古墳時代前期の遺物を出土することから、古代～古墳時代遺構面の遺構として報告した。それぞれのピットの位置や規模は、P.438・439の表にまとめた。以下各調査区のピットの調査所見を記載する。

a. 南区のピット

南区では、9号ピット・11号ピットが発掘区の両端で検出された。いずれのピットの埋没土にも浅間C軽石の記載がないが、確認面が一致していることから古代～古墳時代遺構面の遺構として報告した。

9号ピットは23号溝の西側、20号土坑の南側で検出された。少量の灰色シルト塊を含む黒色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

11号ピットは16号溝の北側で検出された。浅間C軽石を含む黒色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

b. 北区のピット (第214～216図 PL.162～165)

北区では、35号～98号ピットが発掘区北部に集中して検出された。この地点は発掘区のなかでも微高地部分で、竪穴住居も検出された。より高い北半部にピットが、南側の微高地裾部に土坑かというように分布が分かれていた。規格的な配置のピットは検出されなかったが、2号住居やL字状に屈曲する39号溝に重複して検出されたピットもある。また、77号～80号ピットは5号流路とした地表面の凹地と思われる溝状の遺構の西端に並ぶように検出された。いずれのピットも、浅間C軽石と推定される白色軽石と、地山の黄褐色ロームや黄白色土小塊を含む暗褐色土で埋まっていた。多くのピットは古墳時代前期の遺構と推定される。各ピットの機能・用途は明確にできなかった。

35号ピットの埋没土中からは土師器S字襷破片2点が出土した。

36号ピットの埋没土中からは土師器S字襷破片3点が出土した。

45号ピットの埋没土中からは土師器S字襷破片2点が出土した。2号住居の支柱穴の可能性もある。

46号ピットの埋没土中から、土師器S字襷破片1点が出土した。

47号ピットの埋没土中から、土師器壺破片3点、S字襷破片12点が出土した。

49号ピットの埋没土中から、土師器壺破片1点が出土した。

51号ピットの埋没土中から、須恵器瓶破片1点が出土した。ピットの時期は古代の可能性もある。

54号ピットの埋没土中から、土師器S字襷破片1点が出土した。

58号ピットの埋没土中から、土師器壺破片3点、S字襷破片5点が出土した。

59号ピットの埋没土中から、土師器壺破片2点、S字襷破片3点が出土した。

60号ピットの埋没土中から、土師器壺破片4点、S字襷破片7点が出土した。

65号ピットの埋没土中から、土師器襷破片2点が出土した。

68号ピットの埋没土中から、土師器S字襷破片2点が出土した。

71号ピットの埋没土中から、土師器壺破片5点、S字襷破片10点が出土した。

72号ピットの埋没土中から、土師器S字襷破片2点が出土した。

73号ピットの埋没土中から、土師器S字襷破片7点が出土した。

75号ピットの埋没土中から、土師器S字襷破片1点が出土した。

76号ピットの埋没土中から、土師器S字襷破片1点が出土した。

80号ピットの埋没土中から、土師器襷破片1点が出土した。

82号ピットの埋没土中から、土師器S字襷破片5点が出土した。

89号ピットの埋没土中から、土師器壺破片1点、S字襷破片2点が出土した。

93号ピットの埋没土中から、土師器壺破片10点、坏破片3点、S字襷破片9点が出土した。ピットの時期は古代の可能性もある。

98号ピットの埋没土中から、土師器S字襷破片2点が出土した。

その他のピットからは遺物は出土しなかった。

以上のように、いくつかのピットからは土器が埋没土中から出土しており、ピットの時期は51号・93号ピットを除き、古墳時代前期と考えておきたい。

(4) 溝

V区古代～古墳時代遺構面では、9条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.444の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

V区16号溝 (第217・264図 PL.166)

16号溝は、V区南区南部で検出された直線の溝である。東端はIV区16号溝に連続する。

走向は北区でN-72°-W、幅は0.42～2.14m、深さは0.15m、調査長10.43mである。断面形は浅い台形で、底面は平坦で、標高は北西端が0.10m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は

V区9号ピット



V区9号ピットA-A'

1. 黒色粘質土 少量の灰色シルトの2～3cm大塊を含む。

V区48号ピット



V区48号ピットA-A'

1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)を斑状に30%含む。ややしまっている。

V区51号ピット



V区51号ピットA-A'

1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)を斑状に1%含む。ややしまっている。
2. 黒褐色軽壤土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒3%含む。しまりやや弱い。
3. 黒褐色壤土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)を斑状に10%含む。しまっている。

V区56号ピット



V区56号ピットA-A'

1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。ややしまっている。

V区57号ピット



V区57号ピットA-A'

1. 黒褐色壤土 As-Cを含む。褐色壤土を斑状に1%含む。ややしまっている。

V区11号ピット



V区11号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを微量。均一に含む。

V区49号ピット



V区49号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)を斑状に5%含む。ややしまっている。

V区52号ピット



V区52号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)を斑状に20%含む。ややしまっている。

V区58号ピット



V区58号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒1%含む。しまりやや弱い。
2. 暗褐色軽壤土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)塊20%含む。固くしまっている。

V区59号ピット



V区59号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小塊1%・同粒1%含む。しまりやや弱い。
2. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)塊10%含む。しまっている。
3. 暗褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)塊3%含む。しまっている。
4. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小塊1%含む。ややしまっている。

V区35号・36号ピット



V区35号・36号ピットA-A'

1. 黒褐色重土 As-Cを含む。固くしまっている。

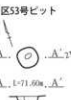
V区50号ピット



V区50号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)を斑状に1%含む。ややしまっている。

V区53号ピット



V区53号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。暗褐色土を斑状に15%含む。ややしまっている。
2. 黒褐色軽土 As-Cを含む。しまっている。

V区54号ピット



V区54号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。暗褐色土を斑状に3%含む。しまっている。
2. 振り過ぎ

V区59号ピット



V区59号ピットA-A'

1. 混土。褐色土(地山ローム)塊50%・黒褐色As-Cを含む壤土50%の混土。ややしまっている。
2. 黒褐色土 As-Cを含む。しまり弱い。

V区60号ピット



V区60号ピットA-A'

1. 振り過ぎ
2. 黒褐色軽土 As-Cを含む。しまっている。
3. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒1%含む。しまりやや弱い。
4. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小塊15%含む。しまりやや弱い。

V区44号ピット



V区44号ピットA-A'

1. 黒褐色重土 As-Cを含む。固くしまっている。(60号土坑埋没上)
2. 黒褐色軽土 As-Cを含む。にぶい黄褐色シルト質壤土(地山OP相当層近く)の小塊1%含む。しまっている。(60号土坑埋没上)
3. 黒褐色軽土 As-Cを含む。暗褐色土小塊を1%含む。ややしまっている。(44号ピット埋没上)
4. 黒褐色軽土 白色軽石粒含む。しまっている。(68号土坑埋没上)
5. 黒褐色軽土 白色軽石粒含む。暗褐色土の小塊1%含む。しまっている。(68号土坑埋没上)

V区44号ピット



V区44号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)を斑状に1%含む。ややしまっている。

V区55号ピット



V区55号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。暗褐色土を斑状に1%含む。ややしまっている。

V区61号ピット



V区61号ピットA-A'

1. 振り過ぎ
2. 黒褐色軽土 As-Cを含む。しまっている。
3. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒1%含む。しまりやや弱い。
4. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小塊15%含む。しまっている。
5. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小塊15%含む。しまりやや弱い。



第214図 V区ピット(1)

V区62号ピット



V区62号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。しまり弱い。
2. 黒褐色土 As-Cを含む。暗褐色土を斑状に3%含む。しまっている。

V区63号ピット



V区63号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。地山ローム粒を含む。ややしまっている。
2. 掘り過ぎ

V区64号ピット



V区64号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小斑1%含む。ややしまっている。

V区65号ピット



V区65号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを少量含む。ややしまっている。
2. 黒褐色土 As-Cを少量含む。褐色土(地山ローム)小斑5%含む。ややしまっている。

V区67号ピット



V区67号ピットA-A'

1. 混土 褐色土(地山ローム)塊80%・黒褐色土を含む混土20%の混土。しまっている。
2. 暗褐色土 混土(地山TPF相当層近く)塊30%含む。ややしまっている。
3. 暗褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒3%含む。しまっている。
4. 混土 褐色土(地山ローム)塊50%・黒褐色土を含む混土50%の混土。しまり弱い。空隙多い。

V区68号ピット



V区68号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。暗褐色土を斑状に15%含む。しまりやや弱い。
2. 掘り過ぎ

V区69号・70号ピット



V区69号・70号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒7%含む。しまりやや強い。
2. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒10%含む。しまりやや強い。

V区73号ピット



V区73号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小斑1%含む。ややしまっている。

V区74号ピット



V区74号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小斑1%含む。しまりやや強い。
2. 黒褐色土 As-Cを少量含む。しまり弱い。
3. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小斑1%含む。しまっている。
4. 掘りすぎ

V区75号ピット



V区75号ピットA-A'

1. 黒色土 As-Cを極少量含む。As-C下の黒色土。しまっている。

V区76号ピット



V区76号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。しまっている。
2. 黒色土 As-Cを極少量含む。As-C下の黒色土。しまっている。

V区77号ピット



V区77号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小斑1%含む。ややしまっている。

V区78号ピット



V区78号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小斑1%含む。しまっている。

V区79号ピット



V区79号ピットA-A'

1. 黒褐色軽土 As-Cを含む。混土(地山ローム)塊7%含む。しまっている。

V区80号ピット



V区80号ピットA-A'

1. 黒褐色軽土 As-Cを含む。混土(地山ローム)塊3%含む。しまりやや強い。
2. 黒褐色土 As-Cを含む。しまっている。
3. 黒褐色軽土 As-Cを含む。混土(地山ローム)塊15%含む。しまりやや強い。

V区81号ピット



V区81号ピットA-A'

1. 黒褐色軽土 As-Cを含む。しまっている。
2. 黒褐色軽土 混土物少ない。しまりやや弱い。
3. 混土 黒褐色軽土50%、黒褐色軽土40%、褐色ローム塊10%。しまり弱い。

V区82号ピット



V区82号ピットA-A'

1. 黒褐色土 混土(地山ローム)小斑1%。しまり弱い。
2. 暗褐色軽土 混土物少ない。しまりやや弱い。
3. 混土 混土(地山ローム)塊3%。固くしまっている。

V区83号ピット



V区83号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。ややしまっている。
2. 暗褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小斑および粒30%含む。しまっている。
3. 暗褐色軽土 褐色土小斑20%。しまっている。
4. 掘り過ぎ

V区84号ピット



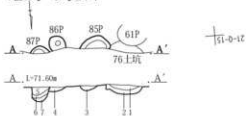
V区84号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。鉄分凝集小斑1%含む。ややしまっている。
2. 混土 褐色地山ローム塊の集合。黒褐色土10%含む。固くしまっている。

0 1;60 2m

第215図 V区ピット(2)

V区85号～87号ピット

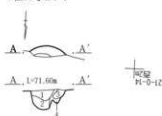


V区85号・86号・87号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小斑1%含む。ややしまっている。(85号ピット埋没上)
2. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小斑1%含む。ややしまっている。(86号ピット埋没上)
3. 暗褐色土 As-Cを含む。にぶい黄褐色土(地山ローム)斑20%含む。しまっている。(87号ピット埋没上)
4. 黒褐色土 As-Cを含む。にぶい黄褐色土(地山ローム)粒及び小斑30%含む。しまっている。(87号ピット埋没上)
5. 混土 褐色地山ローム塊の集合。黒褐色As-C混雑土30%含む。しまっている。(87号ピット埋没上)
6. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒含む。焼土粒少量含む。ややしまっている。(76号上坑埋没上)
7. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)小斑1%含む。ややしまっている。(76号上坑埋没上)



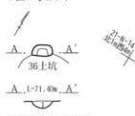
V区88号ピット



V区88号ピットA-A'

1. 黒褐色土 As-Cを含む。褐色土(地山ローム)粒含む。ややしまっている。
2. 黒褐色土 As-Cを含む。にぶい黄褐色土(地山ローム)の縮状斑7%含む。ややしまっている。
3. 黒褐色土 As-Cを含む。混土にぶい黄褐色土(地山ローム)の縮状斑7%含む。ややしまっている。
4. 混土 黒褐色As-Cを含む。混雑土とにぶい黄褐色シルト質土上(地山ローム)塊の混土。ややしまっている。

V区97号ピット



V区97号ピットA-A'

1. 黒色土 1～2mm大の白色軽石を20%程度含む。砂を多量に含む。

V区98号ピット



V区98号ピットA-A'

1. 黒色土 砂多量を含む。1～2mm大の白色軽石を10%程度含む。

第216図 V区ピット(3)

出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の埋没はないので、集落内の区画溝であろう。

V区23号溝 (第217・264図 PL.166)

23号溝は、V区南区西部で検出されたほぼ直線の南北方向の溝である。北端は西区に連続すると思われるが、調査では確認できなかった。南端は発掘区域外となる。

走向はN-16°-W、上幅は0.35～0.58m、深さは0.15m、調査長は20.12mである。断面形は浅いU字形で、底面はやや凹凸がある。底面の標高は北西端が0.05m高かった。溝内は浅間C軽石を微量含む黒色粘質土や暗褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の埋没はないので、集落内の区画溝であろう。

V区35号溝

(第218・264図 PL.166-167 遺物観察表P.463)

35号溝は、V区北区北東隅で検出されたほぼ直線の南北方向の溝である。北端は発掘区域外になる。南端は34号溝に切られている。41号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

走向はN-7°-E、上幅は0.50～0.73m、深さは0.20m、調査長は12.50mである。断面形は浅いU字形で、底面はやや凹凸がある。底面の標高は北西端が0.05m高かった。本溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。

遺物は、埋没土中から土師器環(第218図2)、甕(3)、須恵器坏身か蓋(1)が出土した。また、土師器壺破片305点、埴破片15点、高坏破片3点、坏破片29片、甕破片14点、S字甕破片32点、須恵器瓶破片1点、蓋破片1点が出土した。出土遺物には古墳時代前期の土器が多いが、これは本溝が周囲の当該期の遺構を壊して掘られているからと考えられる。

新しい様相の出土土器から、古墳時代後期の溝と考えられる。

V区36号溝

(第217・264図 PL.165・222 遺物観察表P.463)

36号溝は、V区北区南東部で検出された溝である。西端は浅くなり検出できなくなる。東端はV区36号溝に連続する。6号溝と重複するが、6号溝の方が新しい。70号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

走向はN-68°-E、上幅は0.22～1.17m、深さは0.05m、調査長は6.48mである。断面形は浅いU字形で、底

面はやや凹凸がある。平面形状も乱れている。底面の標高は南西端が0.17m高かった。本溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。

遺物は、東半部で土師器甕(第217図1)が底面直上で出土した。甕(2)、壺(3)、S字甕(4)が埋没土中から出土した。また、埋没土中から土師器壺破片9点、S字甕破片9点が出土した。

出土遺物から、本溝は古墳時代前期の溝と考えられる。北側の古墳時代前期の集落の南側を区画する溝であろう。IV区と合わせて37.5mとなる大規模な区画溝である。

V区37号溝(第264図 PL.167)

37号溝は、V区北区西部で検出された溝である。西端は発掘区域外となり、東端は浅くなり検出できなくなる。3号凹地と重複するが、新旧関係は不明である。

溝の走向はN-87°-E、上幅は0.38~0.45m、深さは0.17m、調査長は4.28mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。底面の標高は西端が0.08m高かった。本溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。

遺物は、埋没土中から土師器S字甕破片1点が出土した。出土遺物から、本溝は古墳時代前期の溝と考えられるが、詳細は不明である。

V区38号溝(第217・264図 PL.167)

38号溝は、V区北区北西部で検出された小規模な溝である。北西端は発掘区域外となり、南東端は浅くなり検出できなくなる。重複は無い。

溝の走向はN-52°-W、上幅は0.48~0.70m、深さは0.29m、調査長は2.14mである。断面形はU字形で、底面は平坦である。底面の標高は北西端が0.13m高かった。溝内は浅間C軽石と地山ローム塊を含む黒褐色壤土で埋まっていた。

遺物は、埋没土中から土師器壺破片14点、甕破片2点、S字甕破片19点が出土した。

出土遺物と埋没土の特徴から、本溝は古墳時代前期の溝と考えられる。2号住居西壁や後述する41号溝の走向と直交する方向の溝であり、何らかの区画をしたものと推定される。

V区39号溝(第217・264図 PL.167・168)

39号溝は、V区北区北端部で検出されたL字形に廻る溝である。北端は発掘区域外となり、南西端は浅くなり検出できなくなる。58号~60号ピットと重複するが新旧関係は不明である。

溝の走向は南辺の溝でN-79°-W、上幅は0.20~0.34m、深さは0.07m、調査長は3.70mである。断面形は皿状で、底面は平坦である。底面の標高は南西端が0.28m高かった。溝内は浅間C軽石と地山ローム塊を含む黒褐色壤土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土の特徴から、本溝は古墳時代前期の溝と考えられる。周囲には多くのピットが検出されたが、関連性は不明である。

V区41号溝(第217・264図 PL.168)

41号溝は、V区北区北東部で検出された溝である。北東端・南西端ともに浅くなり検出できなくなる。35号溝と重複するが、本溝の方が古い。

溝の走向はN-43°-E、上幅は0.43~0.62m、深さは0.03m、調査長は6.50mである。断面形は皿状で、底面は平坦である。底面の標高は北東端が0.07m高かった。溝内は浅間C軽石と地山ローム塊を含む黒褐色壤土で埋まっていた。遺物は埋没土中から土師器甕破片10点、S字甕破片2点が出土した。

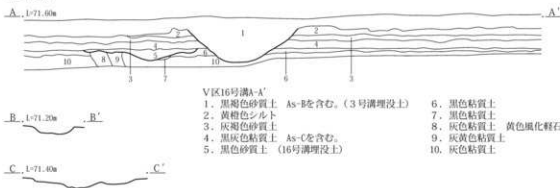
埋没土の特徴から、本溝は古墳時代前期の溝と考えられる。本溝は2号整穴住居西壁と方向が共通しており、何らかの区画溝であろう。

V区42号溝(第264図 PL.168)

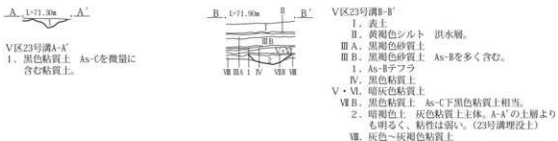
42号溝は、V区北区南西隅で検出された東西方向の溝である。3号凹地と重複するが、新旧関係は不明である。

溝の走向はN-87°-E、上幅は0.27~0.54m、深さは0.03m、調査長は8.80mである。断面形は皿状で、底面は平坦である。底面の標高は東端が0.02m高かった。本溝は遺憾ながら埋没土の記載がない。遺物も出土しなかった。遺構確認面から、本溝は古墳時代前期の溝と考えられるが、詳細は不明である。

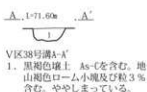
V区16号溝



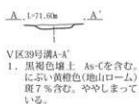
V区23号溝



V区38号溝



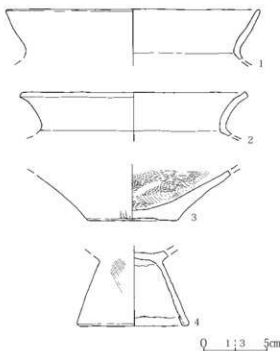
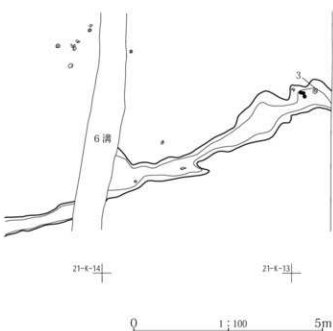
V区39号溝



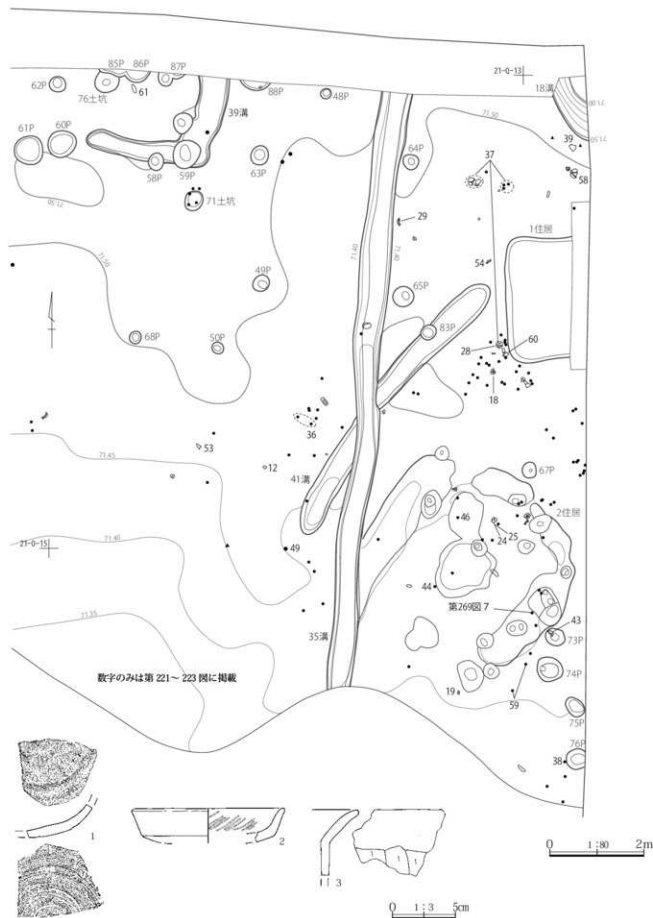
V区41号溝



V区36号溝



第217図 V区溝と出土遺物



第218図 V区35号溝出土遺物と周辺の遺構外出土遺物の分布

(5) 凹地

Vでは2号～4号の3条の凹地を検出した。調査時には「1号・5号・6号流路」として記録したものである。人工物ではないが、遺物が多数出土していること、遺構の分布に関連することから、ここで記載することとする。

報告にあたっては遺構番号の統合と付け替えを行った。その作業の結果については、凹地の位置や規模とともにP.445の表にまとめた。以下各凹地の調査所見を記載する。

V区2号凹地 (第219・264図 PL.168)

2号凹地は幅1.80～3.04m、深さ0.05mで、南から長さ4.90mの部分、3.60mの部分、11.0mの部分の3地点が検出された。断面形は緩やかな皿状であるが、底面は凹凸が著しく、2号凹地は一連の大きな凹地の深い部分のみ残ったと推定される。凹地内には浅間C軽石を含む砂質の黒褐色土が堆積していた。流水を示唆する砂礫層はないが、表流水等が集まり形成されたものと推定される。16号溝と重複するが、新旧関係は不明である。調査では16号溝が新しいと確認した。

遺物は出土しなかった。

V区3号凹地

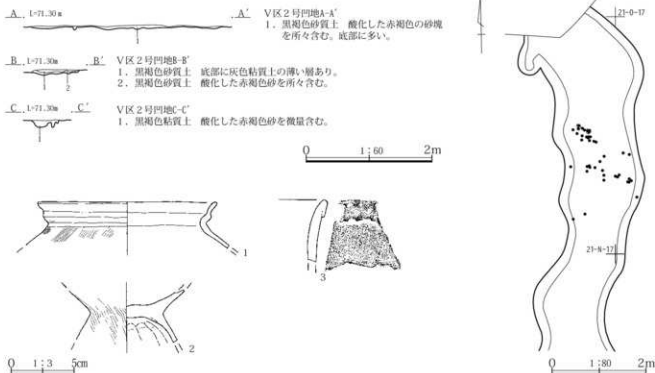
(第219図 PL.168・222 遺物観察表P.463)

3号凹地は幅0.89～2.36m、深さ0.10mで、長さ28.50mに亘って北区西端で検出された。断面形は緩やかな皿状であるが、底面は凹凸が著しかった。遺憾ながら本凹地の埋没土の記載はない。流水を示唆する砂礫層はないが、表流水等が集まり形成されたものと推定される。37号・42号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

北端部で多くの遺物が出土した。土師器壺(第219図3)、S字裏(1・2)は底面上20cmで出土した。他に埋没土中から土師器壺破片63点、甕破片1点、S字裏破片119点、台付甕破片1点が出土した。

V区4号凹地 (第264図 PL.165)

4号凹地は幅2.68～4.51m、深さ0.06mで、長さ28.20mに亘って北区南半部で検出された。断面形は緩やかな皿状であるが、底面は凹凸が著しかった。遺憾ながら本凹地の埋没土の記載はない。流水を示唆する砂礫層はないが、表流水等が集まり形成されたものと推定される。36号・37号溝・3号凹地と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は出土しなかった。



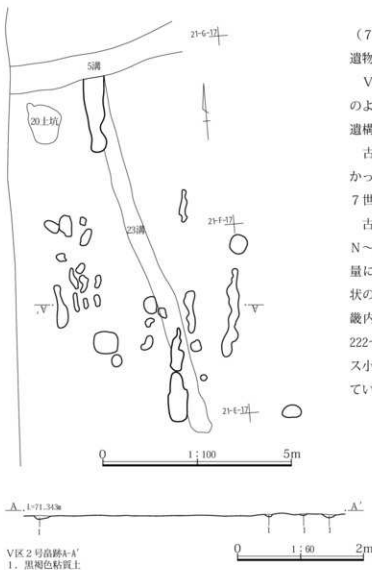
第219図 V区2号・3号凹地と出土遺物

(6) 畝

V区では、南区西端で浅間C軽石を含む黒褐色粘質土で畝間を埋めている畝跡が検出された。耕作面は削平されており、不定型な溝あるいはピット状に畝間溝底面が検出され、畝の痕跡を記録できたにとどまった。

V区2号畝(第220図 PL.168)

V区の南区西端に、東西約6m、南北10mの範囲に、畝跡が検出された。畝間溝を埋めていたのは白色軽石を含む暗褐色土である。白色軽石は浅間C軽石と推定される。23号溝と重複するが、溝より新しい。



第220図 V区2号畝

畝間溝の幅は0.1~0.60m、深さは0.02~0.06mでごく浅かった。長さは最も長く検出されたもので2.43mである。ピット状の落ち込みの連続が残っていただけのところもあった。畝間溝の底面が断続的に検出されたのであろう。

畝間溝の方向は、西北部はN-10~13°-Eで、単位の違う畝が重なっている可能性がある。溝の間隔は芯々間で0.18~0.9mで一定でない。畝の間隔あるいは耕作時期が異なった複数単位の畝間溝の集合の可能性がある。

埋没土中から土師器甕破片1点が出土したが、畝に伴う遺物は出土しなかった。耕作面は失われているが、古代~古墳時代のいずれかの時期に畝作耕地として利用されたことを示している。

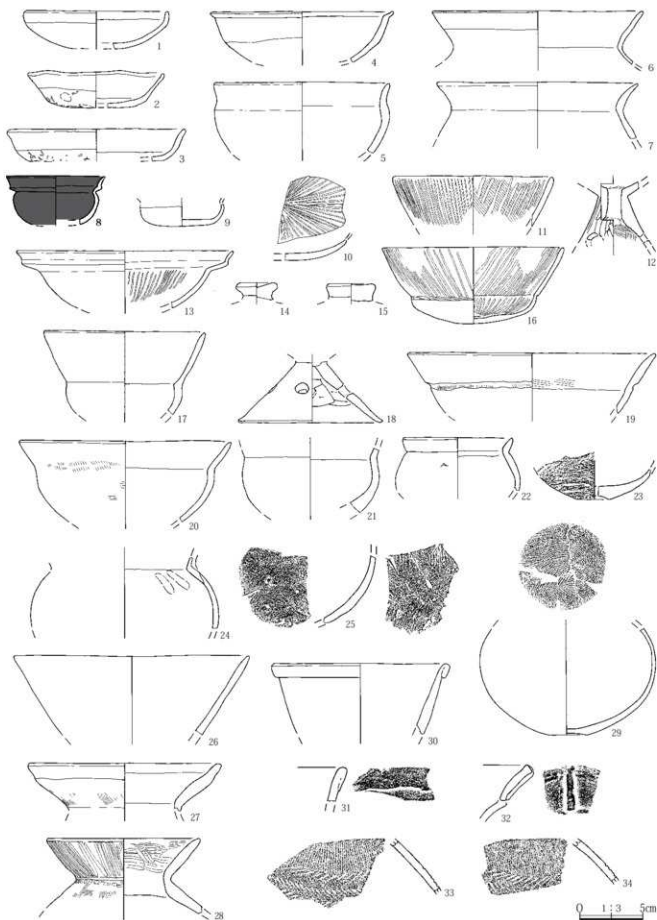
(7) 遺構外の出土遺物(第221~223図 PL.222~223 遺物観察表P.452・463・464)

V区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。ここでは、Ⅷ層上面の遺構確認時に出土した遺物を掲載した。

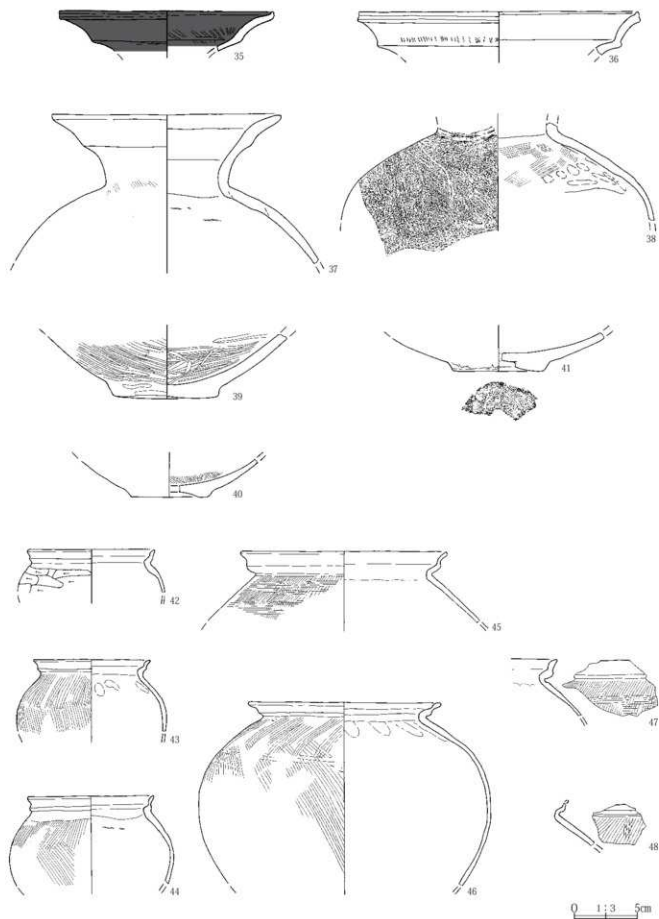
古墳時代中・後期の遺構は発掘区内では検出されなかったが、5世紀の内斜口縁の土師器杯(第221図4)や7世紀頃の土師器杯(第221図1)等が出土した。

古墳時代前期の土器は、第218図に示したように21-N~P-12~15グリットの35号溝の周辺Ⅷ層内から多量に出土した。赤色塗彩の小型鉢(第221図8)や暗文状の磨きが施された鉢(第221図13)、小型丸底壺(16)、畿内系の器台破片(第221図18)、多くのS字甕破片(第222~223図)、変質デイサイトの敲石(第223図61)、ガラス小玉(第223図62)、蛇紋岩製管玉(第223図63)が出土している。

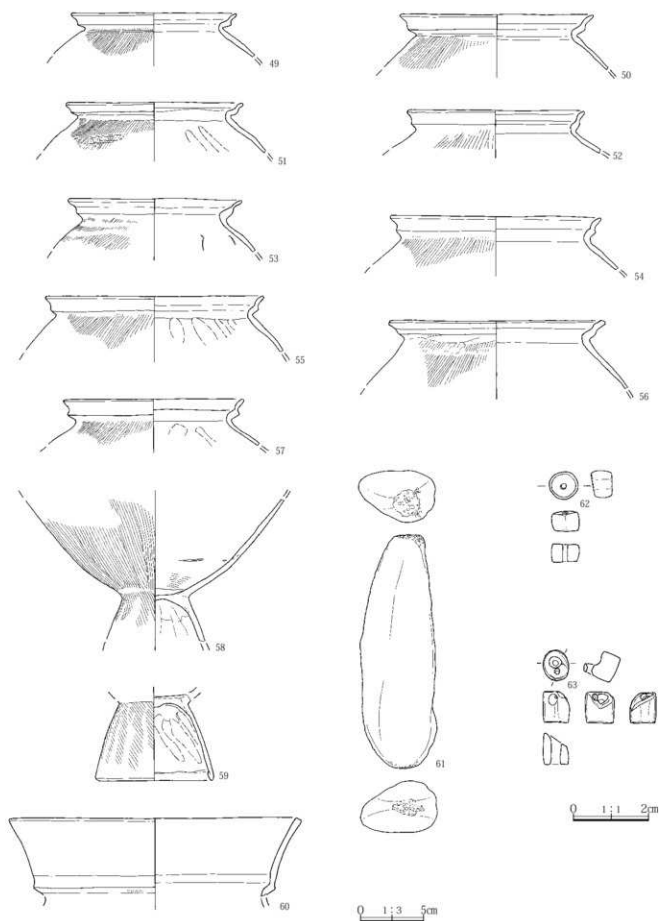
第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物



第221図 V区遺構外の出土遺物(1)(古代～古墳時代)



第222図 V区遺構外の出土遺物(2)(古代～古墳時代)



第223図 V区遺構外の出土遺物(3)(古代～古墳時代)

7. VI区の遺構と遺物

(1) 周溝をもつ建物

Ⅵ区1号住居

(第224・225図 PL.170・171・223 遺物観察表P.464)

位置 55-41-H-K-3~6 G

形状 主柱穴の位置から正方形と推定される。床面が残存しないので竪穴か平地式かは確定はできないが、竪穴住居と推定される。外側に各辺のほぼ中央が切れる方形区画の周溝が付属する。

重複 無し

規模 長軸推定6.60m 短軸推定6.44m

残存壁高 柱穴のみ残存のため計測不能

周溝外形 長軸14.8m 短軸13.6m

長軸方位 N-32°-W

埋没土 主柱穴は、上層は粘性としまりのある黒褐色土で、下層は黒褐色土と暗褐色土の混土で埋まっていた。竪穴内の周溝は黒褐色土と灰褐色土の混土で埋まっていた。

火処 削平を受けて床面は残存していなかった。火処の存在は不明である。存在したとすれば、出土遺物の時期から好である可能性が高いと推定される。

柱穴 周溝で囲まれた範囲のほぼ中央に4本の主柱穴が検出された。主柱穴の規模(長径×短径×残存深度m)は、P1が0.59×0.47×0.42m、P2が0.52×0.47×0.42m、P3が0.58×0.52×0.70m、P4が0.46×0.44×0.54mである。

また、P3の北内側にはP5、P4の北内側にはP6が検出された。建て替えによる柱穴の移動の可能性もあるが、削平によって柱穴の新旧関係をとらえることができなかった。さらにP5・P6はP3・P4より浅く、柱穴として機能したかどうかは疑問があり、主柱穴とは異なる補助的な機能をもった柱穴の可能性もある。P5は当初2つのピットと認識されていたが、中央が深くなることから、1つの柱穴と判断した。P5の規模は0.62m×0.37m×0.30mである。P5の規模は0.44m×0.36m×0.33mである。P5埋没土中から土師器S字襷破片1点が出土した。

周溝 主柱穴の外側0.3~0.4mの位置に掘られていた

周溝は、屋内の周溝と推定される。この周溝は、北西隅から南西隅の西辺と、北東隅と南東隅の一部で残存していた。この周溝の規模は、上幅0.3~0.6m、深さ0.10mほどであった。通常の竪穴住居の壁周溝としてはやや幅が広く、主柱穴を結ぶ線に近接していることが異なっている。

屋内の周溝と推定される周溝の外側3mのところからさらに周溝が掘られていた。これは屋外の周溝と推定される。この屋外周溝の北辺、西辺、南辺のほぼ中央は途切れて、東辺は中央よりやや北側の0.5m部分が途切れているのみであった。これは周溝底面の凹凸が反映していると推定され、本来は6.7mが切れている南辺の中央が掘り残され、他の部分は掘り込みが回っていたと推定される。

貯蔵穴 住居内の貯蔵穴は検出されなかった。

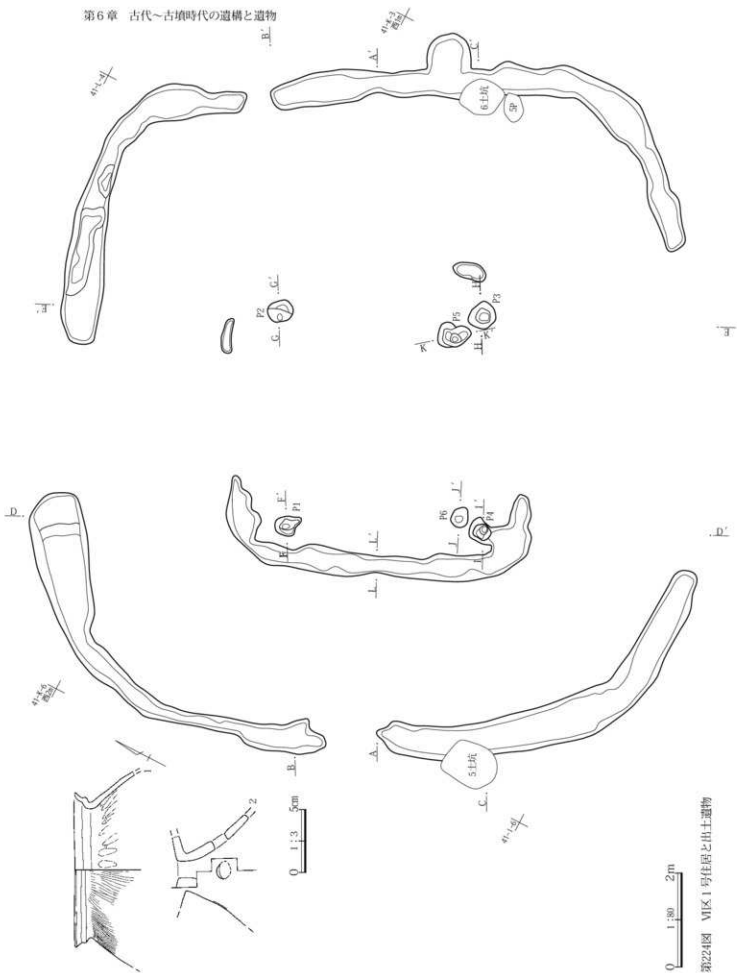
床面 住居床面は検出されなかった。

遺物出土状況 遺物は比較的少ない。図示した土師器器台(第224図2)は住居内埋没土中から、S字襷(1)はP4埋没土中から出土した。その他に磁器破片1点、土師器増破片2点、高環破片4点、襷破片15、S字襷破片12点が出土した。磁器は混入である。

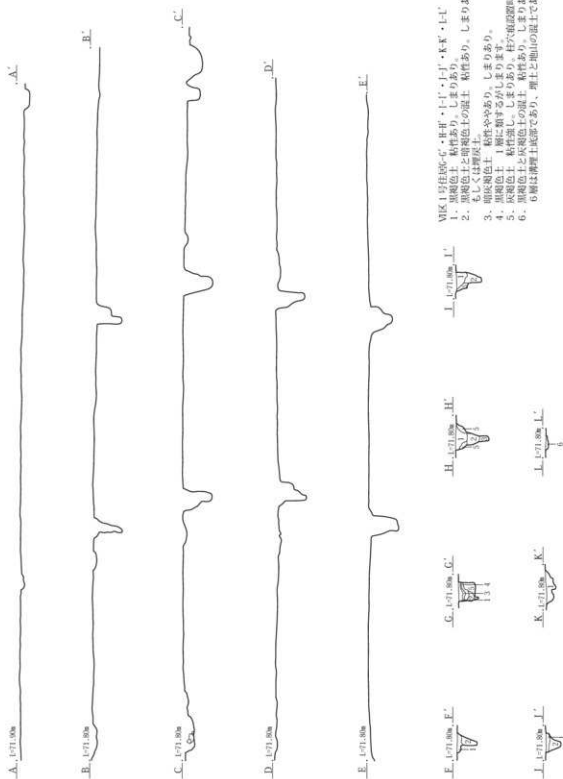
所見 出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。

本遺構は、Ⅲ区9号住居と同様な屋外に周溝をもつ建物と推定される。Ⅲ区9号住居と同様、周囲に他の遺構がほとんどない地点に単独でつくられていた。Ⅲ区9号住居と異なる点は、屋外の周溝幅がやや狭いこと、東西南北すべてに周溝が途切れる部分があること、屋内の周溝と推定される内側の周溝が検出されたこと等があげられる。また南側のP3・P4の内側にP5・P6が補助的に掘られていることも本住居の特徴である。

Ⅵ区1号住居は、東西が小規模な谷地に挟まれた微高地の頂部にあり、西側は幾重かの溝で区画されている。南側には、遺構の無い空間を囲むような位置に本住居と主軸をほぼ同じくする掘立柱建物建てられている。住居と掘立柱建物が同時に建てられていたかは出土土器がないことから明らかにできなかったが、このような遺構の分布状況からみると、Ⅵ区1号住居もⅢ区9号住居とともに、一般の竪穴住居とは異なった機能を有する建物である可能性が高い。



第224図 VI区1号住居と出土遺物



VI区1号住居C'-C・B中・I'-I'・J'-J'・K中・I-I'

1. 黒褐色土 粘性あり、しまりあり。
2. 黒褐色土と暗褐色土の混土 粘性あり、しまりあり。柱設置に伴う埋土、もしくは埋戻土。
3. 暗灰褐色土 粘性ややあり、しまりあり。
4. 黒褐色土 1層に相当するがしまります。
5. 灰褐色土 粘性強し、しまりあり。柱穴面設置時の地山か。
6. 黒褐色土と灰褐色土の混土 粘性あり、しまりあり。周囲は残りが悪く、6層は清浄土底部であり、埋土と地山の混土である。

第225図 VI区1号住居土層断面

Ⅵ区2号住居 (第226図 PL172)

位置 55-41-H・1-3・4 G

形状 主柱穴位置から長方形と推定される。床面が残存しないので確定はできないが、竪穴住居の残存と推定される。

重複 Ⅵ区1号住居の南側周溝の途切れた部分に位置する。埋没土の重なりを確認できなかったので、新旧関係は不明であるが、1号住居とは同時に存在しえない位置関係にある。

規模 長軸4.00m以上 短軸3.46m以上

残存壁高 柱穴のみ残存のため計測不能

長軸方位 P1とP4を結んだラインはN-23°-W

埋没土 主柱穴は、粘性としまりのある暗褐色土と黒褐色土の混土で埋まっていた。

火処 削平を受けて床面は残存していなかったため、火処の存在はわからなかった。存在したとすれば、検出面が古墳時代面であることから炉である可能性が高いと推定される。

柱穴 4か所の主柱穴が検出された。いずれも2本ずつが近接しており、P1～P4が主柱穴の建物と、P5～

P8が主柱穴の建物との建て替えがあったと推定される。明確な柱穴の新旧関係がわかる断面記録がなく、拡張なのかの確証はない。主柱穴の規模(長径×短径×残存深度m)は、P1が0.30×0.24×0.40m、P5が0.38以上×0.38×0.33m、P2が0.35×0.28×0.38m、P6が0.64×0.31×0.27m、P3が0.34×0.31×0.59m、P7が0.38×0.34×0.52m、P4が0.35×0.28×0.62m、P8が0.32×0.31×0.24mである。

周溝 検出されなかった。

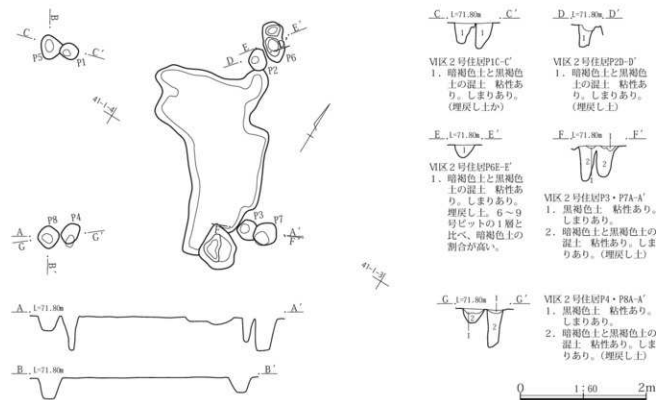
貯蔵穴 主柱穴のP3の南西脇に楕円形の土坑が検出されたが、貯蔵穴の可能性もある。規模(長径×短径×残存深度m)は、73×0.59×0.07mである。遺物は出土しなかった。

床面 住居床面は検出されなかった。

掘り方 住居北東壁に沿って、幅1.35m、長さ3m、深さ0.11mほどの不定型な掘り込みがあった。住居床面下の掘り方の可能性も考えられる。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 確認面および形態から、古墳時代前期の竪穴住居の掘り方の痕跡遺構と推定される。



第226図 Ⅵ区2号住居

(2) 竪穴遺構

VI区1号竪穴遺構(第227図 PL.172 遺物観察表P.464)

位置 55-31-D・E-20, 41-D・E-1 G

形状 不整形円形 外形・底面ともに凹凸が著しい。

重複 なし

規模 長軸2.69m 短軸0.67m 残存壁高0.07m

長軸方位 N-45°-E

埋没土 白色軽石を含むしまりのある黒褐色土で埋まっていた。

柱穴 柱穴は検出されなかった。

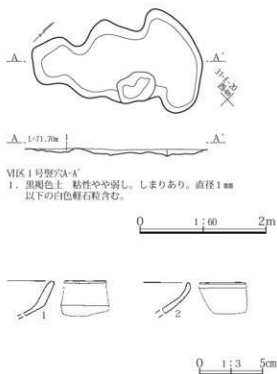
周溝 周溝は検出されなかった。

床面 底面は凹凸が著しく、中央部はやや平坦で硬化していた。

掘り方 掘り方はなかった。

遺物出土状況 埋没土中から、土師器の壺破片4点、坏破片31点、甕破片26点、S字甕破片42点が出土した。S字甕の破片が多い一方で、8世紀とみられる土師器坏の破片も多く出土している(第227図1・2)。

所見 出土遺物から8世紀代の遺構と考えられる。形状から竪穴住居の掘り方底面の可能性もある。



VI区1号竪穴A-A'

1. 黒褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。直径1mm
以下の白色軽石粒含む。

第227図 VI区1号竪穴遺構と出土遺物

(3) 掘立柱建物

VI区1号掘立柱建物(第228図 PL.173)

位置 55-41-L・M-4・5 G

主軸方位 N-20°-W

重複 無し。

形態 1×2間(3.72~3.74m×3.23~3.40m・12.5×11尺)、面積12.01㎡の東西棟。柱間は桁行が3.68~3.74m、梁行が1.58~1.90m。

東辺・西辺ともにいずれの柱穴も柱筋を通る。西辺のP4が南にずれ、東辺のP3が北にずれていることからP4・P5間の柱間が相対的に長くなっている。

P1とP6の土層断面で柱痕跡を確認したが、他の柱穴では柱痕跡は検出できなかった。柱穴の形状は楕円形および不定型な楕円形で、規模は長径0.40~0.63m、短径0.35~0.46m、深さ0.35~0.50mで、比較的大型の柱穴で、ばらつきは少ない。

内部施設 無し

出土遺物 出土遺物はなかった。

所見 柱穴は、浅間C軽石との特定はないが、白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていることや、遺構確認面が1号住居等と共通していることから、古墳時代前期の建物跡と考えられる。

VI区2号掘立柱建物

(第229・230図 PL.173~175 遺物観察表P.464)

位置 55-41-H・I-1~3 G

主軸方位 N-36°-W

重複 4号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

形態 身舎部分は3×3間(6.03~6.05m×4.37~4.67m・20尺×14.5尺)、面積38.49㎡の南北棟。西側に1.78~1.96mの間隔をとって庇が付き、全体として6.33×6.10mの規模となる。柱間は桁行が1.81~2.23m、梁行が1.30~1.56m。

東辺はP4がやや東にずれるものの、ほぼ柱筋を通る。柱間はP1の南にP2、P4の南にP5というやや小型で浅いピットが近接した位置にあるが、P1、P3、P4、P6の主要な柱穴の柱間はそれぞれ、2.05m、1.81m、2.18mと中央の柱間がやや短くなっている。このような柱配置は西辺でも共通しており、P14の南にP13、P10の南にP9というピットがあり、主要な柱穴である

P14、P12、P10、P8の柱間はそれぞれ北から2.23m、1.83m、2.06mとやはり中央が狭くなっている。東辺と異なるのは、P9とP13の深さがそれぞれ0.22m、0.35mと深くなっていることである。

北辺はP16がやや柱筋から北にずれているが、概ね通っている。柱間は1.30m～1.48mとややばらつきがある。南辺は北辺のP16に対応する柱穴が検出できなかった。その他の3本の柱穴は柱筋を通る。北辺の柱間は南辺より短い。

庇と考えられる柱列の柱穴はほぼ柱筋にのり、柱間はほぼ等間隔である。したがって中央部のP18とP19は身舎部分の柱筋とはややずれが生じている。またP18とP19の内側にはほぼ接するようにP22とP23があり、何らかの施設があったものと推定される。

いずれの柱穴でも明確な柱痕跡は検出できなかった。柱穴の形状は不整形円形および不定型な楕円形で、規模は長径0.26～0.62m、短径0.23～0.55m、深さ0.22～0.42mで、ばらつきが大きい。

内部施設 身舎部分には8号、10号、18号、47号、49号土坑、147号、156号、168号ピットが検出されているが、本掘立柱建物の内部施設として確定できる遺構はなかった。

出土遺物 P9の埋没土中から土師器S字頸胴破片1点(第229図1)が出土した。

所見 少ない出土遺物のみから、建物の時期を決めることはできないが、柱穴の埋没土が浅間C軽石を含む黒色土であることから、古墳時代前期の遺構と考えたい。

本建物は、細長い微高地の頂部に位置し周溝をもつⅥ区1号住居と主軸を一致させた建物で、建物の規模や庇をもつ形態は、特異と言わざるを得ない。1号住居と同時に存在したかは確定できないが、住居南側にある空間に向けて庇を設けている様相からは、同時にあった可能性を否定できない。

Ⅵ区3号掘立柱建物(第231図 PL.175・176)

位置 55-31・41-E・F-20・1G

主軸方位 N-29°-W

重複 2号、6号井戸、38号土坑と重複している。いずれも本建物より新しい。

形態 1×3間(3.41～3.60m×5.10m・11.5尺×17尺)、面積18.36㎡の南北軸。柱間は桁行が1.60～1.80m、

梁行が3.36～3.55m。

東辺はP3が6号井戸北西縁面でも検出された。やや柱筋から東にずれるが、他の柱穴は柱筋にのる。間隔は等間隔でなくP3-P4間がやや長い。南辺はP4、P5ともに柱筋にのる。西辺は北から2番目の柱穴が2号井戸に壊されて検出できなかった。他の柱穴は柱筋にのる。P5-P6間の柱間は東辺よりやや短い。

P5、P6の断面で柱痕跡が確認できた。柱穴の形状は不整形円形および楕円形で、規模は長径0.30～0.50m、短径0.26～0.39m、深さ0.17～0.43mで、P2、P4がやや浅い。

内部施設 P3、P4を結ぶ線上で建物の中心に44号土坑が検出された。上層は白色軽石を含む黒褐色土、下層は地山ローム塊を混じる黒褐色土で埋まっていた。44号土坑からは遺物は出土しなかった。

しかし、他の古墳時代前期の遺物を出土した土坑と埋没土は共通している。内部施設という確証はないが、位置の規格性から、その可能性を提起しておきたい。

出土遺物 柱穴からの出土遺物はなかった。

所見 出土遺物から建物の時期を決めることはできないが、柱穴の埋没土が浅間C軽石を含む黒色土であることから、古墳時代前期の遺構と考えたい。

本建物も、Ⅵ区1号住居や2号掘立柱建物と主軸をほぼ一致させた建物で、細長い微高地上有機関係をもち配置されたと考えられることも可能である。これらの遺構が同時にあった可能性は否定できない。

(4) 柱穴列

Ⅵ区1号柱穴列(第232図 PL.176)

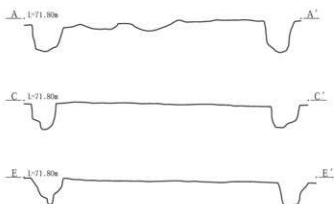
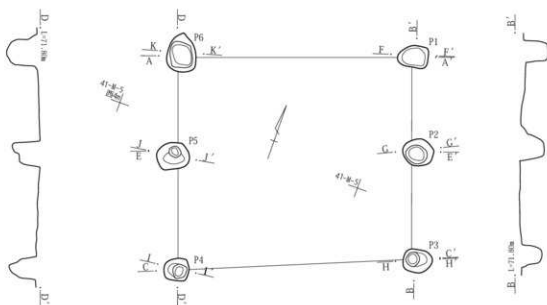
位置 55-41-F・G-4・5G

主軸方位 N-39°-W **重複** 無し。

形態 3×3間(6.00～6.30m×10尺×10尺)の区画のうち、北辺と東辺のL字形の柱穴列を検出した。柱間は1.80～2.20mで、ほぼ等間隔である。

各柱穴とも柱筋を通る。いずれの柱穴も柱痕跡を確認できなかった。柱穴の形状は不整形円形および楕円形で、規模は長径0.27～0.47m、短径0.22～0.36m、深さ0.24～0.37mで、ばらつきは少ない。P7、P8は柱筋からはずれ、浅い。

出土遺物 遺物は出土しなかった。



- VI区1号掘立柱建物P4-F'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。



- VI区1号掘立柱建物P2-G'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。



- VI区1号掘立柱建物P3-H'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。



- VI区1号掘立柱建物P4-I'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。



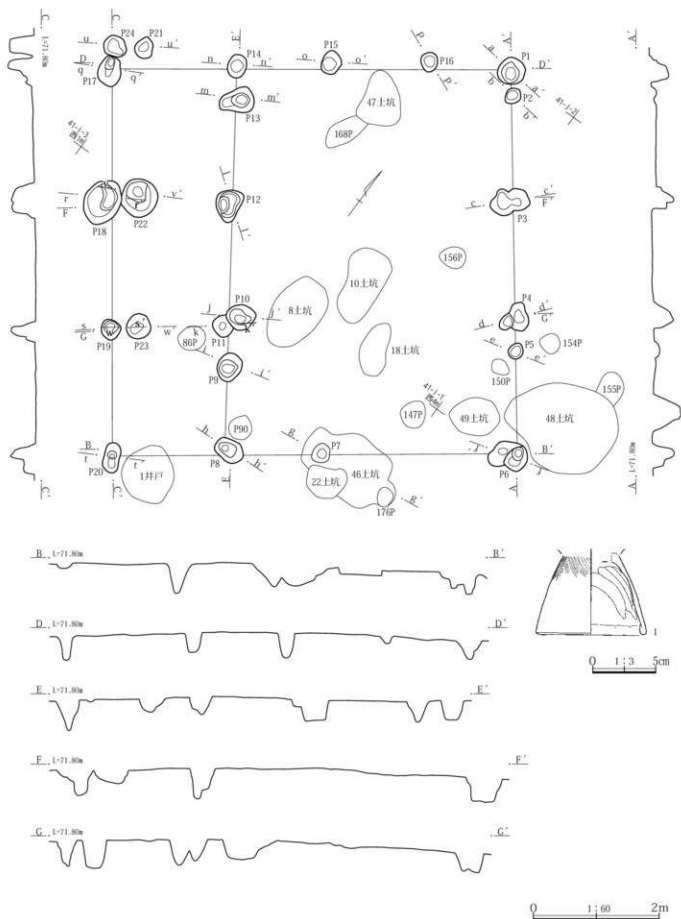
- VI区1号掘立柱建物P5-J'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。



- VI区1号掘立柱建物P6-K'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

0 1:60 2m

第228図 VI区1号掘立柱建物



第229図 VI区2号掘立柱建物(1)と出土遺物

7. VI区の遺構と遺物

a, l-71.80a, a'



VI区2号孤立柱建物P1a-a'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

b, j-71.80b, b'



VI区2号孤立柱建物P2b-b'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

c, l-71.80c, c'



VI区2号孤立柱建物P3c-c'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

d, l-71.80d, d'



VI区2号孤立柱建物P4d-d'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

e, j-71.80e, e'



VI区2号孤立柱建物P5e-e'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

f, l-71.80f, f'



VI区2号孤立柱建物P6f-f'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

g, l-71.80g, g'



VI区2号孤立柱建物P7g-g'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。(46号土坑埋没土)
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。(175号ピット埋没土)
3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。(176号ピット埋没土)

h, l-71.80h, h'



VI区2号孤立柱建物P8h-h'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。
3. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

i, l-71.80i, i'



VI区2号孤立柱建物P9i-i'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

j, l-71.80j, j'



VI区2号孤立柱建物P10j-j'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

k, j-71.80k, k'



VI区2号孤立柱建物P11k-k'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

l, j-71.80l, l'



VI区2号孤立柱建物P12l-l'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

m, j-71.80m, m'



VI区2号孤立柱建物P13m-m'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

n, j-71.80n, n'



VI区2号孤立柱建物P14n-n'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

o, j-71.80o, o'



VI区2号孤立柱建物P15o-o'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

p, j-71.80p, p'



VI区2号孤立柱建物P16p-p'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

q, j-71.80q, q'



VI区2号孤立柱建物P17q-q'

1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

r, l-71.80r, r'



VI区2号孤立柱建物P18r-r'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

s, l-71.80s, s'



VI区2号孤立柱建物P19s-s'

1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

t, j-71.80t, t'



VI区2号孤立柱建物P20t-t'

1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

u, l-71.80u, u'



VI区2号孤立柱建物P21・24u-u'

1. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

v, l-71.80v, v'



VI区2号孤立柱建物P22v-v'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

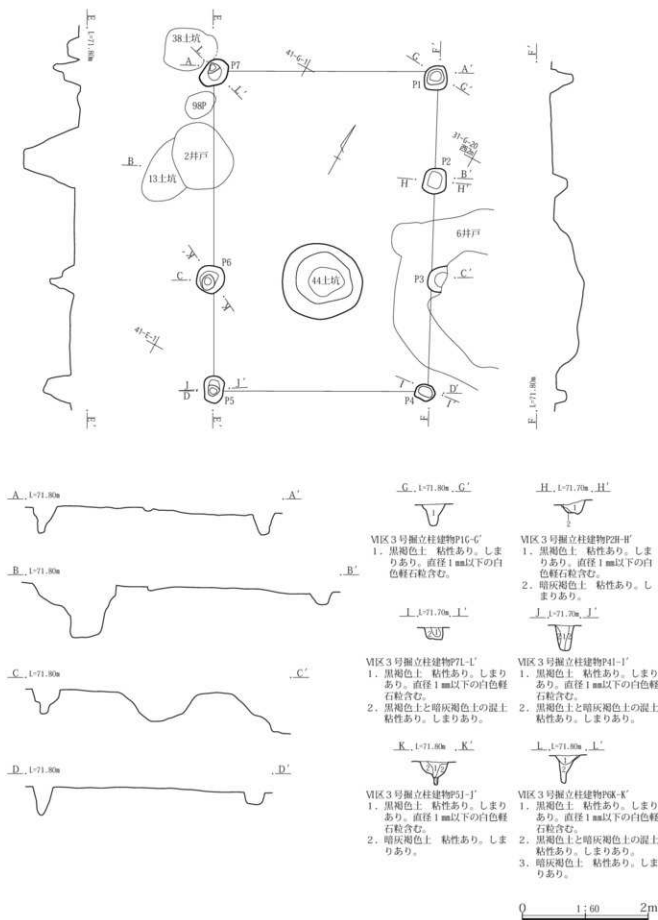
w, l-71.80w, w'



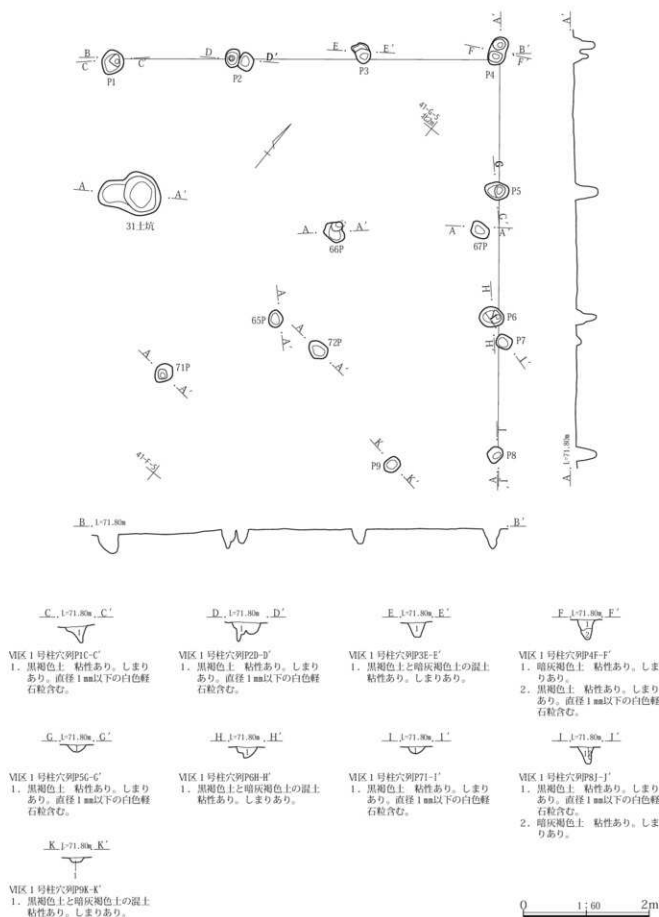
VI区2号孤立柱建物P23w-w'

1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

0 1;60 2m



第231図 VI区3号掘立柱建物



第232図 VI区1号柱穴

所見 柱穴は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていることから、古墳時代前期の遺構と考えたい。また、VI区1号住居南側の空間を隔てて、西側に相対する位置にあり、やや主軸方向はずれるが、他の遺構と同様に、細長い微高地上に有機的關係をもって配置されたと考えることも可能である。これらの遺構が同時にあった可能性は否定できない。

(5) 井戸

VI区3号井戸(第233図 PL.177 遺物観察表P.464)

位置 VI区55-41-D-1・2G

形状 不整楕円形 **重複** なし

規模 長軸1.08m 短軸0.78m 残存壁高0.80m

長軸方位 N-60°-E

断面形 上端がやや開いた筒形をしている。壁の中位よりやや上に段がある。

埋没土 茶褐色土粒、白色軽石粒を含む粘性のある黒褐色土で埋まっていた。

底面 底面は平坦である。

遺物出土状況 図示した土器高坏(第233図1)、S字甕(2)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土器壺破片1点、坏破片1点、甕破片3点、S字甕破片5点が出土した。

所見 出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。西側に検出された竪穴住居群からなる集落の井戸と考えられる。

VI区4号井戸(第233図 PL.177・223 遺物観察表P.465)

位置 VI区55-31-D-20G

形状 円形 **重複** なし

規模 長軸0.88m 短軸0.85m 残存壁高0.77m

長軸方位 N-37°-W

断面形 上端がやや開いた筒形をしている。壁の中位よりやや上に段がある。

埋没土 粘性、しまりの強い黒褐色土で埋まっていた。

底面 底面は平坦である。

遺物出土状況 図示したS字甕脚部(第233図3)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土器高坏破片2点、甕破4点、S字甕破片13点が出土した。

所見 出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。

VI区5号井戸(第233図 PL.177)

位置 VI区55-41-F-12G

形状 楕円形 **重複** なし

規模 長軸0.92m 短軸0.81m 残存壁高0.90m

長軸方位 N-4°-W

断面形 筒形をしている。壁の中位よりやや下に段があり、下位は筒状に細くなっている。

埋没土 粘性、しまりが強く、白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。

底面 底面は平坦である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

所見 遺構の確認面および埋没土の共通性から古墳時代前期の遺構と推定される。

VI区6号井戸(第234図 PL.177・223 遺物観察表P.465)

位置 VI区55-31-F-19・20G

形状 楕円形

重複 43号土坑と重複するが、43号土坑より新しい。

規模 長軸3.66m 短軸2.80m 残存壁高0.75m

長軸方位 N-77°-E

断面形 浅いすり鉢形。壁の中位にテラス状の段があり、中央の湧水部がやや凹んでいる。

埋没土 粘性、しまりの強い暗褐色土で埋まっていた。

底面 湧水部の東側には凹凸はあるもののやや広いテラスがある。

遺物出土状況 図示した土器器环(第234図1～8)、須恵器环(第234図9)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土器器埴破片7点、壺破片37点、高坏破片2点、椀破片5点、坏破片125点、甕破片133点、S字甕破片76点、須恵器环破片3点が出土した。

所見 本井戸からは多量の遺物が出土したが、出土遺物には古墳時代前期と8世紀ころの遺物が混在している。ここでは新しい遺物の時期を重視して、8世紀ころの遺構と考えたい。

VI区7号井戸(第233図 PL.178・223 遺物観察表P.465)

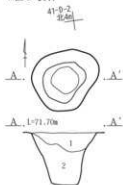
位置 55-31-E-20G

形状 不定形 **重複** なし

規模 長軸1.27m 短軸1.25m 残存壁高0.92m

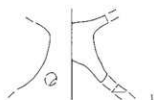
長軸方位 N-53°-W

VI区 3号井戸

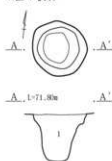


VI区 3号井戸A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径5mm以下の茶褐色粒・径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土 1層に類するが、粘性・しまり強。



VI区 4号井戸

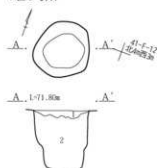


VI区 4号井戸A-A'

1. 黒褐色土 粘性強し。しまり強し。



VI区 5号井戸

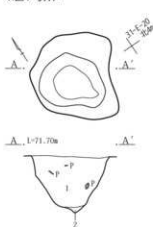


VI区 5号井戸A-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土 粘性強し。しまり強し。径1mm以下の白色軽石粒含む。



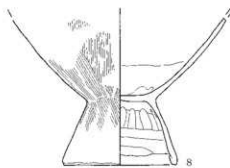
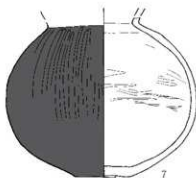
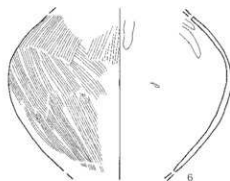
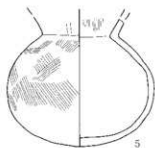
VI区 7号井戸



VI区 7号井戸A-A'

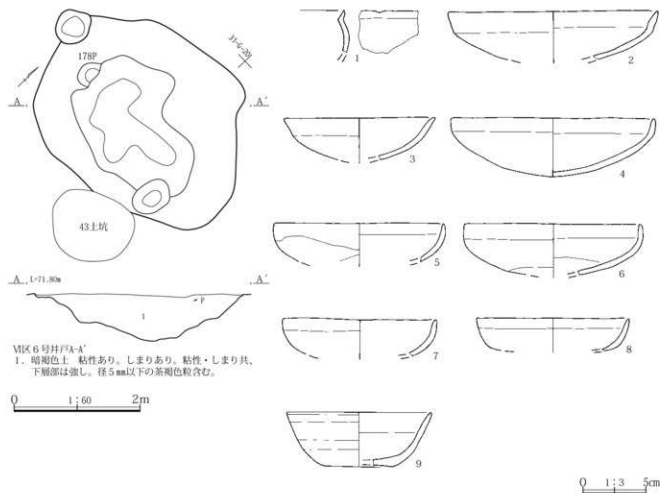
1. 黒褐色土 粘性強し。しまり強し。
2. 灰褐色土 粘性強し。しまり強し。全体にガラつきあり。

0 1:60 2m



0 1:3 5cm

第233図 VI区井戸と出土遺物



第234図 VI区6号井戸と出土遺物

断面形 上端がやや開いたボール形をしている。

埋没土 上層は粘性、しまりの強い黒褐色土で、下層は粘性、しまりの強い灰褐色土で埋まっていた。

底面 底面は小さなピット状を呈する。

遺物出土状況 図示した土師器直口壺(第233図5・7)、高環(4)、S字甕(6・8)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から焙烙破片1点、土師器壺・埴破片76点、S字甕破片51点が出土した。焙烙破片は混入であろう。

所見 出土遺物から古墳時代前期の遺構と考えられる。本井戸と3号井戸を結んだラインは、微高地の最高部にある1号住居の東西軸と共通し、北東にある4号井戸とともに1号住居や掘立柱建物群が集まる微高地南部を画するような位置に掘られている。

(6) 土坑(第235～237図 PL.179～182・223・224 遺物観察表P.465)

VI区古代～古墳時代遺構面で検出された土坑は29基である。これらの土坑は中央部に北西から南東方向にのびる微高地の南東裾野を取り囲むように群在する一群と、西部の凹地に散在する一群がある。VII区では本面で遺構確認を実施していないため、西側への土坑分布の広がりについては不明と言わざるを得ない。東側は遺構の分布が希薄であり、低地内に21号土坑が検出されたのみである。V区でも本面で遺構確認を実施していないため、東側への土坑分布の広がりについては不明である。

また、本面で検出された土坑のなかには、8世紀頃の遺物を出土する土坑が含まれている。本報告書の記載にあたっては、調査時の遺構確認の単位ごとに記載しているので、時期の異なる遺構が混在していることに注意を要する。報告書のまとめでは、各時代の遺構分布の実態を反映した記載をした。

それぞれの土坑の位置や規模は、P.434・435の表にまとめられた。以下各遺構の調査所見を記載する。

8号土坑は楕円形の土坑で、土坑集中部の中央部で検出された。断面形はU字形。上層は浅間C軽石を含む粘質黒色土で、中層はローム塊を含む暗黄褐色土で、下層は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器環1点が出土した。出土遺物の特徴は古代の遺構である可能性を示している。

9号土坑は細長い楕円形の土坑で土坑集中部の西部で検出された。断面形はすり鉢状。浅間C軽石・ローム粒を含む黒色土で埋まっていた。埋没土中から土師器破片2点、土師器裏破片3点、S字襷1点が出土した。埋没土の特徴は古代の遺構である可能性を示している。

21号土坑は楕円形の土坑で、13号溝と重複して検出された。13号溝との新旧関係は不明である。断面形は上方が開くU字形。土坑はざらつきのある暗褐色土で埋まっていた。中央部底面上5cmのところで完形の須恵器環(第235図1)が出土した。13号溝は浅間B軽石を混じる土で埋まっていることから中世以降と考えられる。21号土坑の時期は出土遺物から8世紀ころと推定される。

25号土坑は楕円形の土坑で、2号井戸の北東側で検出された。断面形はすり鉢状。南西端が深いピット状に掘り込まれている。上層は粘性のある黒褐色土で、下層は粘性があり、茶褐色土塊を含む暗褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器環破片1点、裏破片3点、須恵器碗破片1点が出土した。土坑の時期は出土遺物からすれば古代の可能性が高い。

26号土坑は3号掘立柱建物の北側で、27号土坑と検出された。土層断面の観察から26号土坑が新しい。26号土坑は楕円形の土坑で、断面形は筒状。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

27号土坑は隅丸方形の土坑で、断面形は筒状。白色軽石を含む、しまりのある黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器台付裏(第235図2)と裏破片1点が出土した。出土遺物からは古墳時代前期の遺構と考えられる。

28号土坑は不整楕円形の土坑で、屋外周溝のある1号竪穴住居の西側で検出された。断面形は皿状。底面は凹凸が著しい。上層は白色軽石を含む黒褐色土で、下層は暗灰褐色土と黒褐色土の混土で埋まっていた。埋没土中

から土師器壺破片18点、裏破片1点、S字襷11点が出土した。図示できる破片でなかったが、土坑の時期は古墳時代前期と考えられる。

29号土坑は円形の土坑で、屋外周溝のある1号竪穴住居の南西側で検出された。断面形は浅いボール状。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片2点、裏破片3点、S字襷1点が出土した。出土遺物からは古墳時代前期の遺構と考えられる。

30号土坑は不整楕円形の土坑で、29号土坑の東側で検出された。断面形は浅いボール状。底面は凹凸が著しい。上層は白色軽石を含む黒褐色土で、下層は白色軽石を含む黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。埋没土中から土師器裏破片8点、S字襷2点が出土した。出土遺物からは古墳時代前期の遺構と考えられる。

31号土坑は円形の土坑で、南西側が楕円形に窪んでいた。1号柱穴列の南西側で検出されたが、柱筋にはのっていない。断面形はピット状。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。図示した土師器S字襷(第235図3)は埋没土中から出土した。他に土師器高環破片2点、裏破片3点、S字襷破片13点が出土した。出土遺物からは古墳時代前期の遺構と考えられる。

32号土坑は円形の土坑で、1号柱穴列の南側で検出されたが、柱筋にはのっていない。断面形は筒状。上層は粘性のある黒褐色土、下層はしまりのある黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

33号土坑は不整楕円形の土坑で、1号柱穴列と3号掘立柱建物間で検出された。断面形は皿状。底面中央がやや窪んでいた。茶褐色土粒・白色軽石を含む黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

34号土坑は楕円形の土坑で、33号土坑の南側で検出された。断面形は筒状。上層は白色軽石を含む黒褐色土で、下層は黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

35号土坑は楕円形の土坑で、34号土坑の東側で検出された。断面形はピット状。中央部は茶褐色土塊を含む黒褐色土で、下層は黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

36号土坑は丸い楕円形の土坑で、4号井戸の北西側で37号土坑と接して検出された。断面形は箱状。白色軽石

VI区 8号土坑



VI区 8号土坑A-A'

1. 黒色土 As-Cを含む。粘質土。
2. 暗褐色土 ローム塊混入土。
3. 黒褐色土 As-Cを含む。

VI区 25号土坑



VI区 25号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりあり。全体にザラつきあり。
2. 黒褐色土 粘性ややあり。しまりあり。全体にザラつきあり。
3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつき強い。径100mm以下の茶褐色土塊が見られる。
4. 暗褐色土と茶褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつきあり。

VI区 30号土坑



VI区 30号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。



VI区 9号土坑



VI区 9号土坑A-A'

1. 黒色土 黄色ローム粒少量混入。As-C混上。

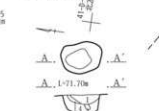
VI区 26号・27号土坑



VI区 26号・27号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。4層に比べ臭味薄れる。(26号土坑埋没土)
2. 暗褐色土と暗褐色土の混土粘性あり。しまりあり。(26号土坑埋没土)
3. 灰褐色土 粘性強し。しまりあり。全体にザラつきあり。(26号土坑埋没土)
4. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。(27号土坑埋没土)
5. 黒褐色土 4層に類するが、しまります。(27号土坑埋没土)

VI区 34号土坑



VI区 34号土坑A-A'

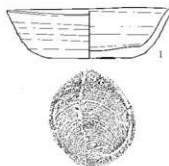
1. 黒褐色土 粘性ややあり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土 1層に類するが、粘性・しまります。
3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
4. 黒褐色土と暗褐色土の混土粘性あり。しまりあり。埋上(黒濁)と地山(暗灰濁)の混上。

VI区 21号土坑



VI区 21号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。全体にザラつきあり。



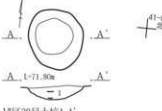
VI区 28号土坑



VI区 28号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。茶褐色の斑点が見られる。

VI区 29号土坑



VI区 29号土坑A-A'

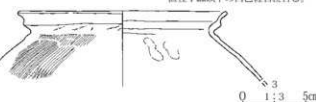
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区 31号土坑



VI区 31号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。下層部は水がついている。



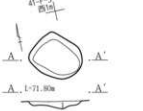
VI区 32号土坑



VI区 32号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
2. 黒褐色土 1層に類するが、しまります。

VI区 33号土坑



VI区 33号土坑A-A'

1. 黒褐色土と暗褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。直径5mm以下の茶褐色土粒・直径1mm以下の白色軽石粒含む。

第235図 VI区土坑(1)と出土遺物

を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器甕破片1点、S字甕破片5点が出土した。出土遺物から古墳時代前期の土坑と考えられる。

37号土坑は円形の土坑で、4号井戸の北西側で36号土坑と接して検出された。断面形は箱状。上層は白色軽石を含む黒褐色土で、下層はしまりのある褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

38号土坑は北東部が突出した楕円形の土坑で、3号掘立柱建物北西隅のP7の外側に接して検出された。3号掘立柱建物との新旧関係は不明である。北東部の突出は別の遺構が重複している可能性が高いが、調査では確認できなかった。断面形はすり鉢状。上層は白色軽石を含む暗褐色土で、下層は暗褐色土と褐色土の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

39号土坑は不整形の土坑で、発掘区西部20号溝の西側で検出された。断面形はすり鉢状。白色軽石を含む黒褐色土と暗褐色土の混土で埋まっていた。埋没土中から7世紀後半とみられる土師器環(第236図1)が出土した。土坑の時期は出土遺物から7世紀後半と考えられる。

40号土坑は北西隅が突出した隅丸方形の土坑で、39号土坑の南側で検出された。断面形はボール状。北西部の突出は別の遺構が重複している可能性もあるが、土層断面では明確な新旧関係は認められなかった。上層は白色軽石を含む黒褐色土で、下層は黒褐色土・茶褐色土・小礫等で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

41号土坑は東部が突出した不整形の大型土坑で、40号土坑の南側で検出された。113号・114号ピットと重複していたが、新旧関係は不明である。断面形はすり鉢状。底面はピット状に掘り込まれていた。茶褐色土粒・白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。北部法面で土師器環(第236図2)が完形で出土した。また埋没土中から環破片(3)が出土した。他に埋没土中から土師器環破片17点、甕破片2点、S字甕破片2点が出土した。新しい土器を重視すれば、8世紀代の土坑と考えられる。

42号土坑は不整形丸長方形の土坑で、19号溝と重複して検出された。19号溝の方が新しい。断面形は浅いボール状。粘性の強い暗褐色土や、暗褐色土と暗褐色土の混土で埋まっていた。図示した土師器直口壺(第236図4)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器壺5点が出土した。出土土器から古墳時代前期の土坑と

推定される。

43号土坑は丸い楕円形の土坑で、6号井戸の南側で検出された。6号井戸より古い。断面形はすり鉢状である。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器環(第237図1・2)、S字甕(3)が出土した。他に埋没土中から土師器壺1点、埴1点、環18点、甕16点、S字甕17点が出土した。環は8世紀のものと考えられることから、本土坑の時期は8世紀である可能性が高い。

44号土坑は円形の土坑で、3号掘立柱建物の内側で検出された。その位置からは掘立柱建物の付属であった可能性もあるが、調査では確認できなかった。断面形はすり鉢状。上層は茶褐色土粒・白色軽石を含む黒褐色土で、下層は黒褐色土と暗褐色土の混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

45号土坑は不整形の土坑で、2号掘立柱建物も南側で52号土坑と並んで検出された。断面形は箱状。上層は白色軽石を含む黒褐色土で、下層は黒褐色土と暗褐色土の混土で埋まっていた。埋没土中から土師器高環破片1点が出土した。

46号土坑は楕円形の土坑で、2号掘立柱建物、22号土坑、175号・176号ピットと重複して検出された。22号土坑の方が新しく、2号掘立柱建物やピットとの新旧関係は不明である。断面形はU字形。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片1点、環破片1点、甕破片4点、S字甕破片16点、小型甕破片1点が出土した。土師器環破片は小片で時期を特定できない。ここでは古代～古墳時代の土坑としておきたい。

47号土坑は隅丸三角形の土坑で、2号掘立柱建物の北辺内側で検出された。掘立柱建物との関係は不明である。断面形はU字形。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

48号土坑は不整形楕円形の土坑で、2号掘立柱建物の南東隅外側で検出された。掘立柱建物との関係は不明である。西半の突出部は別のピットの可能性が高い。断面形は皿状。上層は白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。下層は粘性のある黒褐色土や茶褐色土で埋まっていた。図示した土師器環(第237図4)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器環破片1点、甕破片10点、S字甕破片18点が出土した。土師器環は古墳時代後期のものであることから、新しい遺物を重視すれば土坑の時期は

第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

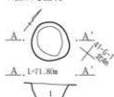
VI区35号土坑



VI区35号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径10cm以下の茶褐色土塊含む。
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
3. 黒褐色土と暗褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。埋土(黒褐色)と地山(暗褐色)の混土。

VI区36号土坑



VI区36号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区37号土坑



VI区37号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区38号土坑



VI区38号土坑A-A'

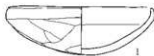
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。全体にザラつきあり。1mm以下の白色軽石粒含む。1層に比べやや明るい色味。
3. 暗褐色土と褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区39号土坑

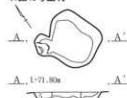


VI区39号土坑A-A'

1. 黒褐色土と暗褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。上層部では直径1mm以下の白色軽石粒が含まれる。



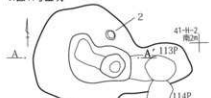
VI区40号土坑



VI区40号土坑A-A'

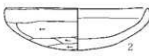
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と茶褐色土の混土粘性あり。しまりあり。
3. 茶褐色土 粘性あり。しまりあり。
4. 暗赤褐色硬土 粘性強し。しまり強し。小礫多し。
5. 黒褐色土と茶褐色土の混土粘性ややあり。しまりあり。

VI区41号土坑

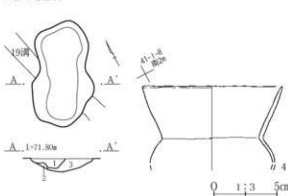


VI区41号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性強し。しまりあり。直径5mm以下の茶褐色土粒・直径1mm以下の白色軽石粒含む。下層部は水がっている。



VI区42号土坑

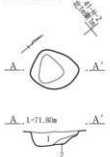


VI区42号土坑A-A'

1. 黒褐色土 (19号溝埋没土)
2. 暗褐色土上 粘性強し。しまり強し。
3. 暗褐色土と暗褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

0 1:60 2m

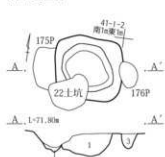
VI区45号土坑



VI区45号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と茶褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。地山と埋土の混土。

VI区46号土坑



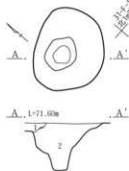
VI区46号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。(46号土坑埋没土)
2. 黒褐色土と茶褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。(2号掘立柱建物P7埋没土)
3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。(176号ピット埋没土)

第236図 VI区土坑(2)と出土土物

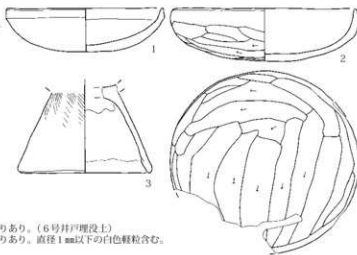
7. VI区の遺構と遺物

VI区43号土坑

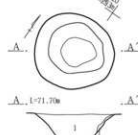


VI区43号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。(6号井戸埋没土)
2. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。



VI区44号土坑



VI区44号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径50mm以下の茶褐色土塊・直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 茶褐色土と黒褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。地山と埋土の混土。

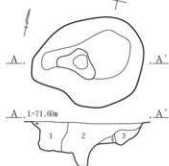
VI区47号土坑



VI区47号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

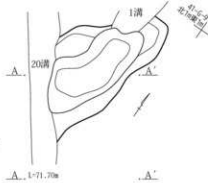
VI区48号土坑



VI区48号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性ややあり。しまりややあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径5mm以下の茶褐色土粒・直径1mm以下の白色軽石粒含む。
3. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。
4. 茶褐色土 粘性強し。しまり強し。

VI区54号土坑



VI区54号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性強し。しまり強し。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区49号土坑



VI区49号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区50号土坑



VI区50号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

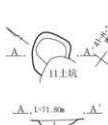
VI区51号土坑



VI区51号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区52号土坑



VI区52号土坑A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区53号土坑



VI区53号土坑A-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。



第237図 VI区土坑(3)と出土遺物

古墳時代後期の可能性が高い。

49号土坑は楕円形の土坑で、48号土坑の西側で検出された。断面形は皿状。土坑の位置は2号掘立柱建物の内側であるが、建物との関係は不明である。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

50号土坑は不整形形の土坑で、3号掘立柱建物の東側で検出された。断面形はすり鉢状。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

51号土坑は不整形楕円形の土坑で、南西・南東側の突出部は別のピットである可能性が高い。中央の土坑の断面形は筒状。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

52号土坑は不整形形の土坑で、南西部は11号土坑に切られていた。断面形は皿状。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器環破片1点が出土した。土師器環はやや厚手で古墳時代後期のものと推定されることから、土坑の時期は古墳時代後期の可能性が高い。

53号土坑は楕円形の土坑で、発掘区西端で検出された。底面には段がある。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

54号土坑は不整形円形で、1号・20号溝と重複して検出された。1号溝より古い。20号溝との関係は不明である。白色軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

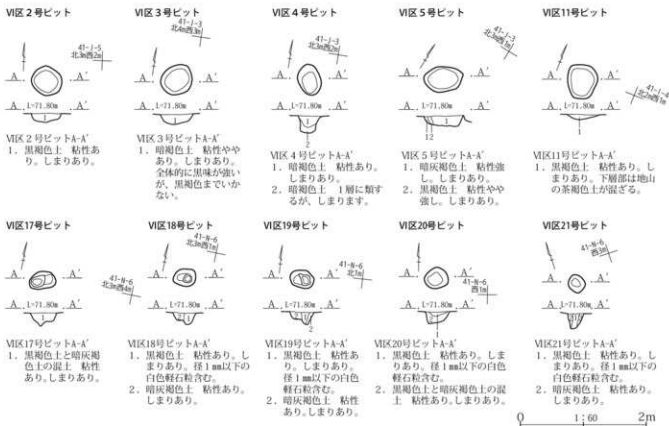
(7) ピット

(第238～243図 PL.182～188・224 遺物観察表P.465)

VI区古代～古墳時代遺構中で検出したピットは全部で176基であった。そのうち54基は、調査時あるいは整理作業時に、竪穴住居・掘立柱建物および柱穴列の柱穴と判断して記録し、報告している。本項で報告するのは、残りの122基の単独のピットについてである。

VI区のピットは、屋外周溝の付随する1号竪穴住居がある南北に長い微高地の周囲を取り囲むように掘られていた。その集中の範囲内に掘立柱建物や柱穴列も建てられていた。また、中央の微高地の西側にある浅い谷を隔てた西側の微高地東縁辺に9基のピットが偏在していた。

これらのピットには、浅間C軽石と推定される白色軽石を含む黒褐色土で埋まっているものと、白色軽石の記載がなく黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっているも



第238図 VI区ピット(1)

VI区22号ピット



VI区22号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区23号ピット



VI区23号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

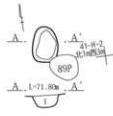
VI区24号ピット



VI区24号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

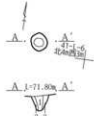
VI区25号ピット



VI区25号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区28号ピット



VI区28号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

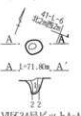
VI区30号ピット



VI区30号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区34号ピット



VI区34号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区35号ピット



VI区35号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

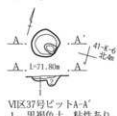
VI区36号ピット



VI区36号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

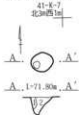
VI区37号ピット



VI区37号ピットA-A'

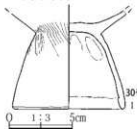
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区38号ピット



VI区38号ピットA-A'

1. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。
2. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。



VI区39号・40号ピット



1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。
3. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区41号ピット



VI区41号ピットA-A'

1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区42号ピット



VI区42号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区43号ピット



VI区43号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区44号ピット



VI区44号ピットA-A'

1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区45号ピット



VI区45号ピットA-A'

1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区46号ピット



VI区46号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区47号ピット



VI区47号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区48号ピット



VI区48号ピットA-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。



第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

VI区49号ピット



VI区49号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区50号ピット



VI区50号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区51号ピット



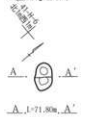
VI区51号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区52号ピット



VI区52号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区53号ピット



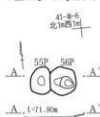
VI区53号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区54号ピット



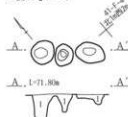
VI区54号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区55号・56号ピット



VI区55号・56号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区64号ピット



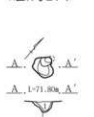
VI区64号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区65号ピット



VI区65号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区66号ピット



VI区66号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区67号ピット



VI区67号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区69号ピット



VI区69号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区70号ピット



VI区70号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区71号ピット



VI区71号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区72号ピット



VI区72号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区73号ピット



VI区73号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区74号ピット



VI区74号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区86号ピット



VI区86号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

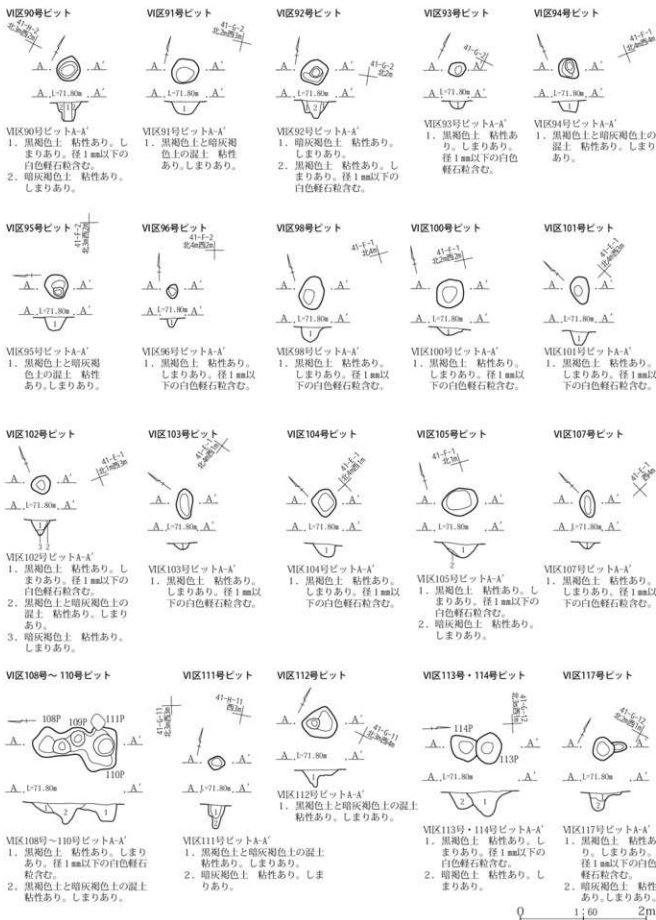
VI区89号ピット



VI区89号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

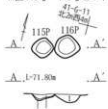
0 1:60 2m

第240図 VI区ピット(3)



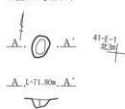
第241図 VI区ビット(4)

VI区115号・116号ピット



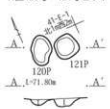
- MIK115号・116号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区119号ピット



- VI区119号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区120号・121号ピット



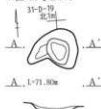
- VI区120号・121号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区122号ピット



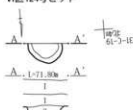
- VI区122号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区123号ピット



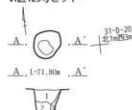
- VI区123号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区124号ピット



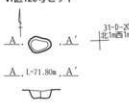
- MIK124号ピットA-A'
1. 表土
 1. 黒褐色土 B水田床土。
 2. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区125号ピット



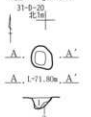
- MIK125号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。
 3. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区126号ピット



- VI区126号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区127号ピット



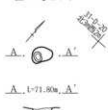
- MIK127号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区128号ピット



- MIK128号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区129号ピット



- MIK129号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区130号ピット



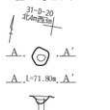
- MIK130号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区131号ピット



- MIK131号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区132号ピット



- MIK132号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区133号ピット



- MIK133号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区134号ピット



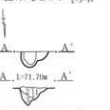
- MIK134号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区135号ピット



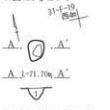
- VI区135号ピットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区137号ピット



- MIK137号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。
 2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。
 3. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区138号ピット



- MIK138号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区139号ピット



- MIK139号ピットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。径1mm以下の白色軽石粒含む。



第242図 VI区ピット(5)

7. VI区の遺構と遺物

VI区140号ビット

41-6-1
北西



VI区140号ビットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区141号ビット

41-6-1
北西



VI区141号ビットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区142号ビット

41-6-1
北西



VI区142号ビットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区143号ビット

41-6-1
北西



VI区143号ビットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区144号ビット

41-6-1
北西



VI区144号ビットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区145号ビット

41-6-2
北西



VI区145号ビットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区147号ビット

41-1-1
北西



VI区147号ビットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区150号ビット

41-1-1
北西



VI区150号ビットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区154号ビット

41-1-1
北西



VI区154号ビットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区155号ビット

41-1-2
北西



VI区155号ビットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区156号ビット

41-1-2
北西



VI区156号ビットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区162号ビット

41-1-1
北西



VI区162号ビットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区163号ビット

41-1-2
北西



VI区163号ビットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区164号ビット

41-1-2
北西



VI区164号ビットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区165号ビット

41-1-2
北西



VI区165号ビットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区168号ビット

41-1-2
北西



VI区168号ビットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区169号ビット

41-1-2
北西



VI区169号ビットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区170号ビット

41-1-2
北西



VI区170号ビットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区171号ビット

41-1-2
北西



VI区171号ビットA-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。

VI区174号ビット

41-1-2
北西



VI区174号ビットA-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。
径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区176号ビット

41-1-1
北西



VI区176号ビットA-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。

第243圖 VI区ビット(6)

0 1:60 2m

の2種類がある。ピットからの出土遺物はすべて古墳時代前期の土器の破片であった。これのみでピットの時期をすべて古墳時代前期とすることはできない。土坑には古墳時代末から奈良時代の土器を出土するものがあつたことから、ピットのなかにも遺物こそ出土しなかったが、古墳時代末から奈良時代の遺構が含まれている可能性は残されている。

それぞれのピットの位置や規模は、P.439～441の表にまとめた。

30号ピットの埋没土中から、土師器S字襷破片2点が出土した。そのうち1点を図示した(第239図1)

49号ピットの埋没土中から、土師器小型S字襷破片1点が出土した。

54号ピットの埋没土中から、土師器襷破片1点が出土した。

68号ピットの埋没土中から、土師器襷破片1点が出土した。

74号ピットの埋没土中から、銅破片1点、土師器壺破片1点、襷破片1点、S字襷破片4点が出土した。銅破片は混入である。

90号ピットの埋没土中から、土師器壺破片1点、高坏破片1点が出土した。

133号ピットの埋没土中から、土師器坏破片1点、襷破片2点、S字襷破片1点が出土した。

134号ピットの埋没土中から、土師器S字襷破片2点が出土した。

139号ピットの埋没土中から、土師器S字襷破片16点が出土した。

142号ピットの埋没土中から、土師器S字襷破片3点が出土した。

144号ピットの埋没土中から、土師器襷破片1点が出土した。

154号ピットの埋没土中から、土師器襷破片1点が出土した。

174号ピットの埋没土中から、土師器壺破片3点が出土した。

その他のピットからは遺物は出土しなかった。以上のように、いくつかのピットからは土器が埋没土中から出土しており、ピットの時期は133号ピットを除き古墳時代前期と考えておきたい。

(8) 溝

VI区古代～古墳時代遺構面では、16条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.444の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。

なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

VI区14号溝

(第244・263図 PL.189・224 遺物観察表P.465)

14号溝は、VI区中央やや西側で検出された南北方向の溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の西縁の一部にあたる。南北両端とも浅くなり確認できなくなる。土器が多量に出土した。

走向はN-8°-W、上幅は0.49～0.70m、深さは0.07m、調査長3.86mである。断面形は皿状で、底面には凹凸があつた。底面の標高は南端とも同じで、中央部がやや低い。溝内は黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。北半部に土器が集中して出土した。土師器壺(第244図2)、S字襷(3～6)が底面直上で出土した。また埋没土中から土師器鉢(1)が出土した。他に埋没土中から土師器壺破片11点、高坏破片1点、S字襷破片122点、台付襷破片1点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。

VI区15号溝 (第244・263図 PL.189 遺物観察表P.465)

15号溝は、VI区中央やや西側、14号溝の南側で検出された南北方向の溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の西縁の一部にあたる。南北両端は土坑状に立ち上がる。埋没土中から土器が出土した。

走向はN-18°-E、上幅は0.65～0.83m、深さは0.31m、調査長2.04mである。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。底面の標高は南端が北端より0.05m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土、黒褐色土と暗灰褐色土の混土で埋まっていた。埋没土中から土師器S字襷(第244図7)が出土した。他に土師器壺破片18点、S字襷破片151点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の遺構と考

えらえる。溝として記録したが、長楕円形の土坑と考えられることも可能であろう。

VI区16号溝

(第244・263図 PL.189・190・224 遺物観察表P.465)

16号溝は、VI区中央やや西側で、15号溝の西側で検出された南北方向の溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の西縁の一部にあたる。南北両端とも浅くなり確認できなくなる。

走向はN-10°-E、上幅は0.30~0.56m、深さは0.21m、調査長5.86mである。断面形はU字形で、底面にはやや凹凸があった。底面の標高は北端が南端より0.01m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は土器が多量に出土した。埋没土中から土師器壺類(第244図14)、高坏(9・10)、器台(8)、壺(12)、S字裏(11・13)が出土した。他に土師器壺破片45点、埴破片5点、高坏破片14点、坏破片6点、裏破片3点、S字裏破片226点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。南側の21号溝につながり、弧状に微高地を区画していると推定される。

VI区17号溝 (第244・263図 PL.190・191)

17号溝は、VI区中央やや南西側で検出された溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の南西縁の一部にあたる。両端とも浅くなり確認できなくなる。

走向はN-31°-W、上幅は0.36~0.96m、深さは0.09m、調査長8.91mである。断面形は浅いU字形で、底面には凹凸が著しかった。底面の標高は南東端が北西端より0.03m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。

VI区18号溝 (第245・246・263図 PL.191・224 遺物観察表P.452・465・466)

18号溝は、VI区南部で検出された溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の南西

縁の一部にあたる。溝としては不定形で、北東部には帯状に深い部分や突出部があるが、土層観察の結果では新旧関係のある別遺構とはいえなかった。両端とも直に立ち上がる。土器が多量に出土した。

走向はN-45°-W、上幅は0.88~1.88m、深さは0.37m、調査長7.62mである。断面形は浅い箱形で、底面にはやや凹凸があった。底面の標高は南東端が北西端より0.05m高かった。溝内は茶褐色土粒を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器小型丸底壺(第245図1)、直口壺(5)、高坏(3)、裏(9)、壺(6~8・10)、S字裏(第245図11~15、第246図16~20)、変質デイスイト散石(第246図21)が出土した。他に土師器壺破片167点、埴破片10点、高坏破片32点、小型S字裏破片58点、S字裏破片911点、小型裏破片2点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。本溝は柱筋に平行な走向で1号柱六列の南西脇にある。何らかの関連のある溝とも考えられる。

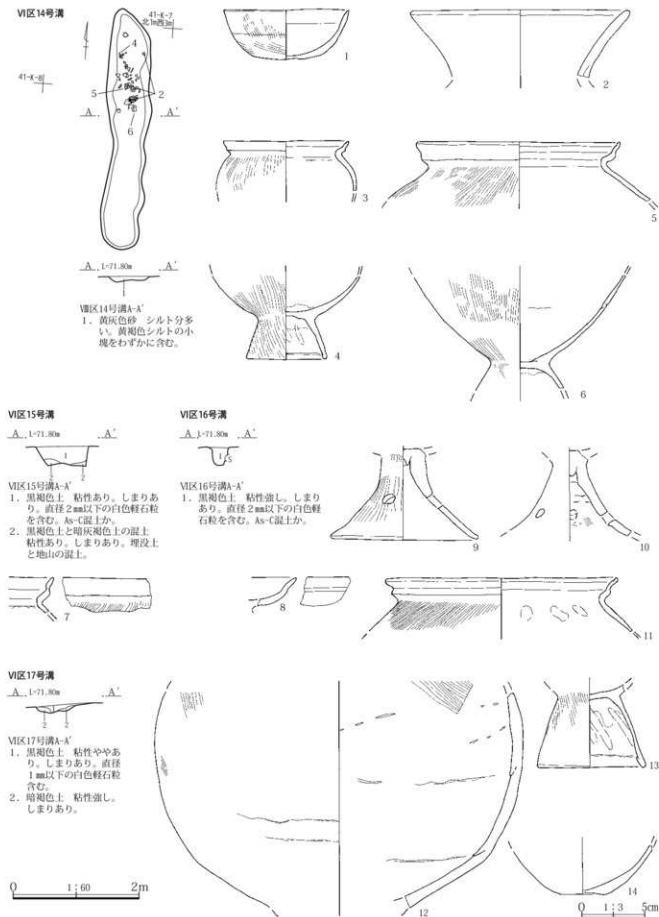
VI区19号溝 (第246・263図 PL.192)

19号溝は、VI区南西部で検出された溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の南西側にはほぼ直線的に掘られていた。北端は27号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。南端は発掘区域外となる。また25号・26号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。42号土坑と重複しているが、19号溝が新しい。

走向はN-21°-W、上幅は0.26~0.52m、深さは0.19m、調査長37.20mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。底面の標高は北西端が南東端より0.16m高かった。溝内は白色軽石を含む暗灰褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の埋没はないので、集落内の区画溝であろう。屋外周溝のある竪穴住居が連地していた微高地の西側には緩やかな谷地形が形成されていた。本溝はその谷の東縁に掘られている。底面の高低差からすれば用水路の可能性もある。

第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物



第244図 VI区溝と出土遺物(1)

VI区20号溝

(第246・263図 PL.192・194 遺物観察表P.466)

20号溝は、VI区西部で検出された溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の南西側にはほぼ直線的に掘られていた。北端・南端ともに発掘区域外となる。27号溝と重複しているが、20号溝が新しい。また、22号溝とVI区南部で合流しているが新旧関係は不明である。

走向はN-34°-W、上幅は0.28～0.61m、深さは0.17m、調査長52.80mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。底面の標高は北西端が南東端より0.19m高かった。溝内は白色軽石を含む暗灰褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺(第246図23・24)、小型甕(22)が出土した。

出土遺物や埋没土、遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。屋外周溝のある竪穴住居が選地していた微高地の西側には緩やかな谷地形が形成されていた。本溝はその谷の中央の最低位に掘られている。底面の高低差からすれば排水路の可能性もある。

VI区21号溝 (第247・248・263図 PL.192・224・225 遺物観察表P.466)

21号溝は、VI区中央やや南西側で、16号溝の南側で検出された弧状に湾曲する南北方向の溝である。前述した屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の西縁の一部にあたる。南北両端とも浅くなり確認できなくなる。25号溝と重複するが、21号溝が古い。

走向は中央部でN-33°-W、上幅は0.39～1.08m、深さは0.49m、調査長17.68mである。断面形は箱形で、底面は平坦であった。底面の標高は北端が南西端より0.13m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は土器が多量に出土した。埋没土中から土師器鉢(第247図4)、器台(1)、高坏?(2)、小型甕(3)、直口壺(10)、壺(5～9)、大型の直口壺(11)、甕(第248図12～14)、S字甕(15～21)が出土した。他に土師器小型壺37点、壺破片150点、埴破片5点、高坏破片23点、器台破片4点、碗破片2点、环破片3点、鉢破片3点、甕破片78、S字甕破片1271点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考え

られる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。北側の16号溝につながり、弧状に微高地の西縁を区画していると推定される。

VI区22号溝 (第246・263図 PL.193)

22号溝は、VI区南西側で検出された東西方向の溝である。西端は浅くなり確認できなくなる。東端は20号溝に合流しているが、新旧関係は不明である。

走向はN-83°-W、上幅は0.22～0.44m、深さは0.17m、調査長17.64mである。断面形は皿状で、底面は平坦であった。底面の標高は西端が東端より0.06m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土中や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。

VI区23号溝 (第246・263図 PL.193)

23号溝は、VI区南西側で検出された。北東端・南東端はピット状の底面のみが検出された。中央部で途切れている。別の溝である可能性もあるが、詳細は不明である。重複はない。

走向は中央部でN-39°-E、上幅は0.16～0.34m、深さは0.07m、調査長8.50mである。断面形は浅いU字形で、底面はピット状の凹凸があった。底面の標高は南西端が北東端より0.04m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土中や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。溝の性格は不明である。

VI区24号溝

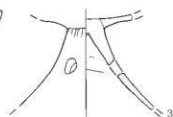
(第249・263図 PL.193・225・226 遺物観察表P.467)

24号溝は、VI区南西側で検出された。北東部は直線的であるが、南西部は弧状に屈曲していた。重複はない。

走向は直線部でN-50°-E、上幅は0.36～0.70m、深さは0.41m、調査長12.0mである。断面形は箱形で、底面は平坦であった。底面の標高は西端が北東端より0.06m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は土器が多量に出土した。埋没土中から土師器直口壺(第249図3)、壺(4)、S字甕(2・5・

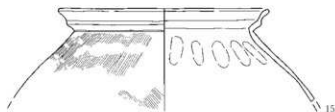
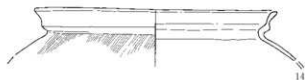
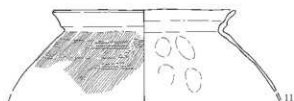
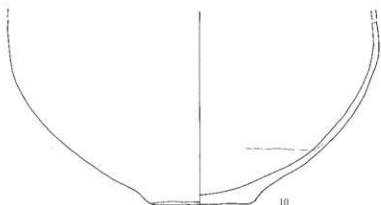
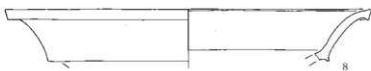
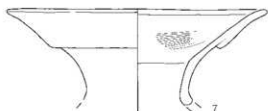
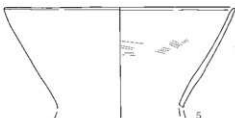
第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

VI区18号溝

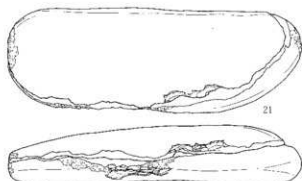
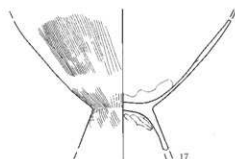
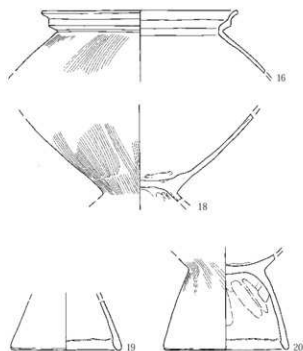


VI区18号溝A-A'

1. 黒褐色土・粘性強し。しまりあり。直径2mm以下の茶褐色粒微量含む。
 2. 暗黄褐色土と黒褐色土の混土。粘性強し。しまりあり。地山(暗黄褐色土)と埋没土の混土。



第245図 VI区溝(2)と出土遺物



VI区19号溝

A, L=71.80m A'



VI区19号溝A-A'
1. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区20号溝

A, L=71.80m A'



VI区20号・27号溝A-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。(27号溝埋没上)
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。(27号溝埋没上)

B, L=71.80m B'



VI区20号溝B-B'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

VI区22号溝

A, L=71.80m A'



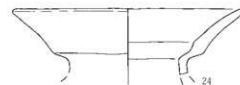
VI区22号溝A-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。埋没土(黒)と地山(暗灰)の混土。

VI区23号溝

A, L=71.80m A'



VI区23号溝A-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。長直径15cmの暗灰褐色塊。直径1mm以下の白色軽石粒含む。



0 1:3 5cm

VI区27号溝

A, L=71.80m A'



VI区27号溝A-A'
1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 暗灰褐色土 粘性あり。しまりあり。

VI区29号溝

A, L=71.80m A'



VI区29号溝A-A'
1. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。埋没土(黒)と地山(暗灰)の混土。

VI区25号溝

A, L=71.80m A'



VI区25号溝A-A'
1. 暗褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。赤褐色の斑点が広がる。(25号溝埋没上)
2. 暗褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。全体にザラつきあり。(21号溝埋没上)
3. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。(21号溝埋没上)
4. 暗灰褐色土と灰褐色土 粘性強し。しまりあり。21号溝埋没土(暗灰)と地山(灰褐)の混土。

0 1:60 2m

第246図 VI区溝(3)と出土遺物

第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

Ⅵ区21号溝

A, 1=71.80m

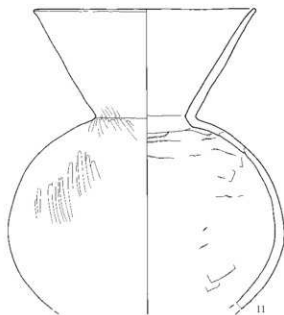
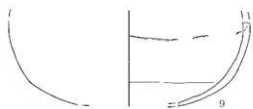
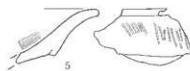
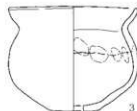
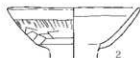
A'

Ⅵ区21号溝A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。

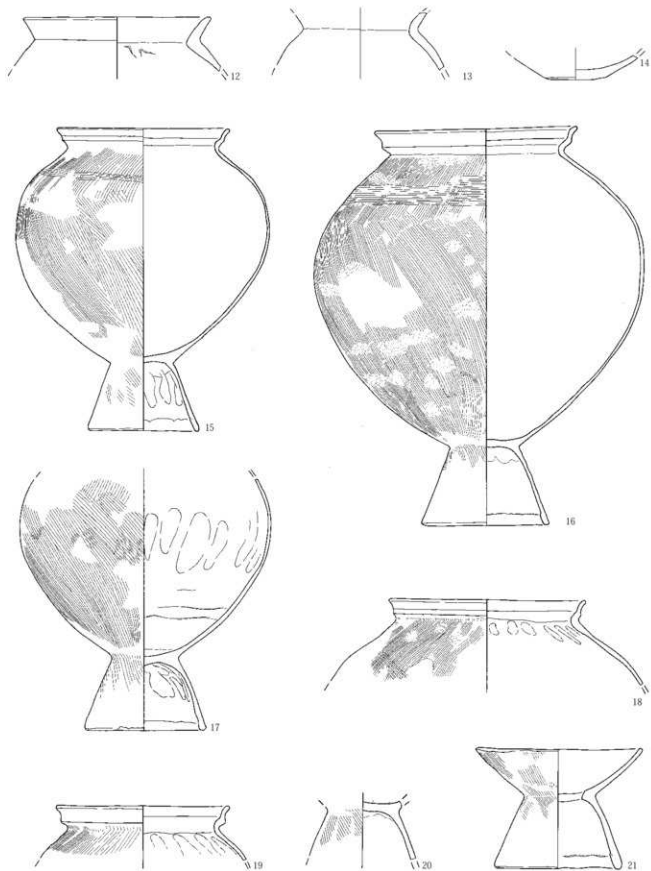
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。地山(暗灰褐色土)と埋没土(黒褐色土)の混土。

0 1;100 2m



0 1;3 5cm

第247図 Ⅵ区溝(4)と出土遺物



第248図 VI区溝(5)と出土遺物

6～8)、高坏(ミニチュアか)(9)、壺(1)が出土した。他に埋没土中から土師器壺破片19点、坏破片14点、甕破片32点、S字裏208点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。

VI区25号溝(第246・263図 PL.193・194)

25号溝は、VI区南中央やや西側で検出された。屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の西側の低地にあたる。東西端とも浅くなり検出できなくなる。底面には楕円形ピットが並び、西半部は楕円形ピットのみが検出された。19号・20号溝と重複するが新旧関係は不明である。21号溝と重複するが、25号溝が新しい。

走向はN-78°-E、上幅は0.40～2.50m、深さは0.26m、調査長13.38mである。断面形は浅い箱形で、底面はピット状の凹凸があった。底面の標高は北東端が南西端より0.16m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。埋没土中から土師器壺破片2点、S字裏破片22点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。溝の性格は不明である。

VI区26号溝(第249・263図 PL.194 遺物観察表P.467)

26号溝は、VI区南中央やや西側で検出された。中央部で屈曲する、くの字形の溝である。屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の西縁にあたる。北端・南西端とも浅くなり検出できなくなる。19号溝と重複するが、26号溝が新しい。

走向は北東部でN-14°-E、南西部でN-65°-E、上幅は0.34～1.22m、深さは0.10m、調査長8.14mである。断面形は浅い箱形で、底面は平坦である。底面の標高は北端が南西端より0.14m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。図示したS字裏(第249図10)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器S字裏破片9点が出土した。

出土遺物や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。溝の性格は不明である。

VI区27号溝(第246・263図 PL.194)

27号溝は、VI区北西部で検出された。一部が途切れるが、直線的な溝である。屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の西側にある低地内に掘られていた。西端は20号溝と合流するが新旧関係は調査したが認識できなかった。同時に使われていた可能性もあるが、詳細は不明である。北東端は浅くなり検出できなくなる。19号溝とも重複するが、新旧関係は不明である。

走向はN-59°-E、上幅は0.34～0.72m、深さは0.18m、調査長13.25mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。底面の標高は南西端が北東端より0.09m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。溝の性格は不明である。

VI区28号溝(第249・263図 PL.194)

28号溝は、VI区中央部で検出された。屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の東側縁辺を囲むように掘られている。北半部は直線的、南半部は一部途切れるが、緩やかに湾曲している。北半部の直線部の走向は、屋外周溝のある竪穴住居の軸や、溝のすぐ西側にある2号・3号掘立柱建物の柱筋に平行しており、何らかの規格を意識して掘られたものと推定される。重複遺構はない。

走向は直線部でN-37°-W、上幅は0.16～0.82m、深さは0.17m、調査長62.50mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。底面の標高は北西端が南東端より0.09m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は埋没土中から土師器壺20点、S字裏破片9点が出土した。

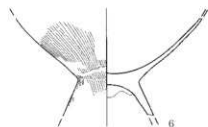
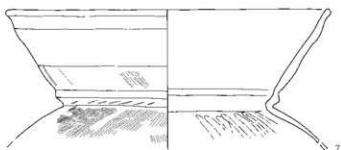
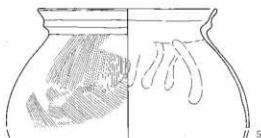
出土遺物、埋没土の特徴や、遺構配置、遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。屋外周溝のある竪穴住居や掘立柱建物等の古墳時代前期の遺構群は本溝の西側にすべてあることから、これらの遺構からなる特殊な空間を区画した重要な溝と考えられる。

VI区24号溝



VI区24号溝A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗灰褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。地山と埋設土の混土。



VI区26号溝



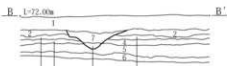
VI区26号溝A-A'・B-B'

1. 黒褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。
3. 暗灰褐色土 粘性やや弱し。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。



0 1:3 5cm

VI区28号溝



VI区28号溝A-A'

1. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
2. 黒褐色土と暗黄褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。地山(暗黄褐色)と埋設土(黒褐)の混土。

VI区28号溝B-B'

1. 暗褐色土 表土
2. 黒褐色土 白色軽石粒含む。
3. 黒褐色土 2層に類するが白色軽石粒増す。
4. 黒褐色土と褐色土の混土 ローム薄移層。黒褐色土の割合多い。
5. 暗黄褐色土 ローム薄移層。黒褐色土塊状に含む。
6. 暗黄褐色土 ローム層。
7. 黒褐色土 粘性あり。しまりあり。直径1mm以下の白色軽石粒含む。
8. 黒褐色土と暗黄褐色土の混土 粘性あり。しまりあり。地山(暗黄褐色)と埋設土(黒褐)の混土。

0 1:60 2m

Ⅵ区29号溝 (第246・263図 PL.194)

29号溝は、Ⅵ区北東隅で検出された直線的な溝である。屋外周溝をもつ竪穴住居が立地する細長い微高地の東側にある低地のほぼ中央に掘られていた。南半部は浅くなり、その痕跡しか確認できなかった。重複遺構はない。

走向はN-42°-W、上幅は0.30～0.56m、深さは0.04m、調査長約30.0mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。底面の標高は北西端が南東端より0.09m高かった。溝内は浅間C軽石を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

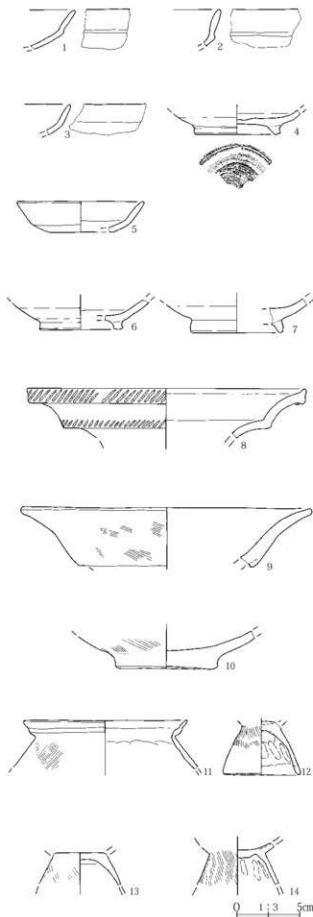
埋没土や遺構確認面から、古墳時代前期の溝と考えられる。砂礫等の堆積はないので、集落内の区画溝であろう。

(9) 遺構外の出土遺物

(第250図 PL.226 遺物観察表P.467)

Ⅵ区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。ここでは、Ⅷ層上面の遺構確認時に出土した遺物を掲載した。

古代の遺物では、灰釉陶器碗(第250図7)、須恵器碗(4・6)、土師器坏(5)が出土した。古墳時代中・後期の遺物では、発掘区内では遺構は検出されなかったが、いわゆる須恵器模倣の土師器坏(1～3)が出土した。古墳時代前期の土器は多量に出土したが、土師器壺(8～10)、S字甕(11～14)を図示した。



第250図 Ⅵ区遺構外の出土遺物(古代～古墳時代)

8. VIII区の遺構と遺物

(1) 土坑 (第251図 PL.196)

VIII区古代～古墳時代遺構面で検出された土坑は1基である。VIII区西壁沿いに検出された。土坑の位置や規模は、P.435の表にまとめた。以下遺構の調査所見を記載する。

12号土坑は不整楕円形と推定される土坑で、粘性のある黒色粘土で埋まっていた。底面にはやや凹凸がある。遺物は出土しなかったが、埋没土の特徴から古墳時代の遺構と推定される。

(2) ピット (第251図 PL.196)

VIII区古代～古墳時代遺構面で検出したピットは3基である。北西部に2基、南西部に1基が散在していた。それぞれのピットの位置や規模は、P.441の表にまとめた。以下ピットの調査所見を記載する。

1号ピットは円形のピットで、5号溝の南側で検出された。細砂・白色軽石を含む黒褐色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

2号ピットは円形のピットで、8号溝の東側で検出された。細砂を含む黒色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

3号ピットは楕円形のピットで、8号溝の西側で検出された。細砂・白色軽石を含む黒褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(3) 溝

VIII区古代～古墳時代遺構面では、10条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.444・445の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

VIII区5号溝 (第252・262図 PL.196・197)

5号溝は、VIII区南西部で検出された北西から南東方向の直線的な溝である。北西端・南東端ともに発掘区域外となる。8号溝と重複するが、8号溝が新しい。また、10号溝と重複するが、10号溝が新しい。

走向はN-59°-W、上幅は0.50～0.90m、深さは0.19m、調査長39.40mである。断面形は浅いU字形で、底面は凹凸であった。底面の標高は北西端が南東端より0.09m高かった。

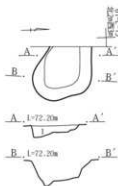
溝内は白色軽石や砂粒を含む黒褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

VIII区6号溝 (第252・262図 PL.197)

6号溝は、VIII区南西隅で検出された北西から南東方向の直線的な溝である。北西端・南東端ともに発掘区域外となる。南西脇に0.8mほどの間隔をもって7号溝が並

VIII区12号土坑



VIII区12号土坑A-A'

1. 黒色粘土 粘性あり。固くしまっている。

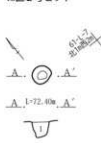
VIII区1号ピット



VIII区1号ピットA-A'

1. 黒褐色粘上 細砂粒・白色軽石を含む。
2. 黒色粘上 細砂粒を少量含む。固くしまっている。

VIII区2号ピット



VIII区2号ピットA-A'

1. 黒色粘上 細砂粒を含む。固くしまっている。

VIII区3号ピット



VIII区3号ピットA-A'

1. 黒褐色粘質上 細砂粒・白色軽石を含む。固くしまっている。

0 1:60 2m

第251図 VIII区土坑とピット

行する。一部重複するが、7号溝が新しい。また、8号溝と重複するが、8号溝が新しい。

走向はN-44°-W、上幅は0.25～0.54m、深さは0.09m、調査長23.70mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦であった。底面の標高は南東端が北西端より0.01m高かった。

溝内は白色軽石や砂粒を含む黒褐色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器裏破片1点が出土した。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

Ⅷ区7号溝

(第252・253・262図 PL.197・226 遺物観察表P.467)

7号溝は、Ⅷ区南西隅で検出された北西から南東方向の直線的な溝である。北西端・南東端ともに発掘区域外となる。北東脇に0.8mほどの間隔をもって6号溝が並行する。一部重複するが、7号溝が新しい。8号溝とも重複するが、8号溝が新しい。

走向はN-45°-W、上幅は1.90～5.45m、深さは0.09m、調査長18.90mである。断面形は浅いV字形で、底面には凹凸があった。底面の標高は北西端が南東端より0.12m高かった。

溝内は白色軽石や砂粒を含む黒褐色粘質土で埋まっていた。図示した内斜口縁の土師器鉢(第253図1)、受け口あるいはS字状口縁裏破片(2)、壺底部(3)、壺口縁部(4)、S字裏(5)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器ミニチュアS字裏破片3点、裏破片36点、S字裏破片16点、コの字口縁裏破片7点が出土した。埋没土中から出土したコの字口縁裏破片は9世紀ころの土器である。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられる。図示できるような大型破片は古墳時代前期および中期の土器であるが、新しい出土遺物を重視すれば、本溝は古代の溝である可能性が高い。南西部は上幅が広がり、底面も高くなって、何らかの施設が設けられていた可能性もあるが、詳細を明らかにすることはできなかった。

Ⅷ区8号溝 (第254・262図 PL.198・199)

8号溝は、Ⅷ区西部で検出された北東から南西方向の

直線的な溝である。北東端は発掘区域外となる。南西端は7号溝と重複するが、8号溝が新しい。不定型な掘り方の溝で、底面の凹凸が著しい。北東半部では南西側に、ピット状の掘り込みが列になった1号ピット列を伴う。これが8号溝に付随するものかどうかは不明である。ピット列は中央付近で検出できなくなる。南西半部の溝も不定形である。

走向はN-42°-E、上幅は0.40～1.70m、深さは0.06m、調査長33.10mである。断面形は浅い台形で、底面には凹凸が著しかった。底面の標高は北東端が南西端より0.13m高かった。

溝内は細砂粒を含む黒色粘質土で埋まっていた。埋没土中から土師器環破片2点、S字裏破片6点が出土した。

Ⅷ区8号溝は、埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられる。埋没土中から出土した土師器環破片は内斜口縁の環で古墳時代中期ころの土器であることから、新しい出土遺物を重視すれば、本溝は古墳時代中期の溝の可能性が高い。また、底面凹凸の著しい形状から動物の歩行痕跡が溝状になったとも考えられる。

Ⅷ区1号ピット列 (第254・262図 PL.198)

1号ピット列は、Ⅷ区西部で検出された8号溝の北東半部で、溝の南西側に斜めに交わる形で検出された。溝との新旧関係は明確でない。

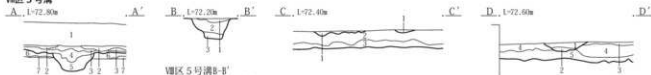
個々のピットの形状は不定型な楕円形、大きさは直径0.25～0.40m、深さは0.05～0.15mほどでまちまちである。ピットの間隔は芯々間で0.35mである。ピット列は明確なもので14.0mほど連続しており、痕跡と思われるものを含めると23.0mまでになる。

ピット内は黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の遺構と考えられるが、詳細は不明である。

Ⅷ区9号溝 (第254・262図 PL.198・199)

9号溝は、Ⅷ区中央部で検出された北西から南東方向に緩やかに屈曲しながら流れる溝である。北西端・南東端ともに発掘区域外となる。8号溝と重複するが、8号溝が新しい。10号・11号溝と重複するが、10号・11号溝

VIII区 5号溝



VIII区 5号溝A-A'

1. 盛土と現代の耕作土 ぐずれやすく、区分していない。
2. オリーブ褐色土 As-Aを含む。固くしまっている。
3. 黒褐色粘土 白色軽石を含む。固くしまっている。
4. 黒色粘土 白色軽石を含む。固くしまっている。
5. 黒褐色粘質土 黄灰色粘質土塊を含む。白色軽石が少し混じる。粘性あり。固くしまっている。
6. 暗灰黄色粘質土 白色軽石・砂粒を含む。固くしまっている。
7. 暗灰黄色粘質土 白色軽石・細砂粒を含む。固くしまっている。

VIII区 5号溝B-B'

1. 黒褐色粘土 白色軽石を含む。固くしまっている。
2. 黒色粘土 白色軽石・細砂粒を少し含む。粘性あり。固くしまっている。
3. 黒褐色粘土 暗灰黄色粘質土塊を含む。細砂粒が混じる。固くしまっている。

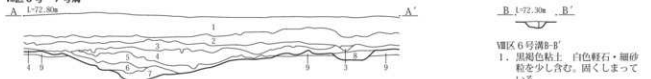
VIII区 5号溝C-C'

1. 黒褐色粘質土 暗灰黄色粘質土塊を少し含む。(8号溝埋没土)
2. 黒色粘土 白色軽石・細砂粒を少し含む。粘性あり。固くしまっている。
3. 黒褐色粘土 暗灰黄色粘質土塊を含む。細砂粒が混じる。固くしまっている。

VIII区 5号溝D-D'

1. 黒褐色粘土 砂粒を少量含む。(10号溝埋没土)
2. 暗灰色砂 粘質土を含む。鉄分がそまる部分がある。(10号溝埋没土)
3. 黄灰色シルト 砂粒を少量含む。
4. 黒褐色粘土 砂粒をごくわずかに含む。
5. 黒褐色シルト 砂粒・白色軽石を含む。

VIII区 6号・7号溝



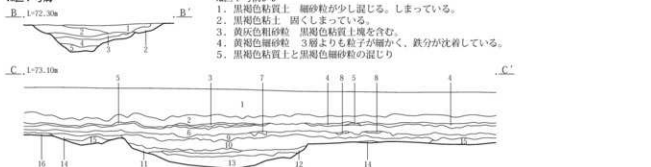
VIII区 6号・7号溝A-A'

1. 盛土。
2. 黒褐色土 As-A軽石を含む。固くしまっている。
3. 黒褐色土 2層よりもA軽石を多く含む。固くしまっている。
4. 黒褐色粘質土 下層に細砂粒が多く混じる。白色軽石をわずかに含む。固くしまっている。
5. 黒色粘土 固くしまっている。
6. 黒褐色粘土 白色軽石・細砂粒を含む。粘性あり。固くしまっている。
7. 黒褐色粘質土 黄灰色粘質土塊・細砂粒を多く含む。しまっている。
8. 黒褐色粘土 白色軽石・細砂粒を含む。粘性あり。固くしまっている。(6号溝埋土)
9. 暗灰黄色粘質土 白色軽石・細砂粒を含む。固くしまっている。

VIII区 6号溝B-B'

1. 黒褐色粘土 白色軽石・細砂粒を少し含む。固くしまっている。

VIII区 7号溝



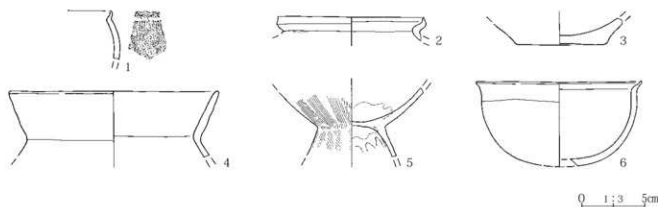
VIII区 7号溝B-B'

1. 黒褐色粘質土 細砂粒が少し混じる。しまっている。
2. 黒褐色粘土 固くしまっている。
3. 黄灰色粗砂粒 黒褐色粘質土塊を含む。
4. 黄褐色細砂粒 3層よりも粒子が細かく。鉄分が沈着している。
5. 黒褐色粘質土と黒褐色細砂粒の混じり

VIII区 7号溝C-C'

1. 盛土
2. 暗褐色土 As-Aを含む。固くしまっている。
3. 暗灰黄色砂質土 As-B二次堆積層。ぐずれやすい。
4. オリーブ褐色砂質土 黒褐色粘土小塊を含む。白色軽石が少し混じる。固くしまっている。
5. 黒褐色粘土 細砂粒がわずかに混じる。固くしまっている。
6. 黄灰色シルト 細砂粒を含む。白色軽石が少し混じる。固くしまっている。
7. 黄灰色シルト にぶい黄色砂質土が多く混じる。固くしまっている。
8. 黄灰色シルト 7層よりも、にぶい黄色砂質土が少ない。
9. 黒褐色粘土 細砂粒を含み、白色軽石を少し含む。固くしまっている。粘性あり。
10. 黄灰色砂質土 上層に細砂粒。下層に粗砂粒が多く含まれる。
11. 黒褐色粘土 粗砂粒を少し含む。粘性あり。
12. 黒褐色砂質土 細砂粒を多く含む。
13. 黒褐色砂質土 粗砂粒を多く含み、黒褐色粘質土小塊が少し混じる。
14. 黄灰色シルト 粗砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
15. 黄灰色砂質土 粗砂粒を多く含み、白色軽石が少し混じる。しまっている。
16. 黄灰色シルト 粗砂粒を含み、白色軽石が少し混じる。固くしまっている。粘性少しあり。

0 1:60 2m



第253図 VII区溝(2)出土遺物

が新しい。

走向は斜め部分でN-40°-W、中央部分でN-82°-W、上幅は0.90~1.40m、深さは0.32m、調査長65.20mである。断面形は浅い台形で、底面は平坦であった。底面の標高は北西端が南東端より0.11m高かった。

溝内は白色軽石を含む黒色粘質土・黒褐色粘質土で埋まっていた。底面には黒褐色シルトが堆積していた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられる。シルト・砂の堆積から流水があったことが示唆される。広域の用水路の可能性があろう。

VII区10号溝 (第254・262図 PL.199・200)

10号溝は、VII区中央南部で検出された南西から北東方向に緩やかに屈曲しながら流れる溝である。南西端は発掘区域外となる。北東端は斜めに11号溝と接するように合流する。合流地点では10号溝が新しいが、11号溝土層断面A-A'では10号溝は確認できなかった。

走向はN-64°-E、上幅は0.40~1.00m、深さは0.16m、調査長35.60mである。断面形はU字形で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は南西端が北東端より0.06m高かった。

溝内は褐灰色粗砂・黄灰色砂で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

VII区11号溝 (第253・254・262図 PL.199・200・226 遺物観察表P.467)

11号溝は、VII区北東部で検出された南西から北東方向に緩やかに屈曲しながら流れる溝である。南西端は斜めに10号溝と接するように合流する。合流地点では10号溝が新しいが、11号溝セクションA-A'では10号溝は確認できない。やや深い11号溝が発掘区北東端まで掘られていると思われる。北東端は発掘区域外となる。VII区では11号溝に連続するとみられる溝は検出されなかった。

走向はN-75°-E、上幅は0.36~1.20m、深さは0.15m、調査長46.90mである。断面形はU字形で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は南西端が北東端より0.06m高かった。

溝内は褐灰色粗砂・黄灰色砂で埋まっていた。埋没土中から土師器坏破片5点が出土した。内斜口縁の土師器坏(第253図6)が出土した。

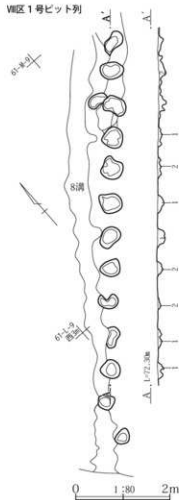
埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられる。埋没土中から出土した坏破片は5世紀初頭の内斜口縁の土器であり、本溝は古墳時代中期以降の溝である可能性が高い。

VII区12号溝 (第254・262図 PL.200・201)

12号溝は、VII区北東部で検出された北西から南東方向の直線的な溝である。北西端・南東端ともに発掘区域外となる。11号溝と重複しているが、11号溝が新しい。14号溝と重複しているが、14号溝が新しい。

走向はN-51°-W、上幅は0.78~1.40m、深さは0.25m、調査長28.50mである。断面形は浅いU字形で、底面は平坦である。底面の標高は北西端が南北東端より

VII区1号ピット列



VII区8号溝

A, I-72.30m A'

VII区8号溝A-A'

1. 黒色粘質土 細砂粒を含むしまり強い。
2. 黒褐色砂質土 地山の黒褐色粘質土塊・黄灰色粘質土塊を含む。しまり強い。

VII区1号ピット列A-A'

1. 黒褐色砂質土 オリーブ褐色粘質土塊をわずかに含む。しまっている。
2. 黒褐色砂質土 1層とはほぼ同じだが、粘質土塊が多く混じっている。

VII区9号溝

A, I-72.30m A'

VII区9号溝A-A'

1. 黒褐色粘土 白色軽石を含む。粘性あり。固くしまっている。
2. 黒褐色粘土 細砂粒を少量含む。粘性あり。固くしまっている。
3. 黄灰色シルト 黒褐色粘土・白色軽石を含む。部分的に細砂粒を多く含むところがある。粘性あり。固くしまっている。

VII区9号溝B-B'

B, I-72.30m B'

VII区9号溝B-B'

1. 黒色粘土 白色軽石を少量含む。粘性あり。固くしまっている。
2. 褐灰色シルト 白色軽石・細砂粒を多く含む。粘性あり。固くしまっている。
3. 黒褐色粘土 白色軽石・細砂粒を含む。粘性あり。固くしまっている。
4. 黒褐色シルト 細砂粒・地山の黄褐色シルト小塊を含む。粘性あり。固くしまっている。

C, I-72.30m C'

VII区9号溝C-C'

1. 黒褐色砂質土 白色軽石を含む。黒褐色粘質土塊を少し含む。しまっている。(8号溝埋没上)
2. 黒褐色粘土 白色軽石・細砂粒を含む。粘性あり。固くしまっている。(9号溝埋没上)
3. 黒褐色粘質土 細砂粒・黄褐色粘質土塊を含む。粘性あり。固くしまっている。(9号溝埋没上)

E, I-72.30m E'

VII区9号溝E-E'

1. 黒色粘土 粘性強い。白色軽石をごく少量含む。固くしまっている。
2. 黒褐色シルト 砂粒を含む。固くしまっている。

VII区9号溝F-F'

1. 黒褐色粘質土 砂粒を多く含む。(11号溝埋没上)
2. 黒褐色粘土 砂粒を多く含む。(10号溝埋没上)
3. 黒褐色粘土 砂粒を少量含む。(9号溝埋没上)
4. 黄灰色シルト 白色軽石・砂粒を含む。(9号溝埋没上)

VII区9号溝D-D'

1. 黒色粘土 粘性強い。白色軽石を少量含む。固くしまっている。
2. 黒褐色シルト 砂粒を含む。固くしまっている。

VII区10号溝

A, I-72.30m A'

VII区10号溝A-A'

1. 黒色粘土 砂粒を少量含む。
2. 褐灰色粗砂 粘土分を含む。鉄分にそまる部分が多い。
3. 黄灰色粗砂 粘土分を含む。鉄分にそまる部分が多い。

VII区11号溝

A, I-72.30m A'

VII区11号溝A-A'

1. 黒色粘土 混じりけ少ない。粘性強い。固くしまっている。(10号溝埋没上)
2. 黄灰色砂 灰白色粘土小塊を少量含む。(10号溝埋没上)
3. 黒褐色粘質土 砂粒を少量含む。(11号溝埋没上)
4. 黄灰色砂と灰白色粘土小塊の混合固くしまっている。(11号溝埋没上)

B, I-72.30m B'

VII区11号溝B-B'

1. 黒褐色粘土 砂粒を含む。(11号溝埋没上)
2. 黄灰色砂 灰白色粘土小塊をごく少量含む。(11号溝埋没上)
3. 黄灰色砂質土 灰白色粘土小塊を含む。(13号溝埋没上)

VII区14号溝

A, I-72.30m A'

VII区14号溝A-A'

1. 黄灰色砂 シルト分多い。黄褐色シルトの小塊をわずかに含む。

VII区12号溝

A, I-72.30m A'

VII区12号溝A-A'

1. 黄灰色シルト 白色軽石を含む。固くしまっている。
2. 黄灰色砂質シルト 砂粒・灰白色粘土小塊を含む。固くしまっている。

B, I-72.30m B'

VII区12号溝B-B'

1. 黒褐色シルト 砂粒を多く含む。(11号溝埋没上)
2. 黄灰色シルト 砂粒を含む。(12号溝埋没上)
3. 黄灰色砂質シルト 鉄分に染まるところがある。砂粒・白色軽石を含む。(12号溝埋没上)
4. 黄灰色砂質シルト 3層に灰白色粘土小塊を含む。(12号溝埋没上)

C, I-72.30m C'

VII区12号溝C-C'

1. 黄灰色砂 シルト分多い。(14号溝埋没上)
2. 暗黄褐色砂質シルト 白色軽石・砂粒を含む。(14号溝埋没上)
3. 黒褐色粘土 砂粒を含む。(12号溝埋没上)
4. 暗オリーブ褐色砂質シルト 砂粒を多く含む。灰白色粘土小塊を少量含む。(12号溝埋没上)

第254図 VII区ピット列・溝(3)と出土遺物

0.06m高かった。

溝内は黄灰色シルト等で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

Ⅷ区13号溝 (第262図 PL.201)

13号溝は、Ⅷ区北東部で検出された。11号溝のすぐ北縁に並行していた。重複関係はない。西端は小ピットが並ぶ痕跡となり、東端は11号溝と12号溝の重複地点で確認できなくなった。一部で不定形に幅が広がる場所がある。

走向はN-72°-E、上幅は0.25～1.15m、深さは0.13m、調査長16.20mである。断面形はU字形で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は南西端が北東端より0.03m高かった。

溝内は黄灰色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられる。また、底面凹凸の著しい形状から動物の歩行痕跡が溝状になったとも考えられる。

Ⅷ区14号溝 (第254・262図 PL.201 遺物観察表P.467)

14号溝は、Ⅷ区南東隅で検出された南西から北東方向の直線的な溝である。南西端・北東端ともに発掘区域外となる。12号溝と重複するが、14号溝が新しい。

走向はN-45°-E、上幅は0.36～0.94m、深さは0.21m、調査長11.75mである。断面形はU字形で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は南西端が北東端より0.09m高かった。

溝内は黄灰色砂で埋まっていた。埋没土中から土師器環破片3点が出土した。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられる。埋没土中から出土した土師器環破片は7～8世紀頃の土器であり、本溝は古代の溝である可能性が高い。また、底面凹凸の著しい形状から動物の歩行痕跡が溝状になったとも考えられる。

Ⅷ区古代～古墳時代遺構面の溝について

10条の溝には大別して、北西～南東方向の溝(5号～7号・9号・12号溝)と、南西から北東方向の溝(8号・10号・11号・13号・14号溝)の二種があった。前者の溝は掘り方が明確で、北西端の標高が高く、遺物が出土しているが、後者の溝は不定形で、底面の凹凸が著しく、底面の標高差はほとんどない。

前者の溝は古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の各時期に低地内に掘られた人工的な溝で、広域な灌漑水路の一部である可能性が高い。一方、後者の溝は別の要因によって残された遺構と推定される。

後者の溝のうち、8号・13号・14号溝については、1号ピット列とともに、動物の歩行痕跡が溝状になったものとの可能性が考えられるが、詳細は明らかにできなかった。

(5) 遺構外の出土遺物

(第255図 PL.226 遺物観察表P.467)

Ⅷ区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。ここでは、Ⅷ層上面の遺構確認時に出土した遺物を掲載した。

ここでは須恵器短頸壺破片(第255図1)を図示した。



第255図 Ⅷ区遺構外の出土遺物(古代～古墳時代)

9. IX区の遺構と遺物

(1) 井戸

IX区1号井戸

(第256・257図 PL.203・226 遺物観察表P.467)

位置 IX区55-71-N-12・13G

形状 楕円形 重複 なし

規模 長軸3.24m 短軸2.62m 残存壁高0.62m

長軸方位 N-25°-W

断面形 浅いすり鉢形。壁の中位にテラス状の段があり、東端の湧水部がやや凹んでいる。

埋没土 最上層に浅間Bテフラの一次堆積層が覆っている。その下位は細砂・白色軽石を含む黒褐色土と、褐色・黒褐色の砂質土で埋まっていた。また湧水部はシルトの混じる黒色粘土で埋まっていた。

底面 湧水部が東端にあり、その北西部は、凹凸はあるもののやや広いテラス状になっていた。

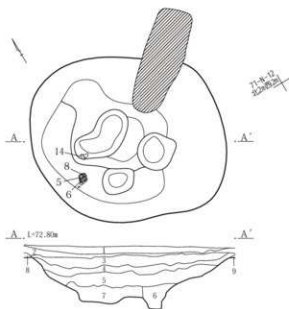
遺物出土状況 テラス状の平坦面直上で、土師器高環(第257図14)が、須恵器環(5・6・8)が重なるようにして出土した。また、土師器高環(9~13・15)、環(1~4)、甕(16・17)、須恵器環(7)が埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器埴・高環破片42点、甕破片148点、土師器埴・鉢破片146点、須恵器環破片74点が出土した。

所見 出土遺物には4世紀後半の高環や、8世紀後半の土師器碗、9世紀後半の須恵器埴・碗が混在していた。4世紀後半の高環は大きな破片が多く、この高環に限って井戸に投棄された可能性がある。これらの高環は後世の混入とは考えにくく、本井戸は古墳時代前期から平安時代まで使用されていた可能性が高いと推定される。

(2) 土坑 (第258図 PL.203・204)

IX区古代~古墳時代遺構面で検出された土坑は14基である。すべて発掘区西端微高地縁辺に分布していた。これらの土坑の時期は浅間C軽石降下以降、浅間Bテフラ堆積以前である。時期を示す遺物等の調査所見はごく限られていた。各土坑の位置や規模は、P.435・436の表にまとめた。以下遺構の調査所見を記載する。

24号土坑は不整楕円形の土坑で、発掘区西端で検出された。断面形は浅いボール状。砂粒を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。



IX区1号井戸「A-A'

1. As-B-一次堆積層。
2. 黒色粘土 細砂粒を含む。白色軽石がわずかに混じる。固くしまっている。
3. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。白色軽石が混じる。黄褐色シルト小塊が混じる。固くしまっている。
4. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。白色軽石が少し混じる。固くしまっている。粘性少しあり。
5. 褐色色砂質土 細砂粒を含む。黄褐色シルト小塊と灰黄褐色シルト小塊が混じる。固くしまっている。
6. 黒色粘土 細砂粒を含む。黄褐色シルト小塊と褐色色粘質土塊が混じる。固くしまっている。粘性少しあり。
7. 黒褐色砂質土 細砂粒を含む。黄褐色シルト小塊と灰黄褐色シルト小塊が多く混じる。しまっている。
8. 黒褐色土 黄褐色シルト小塊、白色軽石を含む。固くしまっている。
9. 黒色粘土 細砂粒を含む。白色軽石がわずかに混じる。固くしまっている。

0 1:60 2m

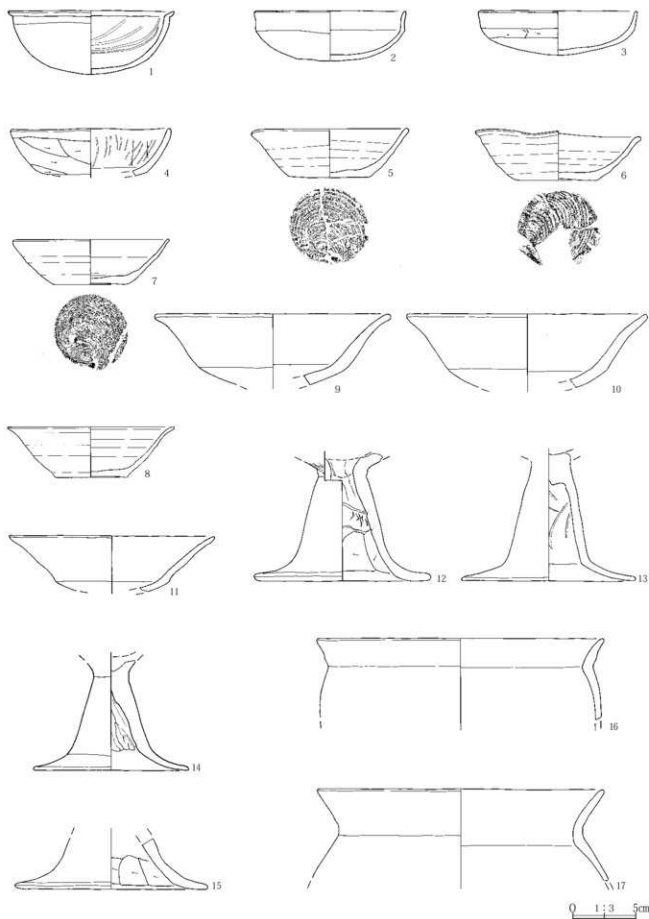
第256図 IX区1号井戸

25号・26号土坑は7号溝の北側で重複して検出された。25号土坑の方が新しい。25号土坑は楕円形の土坑で、断面形は浅いボール状。砂粒と黄褐色シルト粒を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

26号土坑は不整楕円形で、断面形は上方が開く箱状。上層は砂粒・黄褐色シルト小塊を含む黒色土で、下層は粘性の強い暗灰黄色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

27号土坑は円形の土坑で、26号土坑の東側で検出された。断面形は上方の開く箱状。砂粒・黄褐色シルト小塊を含む黒色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

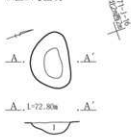
28号土坑は西側に突出部のある楕円形の土坑で、26号土坑の北側で検出された。土坑の重複である可能性もある。断面形は浅いボール状。上層は砂粒・黄褐色シルト



第257图 Ⅱ区1号井戸出土遺物

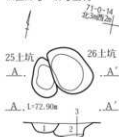
9. IX区の遺構と遺物

IX区24号土坑



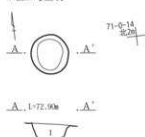
IX区24号土坑A-A'
1. 黒褐色土 砂粒を含む。
やや粘性あり。

IX区25号・26号土坑



IX区25号・26号土坑A-A'
1. 黒褐色土 砂粒多い。黄褐色シルト粒を含む。(25号土坑埋没土)
2. 黒色土 砂粒・黄褐色シルトの小塊を含む。(26号土坑埋没土)
3. 暗灰色粘質土 粘性強い。固くしまっている。(26号土坑埋没土)

IX区27号土坑



IX区27号土坑A-A'
1. 黒色土 砂粒・黄褐色シルト粒を含む。粘性弱い。

IX区28号土坑



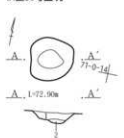
IX区28号土坑A-A'
1. 黒色土 砂粒多い。黄褐色シルト粒を少量含む。
2. オリヅラ褐色土 黒褐色土と黄褐色シルトが混合した上。

IX区29号土坑



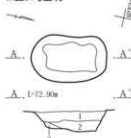
IX区29号土坑A-A'
1. 黒褐色土 砂粒・黄褐色シルト粒を含む。
2. 黄灰色砂質土 砂粒を多く含む。
3. 黄褐色土 黒褐色土・黄褐色シルトを含む。

IX区30号土坑



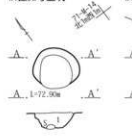
IX区30号土坑A-A'
1. 黒褐色土 砂粒を含む。黄褐色シルトを少量含む。
2. 黄褐色シルト 黒褐色土・砂粒を含む。

IX区31号土坑



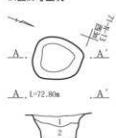
IX区31号土坑A-A'
1. 黒褐色砂質土 砂を解状に含むところがある。
2. 黒色土 やや粘質。黄褐色シルト・砂粒を含む。
3. 黄褐色シルト 粘性あり。黒色土を含む。

IX区32号土坑



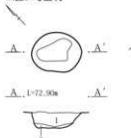
IX区32号土坑A-A'
1. 黒褐色土 黄褐色シルト塊を含む。砂粒を少量含む。

IX区33号土坑



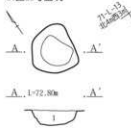
IX区33号土坑A-A'
1. 黒色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性あり。
2. 黒褐色砂質土 粗砂粒を多く含む。にぶい黄褐色粘質土塊が少し混じる。

IX区34号土坑



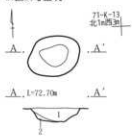
IX区34号土坑A-A'
1. 黒色砂質土 細砂粒を多く含む。暗灰色粘質土塊を少し含む。
2. 黒色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性あり。

IX区35号土坑



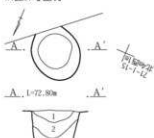
IX区35号土坑A-A'
1. 黒褐色粘土 暗灰色粘質土塊・にぶい黄褐色粘質土塊を少し含む。固くしまっている。粘性少しあり。

IX区36号土坑



IX区36号土坑A-A'
1. 灰黄褐色粘質土塊と黒褐色粘土と黄褐色粘質土塊が混じる。粘性あり。
2. 灰黄褐色粘質土 黒褐色粘質土・粗砂粒を含む。粘性少しあり。

IX区37号土坑



IX区37号土坑A-A'
1. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。暗灰色粘質土塊が少し混じる。固くしまっている。粘性少しあり。
2. 黒褐色砂質土 細砂粒を含む。黄灰色粘質土塊とにぶい黄褐色粘質土塊が混じる。固くしまっている。
3. 黒色粘土 細砂粒を含む。暗灰色粘質土塊が少し混じる。固くしまっている。粘性少しあり。

0 1:60 2m

粒を含む黒色土で、西側は黒褐色土と黄褐色シルトの混土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

29号土坑は西側に突出部のある楕円形の土坑で、28号土坑の東側で検出された。断面形は浅いボール状。上層は砂粒・黄褐色シルト粒を含む黒褐色土で、下層は砂粒を含む黄灰色砂質土、黒褐色土・黄褐色シルトを含む黄褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

30号土坑は丸い楕円形の土坑で、27号土坑の南側で検出された。断面形は浅いボール状。上層は砂粒・黄褐色シルトを含む黒褐色土で、下層は黒褐色土を含む黄褐色シルトで埋まっていた。遺物は出土しなかった。

31号土坑は隅丸長方形で、30号土坑の南側で検出された。断面形は上方が開く箱状。上層は黒褐色砂質土、中層は黄褐色シルト・砂粒を含む黒色土、下層は黒色土を含む黄褐色シルトで埋まっていた。埋没土中から古墳時代後期のもので推定されるやや厚い土師器環底部破片1点が出土した。これを重視すれば本土坑は古墳時代後期の土坑である可能性がある。

32号土坑は円形の土坑で、31号土坑の南側で検出された。断面形は上方の開く箱状。黄褐色シルト・砂粒を含む黒褐色土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

33号土坑は不整楕円形の土坑で、30号土坑の東側で検出された。断面形は上方の開く箱状。上層は細砂粒を含む黒色粘土、下層は粗砂・黄褐色粘質土塊を混じる黒褐色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

34号土坑は丸い楕円形で、31号土坑の南東部で検出された。断面形は箱状。上層は砂粒・褐色粘質土塊を含む黒色砂質土で、下層は粗砂を含む黒色粘土で埋まっていた。埋没土中から古墳時代後期のもので推定されるやや厚い土師器裏破片1点が出土した。これを重視すれば本土坑は古墳時代後期である可能性がある。

35号土坑は不整形の土坑で、32号土坑の南東部で検出された。断面形は浅いボール状。褐色粘質土塊・黄褐色粘質土塊を含む黒褐色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

36号土坑は楕円形の土坑で、35号土坑の南側で検出された。断面形は浅いボール状。上層は灰黄褐色粘質土塊と黒褐色粘土の混土で、下層は黒褐色粘質土塊・粗砂を含む灰黄褐色粘質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

37号土坑は南東部が発掘区域外となり、全形がとらえられなかったが、楕円形の土坑と推定される。断面形は筒状。上層は細砂・褐色粘質土塊を混じる黒褐色土で、中層は細砂・黄灰色粘質土塊・黄褐色粘質土塊を混じる黒褐色砂質土で、下層は細砂・褐色粘質土塊を混じる黒色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

(3) 溝

Ⅸ区古代～古墳時代遺構面では、5条の溝が検出された。溝の位置や規模はP.445の表にまとめた。以下各溝の調査所見を記載する。なお、溝の平面図は個別図を作成せず、1/300の各区全体図でこれに変えた。埋没土層断面図は個々に掲載した。

Ⅸ区7号溝(第259・261図 PL.205)

7号溝は、Ⅸ区西部の微高地東縁で検出された南北方向の溝である。北端・南端ともに浅くなり確認できなくなる。重複遺構は無い。

走向はN-25°-E、上幅は0.25～0.50m、深さは0.10m、調査長14.90mである。断面形は浅いU字形で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は北端が南端より0.03m高かった。溝内は黄褐色粘質土塊を含む黒色砂質土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

Ⅸ区8号溝

(第259・261図 PL.205・226 遺物観察表P.467)

8号溝は、Ⅸ区中央やや西部の微高地西縁で検出された南北方向の溝である。北端は浅くなり検出できなくなる。南端は発掘区域外となる。中央部がやや広がる。重複遺構は無い。

走向はN-3°-W、上幅は0.65～2.25m、深さは0.05m、調査長24.60mである。断面形は皿状で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は南端が北端より0.09m高かった。溝内は黄灰色粘質土塊を含む黒色粘土で埋まっていた。埋没土中から土師器内斜口縁杯(第259図1)、土師器裏破片2点、台付裏破片1点が出土した。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

IX区7号溝

A, L=73.00m A'



IX区7号溝A-A'

1. 黒色砂質土
にふい黄褐色
粘質土小塊を
含む。

IX区8号溝

A, L=72.00m A'



IX区8号溝A-A'

1. 黒褐色砂質土 細砂粒を多く
含む。黄灰色粘質土塊が混
じり、しまり弱い。



B, L=73.10m B'



IX区8号溝B-B'

1. 黒褐色土 As-Aを含む。小礫径10mm以下が少し混じる。固くしまっている。
2. 暗灰黄色砂質土 As-Aを下層に多く含む。粗砂粒が混じる。固くしまっている。
3. オリーブ褐色粘質土 As-Bを含む。固くしまっている。
4. 黒褐色砂質土 As-B一次堆積層。
5. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
6. 黄灰色粘土 細砂粒を含む。白色軽石をわずかに含む。固くしまっている。粘土少しあり。
7. 黒色粘土 黄灰色粘質土小塊を少し含む。固くしまっている。粘性あり。
8. 黒褐色粘土 黄褐色シルト小塊を含む。細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。

IX区9号溝

A, L=72.80m A'



IX区9号溝A-A'

1. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
2. 黒色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
3. 灰黄色粘質土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
4. 黒褐色粘土 細砂粒を多く含む。白色軽石が混じる。固くしまっている。
5. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。白色軽石が少し混じる。固くしまっている。粘性少しあり。
6. 灰黄色粘質土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
7. オリーブ褐色粘質土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。

IX区10号溝

A, L=72.50m A'



B, L=87.30m B'



IX区10号溝A-A'

1. 黒色粘土 細砂粒を少し含む。黒褐色砂質土が下層に混じる。しまっている。粘性あり。
2. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。白色軽石が少し混じる。しまっている。粘性少しあり。
3. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。黄褐色粘質土塊が下層に混じる。固くしまっている。粘性少しあり。

IX区10号溝B-B'

1. 黒色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性あり。
2. 黒褐色粘土 細砂粒を多く含む。白色軽石をわずかに含む。固くしまっている。粘性あり。
3. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。暗灰黄色粘質土塊が下層に混じる。固くしまっている。粘性少しあり。

IX区11号溝

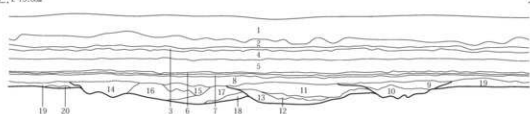
A, L=72.60m A'



A' IX区11号溝A-A'

1. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。灰黄色粘質土小塊を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
2. 黒褐色砂質土 細砂粒を多く含む。暗灰黄色粘質土小塊が混じる。固くしまっている。
3. 黒色粘土 細砂粒を含む。白色軽石が少し混じる。固くしまっている。粘性少しあり。
4. 黒褐色砂質土 細砂粒を多く含む。オリーブ褐色粘質土塊が下層に混じる。固くしまっている。

B, L=73.50m B'



IX区11号溝B-B'

1. 盛土
2. 黒褐色土 As-A・小礫径10mm以下を含む。固くしまっている。(現代までの耕作土)
3. 暗褐色土 As-Aを含む。固くしまっている。
4. 黒褐色土 As-Aが少し混じる。固くしまっている。
5. にふい黄褐色砂質土 下層にAs-Bを多く含む。固くしまっている。
6. 暗オリーブ褐色土 As-B一次堆積層。くずれやすい。
7. 黒色粘土 細砂粒を含む。固くしまっている。粘性少しあり。
8. 黒褐色粘土 白色軽石・褐色細砂粒小塊を含む。固くしまっている。
9. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。褐色細砂粒小塊(Aa?)が多く混じる。白色軽石を含む。固くしまっている。
10. 灰黄色粘質土 細砂粒を多く含む。黒褐色粘質土塊が混じる。白色軽石を少し含む。固くしまっている。
11. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。褐色細砂粒小塊が多く混じる。固くしまっている。
12. 黒褐色砂質土 細砂粒を多く含む。固くしまっている。
13. 黒褐色粘土 細砂粒を多く含む。にふい黄褐色粘質土小塊が混じる。固くしまっている。
14. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。褐色細砂粒小塊を多く含む。白色軽石が混じる。固くしまっている。
15. 黒褐色粘土 白色軽石・褐色細砂粒小塊を多く含む。固くしまっている。
16. 黒色粘土 細砂粒を含む。白色軽石・褐色細砂粒小塊が少し混じる。固くしまっている。
17. 灰黄色砂質土 黒褐色粘質土塊を含む。固くしまっている。
18. 黒色粘土 細砂粒を含む。褐色細砂粒小塊が少し混じる。しまっている。粘性あり。
19. 黒褐色粘土 細砂粒を含む。褐色細砂粒小塊が多く混じる。白色軽石が少し混じる。固くしまっている。
20. 灰黄色粘質土 細砂粒を含む。白色軽石が多く混じる。褐色細砂粒小塊が少し混じる。固くしまっている。

0 1; 60 2m



0 1; 3 5cm

第259図 IX区溝と出土遺物

第6章 古代～古墳時代の遺構と遺物

Ⅸ区9号溝 (第259・261図 PL.205・206)

9号溝は、Ⅸ区中央部のやや東側で検出された溝である。Ⅸ区東半部には凹地があり、その谷頭部に向かって掘られている。北西端は調査区域外となる。南東端は谷頭に合流する。10号溝と重複するが、9号溝が新しい。

走向はN-23°-W、上幅は1.85～3.28m、深さは0.18m、調査長14.00mである。断面形は浅い皿状で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は南端が北端より0.03m高かった。溝内は細砂を黒色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

Ⅸ区10号溝 (第259・261図 PL.205・206)

10号溝は、Ⅸ区北東部の微高地南縁辺で検出された溝である。西端は9号溝と重複するが、9号溝が新しい。東端は11号溝と重複し発掘区域外となり、Ⅷ区5号溝に連続する。11号溝との新旧関係は不明である。

走向はN-73°-W、上幅は0.47～1.01m、深さは0.16m、調査長34.20mである。断面形は台形形で、底面は平坦である。底面の標高は北西端が南東端より0.11m高かった。溝内は細砂を含む黒色粘土や黒褐色粘土で埋まっていた。遺物は出土しなかった。

埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられるが、詳細は不明である。

Ⅸ区11号溝

(第259・261図 PL.205・206・226 遺物観察表P.467・468)

11号溝は、Ⅸ区北東側の微高地南縁辺で検出された溝である。北端は発掘区域外となる。南東端は10号溝と重複し発掘区域外となり、Ⅷ区7号溝に連続する。10号溝との新旧関係は不明である。

走向はN-45°-W、上幅は1.97～3.72m、深さは0.36m、調査長13.20mである。断面形は浅い皿状で、底面は凹凸が著しい。底面の標高は北西端が南東端より0.06m高かった。

溝内は細砂・黄褐色土塊を含む黒色粘土や黒褐色粘土で埋まっていた。図示した土師器甕(第259図4)、内斜口縁杯(2)、須恵器蓋(3)は埋没土中から出土した。他に埋没土中から土師器碗破片2点、坏破片12点、甕破片

22点、台付甕破片1点が出土した。

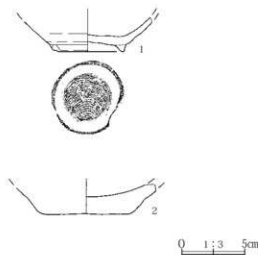
埋没土や遺構確認面から、古墳時代以降、浅間Bテフラ降下以前の溝と考えられる。埋没土中から出土した土師器は5～6世紀のものであり、本溝は古墳時代中・後期の溝である可能性が高い。

(4) 遺構外の出土遺物

(第260図 PL.226 遺物観察表P.468)

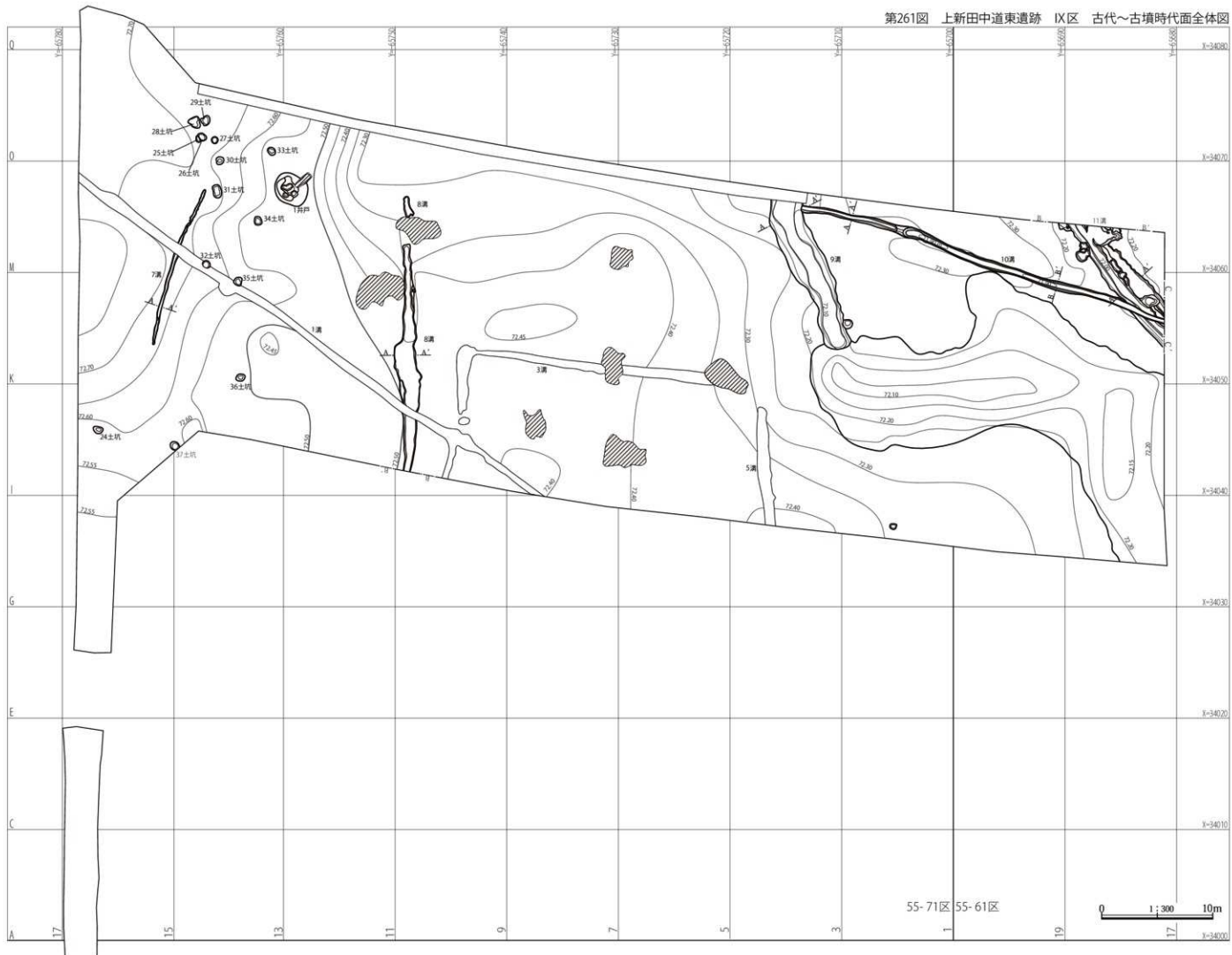
Ⅸ区調査の遺構確認中に、遺構に伴わない形で第11表のように多くの遺物を出土した。ここでは、Ⅷ層上面の遺構確認時に出土した遺物を掲載した。

古代の遺物では、須恵器碗(第260図1)、土師器壺(2)を図示した。



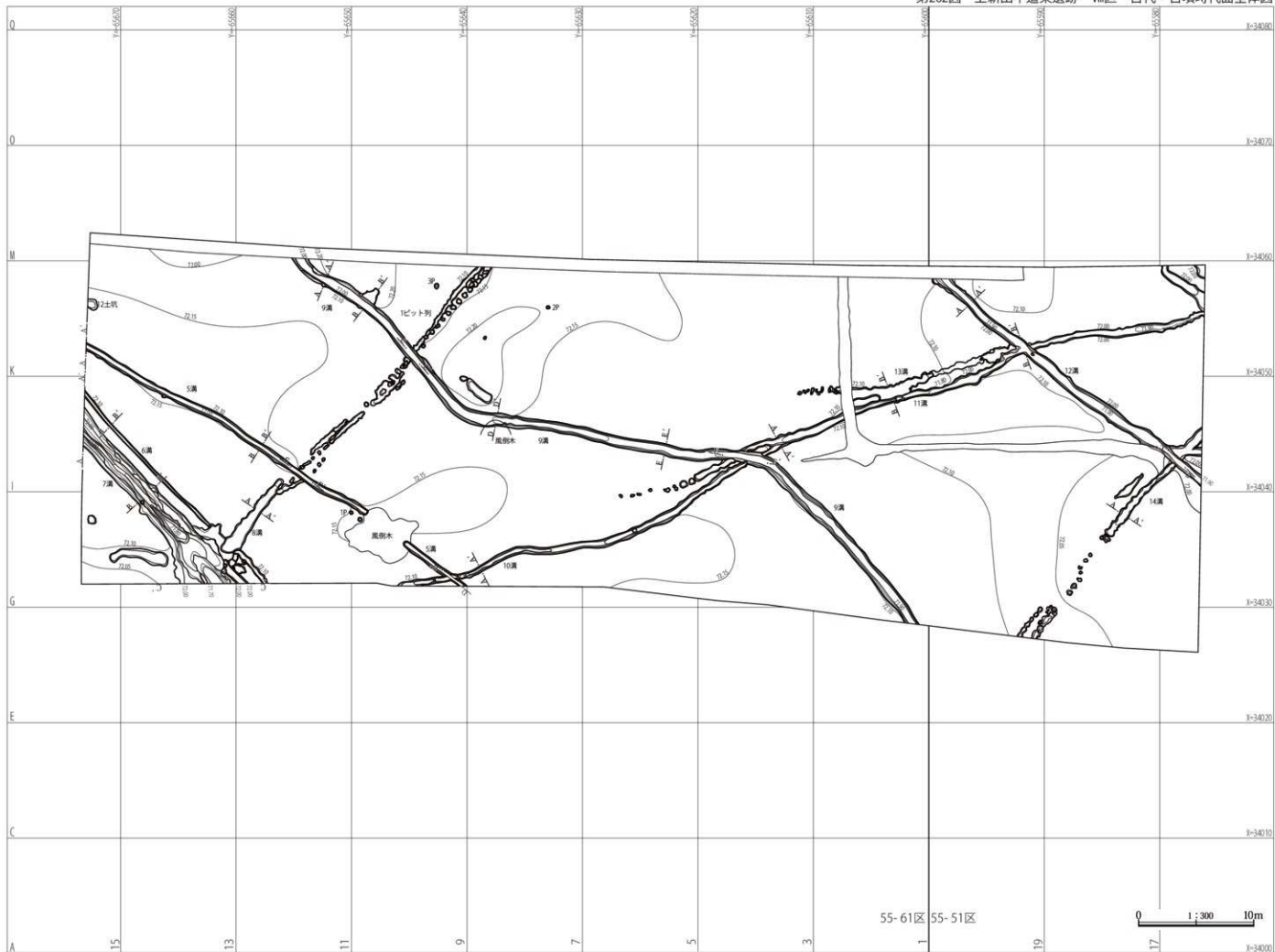
第260図 Ⅸ区遺構外の出土遺物(古代～古墳時代)

第261图 上新田中道東遺跡 IX区 古代～古墳時代全体図



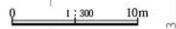
55-71区 55-61区

0 1:300 10m





55-41区 55-31区

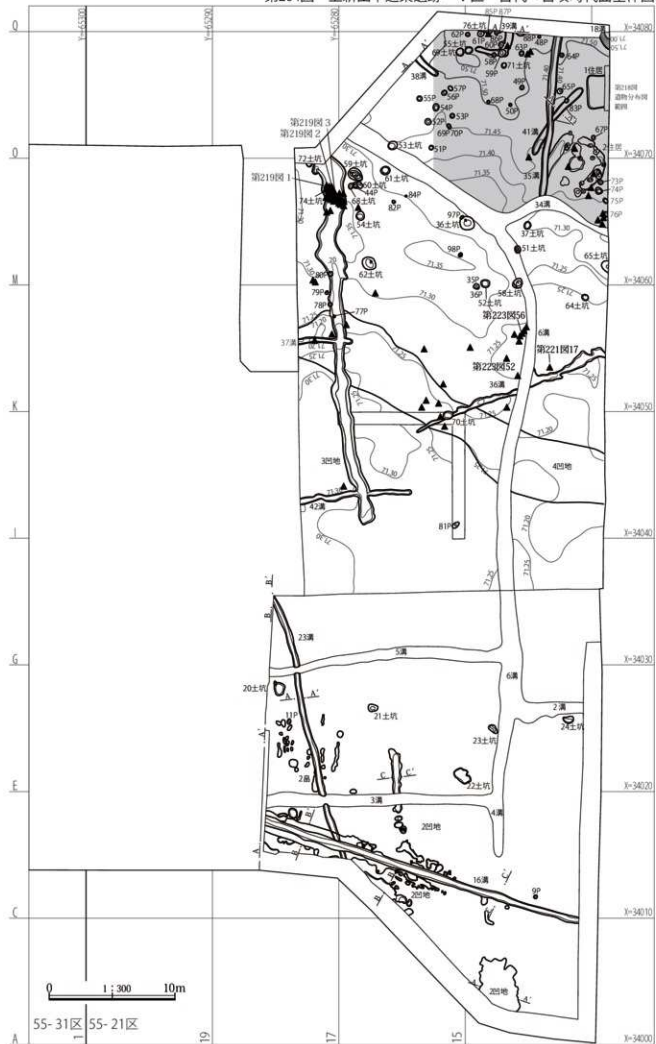


Y=3430
Y=3470
Y=3420
Y=3450
Y=3400
Y=3430
Y=3420
Y=3410
Y=3400

Q
Q
M
K
I
G
E
C
A

13 11 9 7 5 3 1 19 17

第264図 上新田中道東遺跡 V区 古代～古墳時代面全体区

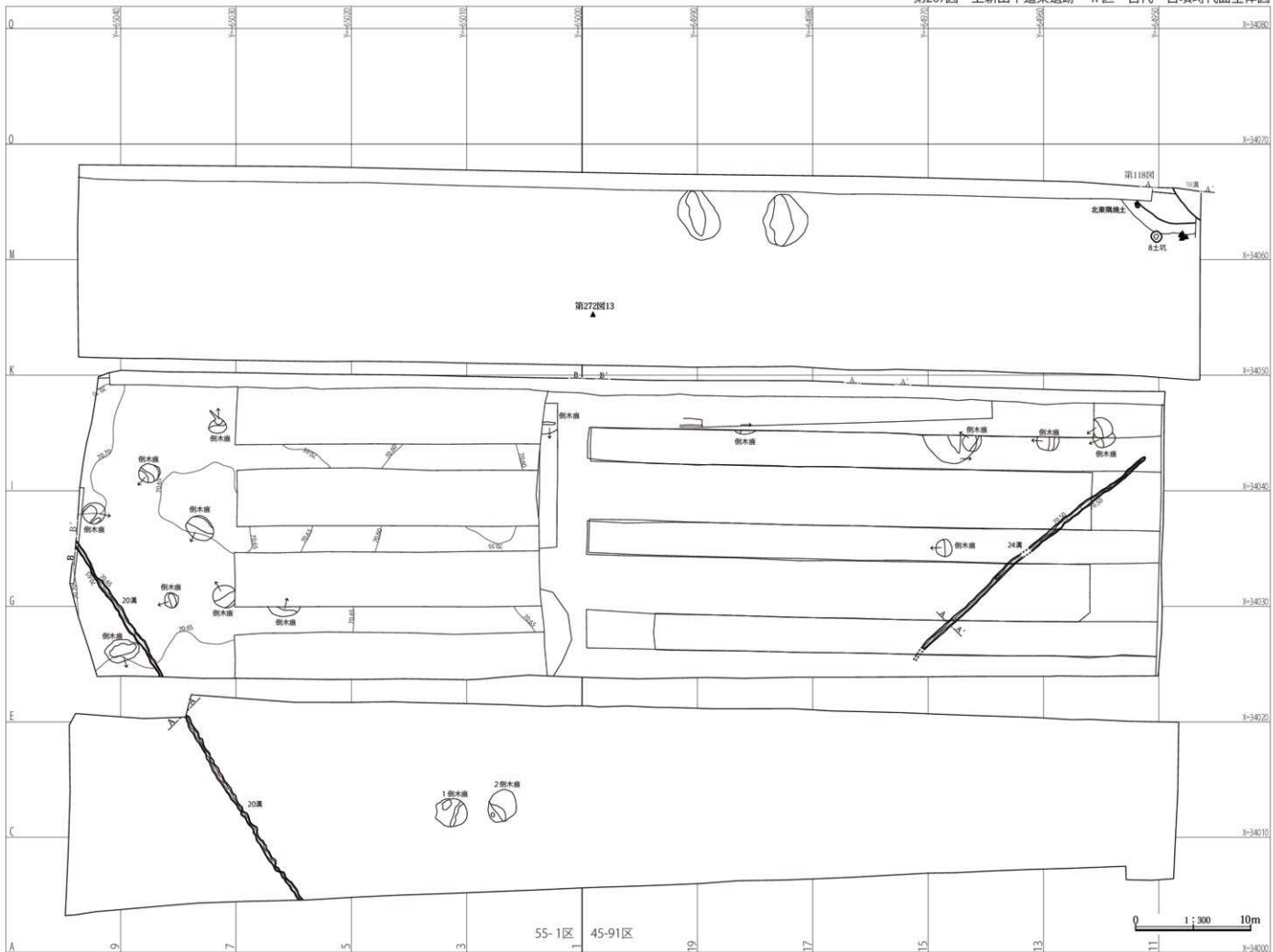


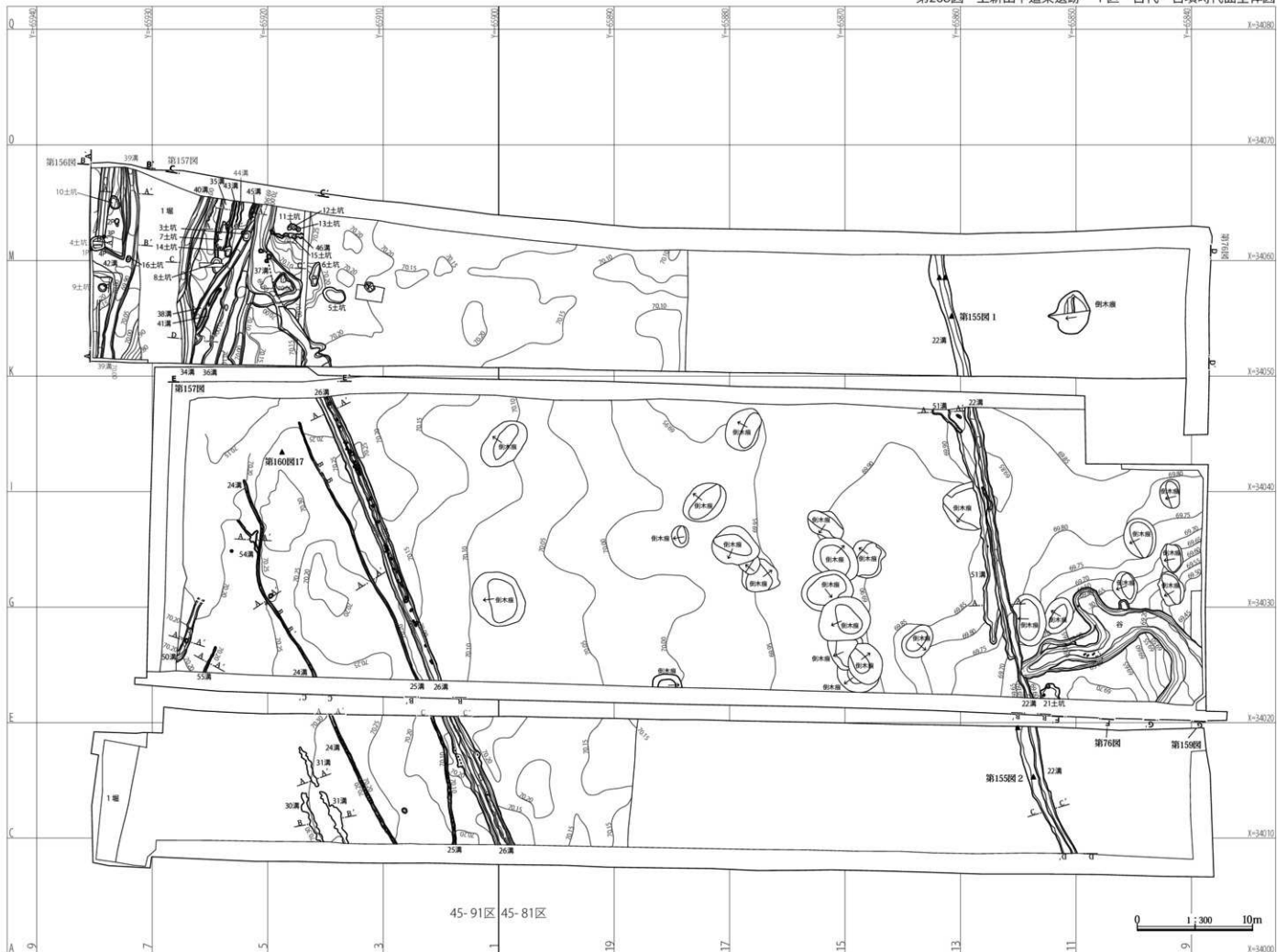


55-21区 55-11区

0 1:300 10m







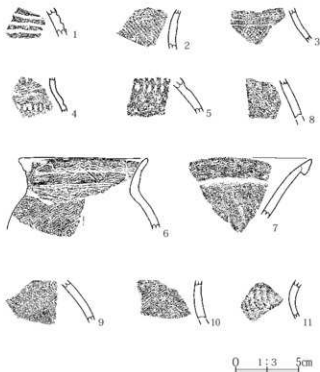
第7章 弥生・縄文時代の出土遺物

1. 概要

上新田中道東遺跡の調査では、遺構に伴わないで出土した遺物を、区・グリッドごとに表面採集遺物として取りあげた。その出土数は第11表に示した。このうち土師器・須恵器・陶器・磁器・土器は各区の確認面出土遺物として、第3章から第6章で報告した。すべての遺物を掲載することはできなかったため、時期や内容を表すように選択して掲載した。

ここでは、本遺跡で出土した弥生時代・縄文時代の遺物を報告する。本遺跡では弥生時代・縄文時代の遺構は検出されていないが、遺構確認面や新しい遺構の埋没土中から、土器や石器が出土した。

弥生時代の遺物は土器11点で、中期後半から後期にかけての破片である。縄文時代の遺物は土器と石器が出土した。縄文土器の出土は6点で、本遺跡で出土した縄文土器の全点である。石器は42点が出土した。このうち33点を掲載した。



第269図 遺構外出土の弥生土器

2. 弥生時代の遺物

(第269図 PL.227 遺物観察表P.469)

上新田中道東遺跡では、弥生時代の遺構は検出されなかったが、その存在は重要であるので遺構外出土の破片11点全点を掲載した。この他に古墳時代前期の、I区4号土坑やIV区1号方形周溝墓周溝埋没土からも弥生土器が出土している。I区4号土坑出土の土器(第153図3)は縄文が施文された吉ヶ谷式系の小型壺形土器で完形である。IV区1号方形周溝墓から出土した土器(第201図2・3)は北総地域の後期弥生土器に類似した破片である。これらはいずれも古墳時代初頭の土器とともに古墳時代初頭の遺構から出土した。

上新田中道東遺跡周辺では、弥生時代の遺跡はごく少ないが、徳丸仲田遺跡や福島飯塚遺跡では中期後半の御新田式土器が出土し、上飯島芝根Ⅱ遺跡では同式期の住居が確認されている。一万田遺跡では中期後半竜見町式期の土坑が検出されている。また、福島飯塚遺跡や神人村Ⅱ遺跡では後期樽式土器や吉ヶ谷式系の土器が出土している。弥生時代後期の遺構は検出されていないが、前橋台地末端の低地内に埋没した微高地上に小規模な集落が立地していることは十分推定されることから、地道な調査が必要と思われる。

ここでは、11点の弥生土器破片を掲載した(第269図 PL.227)。第269図1は中期の壺破片である。2・3は縄文が施文された土器群である。壺か甕であろう。2・3はRⅠで弥生土器では類例が少ない。4・5は刺突文のある土器である。4は壺で、5は器種不明である。6～11は柳描文が付された樽式土器である。6は甕、7は壺、8～11は器種不明の小破片である。

これらの弥生土器破片はI区・Ⅱ区・Ⅳ区・Ⅴ区から出土した。出土位置は発掘区全体の東半部に偏っており、後述する縄文時代遺物に共通する分布傾向を示している。弥生土器が出土したI区・Ⅱ区・Ⅳ区・Ⅴ区は微高地になっており、特にⅣ・Ⅴ区には古墳時代前期の遺構も多数検出されている。周辺の調査の際には、弥生時代の遺構も視野にいれておく必要がある。

3. 縄文時代の遺物

(第270～273図 PL.227・228 遺物観察表P.469・470)

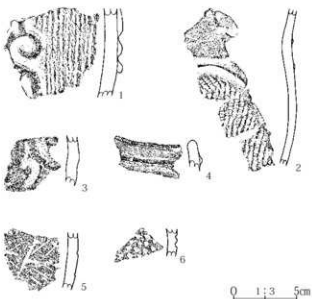
上新田中道東遺跡では遺構が検出されなかったが、縄文時代の石器および土器が出土した。

縄文土器は図示した6点が出土した縄文土器のすべてである。第270図3(加曾利E3式)のみⅠ区で出土したが、1(加曾利E2式)と6(堀ノ内式)はⅠ区、5(後期前半)はⅣ区、2と4(加曾利E4式)はⅤ区から出土し、遺跡東半部に偏在していた。これは後述する石鏃を中心とする縄文石器の偏在性と共通している。(PL.227)

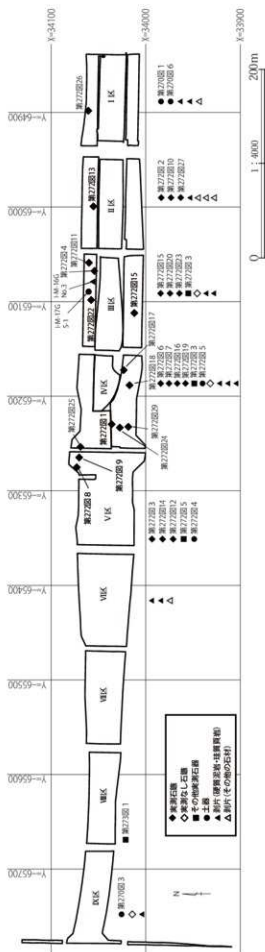
縄文時代の石器類は全点分類し、石器40点、剥片25点に分けられた。剥片の石材の内訳は、硬質泥岩10点、珪質頁岩6点、黒色頁岩1点、黒色安山岩2点、チャート1点、黒曜石1点、石英2点、ホルンフェルス1点である。石材は群馬県内で縄文時代に一般的に利用されていたもので、特殊な石材は見られなかった。

石器40点の内訳は、石匙1点(1点)、石皿1点(1点)、加工痕ある剥片3点(0点)、刮器1点(1点)、石鏃28点(25点)、打製石斧2点(2点)、有舌尖頭器4点(3点)である。このうち、小片は除き、上記()内に示した合計33点の石器を実測・掲載した。(PL.227・228)

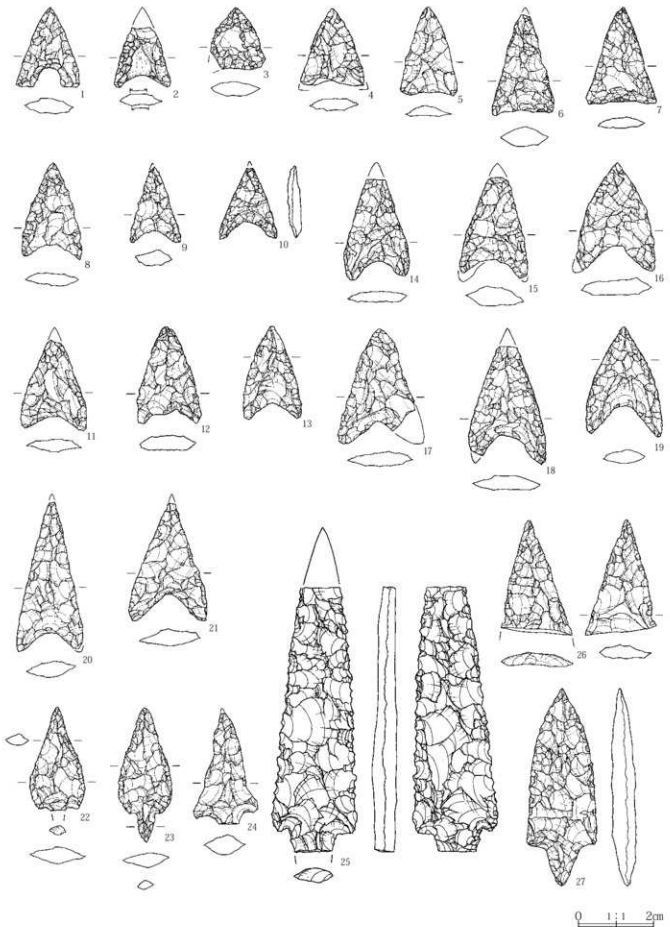
第272図に示したのは最も多く出土した石鏃と有舌尖頭器である。1はチャート製のいわゆる鎌形石鏃で縄文時代早期押型文式期に見られるタイプの石鏃である。2



第270図 遺構外出土の縄文土器



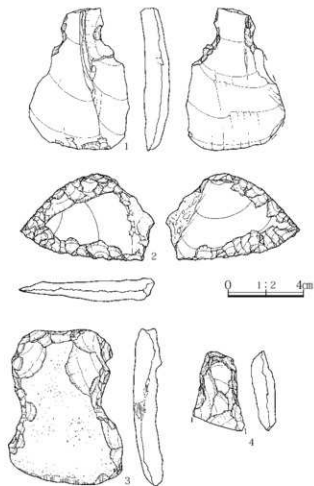
第271図 遺構外出土の縄文時代遺物の分布



第272図 遺構外出土の石器(1)

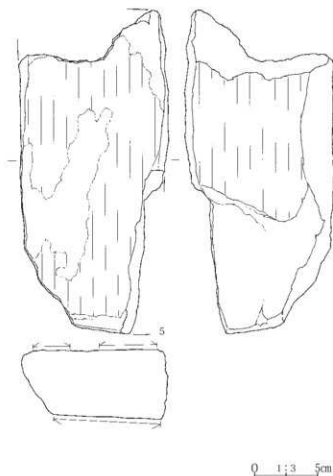
は黒曜石製の、研磨してから加工する石鏃で、縄文時代後期に多いと言われている資料である。3～7は平基石鏃で、3・4は黒曜石製で三角形、5は黒色頁岩、6・7はチャート製の二等辺三角形のタイプである。8～21は凹基石鏃であるが、小型(8～13)、やや大型(14～19)、大型で長身(20・21)の3種類に分けられる。石材はチャート・黒曜石・黒色頁岩・黒色安山岩である。22・24は黒色頁岩製の、23は黒色安山岩製の有茎石鏃で縄文時代中・後期の石鏃と言われている。25～27は有舌尖頭器である。25は黒色頁岩製で先端を決しているが、大型で美しい柳葉形をしている。26はチャート、27は黒色頁岩製である。表面の摩耗が著しく図示できなかった28は黒色頁岩製である。写真のみ掲載した。(PL.228)

第273図1は珪質頁岩製の石匙で、1点のみⅣ区から出土した。2は珪質頁岩製の削器、3は硬質泥岩製の分銅型石斧である。4はホルンフェルス製の短冊型石斧である。5は緑色片岩の無縁石皿で、表裏面とも摩耗があまり使用されている。



縄文時代の石器の出土位置(第271図)を見ると、第273図1の石匙がⅣ区で、実測対象から外れた石鏃1点がⅢ区で出土しているのを除き、ほとんどが遺跡東半部に集中している。特に石鏃は27点が東半部に偏在して出土した。石器の時期を確定することは困難であるが、縄文時代の狩猟活動を示した分布である可能性が考えられよう。

石鏃28点中未成品は3点のみで、その大部分は完成状態にあった。打製石斧も刃部摩耗等から完成状態にあることは明らかであった。剥片類は25点が出土したのみであるが、破片が無く大型剥片が多い特徴があった。これらのことから、石鏃等は遺跡内製作とするより搬入石器として理解すべきだろう。これに対して、削器(第273図2)および粗粒輝石安山岩製の1点を除く加工痕ある剥片2点は、出土した剥片類と同サイズの剥片(100g前後の硬質泥岩と珪質頁岩)を用いており、便宜的石器として遺跡内製作された可能性がある。少量の加工具類を製作するような状況が縄文時代のある時期にあったのだろう。剥片類の出土(分布)がそのことを示唆している。



第273図 遺構外出土の石器(2)

第8章 自然科学的分析報告

1. 分析の目的と成果

上新田中道東遺跡では、遺跡の理解を深めるために、下記の目的でそれぞれの専門家に依頼または委託して自然科学的分析を実施した。分析結果は本文の記述および第9章の総括に反映させたが、分析内容の詳細は本章を参照願いたい。

(1) 土壌分析

上新田中道東遺跡では広範囲に沖積層が堆積し、テフラ層や洪水層が挟在していた。発掘調査はこれらの土層を鍵層として実施したので、それらの同定は不可欠であった。そこで、テフラ検出分析・植物珪酸体分析・花粉分析は株式会社古環境研究所に委託して実施した。調査が開始されたⅡ・Ⅲ区で、指標となるテフラについて層位を記載し、テフラの同定をおこなった。浅間Bテフラの直下からは水田面が検出されている。また浅間Bテフラを踏み込んだ水田痕跡が検出され、両者の比較によって古代から中世にかけての水田耕作の推移を考える資料を得ることができた。

また、浅間Bテフラ直下の黒色粘質土(Ⅳ層)は、その成因やテフラ降下直前の植性や環境を解明することが課題となっている。上新田中道東遺跡では顕著に認められたⅠ区で、その課題に対応するために必要な情報を得ることを目的として、植物珪酸体分析および花粉分析を実施した。

Ⅳ区では、古墳時代の地層と考えられる土層が検出されたが、遺物や遺構が伴う出土状態ではなかった。そこで、地層の時期および土地利用を明らかにするために、テフラ分析と植物珪酸体分析を実施した。

(2) 大型植物遺体同定

上新田中道東遺跡Ⅱ・Ⅲ区の井戸や土坑などから大型植物遺体が出土した。これらの植物遺体から、当時の食物や周辺植性を検討する資料を得ることを目的として、株式会社パレオ・ラボに委託して同定作業を実施した。古墳時代前期のⅡ区8号土坑からは栽培植物のモモとイネ、ヒョウタン仲間が出土したことがわかった。また中世遺構と推定されるⅢ区1号井戸からはモモ、Ⅲ区3

号溝からはバナ殻斗が出土していることが判明した。バナの出土は平野部では希少な出土例であり注目される。

(3) 棒状遺物の材質分析

古墳時代前期のⅡ区8号土坑から出土した棒状遺物は、発掘調査で出土した当初は、木製の火鑽杵と考えていた。整理作業にあたり、樹種の同定を株式会社パレオ・ラボに委託して実施したところ、「植物組織をもたないことから、植物遺体とは考えられない。横断面の顕微鏡観察では多数の気泡を伴う固結発泡した生成物で、有機質と推定される」との結果を得た。

そこで、この遺物の材質を改めて明らかにする必要があることから、有機質の材質分析としてはスタンダードな「赤外分光分析」を株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。その結果、「市販品の生漆に近いスペクトルが得られた。」また、外面に見られた植物組織様の圧痕はタケ類の稈に内部組織・構造が類似していることが報告された。

本資料が漆である可能性がでてきたことから、出土資料や既存研究のあまりない古墳時代前期の漆資料を扱うにあたり、原始・古代の木質遺物研究全体のなかで漆の利用を追及しておられる首都大学東京考古学教室の山田昌久教授に広い視野でのご助言を得たいと考え、資料をみていただいた。山田教授から、材質の特定を確実にするため、「熱分解-GC/MS分析」を実施することを勧められ、東京文化財研究所の北野信彦先生に依頼して実施した。山田教授のコメントと北野先生の分析報告および関連調査は第9章にまとめた。

(4) 獣骨の同定・人骨の鑑定

上新田中道東遺跡では主として中世以降の土層から牛及び馬と推定された骨破片が出土した。調査では生産遺構の層序でウシやウマの蹄跡が検出されており、畜耕等に関わる遺物である可能性があることから、獣骨を確定するために生物化学研究所および宮崎重雄氏に委託して、獣骨の同定をおこなった。このうち、Ⅱ区の中世から近世の土層で出土した焼骨破片は「ヒトの可能性が高いが確定できない」との結果がでている。

2. 上新田中道東遺跡 I 区の自然科学分析

1. 自然科学分析の概要

上新田中道東遺跡の発掘調査では、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)直下で層厚数cm程度の黒褐色粘質土層が検出された。これは、群馬県南東部の比較的広い範囲で浅間Bテフラ直下において認められている黒褐色腐植土層(粘質土層)と類似しており、その成因や当時の植生・環境の解明が検討課題となっていた。ここでは、これらの課題に関する情報を収集する目的で植物珪酸体分析および花粉分析を行った。

分析対象は、上新田中道東遺跡の1区C南壁において5層～12層から採取された計12点である。植物珪酸体分析はこれらのすべてについて、花粉分析は9層～12層の計4点について分析を行った。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。なお、8層は浅間Bテフラ(As-B, 1108年)、13層は浅間Cテフラ(As-C, 4世紀初頭)混層である。

II. 植物珪酸体(プラント・オパール)分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸(SiO₂)が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている(杉山, 2000)。

2. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法(藤原, 1976)を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加(0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重(1.0と仮定)と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10⁻⁵g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる(杉山, 2000)。

3. 分析結果

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および第274図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型(おもにススキ属)、ウシクサ族A(チガヤ属など)、ウシクサ族B(大型)、ジュズダマ属、Aタイプ(くさび型)

〔イネ科—タケ亜科〕

メダケ節型(メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型(おもにメダケ属ネザサ節)、チマキザサ節型(ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型(ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

〔イネ科—その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)、茎部起源、未分類等

〔樹木〕

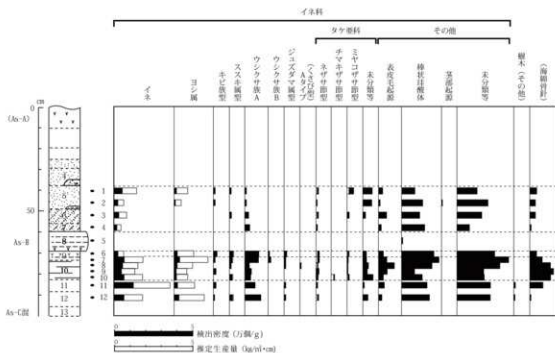
その他

第12表 上新田中道東遺跡における植物珪酸体分析結果

抽出密度(単位: ×100個/g)		1区C南壁											
分類群	学名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
イネ科	Gramineae												
イネ	Oryza sativa	49	20	27	14		20	63	52	45	62	125	63
ヨシ属	Phragmites	14	7				20	35	19	13	14	21	31
キビ族型	Panicaceae type	7	7				20	7		13		14	6
ススキ属型	Miscanthus type	7		7			20	14	6		14		19
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	7	7	20	28		86	84	26	39	34	62	100
ウシクサ族B	Andropogoneae B type						7	14					
ジュズダマ属型	Coix type						13	7	6			7	6
Aタイプ(くさび型)	A type								6				
タケ亜科	Bambusoideae												
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	14	7	14	7		20	21	13	19	14	7	13
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.											21	
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	42		14			13	7	6	6	14		
未分類等	Others	56	54	14			20	21	32	26	62	7	31
その他のイネ科	Others												
表皮毛起源	Husk hair origin	21	7	48	14		27	49	97	52	28	35	19
棒状珪酸体	Rodshaped	84	135	116	148	7	206	238	195	84	131	159	175
茎部起源	Stem origin			7									
未分類等	Others	127	196	156	78		239	328	273	169	172	215	213
樹木起源	Arboreal												
その他	Others											7	6
(海綿骨針)	Sponge spicules	42	34	34	7		40	77	130	149	131	63	6
植物珪酸体総数	Total	429	447	415	289	7	711	887	734	468	565	659	682

おもな分類群の推定生産量(単位: kg/nl・cm): 試料の収比重を1.0と仮定して算出

イネ	Oryza sativa	1.45	0.60	0.80	0.41		0.59	1.85	1.53	1.34	1.82	3.68	1.85
ヨシ属	Phragmites	0.89	0.43				1.26	2.20	1.23	0.82	0.87	1.33	1.96
ススキ属型	Miscanthus type	0.09		0.08			0.25	0.17	0.08		0.17		0.24
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	0.07	0.03	0.07	0.03		0.10	0.10	0.06	0.09	0.07	0.03	0.06
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.											0.16	
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	0.13		0.04			0.04	0.02	0.02	0.02	0.04		



第274図 上新田中道東道跡：I区C南壁における植物珪酸体分析結果

4. 考察

(1) 稲作跡の検討

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体(プラント・オパール)が試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山, 2000)。なお、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

I区C南壁では、5層(試料1)から12層(試料12)までの層準について分析を行った(第274図)。その結果、浅間Bテフラ層準の8層(試料5)を除く各試料からイネが検出された。このうち、11層(試料11)では密度が12,500個/gとかなり高い値であり、5層上部(試料1)、10層(試料7~10)、12層(試料12)でも4,500~6,300個/gと高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

浅間Bテフラ直下の9層(試料6)では密度が2,000個/gと比較的低い値であり、6層(試料3)と7層(試料4)でも1,400~2,700個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、1)稲作が行われていた期間が短かったこと、2)土層の堆積速度が速かったこと、3)採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、4)上層や他所からの混入などが考えられる。9層については直上をテフラ層で覆われていることから、1)の要因が大きいと考えられる。

(2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型(ヒエが含まれる)、エノコログサ属型(アワが含まれる)、キビ属型(キビが含まれる)、ジュズダマ属(ハトムギが含まれる)、オヒシバ属(シコクビエが含まれる)、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはジュズダマ属が検出された。

ジュズダマ属は、9層~12層から検出された。ジュズダマ属には食用や薬用となる栽培種のハトムギが含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態から栽培種と野草のジュズダマとを完全に識別するには至っていない。また、密度も600~1,300個/gと低い値であることから、ここでジュズダマ属が栽培されていた可能性は低いと考えられる。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

(3) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群の検出状況と、そこから推定される植生・環境について検討を行った。下位の12層～11層では、ウシクサ族Aが比較的多く検出され、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型、ジュズダマ属型、ネザサ節型、および樹木(その他)も認められた。10層～9層でもおおむね同様の結果であり、ミヤコザサ節型も出現している。浅間Bテフラ層準の8層では、植物珪酸体がほとんど検出されなかった。7層～6層では、ウシクサ族A、ネザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。5層ではヨシ属、キビ族型なども出現しているが、いずれも少量である。おもな分類群の推定生産量によると、12層～9層ではヨシ属が優勢であり、12層～10層ではイネも多くなっている。

以上の結果から、浅間Cテフラ直上の12層から浅間Bテフラ直下の9層にかけては、ヨシ属をはじめジュズダマ属なども生育する湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して12層～10層の時期に水田稲作が行われていたと考えられる。また、周辺の比較的乾燥したところにはキビ族、ススキ属、ウシクサ族、メダケ属(ネザサ節)などのイネ科草本類が生育していたと推定される。

浅間Bテフラ直下の9層でも、おおむね同様の結果であり、とくに明確な植生変化は認められなかった。浅間Bテフラ直下では群馬県南東部の比較的広い範囲で黒褐色腐植土層(粘質土層)が認められており、水田が放棄されてヨシ属などが繁茂する湿地に移行していたと推定されているが、(杉山, 2004, 2010)、今回の分析ではこのようなヨシ属の増加は認められなかった。

浅間Bテフラ直上の7層から6層にかけては、ウシクサ族やメダケ属(ネザサ節)などは見られるものの、何らかの原因でイネ科草本類の生育にはあまり適さない環境であったと考えられる。

5. まとめ

植物珪酸体(プラント・オパール)分析の結果、浅間Cテフラ(As-C, 4世紀初頭)直上の12層から浅間Bテフラ(As-B, 1108年)より下位の10層にかけては、イネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、浅間Bテフラ直下の9層および7層～5層でもイネが検出され、稲作が行われていた可能性が認められた。

浅間Cテフラ直上の12層から浅間Bテフラ直下の9層にかけては、ヨシ属をはじめジュズダマ属なども生育する湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して12層～10層の時期に水田稲作が行われていたと考えられる。また、周辺の比較的乾燥したところにはキビ族、ススキ属、ウシクサ族、メダケ属(ネザサ節)などのイネ科草本類が生育していたと推定される。

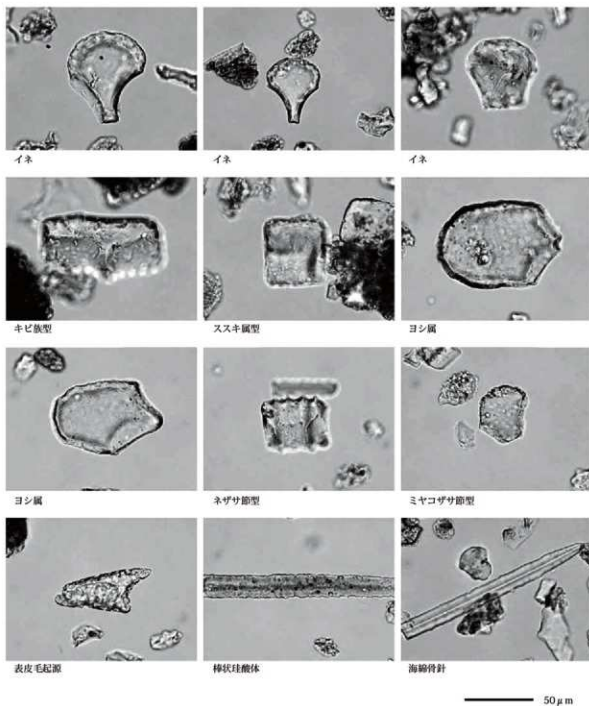


写真1 上新田中道東遺跡1区の植物珪酸体(プラント・オパール)

III. 花粉分析

1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

2. 方法

花粉の分離抽出は、中村(1967)の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 試料から1cm³を秤量
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加えて15分間湯煎
- 3) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリス処理(無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す
- 6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 7) 沈澱に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、鳥倉(1973)および中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。イネ属については、中村(1974, 1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

3. 結果

(1)分類群

出現した分類群は、樹木花粉15、樹木花粉と草本花粉を含むもの4、草本花粉18、シダ植物胞子2形態の計39である。なお、寄生虫卵は認められなかった。分析結果を第13表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。以下に出現した分類群を記載する。

[樹木花粉]

ツガ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、トチノキ
[樹木花粉と草本花粉を含むもの]

クワ科-イラクサ科、バラ科、マメ科、ニワトコ属-ガマズミ属

[草本花粉]

ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、ギンギン属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、アブラナ科、ワレモコウ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、タンポポ科、キク亜科、ヨモギ属

[シダ植物胞子]

単条溝胞子、三条溝胞子

第13表 上新田中道東遺跡における花粉分析結果

学名	分類群	I 区 C 南壁			
		6	8	11	12
Arboreal pollen	樹木花粉				
<i>Tsuga</i>	ツガ属	1			
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属種維管束亜属	2			
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	6	3	3	4
Taxaceae-Cephalotaxaceae	イチイ科-イヌガヤ科				
-Cupressaceae	-ヒノキ科			3	
<i>Alnus</i>	ハンノキ属		1	9	
<i>Betula</i>	カバノキ属		2	9	2
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ	1	4	5	3
<i>Castanea crenata</i>	クリ	11	2	8	3
<i>Castanopsis</i>	シイ属	4	6	5	7
<i>Fagus</i>	ブナ属		1	2	4
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	33	28	26	16
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	3	2	18	14
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ			1	
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ	1		1	
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ	3	1	1	3
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉				
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2	2	8	14
Rosaceae	バラ科		1	1	
Leguminosae	マメ科			1	1
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属-ガマズミ属				1
Nonarboreal pollen	草本花粉				
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属	3	7		2
<i>Alisma</i>	サシオモダカ属		1		
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属		1	1	4
Gramineae	イネ科	51	21	39	28
<i>Oryza type</i>	イネ属型			3	2
Cyperaceae	カヤツリグサ科	55	14	7	17
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	14	2		
<i>Rumex</i>	ギンギシ属			1	
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1			1
Caryophyllaceae	ナデシコ科				28
<i>Ranunculus</i>	キンボウゲ属				1
Cruciferae	アブラナ科		1		
<i>Sanguisorba</i>	ワレモコウ属	18	1		
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科	1			
Apioidae	セリ亜科	3	2	3	
Lactucoideae	タンポポ亜科	2	1		1
Asteroidae	キク亜科	4	1	1	2
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	143	11	16	10
Fern spore	シダ植物胞子				
Monolate type spore	単条溝胞子	13	5	3	5
Trilate type spore	三条溝胞子	1	2		
Arboreal pollen	樹木花粉	66	50	91	56
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	3	10	16
Nonarboreal pollen	草本花粉	295	63	71	96
Total pollen	花粉総数	363	116	172	168
Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度	5.0	5.2	1.3	1.2
		$\times 10^{-3}$	$\times 10^{-2}$	$\times 10^{-3}$	$\times 10^{-3}$
Unknown pollen	未同定花粉	15	11	10	7
Fern spore	シダ植物胞子	14	7	3	5
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion remains	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	微細炭化物	(++)	(+)		(+)

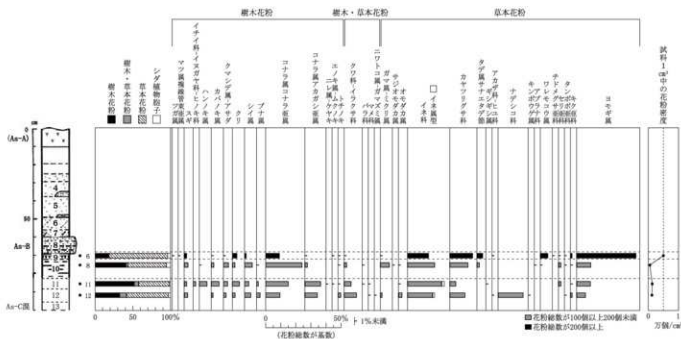
(2)花粉群集の特徴(第275図)

下位の12層(試料12)では、花粉密度が低く、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ科(イネ属型を含む)、ナデシコ科、カヤツリグサ科が優勢で、ヨモギ属、オモダカ属などが伴われる。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属が優勢で、シイ属、カバノキ属、クリ、クマシデ属-アサダ、スギ、ブナ属などが伴われ、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科も比較的多い。

11層(試料11)では樹木花粉と草本花粉の割合が同程度である。草本花粉ではイネ科(イネ属型を含む)が増加し、ナデシコ科は減少している。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属、ハンノキ属、カバノキ属などが増加している。

10層上部(試料8)では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではカヤツリグサ科が増加し、イネ属型は見られなくなっている。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属が増加し、コナラ属アカガシ亜属、ハンノキ属、カバノキ属、ブナ属は減少している。

9層(試料6)では、花粉密度が増加し、草本花粉の占める割合が約80%に増加している。草本花粉ではヨモギ属が大幅に増加して卓越し、タデ属サナエタデ節、ワレモコウ属も増加している。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属が大幅に減少し、シイ属なども減少している。



第275図 上新田中道東遺跡：I区C南壁における花粉ダイアグラム

4. 花粉分析から推定される植生と環境

浅間Cテフラ(As-C, 4世紀初頭)直上の12層から11層にかけては、イネ科(イネ属型を含む)が優勢であり、オモダカ属などの水生植物(水田雑草)も認められることから、周辺で水田稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところには、イネ科、ヨモギ属、ナデシコ科、クワ科-イラクサ科などが分布していたと考えられる。森林植生としては、遺跡周辺にコナラ属コナラ亜属を主体としてカバノキ属、クリ、クマシデ属-アサダなども見られる落葉広葉樹、およびコナラ属アカガシ亜属を主体としてシイ属なども見られる照葉樹林が分布しており、11層の時期にはハンノキ属の湿地林も見られたと推定される。

10層(上部)では、何らかの原因で水田が縮小し、ガマ属-ミクリ属やカヤツリグサ科などの湿地が拡大したと考えられる。森林植生では落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属が増加し、照葉樹林要素のコナラ属アカガシ亜属は減少したと推

定される。浅間Bテフラ直下にかけてコナラ属アカガシ亜属が減少する傾向は、花粉分析が行われた高崎市並榎北II遺跡、甘楽町甘楽条里跡遺跡、伊勢崎市三和工業団地遺跡などでも認められており、この頃に気候が冷涼化するなど比較的范围におよぶ何らかの環境変動があった可能性が示唆される(杉山, 2004, 2010)。

浅間Bテフラ(As-B, 1108年)直下の9層では、ヨモギ属をはじめワレモコウ属なども見られる比較的乾燥した草原植生が拡大し、遺跡周辺ではコナラ属コナラ亜属などの森林植生が減少したと推定される。浅間Bテフラ直下でヨモギ属などの草原植生が増加するのは伊勢崎市の三和工業団地遺跡(古環境研究所, 2004)でも認められるが、高崎市並榎北II遺跡や甘楽町甘楽条里跡遺跡ではガマ属-ミクリ属、カヤツリグサ科などが繁茂する湿地的な状況になっており(杉山, 2004, 2010)、遺跡によって植生変遷の様相が大きく異なっている。いずれにしても、浅間Bテフラ直下の時期には何らかの原因で水田が縮小もしくは放棄されていたと推定される。

IV. まとめ

上新田中道東遺跡で認められた浅間Bテフラ(As-B, 1108年)直下の黒褐色粘質土層について、その成因や当時の植生・環境に関する情報を収集する目的で植物珪酸体分析および花粉分析を行った。

その結果、浅間C軽石(As-C, 4世紀初頭)直上の12層から浅間Bテフラより下位の10層にかけては、ヨシ属やジュズダマ属などのイネ科をはじめカヤツリグサ科なども生育する湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。

浅間Bテフラ直下の9層では、何らかの原因で水田が縮小もしくは放棄されていたと考えられ、ヨモギ属をはじめワレモコウ属なども見られる比較的乾燥した草原植生が拡大したと推定される。また、浅間Bテフラ直下にかけては照葉樹林要素のコナラ属アカガシ亜属が減少しており、この頃に気候が冷涼化するなど何らかの環境変動があった可能性が示唆される。

文献

- 金原正明(1993)花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.
- 古環境研究所(2004)三和工業団地II・III・IV遺跡-自然科学分析編一. 群馬県企業局, 伊勢崎市文化財調査報告書第54集.
- 杉山真二・藤原宏志(1986)機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定-古環境推定の基礎資料として-. 考古学と自然科学, 19, p.69-84.
- 島倉巳三郎(1973)日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.
- 杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール). 考古学と植物学, 同成社, p.189-213.
- 杉山真二(2004)自然科学分析が語る平安時代末期の水田跡. かみつけの里博物館第12回特別展図録「1108年-浅間山大噴火、中世への胎動」, p.57-61.
- 杉山真二(2010)自然科学分析から見た浅間Bテフラ(1108年)直下の植生と環境. 浅間Bテフラ直下水田の実体解明に向けた検討会講演要旨.
- 中村純(1973)花粉分析. 古今書院, p.82-110.
- 中村純(1974)イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として. 第四紀研究, 13, p.187-193.
- 中村純(1977)稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第10号, p.21-30.
- 中村純(1980)日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.
- 藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)-プラント・オパール分析による水田跡の探査一. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

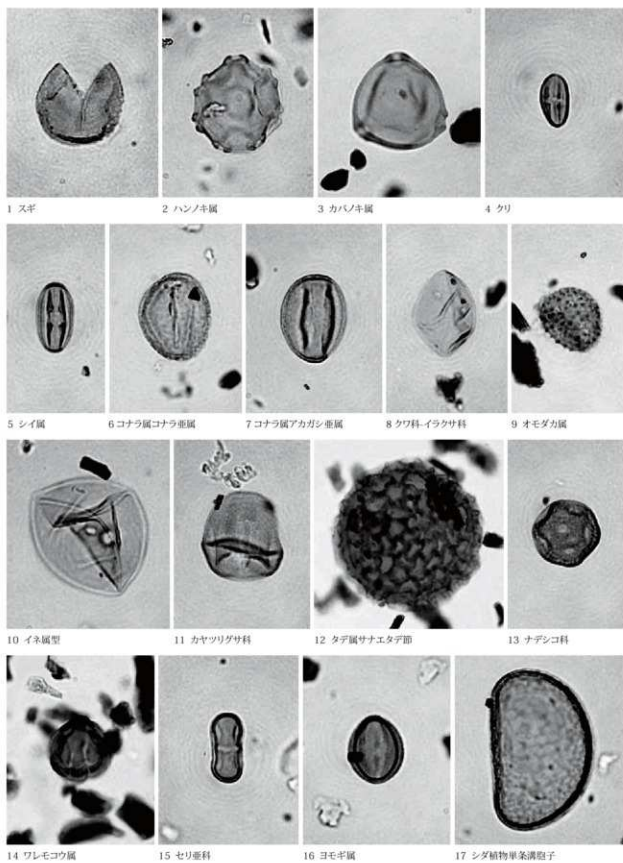


写真2 上新田中道東遺跡1区の花粉・胞子

3. 上新田中道東遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の自然科学分析

1. はじめに

関東平野北西部に位置する群馬県玉村町域とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、榛名や浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代などを知ることができるようになっている。

そこで、年代が不明な土層や遺構が検出された玉村町上新田中道東遺跡においても、地質調査を行って土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析と屈折率測定を行って指標テフラの検出同定を行い、土層や遺構の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象地点は、Ⅱ区第1地点、Ⅱ区第2地点、Ⅱ区第3地点、Ⅲ区第1地点、Ⅲ区第2地点、Ⅲ区第3地点、Ⅲ区第4地点、Ⅲ区第5地点、Ⅲ区第6地点の9地点である。

2. 土層の層序

(1) Ⅱ区第1地点

Ⅱ区第1地点では、倒木の覆土中に軽石粒子が認められた。この覆土から採取された試料(試料1)についてテフラ分析を行った(後述)。

(2) Ⅱ区第2地点

Ⅱ区第2地点では、下位より灰色砂質シルト層(層厚15cm)、シルト混じりで若干桃色がかった灰色砂層(層厚14cm)、黄白色シルト層(層厚4cm)、桃灰色粗粒火山灰層(層厚8cm)、基底に亜円礫を含む黄白色シルト層(層厚17cm、礫の最大径18mm)、灰色粘質土(層厚8cm)、黒灰色土(層厚8cm)、灰色軽石混じり黒灰色土(層厚3cm、軽石の最大径2mm)、若干色調が暗い灰色粘質土(層厚3cm)、灰色粘質土(層厚3cm)、黄色がかった灰色粘質土(層厚12cm)、暗灰色粘質土(層厚7cm)、成層したテフラ層(層厚2.2cm)、黒灰色土(層厚0.8cm)、若干色調が暗い灰色砂質土(層厚8cm)、黄白色シルト層(層厚2cm)、砂混じり黄灰色土(層厚20cm)、暗灰色表土(層厚19cm)が認められる(第276図)。

これらのうち、桃灰色粗粒火山灰層は、層相から約1.3～1.4万年前*1に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP、新井, 1962、町田・新井, 1992)に同定される。また成層したテフラ層は、最下部の灰色砂質細粒火山灰層(層厚0.2cm)と、黄灰色粗粒火山灰層(層厚2cm)からなる。このテフラ層は、層相から1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B、荒牧, 1968、新井, 1979)に同定される。

(3) Ⅱ区第3地点

Ⅱ区第3地点では、下位より黄灰色粘質土(層厚8cm以上)、灰色土(層厚7cm)、黒灰色土(層厚4cm)、暗灰色土(層厚3cm)、若干色調が暗い灰色土(層厚4cm)、灰色粘質土(層厚3cm)、若干色調が暗い灰色粘質土(層厚9cm)、暗灰色粘質土(層厚7cm)、成層したテフラ層(層厚7.6cm)、黒灰色砂質土(層厚3cm)、暗灰色土(層厚3cm)、黄灰色土(層厚16cm)、暗灰色表土(層厚16cm)が認められる(第277図)。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より灰色砂質細粒火山灰層(層厚0.2cm)、基底に粗粒の褐色軽石を含む黄灰色粗粒火山灰層(層厚2cm、軽石の最大径14mm)、暗灰色粗粒火山灰層(層厚0.5cm)、黄色粗粒火山灰層(層厚0.7cm)、暗灰色粗粒火山灰層(層厚0.8cm)、黄色粗粒火山灰層(層厚1.7cm)からなる。このテフラ層は、層相からAs-Bに同定される。

(4)Ⅲ区第1地点

Ⅲ区第1地点では、下位より灰白色砂質シルト層(層厚15cm)、桃灰色粗粒火山灰層(層厚15cm)、灰色粘質土(層厚17cm)、砂混じり灰色土(層厚7cm, 上面:5面)、黒灰色土(層厚4cm)、灰白色軽石混じり黒灰色土(層厚3cm, 軽石の最大径4mm, 上面:4面)、暗灰色粘質土(層厚5cm)、若干色調が暗い灰色粘質土(層厚3cm, 上面:3面)、粒径が良く揃った黄灰色砂層(層厚2cm)、白色軽石混じり灰色土(層厚18cm, 軽石の最大径12mm, 上面:2面)、粒径が良く揃った黄灰色砂層(層厚3cm)、黄灰色土(層厚16cm, 上面:1面)、灰色砂質土(層厚5cm)、砂混じり黄灰色土(層厚6cm)、暗灰色土(層厚17cm)が認められる(第278図)。

これらのうち、1面を覆う灰色砂質土中には、層位や層相などからAs-Bに由来するテフラ粒子が多く含まれていると考えられている。

(5)Ⅲ区第2地点

Ⅲ区第2地点では、溝遺構の覆土の断面を観察することができた(第279図)。覆土は、下位より暗灰色粘質土(層厚8cm)、砂混じり灰色土(層厚3cm)、砂混じり黄灰色土(層厚8cm)、砂混じり黒灰色土(層厚14cm)からなる。

(6)Ⅲ区第3地点

Ⅲ区第3地点では、水田遺構の畦畔の断面を観察することができた(第280図)。ここでは、下位より暗灰色粘質土(層厚5cm以上)、砂混じり灰色シルト層(層厚5cm)、灰色粘質土(層厚5cm)、砂混じり灰色粘質土(層厚2cm)、砂混じり灰色シルト層(層厚2cm)、若干色調が暗い灰色粘質土(層厚7cm)が認められる。

(7)Ⅲ区第4地点

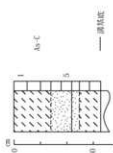
Ⅲ区第4地点では、管玉が検出された。管玉の包含層が黄灰色軽石混じり黒色土である。

(8)Ⅲ区第5地点

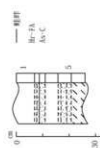
Ⅲ区第5地点では、As-YPより上位に、下位より灰色土(層厚11cm)、暗灰色粘質土(層厚8cm)、暗灰色砂質土(層厚1cm)、若干黄色がかかった灰色シルト層(層厚12cm)などが認められた(第281図)。

(9)Ⅲ区第6地点

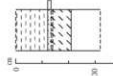
Ⅲ区第6地点では、下位より黄白色シルト層(層厚3cm以上)、若干桃色がかかった灰色粗粒火山灰層(層厚12cm)、層理が発達した黄灰色砂層(層厚8cm)、灰色シルト層(層厚4cm)、黒泥層(層厚3cm)、暗灰色泥層(層厚5cm)、黄白色シルト層(層厚3cm)、灰色砂層(層厚11cm)が認められた(第282図)。



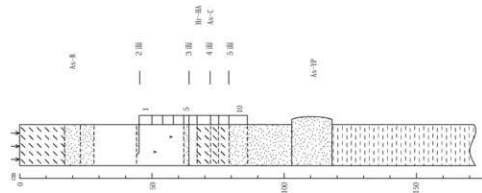
第279図 3区第2地点の土層柱状図
数字はテラフラ分析の試料番号



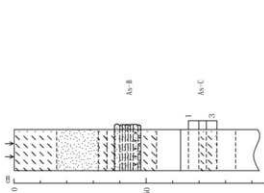
第280図 3区第3地点の土層柱状図
数字はテラフラ分析の試料番号



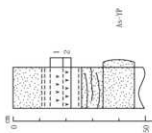
第281図 3区第5地点の土層柱状図
数字はテラフラ分析の試料番号



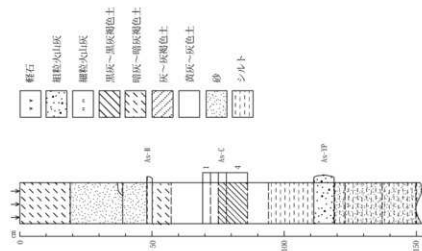
第278図 3区第1地点の土層柱状図
数字はテラフラ分析の試料番号



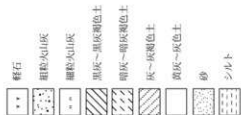
第277図 2区第3地点の土層柱状図
数字はテラフラ分析の試料番号



第282図 3区第6地点の土層柱状図
数字はテラフラ分析の試料番号



第276図 2区第2地点の土層柱状図
数字はテラフラ分析の試料番号



3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

指標テフラの層位を明らかにするために、上述9地点において採取された試料のうち、37点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第14表に示す。Ⅱ区第1地点の試料1には、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石(最大径2.4mm)が比較的多く含まれている。火山ガラスとしては、この軽石の細粒物のほか、無色透明の軽石型ガラスも認められる。

Ⅱ区第2地点では、試料3より上位の試料に、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石(最大径1.8mm)が認められた。この軽石は、試料2により多く含まれている。試料2および試料1には、斑晶に角閃石をもつ、さほど発泡が良くない白色軽石(最大径1.5mm)が含まれている。この軽石の顕著な濃集層は認められないが、産状から灰白色軽石で特徴づけられる軽石とともに、試料2付近にその降灰層のある可能性が考えられる。火山ガラスとしては、試料4にわずかに無色透明の軽石型ガラスが認められるほか、試料3より上位には軽石の細粒物が含まれている。

Ⅱ区第3地点では、試料2より上位の試料に、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石(最大径2.1mm)が認められた。この軽石は、試料2により多く含まれている。試料2および試料0には、斑晶に角閃石をもつさほど発泡が良くない白色軽石(最大径2.0mm)が少量ずつ含まれている。この軽石の顕著な濃集層は認められないが、その産状から、灰白色軽石で特徴づけられる軽石とともに、試料2付近にその降灰層のある可能性が考えられる。火山ガラスとしては、試料2より上位に軽石の細粒物が含まれている。

Ⅲ区第1地点では、試料5をのぞく試料9より上位の試料から、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石(最大径3.1mm)が検出された。この軽石は試料8より上位で増加することから、試料8付近にその降灰層があると考えられる。試料7より上位では、斑晶に角閃石をもつさほど発泡が良くない白色軽石(最大径4.1mm)が含まれている。この軽石は、とくに試料5より上位に比較的多く含まれている。火山ガラスとしては、試料10に白色の軽石型ガラスが少量含まれているほか、各試料で軽石の細粒物が認められる。

Ⅲ区第2地点では、試料3より上位から、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石(最大径3.6mm)が比較的多く検出された。火山ガラスにも、これらの試料から軽石の細粒物が検出された。したがって、溝遺構は、この軽石で特徴づけられるテフラの降灰層より下位にあると考えられる。

Ⅲ区第3地点では、試料3をのぞく試料5より上位の試料から、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石(最大径1.9mm)が検出された。これらの中では、試料4により多くの軽石が含まれており、この試料付近に灰白色軽石で特徴づけられるテフラの降灰層があると推定される。

また試料3および試料2には、斑晶に角閃石をもち、さほど発泡の良くない細粒の白色軽石(最大径1.2mm)が含まれている。その産状から、ここでは試料3付近に白色軽石で特徴づけられるテフラの降灰層があると思われる。なお火山ガラスとしても、これらの試料から軽石の細粒物が検出された。

Ⅲ区第4地点の試料1には、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石(最大径2.5mm)が比較的多く含まれている。火山ガラスとしても、この軽石の細粒物が比較的多く含まれている。またⅢ区第5

地点の試料1には、この軽石(最大径2.9mm)やその細粒物である軽石型ガラスが多く含まれている。

Ⅲ区第6地点の試料2には、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ細粒の白色軽石(最大径1.7mm)や、無色透明の軽石型ガラスが少量含まれている。これらのテフラ粒子は、その特徴からより下位にあるAs-YPなど浅間火山起源の後期更新世テフラに由来する可能性が考えられる。

第14表 テフラ検出分析

調査区	地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
			量	色調	最大径	量	形態	色調
2	1	1	++	灰白	2.4	++	pm	灰白透明
		2	+	白,灰白	1.5,1.2	+	pm	白,灰白
		3	++	灰白>白	1.8,1.3	+	pm	灰白,白
		4	+	灰白	1.3	+	pm	灰白
2	3	4	-	-	-	+	pm	透明
		0	+	灰白,白	2.0,1.2	+	pm	灰白,白
		1	+	灰白	2.1	+	pm	灰白,白
		2	++	灰白>白	2.1,2.0	++	pm	灰白>白
3	1	3	-	-	-	-	-	-
		1	++	灰白,白	3.1,2.1	++	pm	灰白,白
		2	++	白>灰白	3.8,1.4	++	pm	白>灰白
		3	++	白>灰白	2.2,1.3	++	pm	白>灰白
		4	++	白>灰白	4.1,2.0	++	pm	白>灰白
		5	++	白	2.1	++	pm	白
		6	++	灰白>白	2.1,1.1	++	pm	灰白,白
		7	++	灰白>白	1.8,1.1	++	pm	灰白>白
		8	++	灰白	1.6	++	pm	灰白
		9	+	灰白	1.9	+	pm	灰白
3	2	10	-	-	-	+	pm	白
		1	++	灰白	3.6	++	pm	灰白
		2	++	灰白	2.1	++	pm	灰白
		3	++	灰白	2.1	++	pm	灰白
		4	-	-	-	-	-	-
		5	-	-	-	-	-	-
		6	-	-	-	-	-	-
		7	-	-	-	-	-	-
3	3	8	-	-	-	-	-	-
		1	+	灰白	1.3	+	pm	灰白
		2	+	白,灰白	1.1,1.1	+	pm	白,灰白
		3	+	白	1.2	+	pm	白
		4	++	灰白	1.9	++	pm	灰白
		5	+	灰白	1.2	+	pm	灰白
3	4	6	-	-	-	-	-	
		1	++	灰白	2.5	++	pm	灰白透明
3	5	1	+++	灰白	2.9	+++	pm	灰白
		2	+	白	1.7	+	pm	透明

++++:とくに多い, +++:多い, ++:中程度, +:少ない, -:認められない。

最大径の単位は, mm. bw:バブル型, pm:軽石型。

4. 屈折率測定

(1)測定試料と測定方法

Ⅱ区第1地点の試料1と、Ⅲ区第4地点の試料1に含まれるテフラ粒子の起源を、より高精度で確かめるために、火山ガラスについて温度変化型屈折率測定装置(MA10T, 古澤地質調査事務所製作)により、屈折率の測定を行った。

(2)測定結果

屈折率測定の結果を第15表に示す。Ⅱ区第1地点の試料1に含まれる火山ガラスの屈折率は、1.499-1.504および1.513-1.519である。また、Ⅲ区第4地点の試料1に含まれる火山ガラスの屈折率は、1.498-1.502、1.505-1.506、1.514-1.518である。

第15表 屈折率測定結果

調査区	地点	試料	火山ガラス(n)
2	1	1	1.499-1.504, 1.513-1.519
3	4	1	1.498-1.502, 1.505-1.506, 1.514-1.518

測定は、温度変化型屈折率測定法による。

5. 考察

屈折率測定の対象となった試料のうち、Ⅱ区第1地点の試料1に含まれる、屈折率がより低い火山ガラスについては、その値から、より下位の土層中に認められるAs-YPなど後期更新世の浅間火山起源のテフラのほか、約2.4～2.5万年前*1に南九州の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 松本ほか, 1987, 村山ほか, 1993, 池田ほか, 1995)などに由来すると考えられる。一方、屈折率が高い方の火山ガラスは、その値から3世紀終末～4世紀初頭に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000)に由来すると考えられる。本試料に含まれる、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石についてもAs-Cと考えられる。このことから、Ⅱ区第1地点の試料1に特徴的に含まれる軽石については、As-Cの可能性が非常に高い。

Ⅲ区第4地点の試料1に含まれる火山ガラスのうち、屈折率(n)が1.498-1.502および1.505-1.506のものは、その値などからAs-YPなど後期更新世の浅間火山起源のテフラのほか、ATなどに由来すると考えられる。また屈折率(n)が1.514-1.518の火山ガラスは、その値からAs-Cに由来すると考えられる。本試料に含まれる、スポンジ状に比較的良好に発泡し、斑晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ灰白色軽石についてもAs-Cと考えられる。このことから、Ⅲ区第4地点の試料1に特徴的に含まれる軽石については、As-Cの可能性が非常に高い。したがって、本地点の管玉については、As-C混じりの土層から検出されたと考えられる。

As-Cとはほぼ同じ層あるいはより上位から検出される、斑晶に角閃石をもつ、さほど発泡の良くない白色軽石については、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)、あるいは6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)の火山泥流堆積物に由来すると考えられる。両テフラに含まれるテフラ粒子の識別は、高精度の屈折率測定を行っても難しい。さらに、Hr-FA降灰に先立つ5世紀に榛名火山から噴出した榛名有馬テフラ(Hr-AA, 町田ほか)が本地域に降灰している可能性が高いことも、本遺跡での榛名火山起源の軽石粒子の起源を考える上で問題を複雑にしている。

しかしながら、Hr-AAは前橋および高崎の市街地で厚さ数mmと非常に薄く、本遺跡周辺でも非常に細粒で、テフラ検出分析で検出されることはまれなこと(古環境研究所, 未公表資料)を考慮すると、今回の分析で検出された軽石については、よりテフラや火山泥流堆積物の保存状態の良い地点で土層の観察をする必要があるが、現段階においてはやはりHr-FAあるいはHr-FPの噴火に伴う火山泥流の堆積物(早田, 1989)に由来する可能性が高いと思われる。

以上のことをベースとして、上述以外の各地点におけるテフラの降灰層準と遺構の層位について述べる。Ⅱ区第2地点では、試料2付近にAs-CとHr-FA(あるいはHr-FP火山泥流堆積物)の層準があると考えられる。その上位の9世紀頃と推定されている黄色がかかった灰色粘質土は、As-Bの下位にあり、テフラとの層位関係と推定されている堆積年代は矛盾しない。Ⅱ区第3地点でも、試料2付近にAs-CとHr-FA(あるいはHr-FP火山泥流堆積物)の層準があると考えられる。

Ⅲ区第1地点では、試料8付近にAs-C、試料7付近にHr-FAの層準があると考えられる。またここでは、試料5の砂層中に比較的多くの白色軽石が含まれていることから、この砂層がHr-FPの火山泥流堆積物に対比される可能性がある。これらのことから、5面はAs-Cより下位、4面はAs-CとHr-FAの間、3面はHr-FP火山泥流堆積物直下、2面はHr-FP火山泥流堆積物より上位でAs-Bより下位、1面はAs-Bより下位にあるように思われる。

Ⅲ区第3地点の溝遺構については、試料3付近にAs-Cの降灰層準があると考えられることから、As-Cより下位にある

らしい。また、Ⅲ区第3地点の畦馬の層位は、Hr-FA（あるいはHr-FP火山泥流堆積物）より上位にあると考えられる。Ⅲ区第5地点で検出された若干黄色がかかった灰色シルト層は、As-Cより上位にある。ほかに榛名火山起源のテフラが認められなかったことから、Hr-FAより下位にある可能性がある。

6. まとめ

上新田中道東遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3～1.4万年前^{*1})、浅間C軽石(As-C, 3世紀終末～4世紀初頭)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 6世紀中葉)の火山泥流堆積物、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)やそれらによるテフラ粒子を検出することができた。

*1 放射性炭素(14C)年代。

文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
- 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.
- 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質。地団研専報, no.45, 65p.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫(1995)南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による14C年代。第四紀研究, 34, p.377-379.
- 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—。科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987)始良Tn火山灰(AT)の14C年代。第四紀研究, 26, p.79-83.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦(1993)四国沖ピストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討—タンデロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の14C年代。地質雑, 99, p.787-798.
- 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井 神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.
- 早田 勉(1996)関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.
- 友廣哲也(1988)古式土師器出現期の様相と浅間山C軽石。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p.325-336.
- 若狭 徹(2000)群馬の弥生土器が終わるとき。かみつげの里博物館編「人が動く・土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

4. 上新田中道東遺跡Ⅷ区の自然科学分析

1. 土層とテフラ

1. はじめに

関東地方北西部の平野部には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログなどに収録されており、遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには遺物や遺構の層位や年代などがわかるようになっていく。

上新田中道東遺跡の発掘調査区でも、層位や年代が不明な土層が認められたことから、地質調査を実施して土層やテフラの記載を行うとともに、採取した試料を対象にテフラ検出分析と火山ガラスの屈折率測定を実施して、土層の層序や層位さらに年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、Ⅷ区南西地点である。

2. 土層の層序

Ⅷ区南西地点では、下位より灰色粘土層(層厚1cm以上)、暗灰色砂質土(層厚7cm)、黒泥層(層厚6cm)、黄灰色細粒火山灰層ブロックを含む暗灰色泥層(層厚3cm)、暗灰色粘質土(層厚11cm)、白色軽石を多く含む灰褐色砂層(層厚6cm、軽石の最大径5mm)、細粒の白色軽石を含み若干色調が暗い灰褐色土(層厚14cm、軽石の最大径2mm)、垂円礫に富む灰色砂層(層厚29cm、礫の最大径168mm)、黄色土ブロック混じり灰褐色表土(層厚15cm)が認められる(第283図)。これらのうち、灰褐色砂層中とその上位の土層に含まれている白色軽石については、岩相から1783(天明3)年に浅間火山から噴出した浅間A軽石(As-A, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に由来すると考えられる。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

Ⅷ区南西地点で採取された3試料について、テフラ粒子の相対的な特徴を把握するテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料8gを秤量後、超音波洗浄装置を用いながらいてぬいに泥分を除去。
- 2) 80℃で恒温乾燥。
- 3) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や色調などを観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第16表に示す。Ⅷ区南西地点では、試料3からスポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石(最大径2.2mm)と、その細粒物である灰白色の軽石型ガラスを比較的多く検出した。その上位の試料2には、この灰白色の軽石型ガラスが少量含まれている。これらの試料では、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が多く、角閃石は認められない。一方、試料1のテフラ層には、さほど発泡の良くない白色の軽石型ガラスが比較的多く含まれている。また、重鉱物として角閃石や斜方輝石が目立つ。

第16表 上新田中道東遺跡におけるテフラ検出分析結果

地点名	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
Ⅷ区南西地点	1	**			pm	白	
	2	*			pm	灰白	
	3	*	灰白	2.2	**	pm	灰白

***: とくに多い, **: 多い, *: 中程度, **: 少ない, 最大径の単位は, mm, bw: パブル型, md: 中間型, pm: 軽石型。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

Ⅷ区南西地点の試料1に含まれる火山ガラスの屈折率(n)を測定し、試料が採取されたテフラ層と指標テフラとの同定精度の向上を図った。測定には、温度変化型屈折率測定装置(古澤地質社製MA10T)を使用した。

(2) 測定結果

測定結果を第17表に示す。Ⅷ区南西地点の試料1に含まれる火山ガラス(26粒子)の屈折率(n)は、1.501-1.503である。

第17表 上新田中道東遺跡における火山ガラスの屈折率測定結果

地点名	試料	屈折率(n)	測定点数
8区南西地点	1	1.501-1.503	26

屈折率の測定は温度変化型屈折率測定装置(MA10T)による。

5. 考察

テフラ検出分析で認められたテフラ粒子のうち、灰白色軽石やその細粒物である灰白色軽石型ガラスについては、その特徴から4世紀初頭に浅間火山から噴出したと推定されている浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000)に由来すると考えられる。試料3にこのテフラ起源の粒子が比較的多く含まれているものの、一次堆積層とは考えにくい。

また、試料1のテフラ層に含まれる白色軽石やその細粒物である白色の軽石型ガラスは、火山ガラスの屈折率を含めたその特徴から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。したがって、試料1が採取されたテフラ層はHr-FAと考えられる。ただし、このテフラ層もブロック状に含まれていることから、堆積後に耕作など何らかの攪乱作用を受けていると推定されよう。

6. まとめ

上新田中道東遺跡において、地質調査による土層記載と試料採取、さらにテフラ検出分析と火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、下位より浅間C軽石(As-C, 4世紀初頭)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間A軽石(As-A, 1783年)のテフラ層やテフラ粒子を検出できた。

文献

- 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.
 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質. 地団研専報, no.45, 65p.
 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.
 友廣哲也(1988)古式土師器出現期の様相と浅間山C軽石. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p.325-336.
 若狭 徹(2000)群馬の弥生土器が終わるとき. かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

II. プラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO₂)が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで水田跡(稲作跡)の検証や探査が可能である(藤原・杉山, 1984, 杉山, 2000)。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。

2. 試料

分析試料は、Ⅷ区南西地点から採取された2点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法(藤原, 1976)を用いて次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)。
- 2) 試料約1gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)。
- 3) 電気灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射(300W・42kHz・10分間)による分散。
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成。
- 7) 鏡検・計数。

計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10-5g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる(杉山, 2000)。

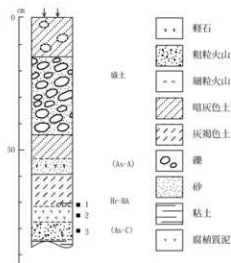
4. 分析結果

プラント・オパール分析では、イネ、ムギ類(類の表皮細胞)、ヒエ属型、ヨシ属、スキ属型、タケ亜科の主要な6分類群について同定・定量を行っている。分析結果を第18表および第283図に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を写真図版に示す。

5. 考察

(1) 水田跡(稲作跡)の検討

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山, 2000)。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

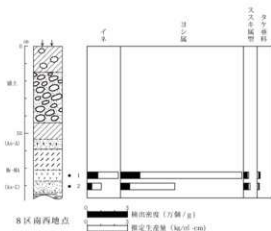


第283図 Ⅷ区南西地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

第18表 上新田中道東遺跡におけるプラント・オパール分析結果

検出密度(単位: ×100個/g)		8区南西地点	
分類群	地点・試料 学名	1	2
イネ	<i>Oryza sativa</i>	80	36
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	145	65
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	29	36
タケ亜科	Bambusoideae	22	15

推定生産量(単位: kg / ml・cm)		8区南西地点	
分類群	地点・試料 学名	1	2
イネ	<i>Oryza sativa</i>	2.34	1.07
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	9.15	4.12
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	0.36	0.45
タケ亜科	Bambusoideae	0.10	0.07



第28図 上新田中道東遺跡におけるプラント・オパール分析結果

Ⅷ区南西地点では、Hr-FA直下層(試料1)とその下位のAs-C混じりの土層(試料2)について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。このうち、Hr-FA直下層(試料1)では密度が8,000個/gと高い値であり、その下層(試料2)でも3,600個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

(2) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。イネ以外の分類群では、各層ともヨシ属が比較的多く検出され、ススキ属型やタケ亜科は少量である。おもな分類群の推定生産量によると、ヨシ属が優勢であり、とくにHr-FA直下層で多くなっている。

以上のことから、各層準の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。なお、Hr-FA直下層ではとくにヨシ属が多く見られることから、水田雑草などとしてヨシ属が生育していたことや、休閑期間中にヨシ属が繁茂していたこと、施肥などの目的でヨシ属が水田内に持ち込まれたことなどが想定される。

6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、Ⅷ区南西地点のHr-FA直下層とその下層ではイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。各層準の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。

文献

- 杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール)、考古学と植物学、同社、p.189-213。
 藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—、考古学と自然科学、9、p.15-29。
 藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—、考古学と自然科学、17、p.73-85。

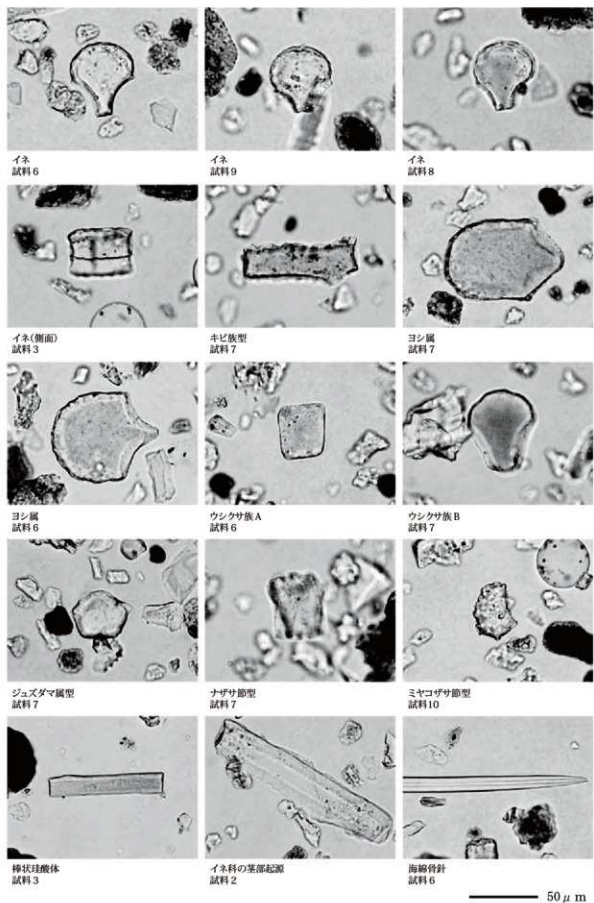


写真3 上新田中道東遺跡Ⅱ区の植物珪酸体(プラント・オパール)

5. 上新田中道東遺跡の大型植物遺体同定

1. はじめに

上新田中道東遺跡は群馬県佐波郡玉村町に位置する複合遺跡である。ここでは古墳時代前期の土坑や中世以降の井戸や溝から取り上げられた大型植物遺体を同定し、食用などに利用された植物あるいは周辺植生について検討する。

2. 試料と方法

試料は発掘調査現場で取り上げられた選別済みの試料である。試料数は6試料で、内訳はⅡN区4面8号土坑出土が3試料、ⅢN区4面1号井戸出土が1試料、同区4面包含層出土が1試料、ⅢS区3号溝内3ビット出土が1試料である。遺構の時期は出土土器型式およびテフラから8号土坑が古墳時代前期(4世紀代)、1号井戸と3号溝が中世以降、包含層出土が時期不明(おそらく古墳時代以降か)である。

大型植物遺体の抽出および同定は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。同定された試料は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団で保管している。

3. 結果

同定の結果、木本植物では広葉樹のオニグルミ核とブナ殻斗、モモ核・炭化核、ブドウ属種子の4分類群、草本植物のヒョウタン仲間種子とオナモミ炭化果実(果苞)、イネ炭化種子(玄米)の3分類群の計7分類群が見いだされた。この他に識別点を欠く同定不能種実が得られた(第19表)。炭化材片は検討の対象外とした。

遺構ごとに種実遺体の産出傾向を記載する(同定不能炭化種実を除く)。

ⅢN区4面1号井戸：モモ核が1点得られた。

ⅢN区4面包含層：オニグルミ核が1点得られた。

ⅡN区4面8号土坑：イネ炭化種子(玄米)が7点とやや多く、モモ核・炭化核とブドウ属種子、ヒョウタン仲間種子、オナモミ炭化果実(果苞)がわずかに得られた。モモ炭化核は破片3点で、1点は1/2個体程度、2点は1/2個体未満で別個体である。ヒョウタン仲間種子は破片をあわせても1/2個体未満である。

ⅢS区3号溝内3ビット：ブナ殻斗が1点得られた。

以下に、種実遺体を記載する。また1分類群につき最低1点の写真を示して同定の根拠とする。

第19表 上新田中道東遺跡出土の大型植物遺体(括弧は破片を示す)

分類群	No.	18		19		20		21		22		23	
		ⅢN		ⅢN		ⅢN		ⅢN		ⅢS		ⅢS	
		47				4							
		出上遺構		1号井戸		包含層		8号土坑		3号溝内3ビット			
		部位/時期		中世以降		不明		古墳時代前期		中世以降			
オニグルミ	核			1									
ブナ	殻斗												1
モモ	核	1								1			
	炭化核						(1)				(3)		
ブドウ属	種子						(1)						
ヒョウタン仲間	種子												(3)
オナモミ	炭化果実(果苞)					1							
イネ	炭化種子(玄米)					6		1					
同定不能	炭化種実						(3)		(1)				

(1) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *steboldiana* (Maxim.) Makino 核 クルミ科

黄褐色で、側面観は広卵形。緻密で硬い。表面に縦方向の縫合線があり、本来浅い溝と凹凸が不規則に入るが、表面が摩滅しておりはっきりしない。上面にげっ歯痕が残る。残存長24.0mm、幅21.3mm、厚さ21.3mm。

(2) ブナ *Fagus crenata* Blume 殻斗 ブナ科

暗褐色で、殻斗は割れると同じ大きさの4片の殻斗片からなる。裂片は高さ10mm以上で柄は短い。裂片上部には太い鱗片がある。長さ23.7mm、幅12.3mm。

(3) モモ *Amygdalus persica* L. 核・炭化核 バラ科

淡褐色?茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。また片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。未炭化核の側面観は長楕円形で長さ25.9mm、幅20.2mm、厚さ14.2mm。炭化核の側面観は円形に近い楕円形で復元長17.6mm、復元幅13.6mm。

(4) ブドウ属 *Vitis* spp. 種子 ブドウ科

茶褐色で、上面観は楕円形、側面観は破片であるが本来は先端が尖る卵形。腹面の約1/2が残存している。本来は背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面には縦方向に2本の深い溝がある。種皮は薄く硬い。長さ3.8mm、残存幅2.3mm。

(5) ヒョウタン仲間 *Lagenaria siceraria* (Molina) Standl. 種子 ウリ科

やや淡黄褐色~褐色で、上面観は扁平、側面観は逆三角形。やや湾曲して左右は非対象、本来ならば先端はW字状で、基部から先端まで、浅く広い溝が2本走るが観察できない。壁はややスポンジ質。最大の破片で、残存長8.5mm、残存幅2.3mm。

(6) オナモミ *Xanthium strumarium* L. 炭化果実(果苞) キク科

側面観は卵形。頂部に2本のやや大きめの刺があるが、途中で折れている。表面にはまばらに長さ1.0~2.0mmの刺がある。表面は硬く光沢がある。長さ10.7mm、幅6.1mm。

(7) イネ *Oryza sativa* L. 炭化種子(玄米) イネ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の2本の浅い溝があり、中央がやや盛り上がる。写真の個体には胚がわずかに残存する。長さ4.6mm、幅3.1mm。

4. 考察

古墳時代前期(4世紀代)のⅡN区4面8号土坑からは栽培植物のモモとイネ、ヒョウタン仲間が得られた。モモとイネは炭化していることから、貯蔵時や調理・加工時などに炭化し、土坑内に廃棄したかまたは周辺から自然堆積した可能性がある。モモは未炭化の個体は長楕円形で、長さ25.9mmと大きかったのに対し、炭化した個体は復元長17.6mmと小さく、かつ円形に近い形状であった。山梨県内の遺跡から出土するモモ核の大きさや形状を検討した新津健(1999)によると、弥生時代のモモは丸味が強いものが多い傾向があり、平安時代から戦国時代にかけては長めのものとなる傾向が指摘されている。本遺跡のモモ核は数点の出土であり、傾向は見いだせないが、古墳時代前期に少なくとも丸くて小さなタイプと長くて大きなタイプが確認された。なお、中世以降の1号井戸から出土した未炭化のモモは長細いタイプで長さ24.2mm、幅17.7mm、厚さ12.6mmであった。また8号土坑からは野生植物であるが食用可能なブドウ属種子がわずかに得られた。オナモミは食用には利用できないが、薬用に利用可能である。しかし、人間による利用の痕跡はみられなかった。オナモミは道端に生育し、人間や動物に付着して移動する随伴植物であり、何らかの要因で炭化して土坑内に入ったと考えられる。同定は行っていないが、本土坑からは炭化材料が複数得られた。

中世以降の遺構である1号井戸からは栽培植物のモモ核、3号溝内3ピットからはブナ殻斗が1点得られた。殻斗は利用しない部位であることから、ブナが遺跡周辺に生育していたと考えられるが、遺跡立地は平野部に位置する低地であり、普通冷温帯に生育するブナが遺跡周辺に生育していたとは考えにくい。

時期不明のⅢ N 4 面包含層からはオニグルミ核が1点得られた。オニグルミは上部からネズミ類による食痕が確認できた。

引用文献

新津 健(1999)遺跡から出土するモモ核について—山梨県内の事例から—, 山梨考古学論集 I V, 361-374, 山梨県考古学協会.



スケール 1-4,7:5mm,5,6,8:1mm

写真4 上新田中道東遺跡出土の大型植物遺体

- 1, オニグルミ核(No.19), 2, ブナ殻斗(No.23), 3, モモ核(No.18), 4, モモ炭化核(No.18), 5, プドウ属種子(No.20),
6, ヒョウタン仲間種子(No.20), 7, オナモミ炭化果実(果苞) (No.20), 8, イネ炭化種子(玄米) (No.20)

6. 上新田中道東遺跡から出土した棒状遺物の材質分析

1. はじめに

上新田中道東遺跡は、群馬県佐波郡玉村町に所在する遺跡で、古墳時代や平安時代あるいは江戸時代の遺構・遺物が検出される複合遺跡である。調査では、古墳時代前期の土坑からS字状口縁台付甕とともに、硬質の棒状遺物が出土した。この棒状遺物は、やや弧状に曲がった丸棒状を呈し、側面には植物特有の細胞組織が見られた。

ここでは、この棒状遺物の材質について検討した。また、組織構造について森林総合研究所の能城修一氏、東北大学学術資源研究公開センター植物園の鈴木三男氏のご助言をいただいた。

2. 試料と方法

検討した試料は、古墳時代前期のⅡN区4面8号土坑から出土した棒状遺物1点である(図版1-1f)。はじめに、マイクロスコープを用いて表面形態について観察し、写真撮影を行った。さらに、棒状遺物の中央部付近において手術メスを用いて切断した後、カミソリを用いて断面組織の切片を作製し、ガムクロラールに封入して永久プレパラートを作製した。プレパラートは、光学顕微鏡を用いて断面の記載を行った後、写真撮影を行った。なおプレパラートは、パレオ・ラボに保管されている。

3. 結果

この棒状遺物は、やや弧状に曲がった丸棒状を呈し、長さが約21cm、直径が0.8～1.3cm、端部は一方が湾曲した面ともう一方が破断面からなる(図版1-1f)。

マイクロスコープで観察した結果、側面において植物由来と考えられる細胞状の線状組織が見られた(図版1-1e)。また、曲面を呈する端部の観察では、根状あるいは塊状物の付着物が見られた(図版1-1d)。

光学顕微鏡を用いた断面のプレパラート観察では、泡状の空洞が周辺に向かって径を減じて配列していた(図版1-1a～1c)。なお、木材に見られる道管などの組織や果柄などに見られる維管束などは観察されなかった。

なお、当初の肉眼観察では、ユウガオなどの大型果実を支える果柄の可能性が考えられたため、現生のユウガオの果柄と果実について組織観察を行った。なお、現生標本は、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の桜岡氏(2010年採集)から提供していただいたユウガオの果柄および果皮である。

(1) 棒状遺物 図版1 1a-1f

横断面では道管はなく、気泡状の空洞が密に散在する。中心部にむかって大きく、外側にむかって小さくなる傾向がある。

(2) ユウガオ *Lagenaria siceraria* (Molina) Standl. var. *hispida* (Thunb.) H.Hara ウリ科 図版2 2a(果柄)・2b-2c(果皮)

果柄横断面：内外両側に筋部があり、木部を挟む外筋部並立維管束が環状に配列する真正中心柱を有する双子葉植物の果柄である。

果皮横断面：横断面では外側から厚壁細胞の厚壁組織、その内側の薄壁組織がみられる。接線断面では多面体の柔細胞がみられる。

ユウガオはつる性の1年草で、熱帯アフリカが原産と考えられる栽培植物である。熟すと果皮は硬化するため、液体容器に利用され、若い果肉は食用とされる。

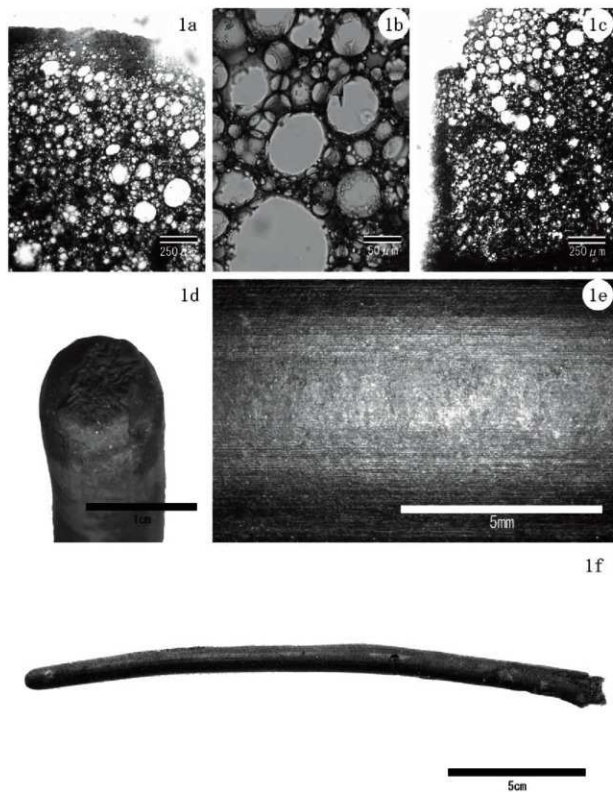


写真5 上新田中道東遺跡出土棒状遺物の光学顕微鏡写真・実体顕微鏡写真

1a-1f. 棒状遺物

(a)：横断面，b)：横断面拡大，c)：接線断面，d)：端部拡大写真，e)：側面拡大写真，f)：全体写真

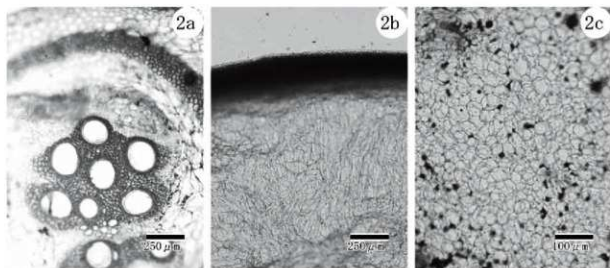


写真6 現生ユウガオの光学顕微鏡写真

2a-2c. ユウガオ

(a : 果柄横断面, b : 果実横断面, c : 果実横断面拡大)

4. 考察

やや弧状に曲がった丸棒状を呈する棒状遺物は、表面の形態観察および断面構造の観察から、泡状の空洞が周辺に向かって径を減ずる構造を示し、ユウガオの果柄に見られる組織構造とは異なっていた。なお、表面形態は、植物由来と思われる細胞状の線状組織が見られた。

以上のことから、この棒状遺物は、内部において植物組織を持たないことから、植物遺体とは考えられない。

7. 上新田中道東遺跡から出土した棒状遺物の赤外分光分析

1. はじめに

群馬県佐波郡玉村町に位置する上新田中道東遺跡の調査では、古墳時代前期の土坑内から表面に植物組織の圧痕を残す棒状遺物が検出された(棒状遺物の材質分析の図版1-1f参照)。同一の棒状遺物について、横断面の光学顕微鏡下による組織観察の検討を行ったが、植物組織は観察されなかった。断面のプレパラート観察では、多数の気泡を伴う固結発泡した生成物で、有機物と推定された(棒状遺物の材質分析の項を参照)。ここでは、棒状遺物の材料を検討するため、有機質材料の同定に有効な赤外分光分析を行い、棒状遺物の材料を検討し、形態について現生標本との比較を行った。なお、現生のタケ類は、富士竹類植物園に現生標本を提供していただいた。記して感謝申し上げます。

2. 試料と方法

試料は、古墳時代前期のⅡN区4面8号土坑から出土した棒状遺物1点である(第20表)。なお、この土坑は、深さ約1.2mの井戸状遺構である。試料は丸い棒状で、直径は最も太い部分で1.2cm、全長は21.3cmであり、やや弓状に曲がっている。端部は、一方は破断しているが、他方は丸みがある。表面には、植物組織様の圧痕が見られた(棒状遺物の材質分析の図版1-1e参照)。

第20表 分析を行った棒状遺物とその詳細

試料No	遺物名	遺物No	時期	遺構	形状の特徴	その他
1	棒状遺物	ⅡN区	4面	8号土坑	最大直径1.2cm,全長は21.3cm,弓状湾曲	黒褐色,表面に植物組織様の圧痕

分析は、棒状遺物の材料を調べるために赤外分光分析を行った。試料は、切断面において手術用メスを用いて薄く削り取った後、押しつぶして厚さ1mm程度に裁断した臭化カリウム(KBr)結晶板に挟み、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計(日本分光製FT/IR-410、IRT-30-16)を用いて透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

3. 結果および考察

赤外分光分析を行った結果、生漆(市販品)の吸収ピークに近いスペクトルが得られた(図版1-3)。なお、実線が棒状遺物の成分を示し、点線は生漆の成分である。図中の数字は、生漆の主な吸収位置である(第21表)。試料には、漆の成分であるウルシオール(No. 6~8)に近い吸収が見られた。なお、この棒状遺物は、植物遺体ではなく硬質物であることから、変質が少ない安定した成分で構成されていると推定される。

第21表 生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収No	生漆		ウルシ成分
	位置	強度	
1	2925.48	28.534	
2	2854.13	36.217	
3	1710.55	42.035	
4	1633.41	48.833	
5	1454.06	47.195	
6	1351.86	50.803	ウルシ-6
7	1270.86	46.334	ウルシ-6
8	1218.79	47.536	ウルシ-6
9	1087.66	53.843	
10	727.03	75.389	

類似した棒状遺物は、埼玉県本庄市の平成22年度、久下前遺跡A2地点の調査において、古墳時代の溝から出土している^[注1]。この遺物は、上新田中道東遺跡の棒状遺物と同様に表面に植物組織様の圧痕が見られ、残存直径もほぼ同じである。なお、この遺物は、表面にタケ類の稈のような組織が残存していたことから、タケ類の稈内で固結した生成物と推定された。

タケ類の稈は、ヤダケ(*Pseudosasa japonica* Makino:伊豆半島海岸部採取)やヒメハチク(*Phyllostachys bambusoides* Sieb.et Zucc.:富士竹類植物園採取)などを半切して観察すると、節を挟んで伸長方向の下側では丸みのある形態を呈するが、上側では段を伴って突出した形態を呈する(図版1-1b, 2b)。また、内面においても、薄皮下に棒状遺物の外面にみられるのと同様の短冊状の長細胞が観察される(図版1-1c, 2c)。上新田中道東遺跡の棒状遺物は、丸みのある残存する部分がタケ類の稈の伸長方向の下側部分の形状に酷似する。

このような遺跡出土の棒状遺物と同様の形状を持つタケ類のうち、古墳時代において利用可能なタケ類としては、前述のヤダケとメダケ(*Pseudosasa simonii* Nakai)などが考えられる。ヤダケは、稈長3~4m、直径1cm、節間長30cmと通直で長い。メダケは、稈長5~6m、直径2~3cmである。いずれも関東以西の河川敷などに普通に見られる(内村, 2010)。

以上の点から、棒状遺物は液状でタケ類の稈の中に入れられ、外側のタケ部分は風化した状態で出土したと考えられる。

4. おわりに

古墳時代前期のⅡN区4面8号土坑から出土した棒状遺物について赤外分光分析を行った。その結果、生漆に近いスペクトルが得られた。なお、この棒状遺物は、遺物の残存状況から、変質しにくい安定した成分で構成された生成物と考えられた。

また、形態的には、タケ類の稈の内部形態および内部の表面構造に類似していることから、タケ類の稈内で固結した生成物と推定された。なお、材質や用途の有無についてはさらに検討が必要である。

引用文献

内村悦三(2010)タケ・ササ図鑑～種類・特徴・用途～、219p、創森社。

注1)埼玉県本庄市から出土した棒状遺物の記載は、本庄市教育委員会のご厚意によるものである。

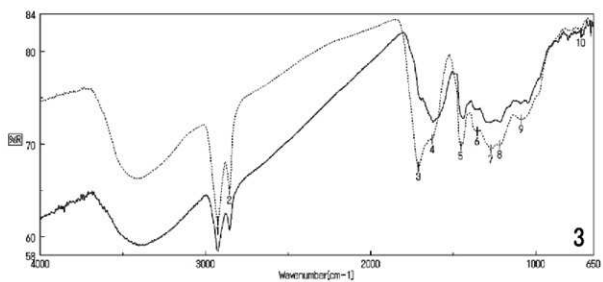
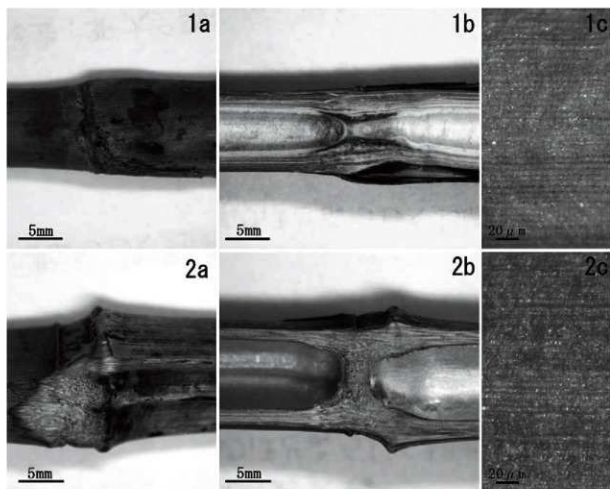


写真7 現生タケ標本の表面・内部形態と棒状遺物の赤外分光スペクトル図

- 1a, ヤダケの表面(右伸長方向)、1b, ヤダケの内部(右伸長方向)、1c, 内面の組織
 2a, ヒメハチクの表面(右伸長方向)、2b, ヒメハチクの内部(右伸長方向)、2c, 内面の組織
 3, 棒状遺物の赤外分光スペクトル図(縦軸は透過率、横軸が波数を示す)

実線：棒状遺物、点線：生漆

8. 上新田中道東遺跡出土獣骨

はじめに

上新田中道東遺跡は、群馬県佐波郡玉村町上新田に所在する。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、2004(平成16)年4月～2005(平成17)年3月まで実施された。

本遺跡では、主に、古墳時代前期の住居・方形周溝墓・掘立柱建物・土坑・ピット・溝、平安時代から中世の水田、近世の災害復旧の土坑等が検出されている。

本遺跡の、1区からIV区に主に溝から馬歯を中心とした獣骨が出土したので、以下に報告する。なお、本遺跡の調査区は1区からIX区までであるが、V区からIX区では獣骨は検出されていない。また、本遺跡の中央部の調査は別途実施されているため、北側の区をN区・南側の区をS区としている。したがって、以下の「N」及び「S」は、それぞれ「北」及び「南」を意味する。なお、本稿に記載した遺構面呼称は調査時のままである。

各区に共通して、0面は浅間A軽石復旧溝・1面は浅間Bテフラ下水面水田・2面は浅間Bテフラ下位の洪水層下面・3面は浅間C混土上位の黒褐色土面・4面は浅間C混土下位の灰黄色砂質土上面を意味する。

浅間A軽石は天明3(1783)年に、浅間B火山灰は天仁元(1108)年に、浅間C軽石は4世紀中葉に、浅間山が噴火したことによる降軽石及び火山灰である。調査面の時代は、2面及び3面は平安時代、4面は古墳時代前期に比定される。

馬(ウマ)の年齢区分は、1歳～5歳を幼駒馬・6歳～16歳を牡駒馬・17歳以上を老駒馬とした。また、馬歯の計測方法は、フォン・デン・ドリッシュ(von den Driesch, 1976)に従った。さらに、ウマの性別は、犬歯の有無及び寛骨の形態で判定するが、今回、犬歯及び寛骨は出土しなかったため、性別を推定できたものはなかった。

1. 1区出土獣骨

1区では、N・0面29号溝とS・1面81-C-16G,同91-C-16G,同91-D-6Gから獣骨が出土している。なお、1面の表面採集で1点が出土しているが、破片であるため詳細は不明である。

(1) N・0面29号溝 [2004年8月26日出土]

29号溝は、1区の東端部を南北に走行している。残念ながら、正確な出土位置は不明である。

獣骨は、歯1本分の破片であると推定される。恐らく、ウマ(*Equus caballus*)の上顎左M3(第3大白歯)であると推定されるが、破片であるため確かではない。

本馬歯の性別は不明、死亡年齢は頬側歯冠高が約29mmであるので、約13歳前後の牡駒馬であると推定される。

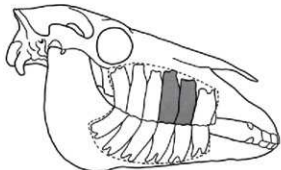
(2) S・1面81-C-16G [2004年8月3日出土]

1区のほぼ中央を北西から南東にかけて走行する18号溝の中央部近くのグリッドから出土している。

獣骨は、ウマ(*Equus caballus*)の上顎白歯3本である。馬歯の色と形態が似ているので、同一個体であると推定される。また歯種は、接着復元の結果、上顎右P3(第3小白歯)・同P4(第4小白歯)及び上顎左P4(第4小白歯)であると推定される。



写真8 1区S・1面81-C-16G出土馬歯(頬側面観)



第285図 1区S・1面81-C-16G出土馬歯出土部位図(右側面)

性別は不明である。歯冠高より、死亡年齢は幅を持たせて約6歳から7歳の牡馬であると推定される。

(3) S・1面91-C-6G [2004年8月3日出土]

91-C-166は、1区のはば東端部に位置する。このグリッドからは、獣歯片が8点出土している。いずれも破片であるため、確かではないが、恐らく、ウシ(*Bos taurus*)の歯であると推定される。

しかしながら、破片であるため、歯種・個体数・性別・死亡年齢は不明である。

(4) S・1面91-D-6G [2004年8月3日出土]

91-D-6Gからは、破片が1点出土している。いずれも破片であるため、確かではないが、恐らく、ウシ(*Bos taurus*)の歯であると推定される。

しかしながら、破片であるため、歯種・個体数・性別・死亡年齢は不明である。

2. II区出土獣骨

II区では、N・2面の表面採集で獣骨が1点、2004年6月21日に出土している。

ウマ(*Equus caballus*)の右下顎歯片である。破片であるので、歯種は不明であるが、形態から少なくとも、P3・P4・M1・M2のいずれかであると推定される。なお、性別及び死亡年齢は不明である。

3. III区出土獣骨

III区では、N・1面水田耕土及び1面表面採集、N・1面18号溝、N・2面29号溝、N・2面30号溝から獣骨が出土している。

(1) N・1面水田耕土 [2004年6月16日出土]

ウマ(*Equus caballus*)の歯の破片が出土している。上顎歯片であると推定されるが、破片であるため、歯種・性別・死亡年齢は不明である。

(2) N・1面表面採集

ウマ(*Equus caballus*)の歯の破片が出土している。下顎歯片であると推定されるが、破片であるため、歯種・性別・死亡年齢は不明である。

(3) N・1面18号溝 [2004年5月25日出土]

ウマ(*Equus caballus*)の下顎右大白歯3本(M1~M3)が解剖学的位置を保って出土している。また、下顎骨の一部も残存しているので、下顎歯が植立した状態で埋没し

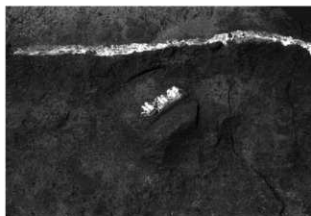
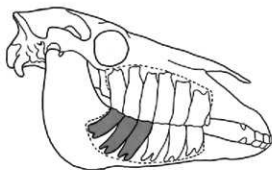


写真9 III区N・1面18号溝出土馬歯出土状況



写真10 III区N・1面18号溝出土馬歯(傾側面観)



第286図 III区N・1面18号溝出土馬歯出土部位図(右側面)

たものと推定される。

3本共に、同一個体で、性別は不明である。歯冠高より、死亡年齢は約13歳から14歳の牡馬であると推定される。

(4) N・2面29号溝 [2004年6月18日出土]

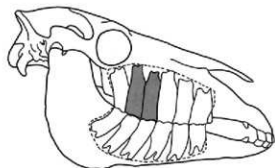
極小破片のみで、種名・性別・死亡年齢等、不明である。

(5) N・2面30号溝 [2004年6月11日出土]

ウマ(*Equus caballus*)の、上下顎歯片である。しかしながら、破片が多いため、計測が可能であったのは、上顎



写真11 III区N・2面30号溝出土馬歯(頰側面観)



第287図 III区N・2面30号溝出土馬歯出土部位図(右側面)

右M 1(第1大白歯)及びM 2(第2大白歯)のみである。

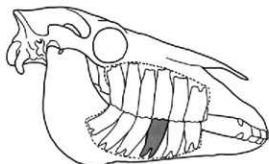
上下白歯は、1個体で、性別は不明である。歯冠高から、死亡年齢は約10歳の牡馬であると推定される。

4. IV区出土獣骨

IV区では、N・1面から獣骨が1点出土している。ウマ(*Equus caballus*)の、下顎右P 4(第4小白歯)であると推定される。性別は不明で、死亡年齢は歯冠高より、約6歳の牡馬であると推定される。



写真12 IV区N・1面出土馬歯(頰側面観)



第288図 IV区N・1面出土馬歯(右側面)

まとめ

上新田中道東遺跡のI区からIV区から、獣骨が出土した。まとめは、以下の表23を参照されたい。水田や河川の遺跡であることから、農耕祭祀・祈雨祭祀に伴う殺馬儀礼である可能性が高い。

第22表 上新田中道東遺跡出土獣骨リスト

区名	面	遺構名	種名	性別	死亡年齢	
I区	N	0面	29号溝	馬歯	不明	約13歳
	S	1面	81-C-16G	馬歯	不明	約6~7歳
	S	1面	91-C-6G	牛歯?	不明	不明
	S	1面	91-D-6G	牛歯?	不明	不明
II区	N	2面	表面採集	馬歯	不明	不明
III区	N	1面	水田研上	馬歯	不明	不明
			表面採集	馬歯	不明	不明
	2面	18号溝	馬歯	不明	約13~14歳	
			29号溝	不明	不明	不明
S		30号溝	馬歯	不明	約10歳	
IV区	N	1面	表面採集	馬歯	不明	約6歳

第23表 上新田中道東遺跡出土馬歯計測値

区名	遺構	歯種	MD	BL
I区	81-C-16G	上顎右P3	(24 mm)	(25 mm)
		上顎右P4	(25 mm)	(25 mm)
III区	N1面18号溝	下顎右M1	(25 mm)	(15 mm)
		下顎右M2	(24 mm)	(13 mm)
	N2面30号溝	下顎右M3	(31.5 mm)	(12 mm)
		上顎右M1	23 mm	25 mm
IV区	N1面	上顎右M2	23 mm	24 mm
		下顎右P4	破損	(16 mm)

引用文献

von den DRIESCH, Angela 1976 "A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites". Peabody Museum, Harvard University

謝辞

本遺跡出土獣骨を報告する機会を与えていただき、考古学的情報を与えていただいた、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の小島敦子氏に感謝いたします。

9. 上新田中道東遺跡出土骨類の同定

上新田中道東遺跡Ⅱ区中央区で平成22年度に出土した骨類を同定した結果は、下記の通りである。調査した骨類は2点で、ともに上新田中道東遺跡Ⅱ区中央区Ⅲ層中から出土した。Ⅲ層は、1108(天仁元)年に降した浅間Bテフラの軽石を多量に含む灰褐色土で、中世から近世前半にかけての時期に生成されたと考えられている土層である。両資料とも遺構に伴った出土状態ではない。

1. 上田中道東Ⅱ区Ⅲ層No. 5

種名：ウマ

部位：右上顎第3前臼歯

全体の形状、歯冠長、咬合面の傾斜などから右上顎第3前臼歯と判断される。舌側面が欠損している。

年令：4才

歯冠高すなわち咬耗度から西中川他(1991)に従って、4才の幼令馬と推定した。この若駒がなぜ死に至ったのか興味もたれるところである。

性別：不明

臼歯のみでは性別判定は不可能である。

馬格：中型在来馬相当

歯の計測値から日本の中型在来馬相当の馬格であると思われる。

2. 上田中道東Ⅱ区Ⅲ層No. 4

保存全長19.9mmの焼骨片で灰白色をしている。

種名：ヒト?

ヒトの可能性が高いが、確定できない

部位：肢骨

参考文献

西中川駿(1991)『古代遺跡出土骨から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書

第24表 上顎第3前臼歯計測値

歯冠長	歯冠幅	歯冠高	中附歯幅	咬合面の傾斜
29.4	20.4*	64.2	4.5	95°

単位:mm



写真13 Ⅱ区Ⅲ層出土馬歯



写真14 Ⅱ区Ⅲ層出土骨片

第9章 上新田中道東遺跡発掘調査の総括

1. 発掘調査の成果

上新田中道東遺跡は、これまで報告したように平成16年、20年、21年、22年と4次にわたる発掘調査を実施し、その調査によって前橋台地南部地域における地域史の一端を明らかにすることができた。概略を示せば下記の通りである。

上新田中道東遺跡では縄文時代および弥生時代の遺構は検出されなかったが、少量ながらも遺物が出土しており、これらの出土遺物によって遺跡周辺の縄文時代・弥生時代の状況を考える情報を得ることができた。

古墳時代の遺構は前期の集落の一部が四つの微高地上で検出された。特にⅢ区とⅥ区で検出された「周溝をもつ建物」⁽⁴¹⁾と当該期と推定される掘立柱建物からなる集落は、従来の集落研究に新しい視点が必要なることを示したといえよう。また、古墳時代中・後期の遺構は検出されなかったが、当該時期の特徴をもった土師器破片が少なからず出土している。玉村町地域にも古墳は多数分布していることから、古墳時代中・後期の集落が地域に存在することは明らかである。今後も集落検出への意識的な調査が必要であろう。

平安時代の遺構は発掘区東半部で9世紀後半～末と推定される洪水層が検出され、それに埋没した水路とその洪水層を踏み込んで耕作した水田痕跡が検出された。またその水田域西側の微高地縁辺には9世紀から10世紀にかけての竪穴住居8軒が検出された。上新田中道東遺跡の東側に隣接する斉田中耕地遺跡(文獻83)では同じ時期と推定される洪水層で直接埋まった水田面が検出されており、両遺跡の調査から平安時代後半期における水田耕作過程の一端を明らかにすることができた。

さらに、天仁元(1108)年、中世初期に降下した浅間Bテフラに埋没した水田とそれを踏み込んだ浅間B混土層下面検出の水田痕跡も重複して検出され、古代末から中世にかけての水田農耕の過程をたどることができる資料を得ることができた。

玉村町地域は近世には新たな用水系が整備され、新田開発が盛んに行われたことが文獻資料からわかっている

が、発掘調査では昭和時代の圃場整備直前まで使われた幹線用水路に関連する溝が各地点で検出されて、このことを具体的に示すとみられる資料を得ることができた。

本章では、以上のような成果の内容を時代ごとに詳述して、調査のまとめとしたい。さらに、個別テーマについて、本遺跡調査で明らかになった点や今後の課題について次項で述べる。

(1) 縄文時代の上新田中道東遺跡

上新田中道東遺跡では縄文時代の遺構は検出されなかった。遺物は遺構検出作業時や上層の遺構埋没土中から縄文土器6点、縄文時代のもので推定される石器40点、剥片25点が出土したのみである。石器の時期は明確にはしがないが、土器の時期は縄文時代中期の加曾利E式、後期の堀之内式であった。(第270～272図)

玉村町地域の縄文時代の周知の遺跡は非常に少なく、第2章で述べたように、福島曲戸遺跡(文獻68)、福島大光坊遺跡(文獻74)、上之手石塚Ⅲ遺跡(文獻18)で中期の、角刈城遺跡(文獻43)で前期の土坑が検出されているが、竪穴住居の検出は知られていない。他に福島飯塚遺跡(文獻78)、上新田新田西遺跡(文獻82)、上新田重土師遺跡(文獻84)などで少量の土器が出土しているのみである。これらの調査成果から、縄文時代には本地域は居住に不適な環境であったと推定されている。上新田中道東遺跡の調査成果からもこのことが追認されたといえよう。

しかし、上新田中道東遺跡では草創期の有茎尖頭器3点や石鏃28点が遺跡東半部に集中して出土した(第271図)。縄文時代の遺跡周辺は居住域としての土地利用は困難であったと推定されるが、狩猟等の活動が行われていたことが推定される。

(2) 弥生時代の上新田中道東遺跡

上新田中道東遺跡では弥生時代の遺構も検出されなかったが、遺構外や古墳時代前期遺構の埋没土中から、弥生土器11点が出土した(第269図)。その時期は中期中葉～後期である。主体は後期樽式土器であり、北総系と推定される後期外来系の弥生土器も出土した。

上新田中道東遺跡周辺では、弥生時代の遺跡も縄文時代と同様に少ないが、近年の調査で遺構が検出され始めている。上飯島芝根Ⅱ遺跡(文献46)で中期後半御新田式期の住居1軒、一万田遺跡(文献50)で中期後半の再葬墓1基、上之手塚Ⅲ遺跡(文献18)で土坑1基が検出された。また、福島塚遺跡(文献70)では御新田式等を含む中期後半から後期の土器が出土した。

これまでの調査成果で明らかのように、前橋市北西部や高崎市では榛名山麓、前橋台地・高崎台地上に、新保遺跡や日高遺跡をはじめとする弥生時代中期後半から後期の集落遺跡が数多く分布している。これに對比して玉村町地域の遺跡分布が希薄であることが特徴とされることが多いが、上記のような玉村町地域の弥生時代遺跡の最近の発見例は現水田下に埋没する弥生時代集落の存在を示唆している。今後の調査に期待するとともに、水系や農耕遺地といった、それぞれの地形面に即した水田農耕環境に留意した遺跡分布に注目する必要がある。古墳時代前期の集落を含めた、前橋台地の弥生時代の遺跡分布については、次節でまとめた。

(3) 古墳時代の上新田中道東遺跡

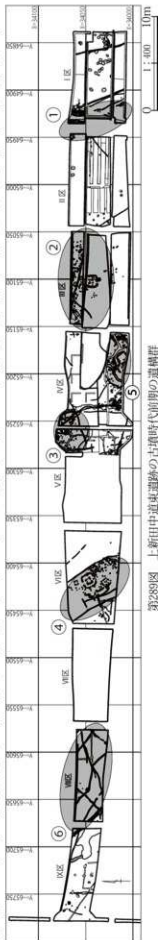
上新田中道東遺跡で検出された古墳時代の遺構・遺物は、点在する前期の集落と、中期から後期にかけての遺物である。上新田中道東遺跡の現況は低平な水田地帯であったが、古墳時代の遺構が検出されたⅣ層上面では微高地と周辺の後背低地が入り混じる地形となっており、微高地には居住域や墓域が、低地部には小河川跡や溝などが検出された。何らかの被覆土層があれば、低地部には水田面が検出されることが想定されるが、上新田中道東遺跡では、古墳時代の水田面は検出されなかった。しかし、地形の傾斜に直交する溝が数条検出されており、これらは農業水路の可能性があろう。

古墳時代前期の集落のうち居住域は、①Ⅰ区～Ⅱ区にかけての微高地、②Ⅲ区の微高地、③Ⅳ・Ⅴ区の北微高地、④Ⅵ区の微高地の4地点で検出された(第289図)。①では古墳時代前期の土坑が、②～④では多様性のある建物からなる集落の一部が発掘によって検出されたが、全体像を明らかにするまでにはいかなかった。また、⑤Ⅳ区の南微高地では方形周溝墓からなる墓域の一部が、⑥Ⅶ区からⅧ区にかけては低地部に掘られた溝が検出された。

古墳時代前期の土坑

①のⅠ区～Ⅱ区にかけての微高地では、隅丸方形の土坑が2基検出された(第267・268図)。これらの土坑からは完形もしくはそれに近い多数の土師器や杭等の木製遺物が出土した。周辺には建物や溝は検出されず、Ⅲ区集落ともやや離れた位置にある。このような完形の土器が出土する隅丸方形や円形の土坑は、Ⅲ区で2基、Ⅴ区でも3基検出されているが、こちらは周辺に建物や溝がある居住域内にあり、そこで機能していたと考えられる。Ⅰ・Ⅱ区の土坑は調査区内では集落から離れて位置しているが、発掘区の北側に居住域が展開する可能性もあることから、Ⅰ区・Ⅱ区の隅丸方形土坑も集落内にあり、同様な機能をもった土坑であった可能性を考えておきたい。一方、Ⅵ区でも同規模の土坑が4基検出されたが、井戸として記録した。これらには完形に近い土器は出土せず、形態もやや不整形形であることが異なっていたが、上新田中道東遺跡で検出された古墳時代前期の土坑にはいくつかの形態が認められたが、土坑の機能を発掘調査から判断することはできなかった。

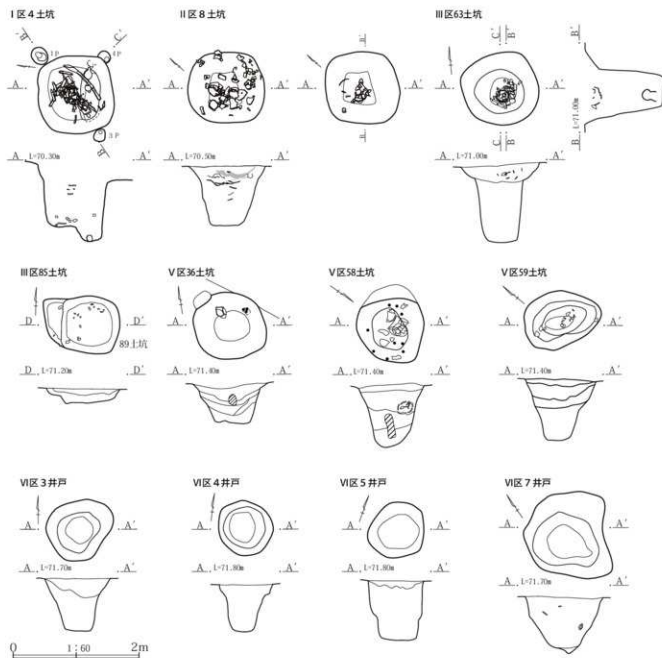
このような土器を多量に出土する土坑は玉村町地域



では複数例が認められ、墓塚の可能性と井戸・祭祀関連遺構との関連性が指摘されている。^(註10)また、前橋市南部の徳丸仲田遺跡(文献71)でも同様の土坑が検出されているが、井戸と考えられている。上新田中道東遺跡のI区・II区の2基の土坑の立地は、註14で指摘されたような墓域の周辺での検出かどうかは発掘区内の調査では明らかにすることができなかった。上新田中道東遺跡の例のなかでも遺物の出土状況や形態に違いが見られたことから、適正な分類が必要であり、このような土坑や井戸の機能の解明は今後の課題となろう。また、これまでこのような土坑の分布は井野川周辺に限られているとの見

方が強いが、形態や分布状況を再度県全体のなかで検討する必要があるだろう。

古墳時代前期の建物と集落 III区およびVI区の微高地上では、「周溝をもつ建物」を中心とし、周囲に掘立柱建物柱が取り巻くように集落の一部が検出された(第291・292図)。またIV区・V区の北側境界部では、小規模な竪穴住居と掘立柱建物が出検された(第292図)。いずれの区でも掘立柱建物からの出土遺物が限られており、建物の時期を確定することが困難であった。しかし少量ながらも掘立柱建物柱穴埋没土中からの出土遺物が古墳時代前期に限られること、柱穴埋没土が古墳時代前



第290図 上新田中道東遺跡の古墳時代前期の土坑・井戸

期遺構埋没土と共通することから、掘立柱建物が古墳時代前期である可能性が高いと考えられる。

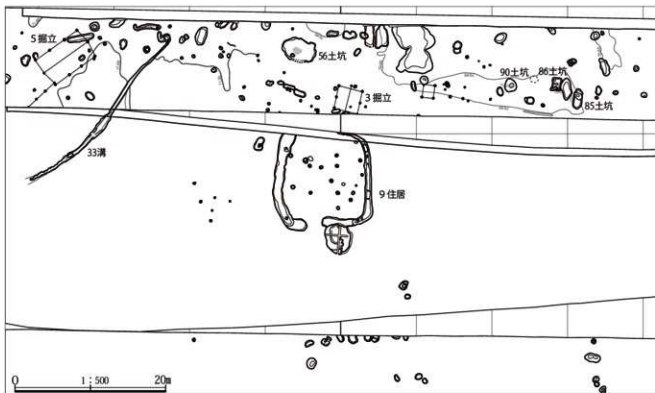
Ⅲ区では中央区に周溝をもつ建物である9号住居、西側に区画溝33号溝、北側に5棟の掘立柱建物と多数の土坑が検出された。掘立柱建物のなかに小規模ながら独立した棟持柱をもつ形態の建物(3号・5号掘立柱建物)が含まれていることが注目される。土坑は不定形のもが多く、分布に規則性はみられなかった。大型の56号・85号・86号・90号土坑には埋没土中に焼土が顕著に確認され、特殊な機能をもつ土坑と推定された(第291図)。

Ⅳ・Ⅴ区では西と南東部、北東部が溝で区切られ、ほぼ中央に小規模な1号住居と、周溝をもつ建物の可能性のある2号住居が検出された。2号住居の西側には軸方向が共通する41号溝がある。北西部で検出された38号溝は41号溝に直交する方向であり、39号溝もL字形で区画溝である可能性がある(第292図上)。この集落域のすぐ北側には、同時期の遺構群が検出された中道東遺跡(文献60)が、玉村町教育委員会によって調査されている。集落の広がりを示す可能性が高い。

Ⅵ区では南北に細長い微高地の東西縁を小規模な溝で区画し、中央部の微高地頂部に周溝をもつ建物である1号住居と掘立柱建物3棟が検出された。特に西側には古

墳時代前期の土器が多数投棄された14号・16号・18号溝や、弧状の区画溝21号溝があり、周溝をもつ建物を囲んでいるようにみえる。土坑は微高地南東縁に偏在していた(第292図下)。各区の集落内は小規模な溝で区画され、微高地の頂部に中心的な周溝をもつ建物が1棟あり、周囲に掘立柱建物と土坑がつくられるというパターンをもっているようにみえる。これらの遺構が同時にあったかどうかは建物の時期が確定できないことから厳密には明らかにできないが、重複する遺構はほとんど無いことから、古墳時代前期において関連して建てられた結果と推定される。

このような周溝をもつ建物や掘立柱建物が混在する古墳時代前期の集落は、群馬県内でこれまでに明らかにしている。それらを大別すると、前橋市徳丸仲田遺跡(文献71)や荒砥前田遺跡(文献92)のように1間×2~3間ほどの小規模な掘立柱建物数棟が竪穴住居群内に散在する遺跡と、太田市中溝Ⅱ遺跡・唐桶田遺跡(文献93)のように、竪穴住居と掘立柱建物と周溝のある建物が共存する遺跡、太田市中溝深町遺跡(文献94)のように大きな方形区画内にあり、四面庇を想定させる建物も検出された豪族居館と呼ばれる特殊な遺跡のように、多様性があることがわかっている。



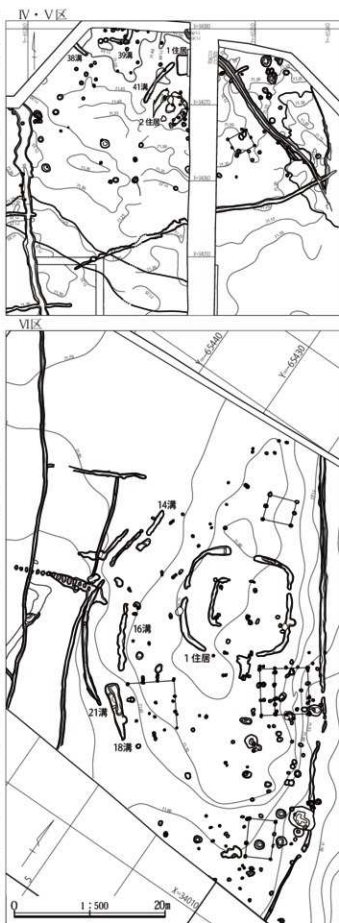
第291図 Ⅲ区の古墳時代前期の遺構

上新田中道東遺跡では、周溝をもつ建物と掘立柱建物
が共存しており、小規模ながら独立した棟持柱をもつ掘
立柱建物が含まれている。同様な様相が見える唐桶田遺
跡には隣接して豪族居館とされる中溝深町遺跡があり、
建物の組み合わせに重層的な様相が看取される。これま
で検出された古墳時代前期の集落では竪穴住居のみの集
落が多く認識されていたが、多様性のある遺構群の組み
合わせに複数の集落が束ねられた地域農耕社会の一端が
表れている可能性を考える必要がでてきたのであろう。

周溝をもつ建物は、玉村町地域を中心に群馬県内にも
類例があり、1999年の検討では形態と時期から「上之手
八王子遺跡型」と「三和工業団地型」の2種に分けられ、
背景が異なるものとされた。⁽¹¹⁵⁾ 2003年の集成では関連
資料も含めて7遺跡29遺構が挙げられている。⁽¹¹⁶⁾ こ
こでの検討では、周溝は主に、防水・防湿・排水機能を
果たしていたものと考えられており、11種に分けられる
多様性については東海・北陸・南関東各地から伝えられ
た設計法や工法が表れていると推定されている。上新田
中道東遺跡で検出された周溝をもつ建物は、Ⅲ区9号住
居、Ⅵ区1号住居ともに微高地の頂部にあり、特にⅥ区
の溝や掘立柱建物の遺構配置は周溝をもつ建物が主要な
遺構であった可能性をうかがわせるが、詳細は今後の課
題としたい。

また、古墳時代前期の建物には、竪穴住居・周溝をも
つ建物・掘立柱建物・平地式建物などがあつた。上新田
中道東遺跡の調査では集落の一部のみの調査であつたこ
とから、全体像をあきらかにすることはできなかった。
これらの形態の異なる建物群の個々の性格を明らかにす
るとともに、集落構成のなかでの重層性も考慮した考察
が今後は課題となろう。

一方、Ⅳ区では南東部微高地上に方形周溝墓が2基
検出された(第265図)。古墳時代前期の墓域は居住域に隣
接して造られていることをここでも追認することができ
た。2号周溝墓については溝の共通性から周溝墓とした
が、断定はできない。1号周溝墓は規模や形態が周溝を
もつ建物と似ているが、発掘区のなかでも高い位置にあ
ること、溝の中央が深く掘られていること、内部に柱穴
が検出できなかったことから周溝をもつ建物とは考えな
かった。上新田中道東遺跡Ⅳ区南東部微高地では居住域
に隣接した墓域の一部を検出したものと考えられる。



第292図 IV・V・Ⅵ区の古墳時代前期の遺構

上新田中道東遺跡の立地 ここでは前橋台地地域における弥生時代から古墳時代前期の上新田中道東遺跡の立地を考えておこう。第2章で述べたように、本書では「前橋台地」を井野川以東、葦川以西の範囲に限定して用いる。それは、地形面で農業用水の水系単位を分けることができ、そこでの遺跡立地を考えることが農耕社会解明の最も基礎資料になると考えるからである。特に井野川周辺の遺跡は、「井野川流域」として地域区分されることが多い。しかし、井野川低地帯は約2.1万年前に堆積した前橋泥流(前橋岩なだれ)を開析した古い利根川流路で、約1.1万年前の高崎泥流堆積前には形成されており⁽¹⁷⁾、当然、弥生時代にはすでに比高があり前橋台地西端を区切る地形であった。当時の榛名山麓から前橋台地上にかけて分布する遺跡群は、西部では染谷川や牛池川、東部では端気川や藤川などの小河川の水系ごとに、用水分配や耕作地の開発、居住域・墓域の配置などの集落形成が行われていたと考えられる。井野川低地帯や高崎台地⁽¹⁸⁾にもそれぞれ当時の用水となりうる水系があり、遺跡群を形成していたはずである。前橋台地西半部を含めた、それらの統合としての「井野川流域」という地域があるのかどうかは、次の段階の議論になるであろう。

前橋台地は、榛名山麓の南東縁を北の短辺とし、井野川と葦川に挟まれた細長い台形である(第293図)⁽¹⁹⁾。北側には標高110m付近で榛名山麓が接し、標高80m付近で総社砂礫が堆積する前橋台地2面と総社砂礫が及ばなかった前橋台地1面に分けられている。⁽²⁰⁾榛名山麓では山体に放身村に小河川が流下し、河川沿いに弥生時代中期からの遺跡が立地する。標高110m付近の地形変換点では、榛名山中に水源がある唐澤川、染谷川、牛池川、八幡川、牛王頭川などが前橋台地2面に流下して南に流向を変えて流れる。牛池川以西の河川は直接井野川へ流入し、水系が繋がっている。

前橋台地2面は前橋市大手町あたりを扇尖とする扇形の地形を見せている。ここには染谷川の downstream 滝川先行河川⁽²¹⁾、利根川先行河川⁽²²⁾などの榛名山麓水源の川が放射状に流下する。現利根川は第2章で述べたように中世後期に変流していることから、弥生時代から古墳時代前期には現在のような下刻の進んだ河道はなかったと推定される。しかし、先行河川の存在が想定されており、公田町や横手町の遺跡はその水系にあたってると推定されている。⁽²³⁾

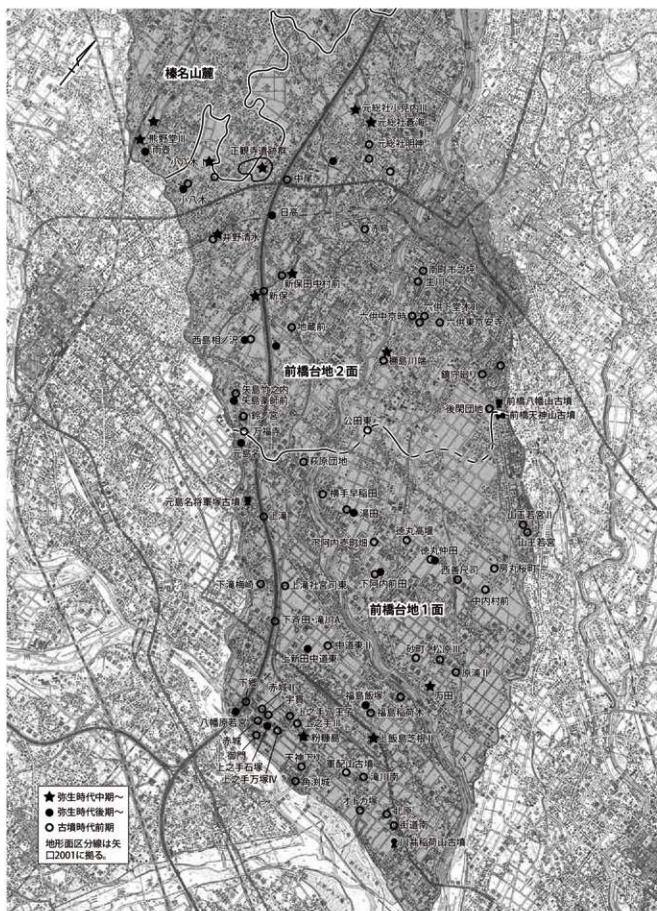
一方、前橋台地2面には、現流河川はないが帯状の小規模な開析谷があり、日高遺跡などの遺構面が埋没していることも発掘調査から判明している。前橋市六井町周辺にも古墳時代前期の遺跡が点在しているが、これらも埋没帯状低地に水田が、周辺の微高地面に集落が点在することを推定させる。ここでは弥生時代の遺跡や遺物はみつからないが、今後の調査を注目したい。

前橋台地1面は、標高80m付近で榛名山麓方向からの北西から南東方向への傾斜に変わり、小河川もその方向にほぼ直流する。上新田中道東遺跡はこの前橋台地1面ほぼ中央に立地している。2面から1面にかけて南へ流れる滝川は、慶長年間に用水路として整備されたことから、現在は配水のため微高地部分を開削した直線的な流路を見せている⁽²⁴⁾。しかしその先行河川の自然流路は2面では井野川の崖線にほぼ並行し、1面の玉村町内では南東方向に流れる流路をとっていたものと推定される。利根川先行河川も1面では南から南東方向に流れを変えながら烏川か広瀬川低地帯に流入していたと推定される。上新田中道東遺跡I区や齊田中耕地遺跡III区や、横手湯田遺跡A区・B区(文獻73)の発掘調査では、古墳時代以前の著しく蛇行する旧河川跡が検出されている。このような河道跡が、滝川先行河川や利根川先行河川の流路の痕跡とする可能性が高いと考えられる。

前橋台地1面東半部には端気川と藤川が流下している。現状では端気川は前橋市城東町の十六木堰で広瀬川から分水されている。現在広瀬川は渋川市北碓町で利根川から取水されているが、利根川の旧流路である広瀬川低地帯を流れる自然河川である。江戸時代には広瀬川から前橋城下を経由して、端気川を通る運道が行われていた。

広瀬川と接続された端気川の流路は前橋台地北側の崖線を乗り越える形になっており、明らかに自然流路ではなく人工の用水路である。また前橋台地上でも灌漑用水路として整備された直線流路となっている。このような端気川の整備がいつから行われたかは、前橋台地の開発史を解明するうえで重要である。中流域の直線流路は徳丸高塚遺跡(文獻77)の発掘調査の結果、17世紀以降に開削されたことが判明しているが、広瀬川から取水する流路の開削時期は未解明である。条里施行期に開削されたという説が出されているが、結論が出ていない。⁽²⁵⁾

いずれにしても端気川の本来の水源は、前橋台地内に



(国土地理院発行、5万分の1地形図「高崎」平成10年12月1日発行「前橋」平成10年3月1日発行「権名山」平成10年3月1日発行「高尾」平成5年4月1日発行)

第293図 前橋台地の弥生～古墳時代前期の遺跡分布

あったか、榛名山麓起源の自然河川であったであろう。前橋台地2面は総社軽石が及んで、1面よりわずかに高燥な地形であり、扇状地状の地形末端からの湧水あるいは前橋台地2面を開析する小規模な谷地があった可能性もあろう。

東方にある藤川も扇状地状の前橋台地2面末端からの湧水を水源とする小河川と推定される。徳丸仲田遺跡の調査では旧河川跡が3条検出されており、これらのうち東端の河川跡が藤川の旧流路であると指摘されている(文献71)。西端の河川跡は端気川の旧流路である可能性も考えられよう。以上のような現在名称が残る河川以外にも、小規模な網状の自然流路が台地面に刻まれていたことが想定され、このような自然水系を用水として利用した集落が、周囲にある微高地上に立地していたと推定される。

以上のような自然地形や水系をもつ前橋台地の地図に、弥生時代中期から古墳時代前期の主な遺跡を示したのは第293図である。榛名山麓には中期前半、前橋台地には中期後半からの遺跡があり、それぞれの水系と農耕適地の開発をおこなっていたことがわかる。前橋市街地や前橋市南部では発掘調査成果が少なく水系ごとの全体像を描き出すに至らないが、前橋台地も確実に弥生時代中期から開発されていることが明瞭しつづくとはいえよう。

前橋台地1面は前述したように自然小河川に恵まれ、用水が確保でき、南北に長い地形面に農耕適地が広がっている発展性のある地域である。その北端にあたる、2面と1面の境界である標高80m付近の台地両端に群馬県を代表する前期古墳である、前橋八幡山古墳・前橋天神山古墳と元島名將軍塚古墳が、そして最南端に玉村地域最古の川井稲荷山古墳が造られたことには何等かの意味があるのだろう。前橋市徳丸仲田遺跡では上幅3.0～5.0m、深さ1.0～1.2mの古墳時代前期の水路(G区6号溝)が掘削されており、その南東2.1kmにある玉村町砂町遺跡(文献59)でも上幅3.5～7.0m、深さ約1.1mの用水路(7号溝)が検出されている。両水路は規模や形状・走向・遺構の時期が共通することから一連の水路ではないかと見られている。前橋台地における古墳時代前期後半の広域な灌漑用水路の掘削を伴う開発が想定されている⁽¹⁸⁾⁽²⁰⁾。そして、その開発は弥生時代からすでに始まっているのである。

このような地域のなかで上新田中道東遺跡の古墳時代

前期の集落は形成された。広い前橋台地のなかで、それぞれの水系ごとに効率的な用水配分をし、用水路を整備して、集落は関係しあひながら成立していたと考えられる。上新田中道東遺跡でみられた建物の多様性や、集落間での建物の組み合わせの違いには、このような水系ごと、あるいは複数の水系をまとめる地域構造が隠されているのだろう。断片的な調査ではあったが、上新田中道東遺跡の調査からも低平な水田下に隠された古墳時代の様相を理解していくための良好な資料を得ることができたといえよう。

中期・後期の土器 玉村町地域では、古代以降浅間Bテフラ降下までには、広い地域が水田化されたことがこれまでの発掘調査で判明している。上新田中道東遺跡でも後述するように発掘区のほぼ全域で、浅間Bテフラに覆われた水田が確認された。その耕作土は攪拌された灰褐色のシルト質土であるが、その耕土内に古墳時代中期から後期にかけての土器破片が含まれていた。壺・甕類の胴部破片はそれだけでは時期を判断することは困難であるが、数種の特徴のある土器破片によって古墳時代の土器であることが判明した。

これらの土器破片は、第5章の古代水田耕土内あるいは第6章の溝等出土遺物と遺構外出土遺物のなかで報告した。なかでも内斜口縁の土器器環は形態の特徴で識別が容易であることから、多くの破片遺物の中から抽出することができた。内斜口縁環は実測可能な大きさの破片だけでも、Ⅰ区で4点、Ⅲ区で1点、Ⅴ区で1点、Ⅶ区で2点(7号溝埋没土中)、Ⅷ区で3点(1号井戸・7号溝・11号溝埋没土中)が出土している。また、Ⅰ区で有段の須恵器模倣環が1点出土している。これらの遺物の出土は、周辺に5世紀後半から6世紀にかけての遺構がある可能性を示唆しているのだろう。

これまで、玉村町地域の発掘調査で検出された古墳時代の遺構は、福島飯塚遺跡(文献79)Ⅰ区で6世紀の住居6軒、松原Ⅲ遺跡(文献47)で5世紀の石製紡錘車・模造品を製作した住居2軒・溝など、角洲遺跡(文献43)で5世紀前葉と4世紀末～5世紀前葉の住居2軒、5世紀前葉の特殊遺構1基が検出されている。⁽¹²⁷⁾この時期の遺構の調査数は少ないが、町内に分布する古墳の状況をみれば、他地域と同様な古墳時代中後期の集落が立地することは明らかであり、今後の調査に期待したい。

(4) 古代の上新田中道東遺跡

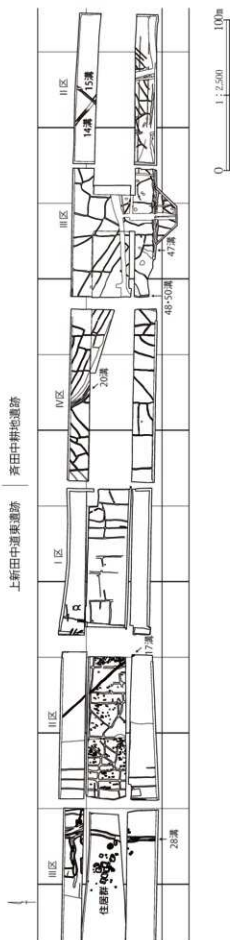
上新田中道東遺跡で検出された古代の遺構は、①古代洪水層関連の遺構面と②古墳時代前期と同じ遺構面で検出された遺構である。本文では①は独立させて第5章で、②は第6章で古墳時代前期の遺構とともに報告した。

古代洪水層関連の遺構 古代洪水層関連の遺構はⅠ区・Ⅱ区およびⅢ区の東半部で検出された。検出された遺構は、出土遺物から9世紀後半～末と考えられる洪水層で埋もれた用水路(Ⅲ区28号溝(第146図))と、その東側に広がる水田痕跡(第147～149図)である。洪水一次堆積層がそのまま残されたⅢ区28号溝に対して、水田痕跡は洪水層がその後の耕作によって攪拌されて土壌化したとみられる土層の中間で疑似畦畔や耕作痕として検出された。

このⅠ区～Ⅲ区東半の地点は、東側にある齊田中耕地遺跡につながる古い埋没低地内にあたり、洪水堆積物層は齊田中耕地遺跡Ⅱ～Ⅳ区にも及んでいた。齊田中耕地遺跡では洪水層の一次堆積層が残っており、洪水層に直接埋没した水田面が第5面として報告されている(文献83)。上新田中道東遺跡で洪水層の一次堆積が残っていたのはⅢ区28号溝内とⅢ区東端、Ⅱ区17号溝内のみであった(PL.21-5)が、Ⅲ区と齊田中耕地遺跡に一次堆積層が残っていることからすれば、中間にあたる上新田中道東遺跡Ⅱ区・Ⅲ区でも一次堆積層が存在したと推定される。疑似畦畔が残っていることは本来の水田区画が意識されていることが想定される。洪水被災からあまり時間を得ない復旧作業による土壌攪乱でV層が形成され、下位のVI層上面で疑似畦畔が確認できる状況が残されたのであろう。

第294図は上新田中道東遺跡古代洪水層関連の溝・水田痕跡の図と、齊田中耕地遺跡第5面の水田の図面を合成したものである。この図は層位や堆積物、出土遺物の状況から、9世紀後半～末の同一時期の生産域の様相を示していると考えられる。上新田中道東遺跡Ⅲ区には西縁の微高地上で9世紀後半から10世紀にかけての住居が検出されており、水田の状況と合わせると洪水被災後も東側の埋没低地で耕作を継続したムラの存在を想定することができよう。

上新田中道東遺跡Ⅲ区28号溝、Ⅱ区17号溝は洪水堆積物で埋まり廃棄された用水路である。Ⅲ区28号溝は微高地縁、Ⅱ区17号溝は水田域内に掘られていた。両溝と



第294図 上新田中道東遺跡と齊田中耕地遺跡の9世紀後半～末の水田

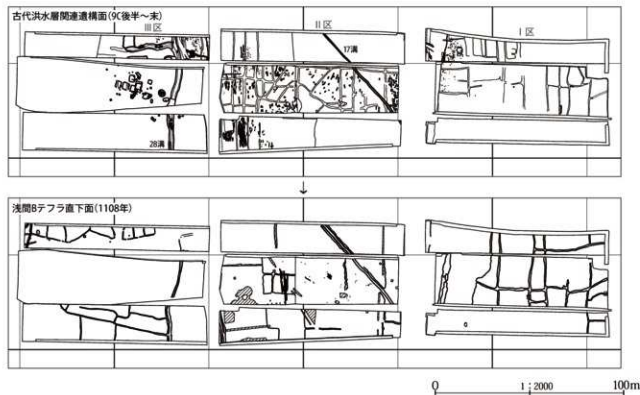
も上層に浅間Bテフラが凹地状に堆積しており、Ⅱ区17号溝には浅間Bテフラ直下でもアゼ状の高まりが検出された。17号溝は疑似畦畔と重複するが、北壁断面の観察から疑似畦畔確認より上位から掘り込まれていたと観察されている。疑似畦畔を残した本来の水田面は9世紀後半～末の洪水層に覆われた水田と考えられ、17号溝はその水田の用水路として掘られたのであろう。水田面のアゼは方格地制に合致しているとみられるが、17号溝の走向はそれと斜交する。これは低地内を効率的に配水するため、自然地形の傾斜に即した用水路が掘られたためと推定される。

齊田中耕地遺跡のⅣ区20号溝、48号溝、50号溝、47号溝は、報告書によれば「水田址と重複するが、覆土が同一であるため、同一時期の遺構と認識される。」とされ、水田址に伴う水路と認識されている。47号溝はシルトや砂の水性堆積物で一気埋まっており、洪水によって廃棄されたと推定されている。齊田中耕地遺跡では20号溝以東の水田区画は南北の方格地制を意識しながらも東西方向は斜行し、細長い区画や不整形の区画が多くなっている。これは下層の8面で検出された自然河道部分であり、ここでも凹地内を効率的に配水し、耕作作業を行う

ための所作と推定される。47号溝は方格地制にのった走向と推定される。ちょうど発掘区南端にあることが原因している可能性もあるが、齊田中耕地遺跡Ⅳ区・上新田中道東遺跡Ⅰ区～Ⅲ区ではその延長を確認することはできなかった。

両遺跡で検出された9世紀段階の水田面全体の地制は、斜行するアゼは認められるものの、南北アゼ・東西アゼがほぼ直交する方格地制を意識して造られている。特に南北方向のアゼはその方向と一定間隔を意識して設定されていることが看取できる。しかし、幅の広いいわゆる「大アゼ」と言える規模のアゼは両遺跡ともに検出されなかった。また齊田中耕地遺跡Ⅲ区・Ⅳ区では下層の自然流路に規制された方格地制に斜交する区画が残されていた。9世紀段階の地制は、一定間隔の方格地制が整備されていたが、その内部においては自然地形に対応した不定型な地制を採用していたことが上新田中道東遺跡とその周辺の発掘調査で明らかになった。

上新田中道東遺跡ではⅠ区西部と、Ⅱ区西端からⅢ区東端にかけて、疑似畦畔の確認面のやや上位、Ⅴ層下位からⅥ層上面にかけての層位で、牛の蹄跡が確認された。これらの踏み込み面は明らかでないが、層位や埋没する



第295図 上新田中道東遺跡の条里地制の変化

洪水堆積物からみて、9世紀後半の水田耕作にかかわって残された牛跡と推定される。なお、Ⅲ区29号溝、30号溝から獣骨が出土しているが、29号溝出土獣骨は種名不明、30号溝出土獣骨は約10歳の牡鹿馬の上顎臼歯破片であった。出土獣骨と遺構との関連性は現状では不明である。

第295図は上新田中道東遺跡Ⅰ～Ⅲ区で検出された9世紀後半～末の水田痕跡と上層の浅間Bテフラ直下水田の区画を並べたものである。Ⅱ区17号溝のような地割に斜交する用水路の存在や、微高地部分にもアゼが確認されたことなど浅間Bテフラ直下水田との相違点も確認されて細部では不一致のところもあるが、上層の浅間Bテフラ直下水田と概ね一致する方格地割が確認された。上新田中道東遺跡の9世紀後半～末の古代水田痕跡は浅間Bテフラ直下水田の前形態と考えられ、いわゆる条里地割の水田と考えられる。しかし後述するように、Ⅰ～Ⅲ区では浅間Bテフラ直下水田の大アゼが発掘区にあることが推定される。残念ながら調査で検出された9世紀代の水田痕跡は、大アゼで区画された坪地割の内部の小規模なアゼである可能性が高い。文献史学の成果では、条里型の水田は、「条里地割と条里呼称法によって整備された条里プラン」として8世紀半ばに出現すると考えられている。⁽³²³⁾上新田中道東遺跡のような層位の水田跡は、これまで県内で条里型水田の資料として主として検討されてきた浅間Bテフラ直下水田より出現期に近い遺構面として、今後も重要視されるべきであろう。

群馬県内には9世紀の水田と推定されている水田遺構は、高崎市南大類東沖遺跡(文献93)、旭町Ⅰ遺跡(文献94)、真町Ⅰ遺跡(文献95)、上大野野地田遺跡(文献96)、日高遺跡(文献97)、前橋市中原遺跡(文献98)などで報告されている。玉村町横丹遺跡(文献63)では現行条里に平行する9世紀後半～10世紀前半の幅の広い溝が検出されている。このような遺構は、下層遺構や上層の浅間Bテフラ直下水田との比較や同時期の居住域との関連性を確認することによって、古代の水田農耕の実態解明が期待できる。浅間Bテフラ直下水田より下層の水田および水田痕跡については、群馬県域における条里施行時期の確定に重要な意味を持つことから、なお一層の精査が必要と考えられる。

古代のその他の遺構 本書では、第6章で報告した古墳

時代から古代にかけての遺構は確認面が同一であったことから、時代を分けることなく編集した。これらのなかには、出土遺物がなくて時期を特定できない遺構も含まれているが、古代の遺構が古墳時代前期の遺構に混在してわかりにくくなったことが編集上の問題となったことは否めない。そこで、本項では出土遺物から古代の遺構と特定できた遺構について、名称と時期をあらためて列記しておきたい。

上新田中道東遺跡で検出された古代の遺構

Ⅲ区26号土坑(8世紀後半)、Ⅲ区32号土坑(7世紀)、Ⅲ区55号土坑(7世紀後半)、Ⅲ区97号土坑(9世紀後半)、Ⅲ区34号溝(7世紀後半～10世紀)、Ⅳ区49号土坑(8世紀)、Ⅳ区29号ピット(7世紀後半)、Ⅴ区1号竪穴遺構(7世紀後半)、Ⅴ区35号溝(6世紀)Ⅵ区6号井戸(8世紀前半)、Ⅵ区21号土坑(8世紀半ば)、Ⅵ区39号土坑(7世紀後半)、Ⅵ区41号土坑(8世紀前半)、Ⅵ区43号土坑(8世紀前半)、Ⅵ区48号土坑(7世紀前半)、Ⅶ区1号井戸(8世紀後半～9世紀前半)、Ⅶ区11号溝(7世紀)、

以上のように、上新田中道東遺跡発掘区内では古墳時代前期の遺構が廃絶した後、再度遺構が掘り込まれるようになるのは7世紀後半以降から9世紀にかけてであった。列記した遺構には比較的完形に近い土器が出土しており、上新田中道東遺跡周辺に居住域があるものと推定される。

(5) 中世以降の上新田中道東遺跡

上新田中道東遺跡で検出された中世以降の遺構は、①浅間Bテフラに関連する水田・畠、②浅間Bテフラより新しい土坑や溝および浅間A軽石の復旧溝であった。本書では、最近の中世史の成果⁽³²³⁾から、古代と中世の境を1086年の院政成立期からとし、浅間Bテフラ直下水田を中世とした。本文では①を第2章で、②を第1章で報告した。

浅間Bテフラ直下水田 上新田中道東遺跡では、Ⅰ～Ⅲ区とⅦ～Ⅸ区で浅間Bテフラ直下水田を検出した。中間にあたるⅣ～Ⅵ区では、後述するように浅間Bテフラ一次堆積層がなく、被災後の復旧が行われていたと考えられる。浅間Bテフラ直下水田面の各地区の状況は第4章で記載したが、浅間Bテフラ直下水田全体について、

ここでまとめておきたい。

第296図は、浅間Bテフラの一次堆積層残存状況と各区で検出されたアゼ遺構を示した。

I～III区では全域で浅間Bテフラ直下水田を検出したが、アゼは低く途切れたところも多くて、遺構の残存状態は不良であった。また、現状では低平に見える遺跡周辺だが、遺構面には微地形による高低差が顕著であった。

IV区では下層の18号・19号溝の上層に浅間Bテフラが溜まっているのが認められた程度で、発掘区全域で浅間Bテフラ一次堆積は無かった。浅間Bテフラを多量に含む暗褐色土層下面で疑似畦畔が明瞭に認められた。

V区では南東隅部の一部に浅間Bテフラ一次堆積の記載があるが、全体には一次堆積は検出されなかった。V区でも浅間Bテフラを多量に含む暗褐色土層下面で疑似畦畔が明瞭に認められた。

VI区では中央部に北西から南東方向に微高地があり、その東側では、VII区10号溝底面にのみ浅間Bテフラの一次堆積が残されていた(第51図)。

VII～IX区ではVIII区の微高地を除く全域で浅間Bテフラ直下水田を検出した。I～III区よりもアゼの残存状態は良好で、南北方向に長い長方形の水田区画が整然と残されていた。VIII区とIX区に微高地があり、I～III区と同様に浅間Bテフラの残存がなくアゼも検出されなかった。

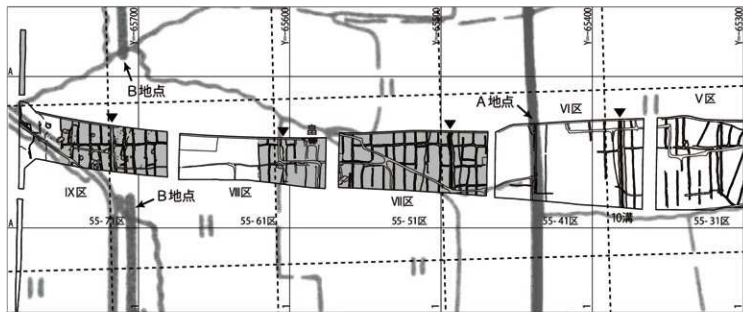
以上のように、いずれの発掘区でも微高地部分では浅

間Bテフラの一次堆積が残っておらず、アゼは検出されなかった。後世の削平の可能性も考えられるが、より上位の微高地上に浅間Bテフラで埋まった配水用の溝が掘られたという所見はないことから、微高地部分は水田化されていなかったと推定される。しかし、微高地部分をこえてアゼの走向は共通することから、条里地割は全体を規制していたと考えられよう。

また、VI～IX区では、幅の広い南北方向のアゼが4条検出された(第296図の▼)。これはいわゆる大アゼで、条里地割を示すと考えられる。VI区の大アゼは31区17ライン付近にあり、10号溝と両側に伴う疑似畦畔として検出した。西側のアゼは幅1.0m、東側のアゼは幅2.4mで、10号溝を含めた全体の幅は4.4m、走向はN-1°-1.5°-Wである。10号溝の底面には浅間Bテフラの一次堆積層が残っていたことから、10号溝は小規模ではあるが大アゼに伴う水路の可能性はある。

VII区の大アゼは41区20ライン付近にあり、幅2.5～3.07m、高さ0.02～0.03mのアゼを浅間Bテフラ直下で検出した。走向は北半部がやや湾曲するが、南半の直線部分はN-1°-Wである。近世の5号溝と重複していた。VIII区の大アゼは61区1ライン付近にあり、幅1.95～3m、高さ0.03～0.05mのアゼを浅間Bテフラ直下で検出した。走向はN-2°-Wである。

IX区の大アゼは71区5ライン付近にあり、幅2～3m



第296図 上新田中道東遺跡の浅間B下水田と条里地割

のアゼを浅間Bテフラ直下で検出した。アゼ頂部は近世の5号溝が壊しており、高さは不明である。走向はN-1.5°-Wである。

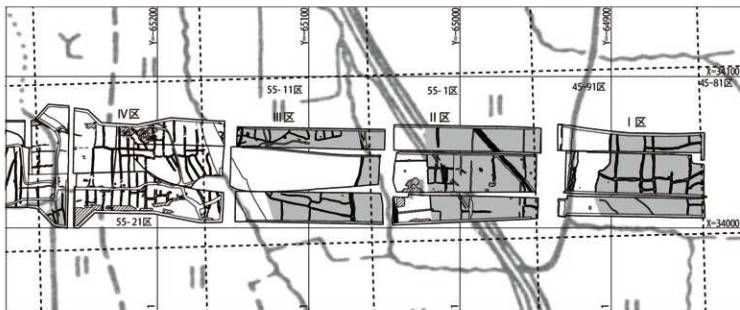
これらの4条の南北大アゼはほぼ平行し、それぞれの間隔は図面上の計測でⅥ区-Ⅶ区間が112.5m、Ⅶ区-Ⅷ区間が110m、Ⅷ区-Ⅸ区間が112.5mであった。微細な差はあるが、ほぼ一定の間隔を意識した位置にあると推定されよう。発掘区東半部のⅠ-Ⅴ区では、このような南北方向の大アゼは検出されなかったが、110mの間隔で東半部に当てはめると、Ⅴ区21区14ラインのほか、Ⅳ区とⅢ区間の既存道路部分(発掘調査除外部分)、Ⅱ区最西端、Ⅰ区最西端にあたり、調査が困難な地点にあたるのがわかる。Ⅴ区21区14ラインには近世の6号溝が穿られており、消失した可能性が高い。他の地点でも今回の調査では大アゼの有無について確認することはできなかった。

また、上新田中道東遺跡では東西方向の大アゼは検出されなかった。Ⅶ区-Ⅸ区ではアゼの残存が良好で、三つの地区全体に延長できる東西方向のアゼ2条が、Lライン付近とIライン付近で検出された。このうちLライン付近のアゼを東へ延長してみると、浅間Bテフラ一次堆積が認められなかったⅥ・Ⅴ・Ⅳ区を通り越して、Ⅲ区では北区南端で認められた段差がこのラインに一致するが、Ⅱ区では一致あるいは近接するアゼは認められな

かった。Ⅰ区では一部で一致するアゼが検出されている。

玉村町地域では、本遺跡の発掘調査時にはすでに現行条里⁽²⁰⁾は残されていなかったために、浅間Bテフラ直下水田大アゼと直接その位置を比較することはできなかった。そこで玉村町教育委員会が1992年に作成した条里地割遺存図(文献12付図)と合わせてみると、二カ所で地割の一致を確認することができた。まずⅥ区にあたる位置の南北方向の主要条里地割については、微高地部分であったために浅間Bテフラ一次堆積が残っていなかったことから、大アゼという形で検出することはできなかったが、小規模なアゼ痕跡と近世溝がほぼ一致して検出された(第296図A地点)。またⅨ区にあたる位置に図示された異種条里地割については、並行する水路が71区5ライン付近で検出された大アゼとほぼ一致した(第296図B地点)。B地点では現行地割と浅間Bテフラ直下水田の地割の継続性を確認することができたといえよう。

一方、2004年には、玉村町教育委員会の発掘成果から110m方眼の浅間B直下水田の条里地割復原線が発表されている。⁽²³⁾ その地割復原線を破線で第296図に示したが、上新田中道東遺跡で検出されたⅨ区の大アゼとⅣ区・Ⅵ区の小規模なアゼの二カ所で合致した。前者は現行条里がほぼ合致したB地点である。しかし、実際には上新田中道東遺跡では、大アゼ間の距離が110mのところと112.5mのところがあり、広域における同一規格の



■ 浅間Bテフラ一次堆積層残存域

0 1:2,500 100m

方眼に合致することは期待できない。前橋台地のほぼ全域に確認できる現行条里の区画は、ある単位をもって順次施行されていったものと考えられる。その施行過程で誤差が生じたとすれば、全域を同一規格で復原した方眼は部分的に誤差を生むことになる。その点で、全体的な考察をおこなう過程で条里施行単位の分析という一段階を経る必要があるだろう。

また、浅間Bテフラ直下水田については休耕の問題が提起されている⁽⁹³⁾。考古学的には軽石で覆われた水田面の状況を精緻に調査・記録することが求められている。上新田中道東遺跡の浅間Bテフラ直下水田面は細かな凹凸があり、全体としてのアゼの残存状況は不良であった。

また浅間Bテフラ直下の溝はI区18号・19号溝(第110図)、II区2号溝(第109図)、III区12号・15号・16号溝(第106図)、VI区10号溝(第103図)が検出されているが、いずれも浅く、浅間Bテフラ降下時に使用されていた用水路とは言えない状況であった。以上のことから、上新田中道東遺跡では浅間Bテフラ降下時点では全体としては、水田耕作をされていなかったと推定される。しかし、浅間Bテフラ直下の水田面に残された水田以外の痕跡には、II区のI号掘削痕(第83図)、VII区の高畝間溝列(第95図)、IX区のビット列(第98図)が検出されている。これらの痕跡が部分的な耕作を示している可能性もあり、今後の検討課題である。

浅間Bテフラ直下水田の復旧 玉村町地域は近年まで地表面に条里地割が残されていた地域である。これまで浅間Bテフラ直下水田の大アゼが現行地割と一致する地点も確認されていることから、浅間Bテフラ被災後、条里地割が復旧されたことは明らかである。その復旧について議論する資料が今回の発掘調査で得られている。それは、発掘区によって浅間Bテフラの一次堆積の残存状況に違いが見られたことによって判明した。

前項で述べたように、I区～III区とVII区～IX区では、浅間Bテフラの一次堆積層が残っており、直下から水田が検出された。しかし、IV区からVI区およびII区中央区では浅間B軽石を多量に含んだ褐色土(浅間B混土と略称)下面で疑似畦畔や耕作痕跡からなる水田痕跡を検出した。(第296図)このうち、II区中央区では浅間Bテフラ一次堆積層直下水田と、さらに上位の浅間Bテフラ

混土層の下面で耕作痕跡、上面でアゼ痕跡を検出することができた。

浅間Bテフラ一次堆積直下で検出されたVII区～IX区の東西方向のアゼ(Lライン付近)のラインを東へ延長してみると、浅間Bテフラ一次堆積が認められなかったVI区では最大3.125mほど南に、V区では1.25mほど南に、IV区では2.5mほど南にずれて湾曲しながらも、一連のラインで疑似畦畔をたどることができる。また、VI区10号溝の底面には浅間Bテフラ一次堆積が残されていたが、浅間B混土下面では10号溝には両脇に幅広いアゼ痕跡が伴い、周辺に連続する疑似畦畔が検出された。浅間B被災後の土壌攪拌が、10号溝を意識した形で行われたと推定される。

このような状況から、上新田中道東遺跡IV区～VI区で検出された疑似畦畔は、浅間Bテフラ直下水田のアゼを踏襲して復旧された際に形成されたものと考えられ、検出された水田痕跡は、検出された層位は異なるが、浅間Bテフラ直下水田と一連の区画を示していると考えられる。IV区からVI区では浅間Bテフラ被災直後の復旧が行われたのであろう。

一方で上新田中道東遺跡では直後の復旧とはいえ水田も検出された。I区～III区とVII区～IX区では、土壌攪拌がテフラ一次堆積上半部までしか及んでいなかった。これは、復旧作業が同時に行われ攪拌の深さが隣接した地点ごとにこれほど異なっていたことは考えにくいことから、攪拌の作業に時間差があった可能性が高いと考えられる。その時期については明確にすることはできなかったが、示唆的なのは、II区中央区で上層の浅間B混土上面で疑似畦畔を検出しており、ここでは13世紀から15世紀の遺物が比較的多く出土した(第107図)ことである。ここでのアゼの位置は下層の浅間Bテフラ直下水田のアゼと若干ずれているように見えるが、大アゼではないので、地割の変化の有無を確認することはできなかった。調査では、条里地割を踏襲しつつ変化しながら継続して耕作されていく過程を垣間見ることができた。今後は、耕地の復旧や再開発、条里地割の継続等の課題に対応するために、浅間Bテフラより上層の水田開発時期に注意しながら調査にあたるべきであろう。

また、II区中央区の浅間B混土上面では馬蹄痕跡を検出した。水田域内で検出された馬蹄痕跡は馬耕を示唆す

るが、今回の調査では断片的な検出にとどまった。同層位で数種類の形状を示す耕作具痕跡も検出し、唐犁の可能性もある平面的な痕跡もあったが、馬蹄痕との直接的な関係をとらえられなかったことから、馬耕を断定するには至らなかった。さらにⅡ区北区で古代の遺構面でウマの右下顎臼歯破片が、中央区でウマ右上顎第3臼歯破片が出土しているが、馬耕に直接結び付けることができる出土状況ではなかった。Ⅲ区でもウマの歯の破片が出土しているが、集落内での馬の使用について言及できる資料を得ることはできなかった。発掘調査から耕作痕跡を抽出し、復元していくことは困難であるが、意識的な観察と記録が今後も必要であろう。

以上のように、上新田中道東遺跡では、条里地割の水田の変遷について、9世紀後半—浅間Bテフラ降下時—火山災害復旧時の3段階の様相を記録することができた。特に復旧時の痕跡としては、検出層位の異なる2時期の遺構面を検出することができた。条里地割の水田の問題は制度史に関連する多くの問題を含み、先行して提示されている文献史学の成果を援用するのではなく、考古学的成果から検証するという立場にたった調査が必要と思われる。考古学的には、上新田中道東遺跡の条里地割は9世紀後半～末まで遡ることができたということが、今回の調査の成果ということになる。

近世の溝 上新田中道東遺跡でみられた浅間Bテフラ被災水田の復旧作業の区域の違いは、微地形による灌漑水系の違いを表していると考えられる。Ⅷ区西半、Ⅵ区中央、Ⅲ区西半、Ⅱ区西半、Ⅰ区西半には微高地があり、浅間Bテフラ直下水田の検出されていない部分になっている。浅間Bテフラ直下水田に伴う用水路はⅥ区10号溝、だけしか判明していないが、ここでは南北方向の条里地割に沿っていたと推定される。しかし溝内の軽石は残されていたことから、復旧作業においては用水系の変更が伴っていたと推定される。

上新田中道東遺跡で検出された近世溝の開削年代は、蛭堀が慶長年間以降に掘られたと推定できるほかは不明である。出土遺物ではⅢ区南区2号溝や48号溝に12世紀とみられる渾美陶器甕(第27図4～6)が出土しているが破片であり、これらの溝の開削年代を示すような出土状態でもなかった。しかし検出された近世溝が、この微地形によって区切られた地域内で完結しているのは偶

然ではないと思われる。また、近世溝であるⅨ区5号溝、Ⅶ区5号溝、Ⅴ区6号溝、Ⅰ区1号堀の位置や、Ⅷ区2号溝、Ⅷ区1号溝の屈曲部の条里地割との一致は、近世にも継続する条里地割の一端を示している。したがって、古墳時代以来の地形や水系の中で近世に整備された用水系の開削年代が、浅間Bテフラ被災復旧作業時までさかのぼる可能性も十分に考えられるであろう。

微高地上の開田が全体に及ぶようになった時期は微高地最高位にも用水路が掘られてからのことであって、微高地であるⅧ区西半部に掘られたⅧ区4号・3号溝やⅢ区とⅣ区の間にある蛭堀に先行するⅢ区1号・2号溝の開削年代が重要になるだろう。今回の調査では、残念ながらそれを明らかにすることはできなかった。周辺の今後の調査に期待したい。

近世の遺構としては他に、浅間A軽石復旧溝が各区で部分的に検出されている。Ⅳ区やⅤ区で近世の溝の地割に合致するように溝群が掘られていることから、近世の溝の開削は浅間A軽石被災の1783(天明3)年より古いことも合わせて判明した。

以上のように、上新田中道東遺跡では縄文時代から近世の遺構と遺物が出土した。縄文時代・弥生時代の情報は少なかったが、今後も注意していくことになるだろう。特に弥生時代の遺構は今後の調査に期待したい。古墳時代前期の遺構は居住域数か所を含むエリアを調査することができた。今後は遺跡群としての展開や生産域との関連に興味を持たれるところである。古墳時代中・後期は今後も遺跡の発見に留意しなければならないだろう。埋没した微高地や現在の市街地における調査には注意してあたるべきであろう。また、洪水被災・火山災害を克服した古代以降・中世・近世にわたる水田耕作過程の一端を発掘によって確認することができた。本来なら継続して耕作している土壌には何の痕跡も残らないが、土壌を丁寧に観察することによって、それらの出来事の痕跡を明らかにすることができる。洪水堆積物やテフラの記載や写真記録は、一次堆積、自然営力による擾乱、人間活動による攪拌等を認識するための必要な資料になることから、今後の生産域調査においては充分留意すべきであろう。

2. 上新田中道東遺跡Ⅱ区8号土坑出土の 漆樹液の棒状塊について

(1) 調査の経過

上新田中道東遺跡Ⅱ区8号土坑から、棒状の遺物1点が出土した(第163図1)。この棒状遺物が出土したⅡ区8号土坑は、短軸0.13m、長軸1.17m、深さ0.97mの隅丸方形の土坑で、浅間C軽石を含む黒色粘質土で埋まっていた(第162図)。埋没土中から、完形に近い古墳時代前期の土器多数と棒状遺物が出土した。埋没土には地山土塊が含まれ、「埋め戻されたような」埋没状態であった。遺物の上層には焼土が厚さ10cmほど堆積していた。

出土した土器はS字襷・小型丸底壺・高環などで、ほとんどがほぼ完形に復元できる大型破片である。棒状遺物は土坑の中心、北壁沿いで完形に近い土器の下部から出土したことから古墳時代前期の遺物としてよいと判断できる遺物である。

棒状遺物は、長さ21.3cm、直径0.8～1.2cm、わずかに湾曲する棒状で、細い方の端部は丸くすぼまり、最先端は平坦である。太い方の端部は、外側が薄膜状で、中央部は表面がガサガサしている。一方、後述する組織観察のために切断した面をみると一様な内容物が固結しているように見え、細かな気泡状の空隙が確認できる。表面には太さ1～数mmの条線圧痕が全体に薄く見える。表面には長さ3～4cmの裂痕が3条ある。最も大きな裂痕は幅2.5mmの幅がある。亀裂内面にも細かな空隙が看取できる。

本資料は当初、植物遺体と判断し、写真撮影と実測作業を実施した。樹種同定用の切片を採取しようとしたが、資料が固くてうまく採取できない状況であったことから、樹種同定を株式会社パレオ・ラボに委託したが、「植物遺体ではない」との結果であった。(報告は第8章-6)

そこで、材質を明らかにするために、組織観察で採取した試料を用いて株式会社パレオ・ラボに赤外分光分析を委託した。分析の結果、「生活上に近いスペクトルが得られた」との結果であった。また、棒状遺物の端部形状や外面の太さ1～数mmの条線圧痕について、タケ類の稈内面の形状に類似することから、棒状遺物は「液状でタケ類の稈に入れられ、外側のタケ部分は風化した状態で出土した」可能性が指摘された(報告は第8章-7)。ま

た、埼玉県本庄市の久下前遺跡では外面にタケ類の組織が残る類例資料が出土していることがわかり、本庄市教育委員会のご厚意により資料を見せていただいた。⁽³³²⁾

これらの経過をふまえ対応を検討した結果、長年にわたり木製遺物の研究をされて、近年では原始・古代の木材利用研究全体のなかで、民俗研究も踏まえて漆の利用を迫っておられる首都大学東京山田昌久教授に、資料を見ていただくことにした。⁽³³³⁾出土資料や既存研究の少ない古墳時代前期の漆資料である可能性がある資料を扱うにあたり、広い視野でのご助言を得たいと考えたからである。山田教授には漆の確定方法、漆資料とした場合の遺物の性格、類例資料等について広くご指導をいただいた。その詳細は本章(2)にまとめていただいた。

特に、資料の材質の確定については、直接脂質の質量を測る「熱分解-GC/MS分析」を勧められた。赤外分光分析は材質分析としてはごく一般的に普及した方法であるが、物質の赤外線吸収度の違いから材質を推定する方法であり、直接対象物質の脂質の質量を測る「熱分解-GC/MS分析」の方が確定的である。熱分解-GC/MS分析の機器は現状では数が限られており汎用的な分析方法ではないが、今回はこれまで類例のほとんどない資料であることから、「熱分解-GC/MS分析」⁽³³⁴⁾を実施し、材質を確定することとした。

また、本資料はタケ科内で凝固した漆である可能性があることから、山田教授から漆樹液の採取あるいは保管に関連する資料ではないかのご指摘をいただいた。そこで、タケ科での漆樹液採取および保管の実験を実施した。ミャンマーなどでは実際にタケ科で漆樹液を採取しており、それらを参考に実験したところ、タケ科で漆樹液を採取することができた。これについては、(3)の実験報告で記載した。

熱分解-GC/MS分析は、この方法を駆使して古代の樹脂や建築材料を研究されている東京文化財研究所の北野信彦先生に依頼して、資料中央部亀裂縁辺から採取した試料で実施した⁽³³⁵⁾。明治大学本多貴之先生にもご協力をいただいた。その結果、本資料は「漆」と確定することができた。また、資料の組織観察をしていただき、本資料の特徴である空隙と、夾雑物についてこれまでの漆資料と比較した観察所見をいただいた。詳細は(4)で報告していただいた。

(2) 資料対処法の助言

(山田昌久：首都大学東京都市教養学部人文・社会系歴史・考古学研究室)

2011年7月12日、群馬県埋蔵文化財事業団の小島敦子氏が出土物を大学へ持参された。それは、黒色で硬い細長い棒状の遺物だった。そして、赤外分光分析の結果、漆の可能性が高いとの結果が出ているとのことだった。表面に圧痕があり、また端部の形状とあわせて、竹の筒に納められていた可能性があるとのことだった。

かつて、東北地方の遺物調査の際に、類似したのを見た記憶があるが、遺物としては評価されないまま籠に入っていた。つまり、これまで、日本の遺跡からの報告例は無い資料である。この資料が、もし、ウルシ樹液が凝固したものであれば、それは人類の関与があるものと考えてよいが、しかし、一体どのような経緯で遺跡に残ったのか、判断する情報は全くない。そこで、これからどのような調査が必要かという意見を私に求められたのであった。

この10年間のウルシ関連遺物研究は、植物分類学・分析科学・考古学の各一方で、以下のような大きな展開を見せている。

- ①遺跡出土試料同定法の向上で、ウルシ属の細分化が進み、木材・花粉・種実などの各部門で、ウルシの種類レベルで認定できるようになった。
- ②従来、成分を特定できないとして解明が進まなかったウルシを赤外分光分析で同定しようという動きが起こり、さらに、赤外分光分析でウルシ類似の結果が出た試料のなかに、熱分解-GC/MS分析ではウルシでないという結果が出て、出土品のウルシ同定の手法が目覚ましく動いた。
- ③ウルシ木材遺物に、樹液を採取したと考えられる痕跡が観察される事例が蓄積した。

といった、大きな変化が起こっている。

①については、過去のウルシ属と同定された資料に遡っての再検討がなされ、縄文時代草創期から各時期にわたるウルシの存在が確認されるようになった。日本列島内で明らかに縄文時代草創期からウルシの木が生育していたことが確かめられた。②については、長い間塗膜と混和物そして下地の研究に終始していた考古遺物の「ウルシ製品」研究が、赤外分光分析でウルシを同定する

方法が進み、さらに、直接試料の脂質の質量を測ることで、ウルシを同定する方法が確立されてきた。③樹液採取に係る痕跡のある出土木材には、石川県指江B遺跡や富山県桜町遺跡例のような、材周の一部分に幅のある多条溝が確認できるグループ、東京都下宅部遺跡や埼玉県吉見条里遺跡のような、材を一周する切り傷が間隔をあけて確認できるグループ、との二者が確認された。前者は、現在のウルシ樹液採取法と類似した刃付けと掻き篋採取が想定される遺物で、年代測定を行った事例からは、江戸時代の遺物と考えられる。後者の樹液採取法は、より古い段階の未知のもので、傷は篋で掻き取る手法をとりにくいもので、まだこの樹液採取法は明らかではない。しかし、古代から縄文時代に遡る遺物に対して、ウルシ掻きの痕跡という用語が使用され、独り歩きし始めた。私はそれを懸念して、以前、樹液採取法を具体的に規定しない用語で議論することが必要であると指摘したことがある。縄文時代の石器でも、古代の鉄器でも、類似した傷が付けられており、関連器具はまだ全体像を見させてはいない。

今回発見した遺物は、そうした現状へ新たな展開を引き起こす情報をもたらす可能性があると考えられた。しかし、そうした議論を早急に進める前に、安易に報告することは先の事例のように混乱を引き起こす懸念がある。そこで、試料分析と技術や人工物評価の研究の両面で、しっかりと手続きを踏んだ調査を行い、総合的な判断をして提示する必要があると考えた。

そこで、私は報告に向けて以下の3点を追求する必要性を提示した。

- ④この遺物がウルシであることを確定するために、「熱分解-GC/MS分析」で測定してみることを。
- ⑤この遺物がウルシであるならば、その固着状態がどのような状態を示し、それがどのような意味を持っているかを、考えることが必要であること。
- ⑥そのためには、報告書で纏めることが必要・可能な範囲で整理期間内に出来ることと、その後時間をかけても必要な調査内容、を区別して、検討を進める必要があること。

⑥については、関東圏では東京文化財研究所と明治大学に測定機器と研究者がいること、を紹介した。⑥については、顕微鏡などで固着物を観察し、混雑物の有

無や量の調査や状態観察を行い、遺物がどのような状態であるかを議論する基礎情報を提示すること、を指摘した。

そして、伊藤清三氏の「日本の漆」に記述がある、竹を利用した東南アジアの樹液採取法と、樹液の保管法との両方を見据えた検討のために、「シュミレーションによる実験」を行なったらどうか、とアドバイスした。整理期間内に、「樹液採取と保管に関する情報」を得るための実験実施を提案した。

◎に関連して、報告書刊行までに行うことは、熱分解-GC/MS分析による結果をだすこと、できれば、遺物の状態がどのようなものなのかを判断するための観察情報と専門研究者の所見を得ること、実験結果を示して、遺物の履歴を議論する情報を提示すること、の3点を求めた。また、報告書刊行までの時間を考えると、総ての検討を行うことが困難であるため、その後の追跡研究と分けて対処することをすすめた。

また、この検討は調査・報告の担当者によってなされるべきで、私は、サポートはするが私の仕事にすることはしてはいけないと考えていることを伝えた。そして、実験シュミレーションを担当して企画することを求め、必要であれば実験地を提供することを申し出た。限られた時間内で、後節の報告にあるような実験が企画・実施され、採取・保管の議論に関する一定の成果が得られた。

しかし、まだ課題も多く残されている。採取用・保存用のいづれの竹管かは十分に特定できていない。もし、採取用としたならば、既発見の傷のあるウルシ木の傷とは整合しない。今回の実験では、樹液導入を考えた傷付けが必要であることも、見えてきたからである。

最後に、訪問時にこの遺物の名称についてどうしたらよいかとの意見を求められた。分析結果でウルシであることが確定できた場合には、ウルシ樹液棒状塊でも命名できる。しかし、本来、古墳時代の人類がこの遺物の状態を望んでいたものではなく、むしろ、これは放置された、もしくは使用されなかったために残されたものと考えられる。つまり、樹液採取器具か樹液保存・移動器具の竹管に収まったままで凝固した結果、遺跡に残存した可能性がある遺物であろう。この遺物名称は、具体的な機能が判明するまでの状態を示す呼称として扱うべきである。と提案した。

(3) 漆樹液の採取実験報告

①実験の目的

上新田中道東遺跡Ⅱ区8号土坑出土の漆塊と推定される棒状遺物を報告するにあたり、その生成過程を明らかにするために、タケ程での漆樹液採取実験をおこなった。実験にあたっては、遺物について助言を受けた首都大学東京の山田昌久教授のご協力を得て、平成23年8月26日(金)・27日(土)に一戸町御所野縄文公園で行われた同大学考古学研究室夏季実習の場をお借りした。この公園内には10年ほど前に漆樹液を採取したウルシの木100本ほどの林が保存されている。

調査内容は、①漆の木に傷をつけて、日本産の漆がタケ程で採取できるかどうか、②漆を採取したタケ程を放置し棒状の漆樹液塊ができるかどうか確認することである。

②実験の経過

8月26日午後1時半より調査開始。初めに事前の22日・24日に山田教授がおこなった予備実験の経過を伺った。予備実験ではV字状と斜交1本の2種類の傷で採取し、V字の方がタケ程にうまく導入できることがわかった。雨天のためタケ程をそのまま放置できずに回収したが、3~5mlの漆樹液がタケ程内に溜まっていたとのことであった。また幹が比較的太く、葉数が多いものがよく樹液を渗出するとのことであった。

まず、直径約1cm、長さ20cm前後のマダケ6本を、ウルシの木に設置した。竹の下端は節で切り底を作り、上端は45度くらいの斜めに切っている。今回の実験では、幹につける傷はV字状とした。これまでに出土している古代以前のウルシの木の傷は横方向に一周するものであるが、その採取法は未解明である。今回はタケ程内で凝固するかどうかを確認することも実験の目的であったことから、東南アジアでの採取例があるV字状とした。採取作業の手順は次の通りであった。

- ①幹の表面の樹皮を鎌で剥く。
- ②中央に1本ガイド用の傷をつけ、その下端にV字状の傷をつける。白い木の芯部まで見えるようにし、V字状の傷内に細い切込みをいれる。
- ③V字の下端にタケ程を差し込みための切込みをいれて、タケ程を差し込み、木片で2~3度叩くと固定された。あまり入れすぎると、樹液が流入する隙間

が狭くなる。

④細い切込みをいれた途端に白茶色の半透明の樹液が出てくる。V字の溝をたどってうまくタケ程に入る。

午後4時半に漆樹液滲出状況の記録と、上方に2本目の傷を追加した。最初の傷から2時間しかたっていないので、樹液滲出はほとんどなかったので、傷の追加は3本のみとした。

8月27日8時40分作業開始。

まず、樹液滲出状況を調査した。昨夜樹液を滲出していない木でも、朝滲出している木もあった。また、V字の傷の湾曲や小さな樹皮などのカスや傷の凹凸で、溝内で丸く固まりせき止められた木や、溝の下方に樹液が溢れてしまった木があった。樹液の濃度は気によって多少違う。濃い木や樹液の滲出量が少ない木は途中で固まってしまうようだ。

9時から、昨日のV字の傷の上に傷を追加する作業と、多くの漆樹液を回収するためにさらに新しくタケ程を設置した。設置したタケ程の数は全部で14本となった。V字の傷を追加するとき、下方の直上の傷から漆樹液は滲出せず、外側に延長した部分からのみ滲出する。樹液線の回復が1日ではできないのであろう。予備実験の時は2日置いた木では直上の傷から滲出していたとのことであった。午後2時に3本目の傷を追加する作業をおこなった。すべての木に実施しようとしたが、5時間ではやはり回復しないとみられ、直上の傷からの滲出はほとんど見られなかったことから、半分の7本にとどめた。

午後4時半に、14本のタケ程を回収した。直径7mmの円柱材を3～4cmに切りビニール手袋の指部分で覆ってから、タケ程の上端に差し込み、輪ゴムでとめて栓をした。14本のタケ程はタッパーウェアに保管した。

その後、12月8日に、実験で漆樹液を採取したタケ程の内部を確認した。実験記録で比較的滲出が多かった6と9のタケ程について、カッターで程を削いで内部を観察した。

6は程内面に黒色の薄膜状に漆樹液が固まっているのみで、内部は空洞であった。この薄い膜状の固形物は、上新田中道東遺跡II区8号土坑出土資料の上端部の薄い部分に似ていた。

9は上部は6と同様に黒い薄膜状に漆樹液が固まっていたが、最下部3cm分くらいは、程内に樹液が充満し、

なおかつ薄茶色に粘性のあるどろっとした液体の状態、一部黒茶色になっている部分もあった。その樹液の状態は、現代の漆掻きで得られた樹液を桶に集めた時の状態に似ていた。

出土資料と組織を比較するために観察試料切片を採取する計画であったが、漆樹液はまだ凝固していなかったため、組織比較は後日におこなうこととした。

③実験の成果

まず、タケ程での漆樹液採取が可能であることが確認できた。しかし、数時間おいてから追加した傷から効率的に漆樹液を滲出させることは難しいことが判明した。数日、間を空けた方が滲出量は安定すると思われる。近世以降の漆掻きが4日あけるというのは理にかなっている。出土資料と同様な大きさの漆樹液を得るためには数日あけて、V字状の3～4本の傷をつければ可能と思われる。

このようなタケ程での漆樹液採取はカンボジアやビルマ(ミャンマー)で行われていることが報告されている。

カンボジアでは「直径2～2.4cm、長さ20～24cmの」タケ程で「四～八日毎に溜まった漆の採取を行っている。」ビルマでは「直径2.5cm、長さ25cm細い」タケ程で「乾燥が速いため傷つけ作業後、三十分内外で収集するという。」⁽¹⁸⁾

また、ミャンマーでは「タケ程の大きさは長さ約15cm、直径約3.5cm」で、「10日後、中に溜まった漆樹液を「ゴ」という先が湾曲しているへら状の道具でかき集める。表面は少し固まっている。」「タケ程カップの中には10日間で平均40ccの漆が溜まっていた。1回目に比べると2回目の方が、漆が多く採取できる。」と報告されている。⁽¹⁹⁾

実験では、最初に付けた傷の角度や湾曲、小さな木屑によって、樹液の流れが滞り、その場で固結あるいは下方に溢れて、うまくタケ程に導入できなかった。これは不効率であって、掻きとって全部回収したいと思わせるほどであった。近世以降の日本の漆樹液採取法である「漆掻き」では、このような樹液も篋で掻き取っている。手をかけて漆樹液をすべて採取しようという思考が日本の近代以降の採取方法には見て取れる。一方、V字の傷でタケ程に導入する方法は東南アジアなどで行われているが、うまくV字傷をつけた漆の木に、日数をあけてタケ程を多量に設置し、木を回って順次タケ程を回収すれば

効率的に漆が採れるのではないかと感じた。

出土資料との組織比較はできなかったが、どのような状

況での漆樹液かを明らかにするために、タケ程内での凝固を待って、その漆樹液塊を組織観察することとしたい。

第25表 漆樹液採取実験木 一覧表

木No.	形状	葉数	実の有無	経過						備考	回収		
				26日午後		26日夕方		27日朝				27日午後	
1	二股の太い方の幹	多	無	—	—	9:15	1回目	13:21	2回目	数時間では回復せず、外側から滲出することを確認。撮影。	16:35		
2	二股の太い方の幹	多	無	13:58	1回目	16:37	滲出無	8:46	滲出確認	14:07	3本目	最初に作業した木。	16:41
3	二股の太い方の幹	多	無	13:52	1回目	16:38	2回目	9:09	滲出無	14:08	3本目	数時間では回復せず、外側から滲出することを確認。撮影。	16:42
4	三股の太い幹	多	無	14:40	1本目	16:39	滲出無	9:03	滲出無	14:10	2回目	傷の角度が鈍角で下方に溢れた。	16:43
5	二股の太い方の幹	多	無	—	—	—	—	9:39	1回目	14:15	2回目	—	16:45
6	二股の太い方の幹	多	無	14:19	1本目	16:37	滲出無	—	—	14:17	2回目	1回目の滲出量が多かった。	16:46
7	二股の太い方の幹	やや少ない	無	14:33	1回目	16:37	滲出無	8:47	2回目	14:18	3回目	滲出量少ない。	16:46
8	単独幹	多	無	14:20	1本目	16:49	滲出無	8:56	2回目	—	—	1回目の滲出量が多かった。傷に湾曲があり、夜のうちに溢れで固まっていた。	16:49
9	二股の太い方の幹	多	無	14:11	1回目	—	—	—	—	—	—	1回目の滲出量が多かった。	16:50
10	同じ木の別の幹	多	有	14:47	1回目	16:38	滲出無	9:07	2回目	—	—	—	16:50
11	同じ木の別の幹	多	有	—	—	—	—	9:44	2回目	—	—	—	16:52
12	同じ木の別の幹	多	無	—	—	—	—	記録なし	—	—	—	—	16:54
13	同じ木の別の幹	多	無	—	—	—	—	9:26	1回目	—	—	—	16:54
14	二股の太い方の幹	多	有	—	—	—	—	9:31	1回目	—	—	滲出量はほとんどない。	16:55



写真15 タケ程を打ちこんだウルシの幹とV字状の傷



写真16 滲出する漆樹液とタケ程



写真17 漆樹液が棒状に薄く凝固したタケ程(Na9)内部

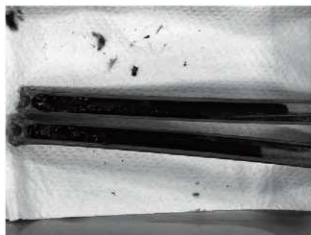


写真18 タケ程(Na9)内下部の未凝固部分

(4) II区8号土坑出土棒状遺物の分析調査

(北野信彦：東京文化財研究所・保存修復科学センター・伝統技術研究室、本多貴之：明治大学・理工学部・応用化学科)

① 分析調査の方法

(a) 主要脂質成分の熱分解GC/MS質量分析

主要脂質成分の詳細な分析は、試料から直接採取した試料片(約0.7mg)を500°Cに設定した東京文化財研究所・保存修復科学センター設備のピロライザー(フロンティアラボ社製 PY-3030D)にて熱分解し、ガス化した試料をガスクロマトグラフィー(アジレント社製7890A)に導入し、メタルカラム(フロンティアラボ社製UA-1(MS/HT))にて分離を行った後に、質量分析計(アジレント社製 5975C)にて測定を行った。ガスクロマトグラフィーのオープン条件は40°C(2分保持)→昇温:12°C/分→320°C(10分保持)の条件を用いた。分析は本多が担当した。

(b) 試料の顕微鏡観察

試料から直接採取した1mm×3mm角程度の剥落小片を、合成樹脂(エポキシ系樹脂/アラルタイトGY-1251J.P、ハードナーHY-837)に包埋した後、断面を研磨して薄層プレパラートに仕上げた。その上で、樹脂層内部の夾雑物の有無や断面細部の状態について金属顕微鏡を用いて透過および落射観察した。分析は北野が担当した。

② 調査結果

上新田中道東遺跡II区8号土坑出土棒状塊の分析を行い、以下の結果を得た。

まず、本試料の熱分解-ガスクロマトグラフィー/質量分析法を行った。また、本試料と合わせて日本産の漆の分析結果を比較対象として使用した。分析結果(イオンクロマトグラフィー:抽出イオン=108)を第298図に示す。この分析の結果、ウルシオール存在を示す3-ペンタデシルフェノールが共に21.95分に検出された。また、漆を熱分解した際に発生しやすい3-ヘプチルフェノールも15.41分に確認された。これらの結果から、本試料は漆によって構成されていることが明らかになった。

さて本試料は、形状と寸法から、当初から約1cm径の筒状のタケ棒内に充填された樹脂であると想定されている。そのため、まずこの試料表面の拡大観察を行った。その結果、本試料の表面にはタケ科植物特有の細胞繊維の条線圧痕の形状が樹脂表面に圧着反転された状態で追認された(写真19)。次に、樹脂層内部の夾雑物の有無や断面細部の状態について顕微鏡観察した。その結果、本試料を特徴付ける状態の一つとして、十数〜数十μm径の球状抜け穴が多数確認された(写真20,21)。この球状抜け穴は、通常の生漆内に観察される0.数μm程度のゴム質の球状抜け穴に比較して極めて大きな球状抜け穴である(写真22)。このような大ききの塗膜内の球状抜け穴は、生漆などの汲み置き塗料がやや厚みを持って固化塗膜を形成する際に観察される発泡状態と類似している(写真23)。今回、どのような条件であれば、このような十数〜数十μm程度の比較的大きな径の球状抜け穴が塗膜内に生じるか幾つかの基礎実験を実施した。その結果、液体状の塗料に水を混入して固化させた場合、本試料とほぼ同様の径の発泡球状抜け穴が生じることがわかった(写真24)。

次に、本試料の漆樹脂内部における夾雑物の混入の有無について観察した。今回の観察に供した試料自体小さいため、漆掻きに伴う樹皮カスなどの夾雑物の有無は明確に観察されなかったが、微小な夾雑物が多数確認された(写真25,26)。そのため、この塗料は漆漉し布などを用いて漉して精製した塗料ではなく、生漆原液に近い状況であると理解した。

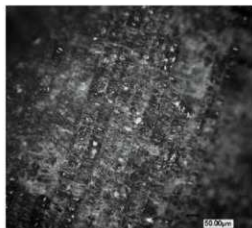


写真19 本試料表面の条線圧痕

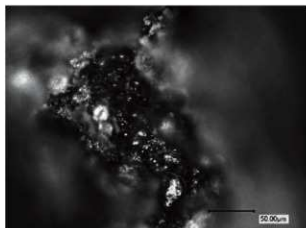


写真20 本試料の発泡状球状抜け穴(1)

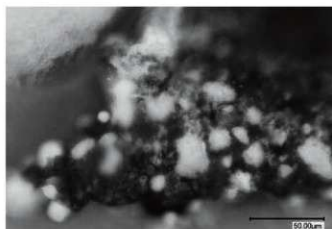


写真21 本試料の発泡状球状抜け穴(2)

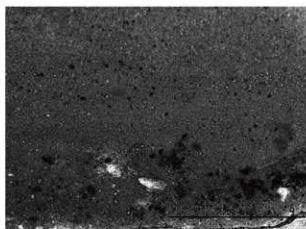


写真22 生漆内のゴム質球状抜け穴(参考例)

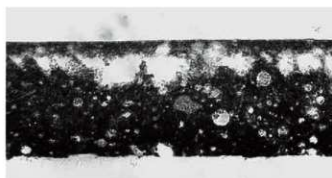


写真23 漆塗料の発泡固化状況(参考例)

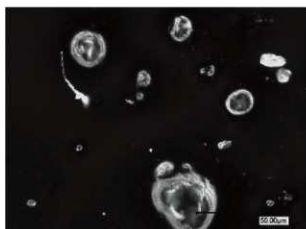


写真24 漆塗料に水を混入して固化させた実験塗膜



写真25 本試料における固化塗膜の断面観察

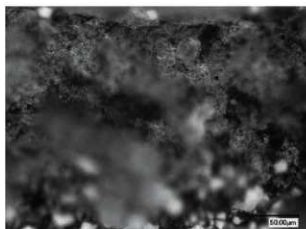
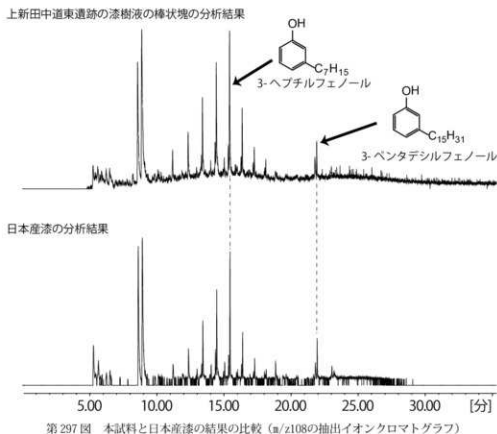


写真26 本試料内部に観察される夾雑物の状態



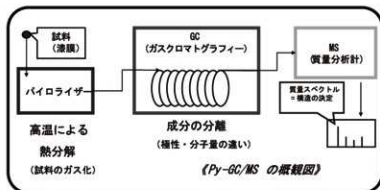
③ 本調査で採用した漆塗料の分析方法に関する解説

漆は様々な成分の混合物(第26表, [1])であるが、実際に硬化した漆を分析する際にその同定対象とするのは“ウルシオール”である。漆は硬化すると非常に硬く、化学的にも安定な構造となるため分析には熱分解—ガスクロマトグラフィー/質量分析法(Py-GC/MS)を用いる事が多くなっている。FT-IRでも十分な結果が得られることもあるが、漆と同じような構造を多数持つ天然のアスファルトや、漆に松ヤニ・天然油脂などを混合したものととの区別が困難であるのが実情である。

Py-GC/MSは、漆をヘリウム気流下で500℃に加熱を行い、試料をガス化させて分析する手法である。酸素存在下での加熱では単に燃焼して灰になってしまうので、“ヘリウム気流下”で熱分解は行われる。このガスになった試料をガスクロマトグラフィーで分子量・吸着力毎に分離する。分離した後にそのガスの重さ(分子量)を測定することで、元々の試料がどのような成分で構成されていたのかを分離する手法である(第298図)。

成分	外見	割合
ウルシオール		60~65%
ゴム質		5~7%
含窒素物		2~3%
水		20~30%
ラッカーゼ酵素		0.2%程度

第26表 漆を構成する成分



第298図 熱分解—ガスクロマトグラフィー/質量分析法全体の概略図

参考文献

- 宮腰哲雄、永瀬喜助、吉田孝著2000『漆化学の進歩—バイオポリマー漆の魅力—』アイビーシー出版

(5)まとめ

これまで述べてきたように、上新田中道東遺跡Ⅱ区8号土坑(古墳時代前期)から出土した棒状遺物は、タケの稈の中で凝固した漆樹液の棒状塊である可能性が強まった。しかし、これまでの調査では、この漆樹液の棒状塊がどのような状況で生成されたものかを明らかにすることはできなかった。

一般に、漆塗料製作工程では、漆樹液を採取し、ごみなどの夾雑物を取り除き、「くろめ」「ナヤシ」などの加熱・攪拌作業を経て、なめらかな塗料としての精製をおこなうといわれている。しかし、古代以前の漆樹液の採取・精製の工程についてはまだわかっていない。上新田中道東遺跡の資料は、古墳時代前期においてどのような漆利用の工程が行われていたかを考えるうえで、重要な視点を提供する可能性がある。本資料がどのような状況で生成されたものかを明らかにすることが、古墳時代における漆利用の一端を解明することにつながると思われる。

日本では、縄文時代以降多くの漆製品がつくられたことが豊富な出土遺物から判明しているが、どのように漆を採取していたかはよくわかっていない。漆樹液の採取方法は、近年まで継承されてきた近世の「漆掻き」の方法がわかっているだけで、中世以前の方法は明確でない。東京都東村山市の下宅部遺跡(縄文時代後・晩期)⁽¹⁸⁸⁾や埼玉県吉見町西吉見条里遺跡(古代)⁽¹⁸⁹⁾で出土したウルシの杭には10数cm間隔で細い傷がつけられており、下宅部遺跡例は漆樹液採取のための傷と推定されている。(文献113)これらの傷の形状は近世漆掻きの「刃つけ」とは全く形状が異なっており、これが漆樹液採取のための傷としても、古代以前には近世とは違った方法で漆樹液採取が行われていたと考えられるのである。⁽¹⁸⁸⁾

本資料は熱分解-GC/MS分析によって漆樹液と確定された。また、出土資料の組織観察では、50～100 μ mの空隙が認められた。この大きさはこれまで漆塗膜資料で確認されていた数 μ mの空隙よりかなり大きなもので、北野先生の組織観察では生漆などの発泡状態に類似し、空隙＝「球状抜け穴」の大きさは水分が混入した可能性があることが示された。また、微少な夾雑物が多数確認されたことから、生漆原液に近い状況であるとの観察結果であった。以上のような分析調査から本資料はタケ稈で採取された、あるいは採取直後に移しかえられた漆樹液の棒状

塊といえることになろう。

出土資料と、形状や採取直後の漆樹液組織との比較を行う目的で実施したタケ稈での樹液採取実験では、樹液を採取することができた。しかし、8月26・27日に採取した漆樹液は、12月8日の確認時点では、外面は全体に薄く凝固していたが、下端部に溜まった樹液は薄茶色の粘性のある液体状態であった。

したがって、採取直後の漆樹液組織の顕微鏡観察は本報告には間に合わなかった。今後凝固した段階で観察し、本資料と比較検討したいと考えている。特に本資料の顕微鏡組織観察では、通常の塗膜資料に比べ大きな球状抜け穴と、微少な夾雑物が多数確認されて、これらが生漆原液に近いと理解できる状況になっている。今後は、実際にタケ稈で実験採取した直後の樹液塊の断面観察と本資料との比較を実施して検証したい。一方で、4か月弱を経た実験漆塊が凝固していなかったことからすると、きちんと密封すればタケ稈内で数か月保管できることも判明した。保管容器としてのタケ稈利用の可能性も考慮する必要があることになる。

また、古墳時代の漆利用の解明に向けて、ウルシの材についても注目する必要がある。群馬県では古墳時代前期の出土木材樹種同定は比較的多く行われているが、「ウルシ属」あるいは「ウルシ」と同定された材は少ない。今のところ、確認できたのは玉村町町跡(文献59)7号溝出土の3点があるだけである。近年ウルシは種段階までの樹種同定が可能になったので、積極的な当該期のウルシの木の確認が期待される。さらに、本資料が漆樹液採取にかかわるものであれば、タケ稈などの打ち込み痕跡のあるウルシ材も視野に入れる必要が出てくる。ウルシの木の同定とともに形状観察に意識的に取り組むことが必要であろう。また、低地内から出土する植物遺体に対しては、一層の詳細な観察が必要となった。本資料は一見、樹木の枝材と見間違えるような資料であり、河道などで他資料と混在していた場合は意識的な観察が不可欠である。

本資料については山田教授の助言の通り、課題が残された。意識的な調査を今後も継続していきたい。

註

第1章

- 註1 発掘調査において、本来の水田面が残っていない地点で検出されるアゼをいう。上新田中道東遺跡では、本来の水田直下層で、後の耕作による機耕の及ばないアゼ部分が土色の違い等によってアゼと同じような盛り上がりとして残される疑心(註Bを、ⅢB層下面とⅣB層下面で検出した。遊野裕彦1987「水田跡について」『富沢一富沢遺跡第15次発掘調査報告書』仙台市教育委員会
佐藤典二1999「水田跡に関する疑心跡と連続耕作—仙台市富沢遺跡の事例から」『人類学集報1999』東京国立大学
岡田直一2010「中道遺跡第14次調査」『奈良県遺跡調査概報2009年度(第Ⅲ分冊)』奈良県立歴史考古学研究所
- 註2 杉山真二2004「自然科学分析が語る平安時代末期の水田跡」『1108—浅間山大噴火 中世への衝撃』第12回特別展示解説図録 かみつひの里博物館
飯島義明2010「茂岡Bテラス直下水田の総合的再検討に向けての予察—プラントオーバーバル分析による放棄跡の問題提起をうけて」『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要 28』
- 註3 石井 達2002「中世のかたち」『日本の中世1』中央公論新社
元木泰雄2002「院政の展開と内乱」『院政の展開と内乱』日本の時代史7 吉川弘文館
木村茂光2009「中世社会の成り立ち」『日本中世の歴史1』吉川弘文館

第2章

- 註4 新井房夫1962「北関東北西部地域の第四紀編年」『群馬大学教育学部紀要』10
- 註5 早田 勉・能登 健1990「第一章 群馬県の自然と風土 第五節 前橋台地と広瀬川低地帯 一後期更新世の地形発達史」『群馬県史 通史編1』群馬県
- 註6 新井権之・矢口裕之1994「権名火山の後期更新世末から完新世の噴火」『日本第四紀学会講演会要旨集』4
- 註7 矢口裕之2001「第1章 発掘調査の経緯 2周辺地形環境」『徳久伊田遺跡(1)』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業 団
- 註8 早田 勉・能登 健1990「第一章 群馬県の自然と風土 第五節 前橋台地と広瀬川低地帯 二完新世の地形変化」『群馬県史 通史編1』群馬県
- 註9 玉村町教育委員会1992「玉村町の遺跡」
- 註10 早田・能登1990(前掲註8)
- 註11 玉村町1992「玉村町誌 通史編 上巻」
- 註12 玉村町教育委員会中島直樹氏のご指示による。

第9章

- 註13 「周溝をもつ建物」はこれまでの県内の研究で主として用いられた用語で、岡本(1997)や飯島(1998)で最初に用いられた。ここでは総称としてこの用語を用いるが、個々の遺構報告では調査時の遺構名称(住居)のまま記載した。
- 註14 大賀 健1993「古墳時代初期の土坑」『赤城Ⅱ遺跡』玉村町教育委員会
笠原仁史1999「古墳時代前期の土坑について」『宇賀遺跡』玉村町教育委員会
- 註15 坂口 一1999「周溝の帯る住居について」『三和工業団地1遺跡(2)』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 註16 石守 晃2003「第2部5-7区小結」『中内村前遺跡(2)』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 註17 中村正方2003「第1章歴史の舞台としての高崎の自然 三高崎の自然史 2高崎の台地をつくる地層」『新編高崎市史 通史編1』
- 註18 高崎台地と井野川低地帯の地形区分については、自然地形学的議論があるが、地形の特徴を加味した人文的な地区区分からは農業用水の水系が異なる両地形区分は区別しておく方がよいと考える。井野川低地帯の西端は高崎台地を間断する低地に連続する。井野川低地帯には井野川に伴う小規模な自然堤防が形成されており、その上を高崎台地とは別水系の集落立地がある。
- 註19 1990年に早田氏によって発表された『群馬県史 通史編1』付図群馬県地形分類図は示唆的で、低平に見える群馬県平野部の隠された実態と考古学的対象を総合化する方向の必要性を考えた。前橋台地の遺跡分布を再検討することはその実践となる作業のひとつである。また、若狭氏はいち早く前橋台地を傾斜方向に区別し、地域を理解するための空間を想定したが、参考にさせていただいた。
- 若狭 徹2002「古墳時代の地域経営」『考古学研究』第49巻第2号
- 註20 矢口裕之2001(前掲註7)
- 註21 淵川は江戸時代の慶長年間に整備された用水路であるが、一部は自然河川を利用した流路とされている。(前掲註11)
- 註22 若狭徹2006「古墳時代における地域首長の政治領域」『考古学雑誌』第90巻第2号
先行河川については早田1990、佐藤明人1981の説に拠っている。
早田 勉1990(前掲註5)
- 佐藤明人1981「権名山二ツ岳の爆発に伴う氾濫層の規模、及び経路」『八幡原A・B 上巻 元島名』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 註23 若狭 徹2006(前掲註20)
- 註24 玉村町1992(前掲註11)
- 註25 柳沢重明1987「第1章前橋台地 6 条里遺構と利根川の変流」『日本の古代遺跡 群馬文化』保蔵社
前原 豊 秋池 武 飯島義雄2001「利根川からの引水遺構である「女瀧」の意義」『群馬市史』第266号
関口一2011「研究ノート 前橋低地付近周辺の「開発」をめぐる二・三の憶説」『群馬歴史民俗』第32号
- 註26 坂口 一1999「かつて大開発があった—古墳時代前期の耕地拡大—」『創立20周年記念公開考古学講座研究発表要旨』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
大木謙一郎 2003「G区6号溝」『徳久伊田遺跡』
- 中里正憲 2007「砂町遺跡における古代水田開発の変遷」『砂町遺跡(第1-3次調査) 尾崎町遺跡 中之坊遺跡』
- 註27 玉村町教育委員会中島直樹氏のご指示による。
- 註28 金田裕彰1985「条里と村落の歴史地理的研究」
- 註29 ここでは「現行条里」は、現在は測量調整によって失われているが、昭和45年の空中写真に残っている条里地割の意味で用いる。
- 註30 ここでは、2種類の復原方向が示されている。中島直樹・吉澤 学2004「群馬県玉村町における条里地割の復原」『東国史論』第19号
その後、本遺跡の北側にある中道東遺跡、中道西Ⅱ遺跡、鞍馬東遺跡、中道東Ⅱ遺跡で砂町遺跡起点の方向(上記文献で示された方向のうち偏西)により合致する大アゼが検出されたことが報告されている。(文献60)
- これらの遺跡は、今回報告した上新田中道東遺跡のすぐ北側にあたり関連性が期待されるが、一定距離の面で復元する方法や適正な図の縮尺、座標の変換等、方法論を再考し、一遺跡でなく広域に分析することが不可欠であるので、国道354号関連の諸遺跡の成果を合わせて、改めて取り組むこととした。
- 註31 杉山2004(前掲註2)
- 註32 本市市教育委員会のご厚意により、資料見および類似資料の記載をさせていただいた。
- 註33 山田昌久2002「縄文時代」『特集：実験考古学の未来と現在』季刊考古学第81号
山田昌久2006「植物素材容器の特性と研究課題」『特集 縄文時代の植物素材容器』考古学ジャーナル№52
山田昌久2008「総論：実験考古学の射程」『特集 実験考古学』考古学ジャーナル№54
- 註34 本多真之2010「漆の分析法」『むての漆』岩手県立博物館開館30周年記念特別企画展図録
本多真之2011「石神貝塚出土漆器の化学分析からわかったこと」『漆器』明治大学博物館特別図録

- 註35 北野信彦他2008「桃山文化期における輸入漆塗料の流通と使用に関する調査」『保存科学』47
 北野信彦他2009「桃山文化期における輸入漆塗料の流通と使用に関する調査(Ⅱ)」『保存科学』48
 北野信彦2011「美作国府跡并『7出土黒漆検体樹の分析調査』『美作国府跡 小田中遺跡 山田遺跡』岡山県教育委員会
- 註36 伊藤清三1979『日本の漆』P.30写真
- 註37 松島まくら子 2009「漆が語るアジアの文化—マンマーの漆文化1」『宇都宮大学教育学部紀要』
- 註38 下宅部遺跡調査団・東村山市遺跡調査会2006『下宅部遺跡Ⅰ(旧石器・縄文時代編)』
- 註39 吉見町教育委員会2005『西吉見采里遺跡』
- 註40 前掲註32 山田2006

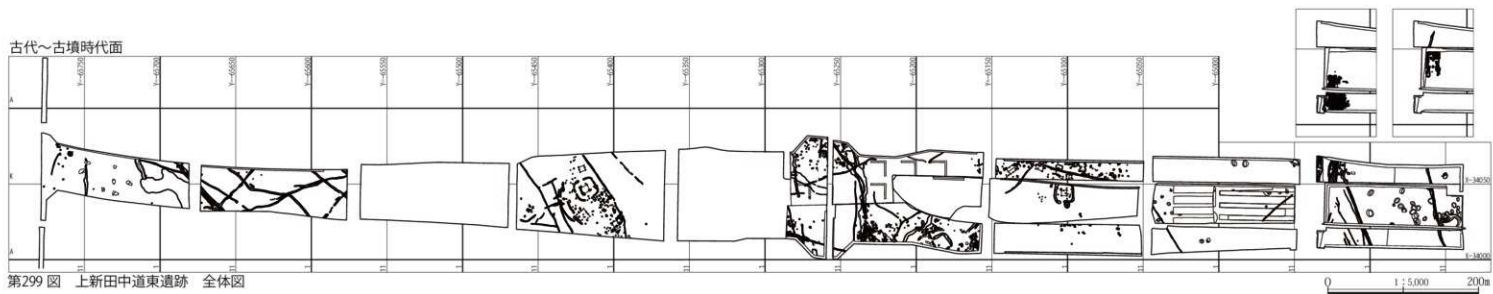
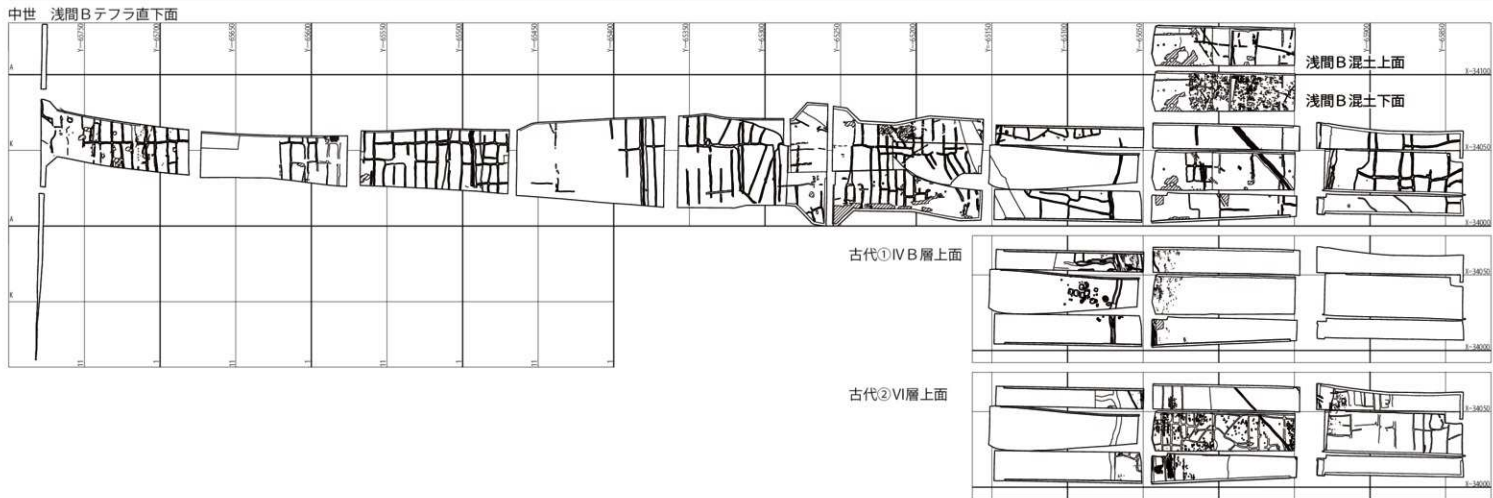
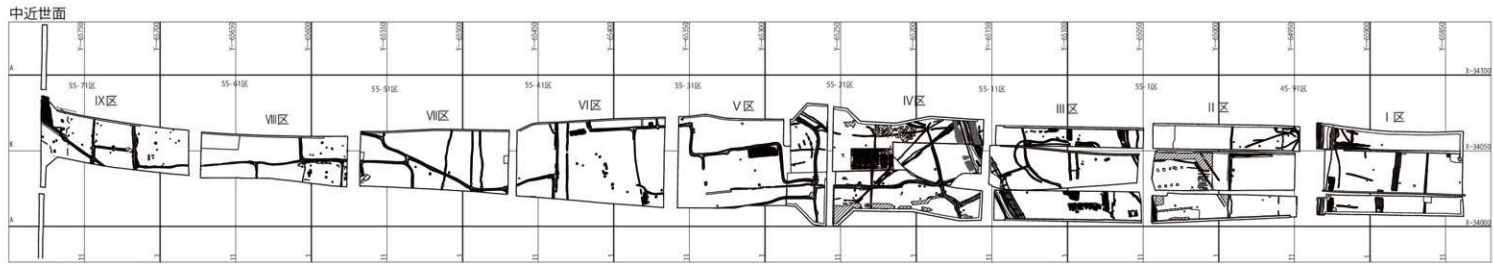
参 考 文 献

1. 玉村町誌編集委員会1992『玉村町誌 通史編 上巻』
2. 高崎市史編さん委員会1999『新編高崎市史 資料編Ⅰ 原始古代Ⅰ』
3. 高崎市史編さん委員会2000『新編高崎市史 資料編Ⅱ 原始古代Ⅱ』
4. 高崎市史編さん委員会2003『新編高崎市史 通史編Ⅰ 原始古代』
5. 前橋市史編さん委員会1971『前橋市史 第1巻』
6. 山崎 一1978『群馬県古城塚地の研究』上巻
7. 山崎 一1979『群馬県古城塚地の研究』補遺篇上巻
8. 山崎 一1979『群馬県古城塚地の研究』補遺篇下巻
9. 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城跡』
10. 玉村町教育委員会1989『金免遺跡』
11. 玉村町教育委員会1991『上之手八王子遺跡』
12. 玉村町教育委員会1992『玉村町の遺跡』
13. 玉村町教育委員会1992『神人村Ⅱ遺跡』
14. 玉村町教育委員会1992『尾柄町遺跡』
15. 玉村町教育委員会1992『尾柄町Ⅱ遺跡』
16. 玉村町教育委員会1993『蟹沢Ⅱ遺跡』
17. 玉村町教育委員会1993『蟹沢Ⅳ遺跡』
18. 玉村町教育委員会1993『上之手石塚Ⅱ遺跡』
19. 玉村町教育委員会1993『上之手石塚Ⅳ遺跡』
20. 玉村町教育委員会1993『藤川前遺跡』
21. 玉村町教育委員会1993『赤城Ⅱ遺跡』
22. 玉村町教育委員会1996『原浦Ⅱ遺跡』
23. 玉村町教育委員会1996『中道西遺跡(第1次・第2次調査)』
24. 玉村町教育委員会1997『三境遺跡・三境Ⅱ遺跡』
25. 玉村町教育委員会1997『上之手八王子Ⅱ遺跡 原屋敷Ⅱ遺跡』
26. 玉村町教育委員会1998『原浦遺跡』
27. 玉村町教育委員会1999『南東耕地遺跡』
28. 玉村町教育委員会1999『曲田遺跡』
29. 玉村町教育委員会1999『曲田Ⅱ遺跡』
30. 玉村町教育委員会1999『上之手地区遺跡群(Ⅰ)・(Ⅱ) 稲荷森遺跡 天神塚遺跡 宇貫地区遺跡群 稲荷山遺跡群 下茂木地区遺跡群 下茂木神明Ⅱ遺跡 上新田地区遺跡群』
31. 玉村町教育委員会1999『宇貫遺跡』
32. 玉村町教育委員会1999『滝川南遺跡』
33. 玉村町教育委員会2000『宮ノ下遺跡 若王子Ⅱ遺跡 天神廻りⅢ遺跡』
34. 玉村町教育委員会2000『行人塚Ⅲ遺跡』
35. 玉村町教育委員会2000『十王堂・十王堂Ⅱ遺跡』
36. 玉村町教育委員会2000『角洲Ⅱ遺跡』
37. 玉村町教育委員会2000『上之手石塚遺跡』
38. 玉村町教育委員会2000『中袋遺跡』
39. 玉村町教育委員会2000『八幡原赤塚Ⅱ遺跡』
40. 玉村町教育委員会2000『田口下屋敷遺跡』
41. 玉村町教育委員会2000『前浦遺跡』
42. 玉村町教育委員会2001『蟹沢遺跡』
43. 玉村町教育委員会2001『角洲遺跡』
44. 玉村町教育委員会2002『福島治部前遺跡』
45. 玉村町教育委員会2002『角洲伊勢山Ⅳ遺跡・角洲伊勢山Ⅴ遺跡 下郷Ⅱ遺跡・天神塚Ⅱ遺跡 八幡原赤塚遺跡・葉師遺跡』
46. 玉村町教育委員会2002『上飯島芝根遺跡 上飯島芝根Ⅱ遺跡』
47. 玉村町教育委員会2003『松原Ⅲ遺跡』
48. 玉村町教育委員会2003『八幡原赤塚Ⅲ遺跡』
49. 玉村町教育委員会2003『天神前Ⅱ遺跡』
50. 玉村町教育委員会2003『一万田遺跡』
51. 玉村町教育委員会2003『才ト力塚遺跡』
52. 玉村町教育委員会2004『久保田遺跡』
53. 玉村町教育委員会2004『一本木遺跡』
54. 玉村町教育委員会2004『横瀬遺跡 街道南遺跡』

55. 玉村町教育委員会2004『内田屋敷道跡 原屋敷道跡 上之手立野道跡』
56. 玉村町教育委員会2004『赤城道跡』
57. 玉村町教育委員会2005『宇貫E道跡(第1次・第2次調査)』
58. 玉村町教育委員会2006『神明道跡 行人塚道跡 十堂Ⅱ道跡 中郷道跡 松原Ⅱ道跡 杉山道跡』
59. 玉村町教育委員会2007『砂町道跡(第1～3次調査) 尾柄町道跡 中之坊道跡』
60. 玉村町教育委員会2008『中道東道跡 中道西Ⅱ道跡 蛭尾東道跡(第2次調査) 中道東Ⅱ道跡 中道東Ⅲ道跡(第2次調査)』
61. 玉村町教育委員会2009『屋敷Ⅱ道跡 屋敷Ⅲ道跡(第2次調査)』
62. 玉村町教育委員会2009『福島稲荷木道跡(第1～3次調査) 福島稲荷木Ⅱ道跡 福島稲荷木Ⅲ道跡』
63. 玉村町教育委員会2009『横川道跡』
64. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『西善尺Ⅱ道跡』
65. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『下阿内町畑道跡 下阿内前田道跡』
66. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『徳久仲田道跡(1)』
67. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『上福島尾柄町道跡』
68. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『福島戸口道跡 上福島道跡』
69. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『西田道跡 村中道跡』
70. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『中内村前道跡(1)』
71. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『徳久仲田道跡(2)』
72. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『鏡光路模範道跡』
73. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『横手南川端道跡 横手湯田道跡』
74. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『福島久保田道跡 福島大光坊道跡』
75. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『上福島町道跡』
76. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『前田道跡』
77. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『徳久高塚道跡』
78. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『福島飯塚道跡(1)』
79. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『福島飯塚道跡(2)』
80. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『福島飯塚道跡』
81. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『福島大島道跡』
82. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『上新田新田西道跡 上新田赤塚道跡』
83. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『斉田中耕地道跡』
84. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『下斎田重上築師道跡』
85. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『斉田竹之内道跡』
86. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2009『南部拠点赤道跡群№1』
87. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2009『南部拠点赤道跡群№2』
88. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2010『南部拠点赤道跡群№3』
89. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2010『南部拠点赤道跡群№4』
90. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2010『南部拠点赤道跡群№5』
91. 群馬県教育委員会1980『下郷』
92. 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『荒砥前田Ⅱ道跡』
93. 太田市教育委員会1999『唐輪田道跡発掘報告書』
94. 新田町教育委員会2000『新田東部道跡群Ⅱ』
95. 高崎市教育委員会1997『南大塚東・稲荷道跡』
96. 高崎市教育委員会1996『三島塚古墳・旭町Ⅰ道跡』
97. 高崎市教育委員会1996『真町Ⅰ道跡』
98. 高崎市教育委員会1995『上大野野地田道跡』
99. 群馬県教育委員会1982『日高道跡』
100. 前橋市教育委員会1993『中原道跡群Ⅰ』
101. 能登 健1983『群馬県下における埋没田調査の現状と課題』『群馬県史研究』第17号
102. 横倉興一1986『上野国府周記における条里遺構の問題点』『条里制研究』第2号
103. 岡田隆夫1991『特論 上野国の条里制』『群馬県史通史編2』
104. 横倉興一2000『概説 古代の水田・高』『新編高崎市史資料編2 原始古代Ⅱ』
105. 新井 仁2001『群馬県における平安時代の水田開発について』『研究紀要』第19号 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
106. 能登 健2006『天仁元年・浅間山噴火』『日本災害史』北原宗子編 吉川弘文館
107. 新井 仁2008『条里地割導入後の水田と集落の二様相』『研究紀要』第26号 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
108. 伊藤清三1949『うるし・漆樹と漆産』農林出版社
109. 伊藤清三1979『日本の漆』東京文庫出版局
110. 井野雄二1999『利根の変遷と民俗』『群馬文化』第257号
111. 和田健一2011『大野岩川水閘研究序説—上毛傳説雑記の検討からみえるもの—』『群馬県史民俗』第32号
112. 永嶋正春編2006『特集：縄文・弥生時代の漆』季刊考古学第95号 雄山閣
113. 山田昌久編2006『特集：縄文時代の植物素材資源』月刊考古学ジャーナル542号
114. 山田昌久編2008『特集：実験考古学』月刊考古学ジャーナル574号
115. 永嶋正春編2009『特集：縄文人と漆』月刊考古学ジャーナル593号
116. 日本植生学会『植生史研究 特集：下七部道跡の縄文時代』第15巻第1号
117. 千葉敏朗2009『縄文の漆の里 下七部道跡』新泉社

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	かみしんでんなかみちひがし
書 名	上新田中道東遺跡
副書名	国道354号高崎玉村バイパス(玉村工区)社会資本総合整備(活力創出基盤整備)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	第8集
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	528
編著者名	小島敦子
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20120227
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住 所	群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	かみしんでんなかみちひがし
遺 跡 名	上新田中道東遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんさわぐんたまむらまちかみしんでん
遺跡所在地	群馬県佐波郡玉村町上新田
市町村コード	10464
遺跡番号	0675
北緯(日本測地系)	360001
東経(日本測地系)	1394957
北緯(世界測地系)	360012
東経(世界測地系)	1394945
調査期間	20040401-20050331/20081001-20090331/20091201-20100331/20100731-20110331
調査面積	50944㎡
調査原因	道路建設
種 別	集落
主な時代	縄文/弥生/古墳/奈良/中世/近世/近現代
遺跡概要	その他-縄文-遺構外-縄文土器+縄文石器/その他-弥生-遺構外-弥生土器/集落-古墳-竪穴住居5+掘立柱建物7+柱穴2+方形周溝壙2+井戸5+土坑211+竪穴状遺構1+溝85+竪3-土師器+須恵器+石製模造品+ガラス小玉/集落-古代-竪穴住居8+土坑22+溝12+水田痕跡面1+竪2-土師器+須恵器/その他-中世-水田面1+水田痕跡面1+溝8+竪1-陶器+磁器+軟質土器+銭貨/その他-中近世以降-掘立柱建物3+溝121+堀3+土坑118+井戸2+耕作痕3+復旧溝20-陶器+磁器+軟質土器+石製品+銭貨
特記事項	古墳時代前期の周溝をもつ建物2棟を検出した。古墳時代前期の漆樹液の棒状塊が出土した。
要 約	前橋台地南半部の低平な水田地帯に埋没した数条の微高地と低地の遺跡。古墳時代前期には屋外周溝付の竪穴住居2軒が別の微高地に立地し、周辺に掘立柱建物からなる集落の一部が2か所検出された。古代には9世紀後半とみられる洪水層に埋没した水路やその後の復旧あるいは再開発によって耕作された水田痕跡(疑似畦畔)が検出され、微高地西縁には洪水とその後の耕作期に対応すると考えられる時期の竪穴住居1〜数軒が継続的に建てられていた。中世には、1108年に降下した浅間Bテフラによって埋まった水田が発掘区全体に検出され水田化が進んでいたことがわかった。IV〜VI区にかけては浅間Bテフラ直下水田と区画が連続する水田痕跡が、浅間B軽石を多量に含んだ褐色土下面で検出されたことから、被災後の復旧が行われたことが推定された。さらに近世には、本地域で盛んに行われた新田開発に関わりと推定される幹線水路とそれに関連する溝が各地点で検出された。



第299 図 上新田中道東遺跡 全体図

遺構一覧表

凡例

1. 遺構一覧表は、遺構ごとに作成し、発掘区の遺構番号順に並べた。
2. 遺構面は、本文の記載に沿って記入した。
3. 以降名称および番号は本文記載の報告時のものである。整理作業時に番号を付け替えた遺構については、本文P.17第2表に旧番号を併記した。
4. グリットは大区画を省略している。
5. 遺構の計測値は、重複等で計測できないものは計測不能とした。
6. 本文は掲載頁、挿図は掲載図番号、写真図版は遺構写真および遺物写真の掲載P.L.番号を記載した。

目次

1. 竪穴住居一覧表	430
2. 掘立柱建物一覧表	430
掘立柱建物柱穴計測表	430
3. 井戸一覧表	431
4. 土坑一覧表	431
5. ビット一覧表	436
6. 周溝墓一覧表	441
7. 堀一覧表	441
8. 溝一覧表	441
9. 凹地一覧表	445
10. 田畠一覧表	445
11. 復旧溝一覧表	446

遺構一覧表

区分	基	遺構名称	グリッド	平面形状	規模			長軸方位	本文	押出	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
I 中央	古代汎水層関連	22 土坑	45-81-4-5	円形	1.16m	1.25m	0.11m	W-10°-18	166	116	81
I 中央	古代汎水層関連	23 土坑	45-81-1-5	不整楕円形	1.20m	1.36m	0.24m	W-16°-18	166	116	81
I 中央	古代汎水層関連	24 土坑	45-81-1-6	不整円形	1.50m	1.52m	0.19m	-	166	116	81
I 中央	古代汎水層関連	25 土坑	45-81-1-5	不整円形	1.27m	1.30m	0.15m	-	166	116	81
II 北	中世世	1 土坑	45-91-6-15	隅丸方形	0.62m	0.72m	0.40m	W-41°-30	38	17	8
II 北	中世世	2 土坑	45-91-8-13	楕円形	0.59m	0.93m	0.09m	W-43°-18	38	17	8
II 北	中世世	3 土坑	45-91-8-18・19	楕円形	0.42m	0.60m	0.12m	W-70°-18	38	17	8
II	4 土坑	穴蓋									
II 北	中世世	5 土坑	45-91-8-11	円形	1.09m	1.12m	0.17m	W-66°-18	38	17	8
II 北	中世世	6 土坑	45-91-1-10	隅丸方形	1.13m	1.35m	0.35m	W-82°-18	38	17	8
II 南	中世世	7 土坑	55-1-6	楕円形	0.48m	0.61m	0.12m	W-9°-18	38	17	8
II 南	古代～古墳時代	8 土坑	45-91-8-10・11	隅丸方形	1.13m	1.17m	0.97m	W-42°-18	222	162・163	114・115
II 中央	中世世	9 土坑	55-1-2	不整楕円形	1.25m	1.50m	0.23m	W-44°-18	38	17	8
II 中央	中世世	10 土坑	55-1-8-2	楕円形	0.31m	0.56m	0.12m	W-45°-18	38	17	8・9
II 南	中世世	1 土坑	55-1-8・E-12	隅丸長方形	0.81m	1.32m	0.39m	W-77°-18	45	23	14
II 北	中世世	2 土坑	55-11-8-9	楕円形	1.33m	2.23m	0.12m	W-8°-18	129	86	61
II 北	中世世	3 土坑	55-11-1-8・4	楕円形	0.94m	1.18m	0.15m	W-32°-18	129	86	61
II 北	中世世	4 土坑	55-11-1-2	不整楕円形	0.70m	0.87m	0.29m	W-59°-18	45-48	23	14
II 北	中世世	5 土坑	55-11-1-1	不整楕円形	0.48m	0.75m	0.26m	W-55°-18	45-48	23	14
II 南	中世世	6 土坑	55-1-19	楕円形	0.86m	1.09m	0.27m	W-64°-18	45-48	23	14
II 南	中世世	7 土坑	55-1-19-15	隅丸長方形	1.06m	2.50m	0.43m	W-11°-18	45-48	23	14
II 南	中世世	8 土坑	55-1-1-8・19	隅丸長方形	0.94m	1.82m	0.23m	W-66°-18	45-48	23	14
II 南	中世世	9 土坑	55-11-8-8	楕円形	1.10m	1.18m	0.46m	W-25°-18	45-48	23	14
II 南	中世世	10 土坑	55-11-8-9	不整楕円形	0.64m	1.33m	0.22m	W-18°-18	45	23	14
II 南	中世世	11 土坑	55-1-1-6	不整方形	0.34m	0.61m	0.06m	W-23°-18	45	23	14・15
II 南	中世世	12 土坑	55-1-8-11・12	隅丸方形	1.04m	1.26m	0.57m	W-30°-18	45-48	23	15
II 南	中世世	13 土坑	55-11-6-6	楕円形	0.59m	0.71m	0.24m	W-42°-18	45-48	24	15
II 南	中世世	14 土坑	55-1-8-14	不整楕円形	0.42m	1.07m	0.23m	W-10°-18	45-48	24	15
II 北	古代汎水層関連	15 土坑	55-1-6-11	楕円形	0.94m	1.18m	0.40m	W-32°-18	186	132	96
II 南	古代汎水層関連	16 土坑	55-1-1-13	不整楕円形	0.27m	0.93m	0.13m	W-61°-18	186	132	96
II 南	古代汎水層関連	17 土坑	55-1-1-14	ピットの縁台	0.71m	1.27m	0.23m	W-4°-18	186	132	96
II 南	古代汎水層関連	18 土坑	55-1-1-15	楕円形	0.54m	0.66m	0.13m	W-30°-18	186	132	96
II 南	古代汎水層関連	19 土坑	55-1-1-15	不整楕円形	0.66m	1.29m	0.11m	W-30°-18	186	132	96
II 南	古代汎水層関連	20 土坑	55-1-19-15・16	楕円形	1.00m	1.22m	0.10m	W-64°-18	186	132	96
II 南	古代汎水層関連	21 土坑	55-1-19-15・16	楕円形	0.32m	0.53m以上	0.12m	W-4°-18	186	132	96
II 南	古代～古墳時代	22 土坑	55-1-1-14	楕円形	0.97m	2.05m	0.25m	W-82°-18	235	174	123
II 南	古代～古墳時代	23 土坑	55-1-1-14	円形	0.59m	0.62m	0.38m	W-40°-18	235	174	123
II 南	古代～古墳時代	24 土坑	55-1-1-19	楕円形	0.57m	計測不能	0.06m	W-2°-18	235	174	123
II 南	古代～古墳時代	25 土坑	55-1-1-19	楕円形	1.01m以上	計測不能	0.27m	計測不能	235	174	123
II 南	古代～古墳時代	26 土坑	55-1-1-20	楕円形	0.86m	1.13m	0.34m	W-20°-18	235	174	123
II 南	古代～古墳時代	27 土坑	55-1-1-20	楕円形	0.77m	計測不能	0.15m	W-26°-18	235	174	123
II 南	古代～古墳時代	28 土坑	55-1-1-20	円形	0.86m	計測不能	0.15m	W-22°-18	235	174	123
II 南	古代～古墳時代	29 土坑	55-11-1-1	楕円形	0.78m	計測不能	0.21m	W-26°-18	235	174	123
II 南	古代～古墳時代	30 土坑	55-11-1-1	隅丸方形	0.80m	0.99m	0.20m	W-59°-18	235	174	123
II 南	古代～古墳時代	31 土坑	55-11-1-1	不整楕円形	0.29m	0.72m	0.09m	W-42°-18	235	174	123・124
II 南	古代～古墳時代	32 土坑	55-1-1-17・18	不整楕円形	0.56m	1.32m	0.14m	W-30°-18	235	174	123
II 南	古代～古墳時代	33 土坑	55-1-1-17	楕円形	0.66m	1.21m	0.13m	W-58°-18	235	174	123
II 南	古代～古墳時代	34 土坑	55-11-8-1	楕円形	1.09m	1.46m	0.12m	W-14°-18	235	174	124
II 南	古代～古墳時代	35 土坑	55-1-19-18・19	楕円形	0.88m	0.99m	0.16m	W-60°-18	235	174	124
II 南	古代～古墳時代	36 土坑	55-1-19-18	楕円形	0.58m	0.71m	0.09m	W-37°-18	235	174	124
II 南	古代～古墳時代	37 土坑	55-1-19-19	楕円形	0.43m	0.93m	0.17m	W-38°-18	235	174	124
II 南	古代～古墳時代	38 土坑	55-1-1-20	不整楕円形	0.38m	0.61m	0.14m	W-7°-18	235	174	124
II 北	古代～古墳時代	39 土坑	55-1-1-13	楕円形	0.65m	0.78m	0.52m	W-63°-18	235-238	175	125
II 北	古代～古墳時代	40 土坑	55-1-1-13	楕円形	0.51m	0.69m	0.16m	W-72°-18	235-238	175	125
II 北	古代～古墳時代	41 土坑	55-1-1-1・L-12・13	楕円形	0.63m	0.78m	0.50m	W-78°-18	235-238	175	125
II 北	古代～古墳時代	42 土坑	55-1-1-13・14	不整楕円形	0.86m	2.46m	0.35m	W-20°-18	235-238	175	125
II 北	古代～古墳時代	43 土坑	55-1-19-14	楕円形	0.94m	1.21m	0.33m	W-44°-18	235-238	175	125
II 北	古代～古墳時代	44 土坑	55-1-19-15	楕円形	1.29m	計測不能	0.56m	W-42°-18	235-238	175	126
II 北	古代～古墳時代	45 土坑	55-1-19-16	楕円形	2.28m	3.46m	0.20m	W-67°-18	235-238	175	126
II 北	古代～古墳時代	46 土坑	55-11-8-4	隅丸長方形	1.08m	2.44m	0.40m	W-28°-18	235-238	176	126
II 南	古代～古墳時代	47 土坑	55-1-1-1	不整方形	0.57m	計測不能	0.13m	W-39°-18	235-238	176	124
II 南	古代～古墳時代	48 土坑	55-1-1-14	楕円形	0.58m	0.85m	0.09m	W-47°-18	235-238	176	125
II 南	古代～古墳時代	49 土坑	55-1-19-14	円形	0.64m	0.64m	0.03m	W-0°-18	235-238	176	125
II 南	古代～古墳時代	50 土坑	55-1-19-14	不整楕円形	0.77m	1.62m	0.24m	W-113°-18	235-238	176	125
II 北	古代～古墳時代	51 土坑	55-1-1-18	円形	0.99m	1.12m	0.43m	W-46°-18	235-238	176	126
II 北	古代～古墳時代	52 土坑	55-1-19-20	不整円形	0.93m	計測不能	0.15m	W-26°-18	235-238	176	126
II 北	古代～古墳時代	53 土坑	55-1-19-20	不整円形	0.95m	計測不能	0.17m	W-20°-18	235-238	176	126
II 北	古代～古墳時代	54 土坑	55-11-8-1	不整楕円形	0.63m	1.59m	0.17m	W-67°-18	235-238	176	126
II 北	古代～古墳時代	55 土坑	55-1-19-20	楕円形	0.78m	1.12m	0.22m	W-58°-18	235-238	176	126
II 北	古代～古墳時代	56 土坑	55-11-1・W-1・2	不整円形	2.30m	4.58m	0.18m	W-91°-18	235-240	177	126
II 北	古代～古墳時代	57 土坑	55-11-8-2	楕円形	1.14m	計測不能	0.45m	W-16°-18	235-240	176	127
II 北	古代～古墳時代	58 土坑	55-11-8-4	楕円形	0.62m	計測不能	0.11m	W-49°-18	235-240	176	127
II 北	古代～古墳時代	59 土坑	55-11-8-6	円形	0.88m	0.96m	0.17m	W-18°-18	235-240	176	127
II 北	60 土坑	穴蓋									
II 北	古代～古墳時代	61 土坑	55-11-8-5	不整楕円形	0.60m	0.80m	0.53m	W-41°-18	235-240	178	127
II 北	古代～古墳時代	62 土坑	55-11-8-4	不整円形	0.52m	0.57m	0.21m	W-37°-18	235-240	178	127
II 北	古代～古墳時代	63 土坑	55-11-8-7	円形	0.76m	0.76m	0.82m	W-0°-18	235-240	177	128
II 北	古代～古墳時代	64 土坑	55-11-8-7	不整楕円形	1.14m	測定不能	0.20m	W-53°-18	235-240	178	128
II 北	古代～古墳時代	65 土坑	55-11-8-6	不整楕円形	0.67m	1.04m	0.21m	W-17°-18	235-240	178	128
II 北	古代～古墳時代	66 土坑	55-11-8-5	不整円形	0.80m	1.00m	0.72	W-12°-18	235-240	178	128

区 編分	基	遺構名称	グリッド	平面形	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存深				
VI	中近世	24 土坑	55-41-6-2	楕円形	0.81a	1.00a	0.25a	N-86°E	82 ~ 85	49	35
VI	古代~古墳時代	25 土坑	55-41-7-1	楕円形	0.86a	1.14a	0.32a	N-61°E	314 ~ 315	235	35
VI	古代~古墳時代	26 土坑	55-31 ~ 41-6-20-1	楕円形	0.70a	計測不能	0.34a	N-53°E	314 ~ 315	235	-
VI	古代~古墳時代	27 土坑	55-31-6-20	楕円長方形	0.78a	0.78a	0.53a	N-54°E	314 ~ 315	235	179
VI	古代~古墳時代	28 土坑	55-41-8-1 ~ 17	不整形楕円形	0.87a	1.31a	0.13a	N-39°E	314 ~ 315	235	180
VI	古代~古墳時代	29 土坑	55-41-6-5	楕円形	0.84a	0.91a	0.21a	N-59°E	314 ~ 315	235	179
VI	古代~古墳時代	30 土坑	55-41-6-5	不整形楕円形	0.84a	1.30a	0.26a	N-15°E	314 ~ 315	235	179
VI	古代~古墳時代	31 土坑	55-41-4-5	円形	0.43a	0.99a	0.67a	N-57°E	314 ~ 315	235	179
VI	古代~古墳時代	32 土坑	55-41-4-4	円形	0.54a	0.59a	0.34a	N-23°E	314 ~ 315	235	179
VI	古代~古墳時代	33 土坑	55-41-4-3	不整形楕円形	0.66a	0.77a	0.07a	N-42°E	314 ~ 315	235	179
VI	古代~古墳時代	34 土坑	55-41-3-3	楕円形	0.47a	0.66a	0.34a	N-32°E	314 ~ 315	235	180
VI	古代~古墳時代	35 土坑	55-41-3-2	楕円形	0.54a	0.70a	0.43a	N-28°E	314 ~ 315	236	180
VI	古代~古墳時代	36 土坑	55-41-6-1	楕円形	0.49a	0.60a	0.28a	N-42°E	314 ~ 317	236	180
VI	古代~古墳時代	37 土坑	55-41-6-1	円形	0.58a	0.59a	0.15a	N-42°E	314 ~ 317	236	180
VI	古代~古墳時代	38 土坑	55-41-7-1	楕円形	0.69a	0.83a	0.26a	N-64°E	314 ~ 317	236	180
VI	古代~古墳時代	39 土坑	55-41-8-12	不整形楕円形	0.66a	0.66a	0.30a	N-38°E	314 ~ 317	236	180
VI	古代~古墳時代	40 土坑	55-41-6 ~ H-12	楕円長方形	0.76a	0.84a	0.25a	N-27°E	314 ~ 317	236	180
VI	古代~古墳時代	41 土坑	55-41-6-12	不整形楕円形	0.72a	2.40a	0.59a	N-30°E	314 ~ 317	236	180
VI	古代~古墳時代	42 土坑	55-41-8-8	不整形楕円長方形	0.71a	1.66a	0.21a	N-20°E	314 ~ 317	236	180 ~ 183
VI	古代~古墳時代	43 土坑	55-31-4-19 ~ 20	楕円形	1.06a	1.31a	0.75a	N-57°E	314 ~ 317	237	181
VI	古代~古墳時代	44 土坑	55-31-4-20	円形	1.19a	1.26a	0.46a	N-55°E	314 ~ 317	237	181
VI	古代~古墳時代	45 土坑	55-41-6 ~ H-1	不整形楕円形	0.60a	0.77a	0.25a	N-41°E	314 ~ 317	236	181
VI	古代~古墳時代	46 土坑	55-41-8-1 ~ 2	楕円形	0.97a	1.68a	0.35a	N-36°E	314 ~ 317	236	181
VI	古代~古墳時代	47 土坑	55-41-1-2	楕円長方形	0.52a	0.89a	0.31a	N-36°E	314 ~ 317	237	181
VI	古代~古墳時代	48 土坑	55-41-1-1	不整形楕円形	1.39a	1.84a	0.26a	N-60°E	314 ~ 320	237	181
VI	古代~古墳時代	49 土坑	55-41-4 ~ 1-1	楕円形	0.60a	0.83a	0.07a	N-61°E	314 ~ 320	237	181
VI	古代~古墳時代	50 土坑	55-31-6-19 ~ 20	不整形楕円形	0.69a	0.73a	0.46a	N-39°E	314 ~ 320	237	181
VI	古代~古墳時代	51 土坑	55-31-6-19 ~ 20	楕円形	0.42a	0.56a	0.31a	N-42°E	314 ~ 320	237	182
VI	古代~古墳時代	52 土坑	55-41-8-1	不整形楕円形	0.58a	計測不能	0.18a	N-60°E	314 ~ 320	237	182
VI	古代~古墳時代	53 土坑	55-41-8 ~ 1-13	楕円形	0.57a	0.76a	0.27a	N-38°E	314 ~ 320	237	182
VI	古代~古墳時代	54 土坑	55-41-7 ~ 6-8 ~ 9	不整形楕円形	0.69a	2.27a	0.23a	N-17°E	314 ~ 320	237	182
VII	中近世	1 土坑	55-51-8-7	楕円形	0.52a	0.74a	0.74a	N-20°E	91	55	39
VII	中近世	2 土坑	55-51-6 ~ H-5	楕円形	1.37a	1.40a	0.43a	N-17°E	91	55	39
VII	中近世	1 土坑	55-51-8 ~ 1-19	楕円形	0.97a	0.99a	0.31a	N-5°E	94	57	42
VII	中近世	2 土坑	55-51-8 ~ 1-16	楕円形	0.46a	0.62a	0.27a	N-80°E	94	57	42
VII	中近世	3 土坑	55-51-1-7	楕円形	0.52a	0.68a	0.32a	N-64°E	94	57	42
VII	中近世	4 土坑	55-51-6-16	楕円形	1.00a	1.09a	0.20a	N-53°E	94	57	42
VII	中近世	5 土坑	55-51-6-16	楕円長方形	0.73a	0.93a以上	0.23a	N-4°E	94	57	42
VII	中近世	6 土坑	55-51-8 ~ 19	円形	0.86a	0.99a	0.51a	N-74°E	94	57	42
VII	中近世	7 土坑	55-51-6-19	楕円形	0.93a	1.03a	0.39a	N-24°E	94	57	42
VII	中近世	8 土坑	55-61-6-1	楕円長方形	0.72a	1.08a	0.77a	N-18°E	94	57	43
VII	中近世	9 土坑	55-61-6 ~ H-1	楕円形	0.68a	1.04a	0.38a	N-19°E	94	57	43
VII	中近世	10 土坑	55-61-6 ~ H-1	不整形楕円形	1.03a	1.43a	0.52a	N-45°E	94 ~ 96	57	43
VII	中近世	11 土坑	55-61-8-1	楕円長方形	1.08a	1.49a	0.26a	N-15°E	96	57	43
VII	古代~古墳時代	12 土坑	55-61-4-15	楕円形か	0.65a	計測不能	0.29a	N-80°E	337	251	196
IX	中近世	1 土坑	55-71-4-4	楕円形	0.73a	0.86a	0.17a	N-28°E	98	59	45
IX	中近世	2 土坑	55-71-1-4	不整形楕円形	0.74a	1.46a	0.22a	N-4°E	98	59	45
IX	中近世	13 土坑	55-71-8-14 ~ 15	楕円形	0.62a	1.09a	0.37a	N-66°E	98	59	45
IX	中近世	4 土坑	55-71-8-13 ~ 14	楕円形	0.70a	0.97a	0.23a	N-26°E	98	59	45
IX	中近世	5 土坑	55-71-8-13 ~ 14	不整形楕円形	0.95a	1.12a	0.58a	N-38°E	98	59	45
IX	中近世	6 土坑	55-71-8-14	円形	0.60a	0.61a	0.36a	N-10°E	98	59	45
IX	中近世	7 土坑	55-71-8-14	楕円形	0.33a	0.42a	0.07a	N-36°E	98	59	45
IX	中近世	8 土坑	55-71-4-1 ~ 14	楕円形	1.17a	1.82a	0.54a	N-47°E	98	59	45
IX	中近世	9 土坑	55-71-8-11	不整形楕円形	0.60a	0.67a	0.21a	N-45°E	98	59	45 ~ 46
IX	中近世	10 土坑	55-71-4-9 ~ 10	楕円形	0.66a	0.91a	0.15a	N-66°E	98	60	46
IX	中近世	11 土坑	55-71-6-7	楕円形	1.14a	1.42a	0.40a	N-64°E	98	60	46
IX	中近世	12 土坑	55-71-8-3	楕円形	0.58a	0.69a	0.28a	N-4°E	98	60	46
IX	中近世	13 土坑	55-71-4 ~ H-1	楕円形	0.99a	0.50a以上	0.26a	計測不能	98	60	46
IX	中近世	14 土坑	55-71-4 ~ H-1	円形	1.03a	1.07a	0.13a	N-8°E	98	60	46
IX	中近世	15 土坑	55-71-9 ~ 10	楕円形	0.48a	0.72a	0.16a	N-2°E	98	60	46
IX	中近世	16 土坑	55-71-4-14	不整形楕円形	0.71a	1.46a	0.32a	N-64°E	98	60	46
IX	中近世	17 土坑	55-71-4-4	楕円形	0.57a	0.85a	0.37a	N-7°E	98 ~ 99	60	46
IX	中近世	18 土坑	55-61-4-18	不整形楕円形	0.43a	0.69a	0.26a	N-50°E	98 ~ 99	60	46 ~ 47
IX	中近世	19 土坑	55-71-8-13	楕円形	0.92a	1.04a	0.49a	N-20°E	98 ~ 99	60	47
IX	中近世	20 土坑	55-71-8-13	不整形楕円形	0.93a	1.23a	0.37a	N-8°E	98 ~ 99	60	47
IX	中近世	21 土坑	55-71-8-13	円形	059a	0.64a	0.35a	N-12°E	98 ~ 99	60	47
IX	中近世	22 土坑	55-71-8-13 ~ 14	円形	0.78a	0.88a	0.27a	N-69°E	98 ~ 99	60	47
IX	中近世	23 土坑	55-71-4-16	楕円形	0.56a	0.88a	0.28a	N-44°E	98 ~ 99	60	47
IX	古代~古墳時代	24 土坑	55-71-1-16	楕円形	0.31a	0.45a	0.21a	N-71°E	343	258	203
IX	古代~古墳時代	25 土坑	55-71-0-14	楕円形	計測不能	0.63a	0.13a	N-23°E	343	258	203
IX	古代~古墳時代	26 土坑	55-71-0-14	楕円形	0.55a	0.79a	0.05a	N-44°E	343	258	203
IX	古代~古墳時代	27 土坑	55-71-0-14	円形	0.59a	0.62a	0.06a	N-6°E	343	258	203
IX	古代~古墳時代	28 土坑	55-71-0-14	不整形楕円形	0.79a	1.09a	0.17a	N-31°E	343 ~ 346	258	203
IX	古代~古墳時代	29 土坑	55-71-0-14	不整形楕円形	0.71a	0.93a	0.12a	N-19°E	343 ~ 346	258	203
IX	古代~古墳時代	30 土坑	55-71-8 ~ 0-14	楕円形	0.66a	0.77a	0.15a	N-45°E	343 ~ 346	258	203 ~ 204
IX	古代~古墳時代	31 土坑	55-71-8-14	楕円長方形	0.71a	1.31a	0.29a	N-11°E	343 ~ 346	258	204
IX	古代~古墳時代	32 土坑	55-71-8-14	楕円形	計測不能	0.75a	0.30a	N-32°E	343 ~ 346	258	204
IX	古代~古墳時代	33 土坑	55-71-0-13	不整形楕円形	0.63a	0.79a	0.25a	N-46°E	343 ~ 346	258	204
IX	古代~古墳時代	34 土坑	55-71-8-13	楕円形	0.66a	0.79a	0.40a	N-19°E	343 ~ 346	258	204
IX	古代~古墳時代	35 土坑	55-71-4-13	不整形楕円形	0.67a	0.79a	0.23a	N-8°E	343 ~ 346	258	204

区分	基	遺構名称	グリッド	形態	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図版
					短軸	長軸	残存高さ				
III北	古代~古墳時代	56ビット	55-11-4-9	1号柱穴P9A							
III北	古代~古墳時代	57ビット	55-1-8-15	円形	0.42m	0.47m	0.45m	N-40°-E	250	185	135
III北	古代~古墳時代	58ビット	55-11-8-2	円形	0.22m	0.20m	0.18m	N-22°-E	250	185	135
III北	古代~古墳時代	59ビット	55-11-8-4	楕円形	0.20m	0.26m	0.15m	N-68°-E	250	185	135
III北	古代~古墳時代	60ビット	55-11-8-4	楕円形	0.27m	0.32m	0.27m	N-42°-E	250	185	135
III北	古代~古墳時代	61ビット	55-11-4-1	円筒状土器群跡							
III北	古代~古墳時代	62ビット	55-1-8-20	円筒状土器群跡							
III北	古代~古墳時代	63ビット	55-11-1-1	円形	0.41m	0.45m	0.29m	N-42°-E	250	185	135
III北	古代~古墳時代	64ビット	55-1-8-16+17	楕円形	0.20m	0.26m	0.10m	N-42°-E	250	185	135
III北	古代~古墳時代	65ビット	55-1-1-17	楕円形	0.17m	0.26m	0.40m	N-72°-E	250	185	135
III北	古代~古墳時代	66ビット	55-1-8-17	円形	0.27m	0.30m	0.38m	N-26°-E	250	185	135
III北	古代~古墳時代	67ビット	55-1-8-17	円形	0.19m	0.22m	0.21m	N-19°-E	250	185	135
III北	古代~古墳時代	68ビット	55-1-1-17	楕円形	0.11m	0.19m	0.21m	N-54°-E	250	185	135
III北	古代~古墳時代	69ビット	55-11-1-3	楕円形	0.37m	0.36m	0.27m	N-44°-E	254	185	135
III北	古代~古墳時代	70ビット	55-11-4-1	円形	0.31m	0.31m	0.10m	N-0°-E	250	185	136
III北	古代~古墳時代	71ビット	55-11-4-2	円形	計測不能	0.22m	0.40m	計測不能	250	185	136
III北	古代~古墳時代	72ビット	55-11-4-1	楕円形	0.19m	0.23m	0.08m	N-34°-E	250	185	136
III北	古代~古墳時代	73ビット	55-1-1-20	円筒状土器群跡							
III北	古代~古墳時代	74ビット	55-1-8-20	円筒状土器群跡							
III北	古代~古墳時代	75ビット	55-11-8-1	楕円形	0.23m	0.29m	0.07m	N-69°-E	250	185	136
III北	古代~古墳時代	76ビット	55-11-4-3	楕円形	0.53m	0.79m	0.20m	N-50°-E	250	185	136
III北	古代~古墳時代	77ビット	55-1-1-17	円形	0.26m	0.29m	0.27m	N-87°-E	250	185	136
III北	古代~古墳時代	78ビット	55-1-1-18	円形	0.17m	0.20m	0.11m	N-72°-E	250	185	136
III北	古代~古墳時代	79ビット	55-1-1-18	円形	0.13m	0.15m	0.32m	N-58°-E	250	185	136
III北	古代~古墳時代	80ビット	55-1-1-17	円形	0.20m	0.20m	0.18m	N-0°-E	250	185	136
III北	古代~古墳時代	81ビット	55-11-1-2	楕円形	0.24m	0.34m	0.34m	N-19°-E	250	185	136
III北	古代~古墳時代	82ビット	55-11-8-6	円形	0.53m	0.58m	0.44m	N-21°-E	250	185	136
III北	古代~古墳時代	83ビット	55-1-8-16	楕円形	0.17m	0.19m	0.15m	N-57°-E	250	185	136
III北	古代~古墳時代	84ビット	55-1-1-8+17	円形	0.38m	0.39m	0.41m	N-23°-E	250	185	136
III南	中近世	85ビット	55-1-1-12	楕円形	0.18m	0.26m	0.34m	N-70°-E	48	25	-
III南	中近世	86ビット	55-1-1-18	円形	0.33m	0.41m	0.35m	N-50°-E	48	25	15
III南	中近世	87ビット	55-1-1-19	楕円形	0.26m	0.32m	0.07m	N-68°-E	48	25	15
III南	中近世	88ビット	55-1-1-18	円形	0.24m	0.28m	0.11m	N-20°-E	48	25	15
III南	古代汎水層関連	89ビット	55-1-1-17	楕円形	0.72m	0.92m	0.23m	N-22°-E	188~190	134	97
III南	古代汎水層関連	90ビット	55-1-1-17	楕円形	0.33m	0.43m	0.24m	N-47°-E	188~190	134	97
III南	古代汎水層関連	91ビット	55-1-1-17+18	楕円形	0.40m	0.52m	0.27m	N-30°-E	188~190	134	97
III南	古代汎水層関連	92ビット	55-1-1-18	楕円形	0.32m	0.36m	0.10m	N-20°-E	188~190	134	97
III南	古代汎水層関連	93ビット	55-1-1-19	楕円形	0.29m	0.32m	0.15m	N-7°-E	188~190	134	97
III南	古代汎水層関連	94ビット	55-1-1-19	楕円形か	0.29m	計測不能	0.18m	N-0°-E	188~190	134	97
III南	古代汎水層関連	95ビット	55-1-1-18	円形	0.56m	0.68m	0.26m	N-64°-E	188~190	134	97
III南	古代汎水層関連	96ビット	55-1-1-20	円形か	0.30m	計測不能	0.19m	計測不能	188~190	134	-
III南	古代汎水層関連	97ビット	55-1-1-20	楕円形	0.38m	0.41m	0.19m	N-26°-E	188~190	134	97
III南	古代~古墳時代	98ビット	55-11-1-1	楕円形	0.44m	0.48m	0.34m	N-43°-E	250~254	186	136
III南	古代汎水層関連	99ビット	55-1-1-1	楕円形	0.49m	0.68m	0.27m	N-41°-E	188~190	134	97
III南	古代~古墳時代	100ビット	55-11-1-1	楕円形	0.62m	0.73m	0.28m	N-34°-E	250~254	186	136
III南	古代汎水層関連	101ビット	55-1-1-19	楕円形	0.28m	0.34m	0.19m	N-71°-E	188~190	134	97
III南	古代汎水層関連	102ビット	55-1-8-20	楕円形	0.29m	0.39m	0.07m	N-38°-E	188~190	134	98
III南	古代汎水層関連	103ビット	55-1-8-20	円形	0.64m	0.65m	0.06m	N-51°-E	188~190	134	98
III南	古代汎水層関連	104ビット	55-1-1-20	楕円形	0.52m	0.63m	0.02m	N-33°-E	188~190	134	98
III南	古代~古墳時代	105ビット	55-11-1-3	方形	0.17m	0.18m	0.16m	N-47°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	106ビット	55-11-1-4	方形	0.18m	0.22m	0.24m	N-42°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	107ビット	55-11-1-4	不整形跡	0.27m	0.31m	0.44m	N-50°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	108ビット	55-11-1-4	楕円形	0.29m	0.35m	0.40m	N-27°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	109ビット	55-11-1-4	丸方丸形	0.189m	0.19m	0.28m	N-70°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	110ビット	55-11-1-4	楕円形	0.26m	0.31m	0.73m	N-37°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	111ビット	55-11-1-2	円形	0.48m	0.52m	0.19m	N-14°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	112ビット	55-11-1-1	楕円形	0.37m	0.45m	0.36m	N-69°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	113ビット	55-1-1-20	楕円形	0.39m	0.42m	0.30m	N-21°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	114ビット	55-11-1-1	楕円形	0.36m	0.48m	0.16m	N-57°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	115ビット	55-1-1-20	楕円形	0.37m	0.46m	0.15m	N-28°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	116ビット	55-1-1-20	楕円形	0.29m	0.32m	0.23m	N-33°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	117ビット	55-1-1-20	円形	0.42m	0.45m	0.45m	N-47°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	118ビット	55-11-1-2	楕円形	0.47m	0.54m	0.14m	N-62°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	119ビット	55-11-4+1	楕円形	0.38m	0.43m	0.19m	N-8°-E	250~254	186	137
III南	古代~古墳時代	120ビット	55-1-1-20	楕円形	0.20m	0.21m	0.11m	N-12°-E	250~254	186	-
III南	古代~古墳時代	9号住居P1	55-1-8-20	円形	0.39m	0.44m	0.75m	N-61°-E	227	168+169	116+117
III南	古代~古墳時代	9号住居P2	55-11-1-1	楕円形	0.42m	0.43m	0.48m	N-57°-E	227	168+169	116+117
III南	古代~古墳時代	9号住居P3	55-11-8-5	楕円形	0.40m	0.47m	0.68m	N-62°-E	227	168+169	116+117
III南	古代~古墳時代	9号住居P4	55-11-1-1	楕円形	0.36m	0.39m	0.64m	N-29°-E	227	168+169	116+117
IV南	中近世	1ビット	55-11-1-8	楕円形	0.11m	0.54m	0.26m	N-64°-E	64	34	24
IV南	中近世	2ビット	55-11-1-17	楕円形	0.35m	0.47m	0.17m	N-70°-E	64	34	24
IV南	3ビット	穴蓋									
IV南	古代~古墳時代	4ビット	55-11-1-20	不整形跡	0.30m	計測不能	0.48m	N-18°-E	268	198	145
IV南	古代~古墳時代	5ビット	55-21-1-1+2	楕円形	0.24m	0.46m	0.17m	N-53°-E	268	198	145
IV南	古代~古墳時代	6ビット	55-21-1-2	楕円形	0.39m	計測不能	0.12m	N-69°-E	268	198	145
IV南	古代~古墳時代	7ビット	55-21-1-2	楕円形	0.29m	0.45m	0.06m	N-49°-E	268	198	145
IV南	古代~古墳時代	8ビット	55-21-1-1+2	不整形跡	0.38m	1.07m	0.09m	N-81°-E	268	198	146
IV南	古代~古墳時代	10ビット	55-21-1-3	楕円形	0.24m	0.55m	0.03m	N-16°-E	268	198	146
IV南	古代~古墳時代	12ビット	55-11-1-19	円形	0.27m	0.31m	0.15m	N-61°-E	268	198	146
IV南	古代~古墳時代	13ビット	55-11-1-8	楕円形	0.27m	0.31m	0.08m	N-8°-E	268	198	146

遺構一覧表

区分	基	遺構名称	グリッド	形態	規模			長軸方位	本文	挿図	写真図説
					短軸	長軸	残存壁高				
IV南	古代~古墳時代	14ビット	55-21-0-1	円形	0.43m	0.40m	0.10m	N-71°-E	268	198	146
IV南	古代~古墳時代	15ビット	55-11-F-20	円形	0.36m	0.30m	0.27m	N-22°-E	268	198	146
IV南	古代~古墳時代	16ビット	55-11-F-20	円形	0.33m	0.54m	0.22m	N-37°-E	268	198	146
IV南	古代~古墳時代	17ビット	55-11-E-18	方形	0.27m	0.27m	0.15m		268	198	146
IV南	古代~古墳時代	18ビット	55-11-E-16	円形	0.25m	0.34m	0.06m	N-55°-E	268	198	146
IV南	古代~古墳時代	19ビット	55-11-F-16	円形	0.31m	0.30m	0.09m	N-23°-E	268	198	146
IV南	古代~古墳時代	20ビット	55-11-0-15・16	楕円形	0.23m	0.42m	0.12m	N-42°-E	268	198	146
IV南	古代~古墳時代	21ビット	55-11-0-19	円形	0.24m	0.26m	0.15m	N-18°-E	268	198	146
IV南	古代~古墳時代	22ビット	55-11-E-19	不整形円形	0.56m	0.97m	0.06m	N-71°-E	268	198	146
IV南	古代~古墳時代	23ビット	55-11-0-17	楕円形	0.15m	0.19m	0.18m	N-59°-E	268	198	146
IV北	古代~古墳時代	24ビット	55-21-0-10	楕円形	0.25m	0.42m	0.18m	N-66°-E	268	198	146
IV北	古代~古墳時代	25ビット	55-21-11	楕円形	0.26m	0.39m	0.23m	N-70°-E	268	198	147
IV北	古代~古墳時代	26ビット	55-21-0-11	円形	0.48m	0.51m	0.18m	N-55°-E	268	198	147
IV北	古代~古墳時代	27ビット	55-21-11	1号竪石積跡95							
IV北	古代~古墳時代	28ビット	55-21-0-11	円形	0.31m	0.34m	0.07m	N-66°-E	268	198	147
IV北	古代~古墳時代	29ビット	55-21-0-10・11	円形	0.47m	0.49m	0.15m	N-89°-E	268	198	147
IV北	古代~古墳時代	30ビット	55-21-0-11	楕円形	0.36m	0.43m	0.42m	N-38°-E	268	199	147
IV北	古代~古墳時代	31ビット	55-21-0-10	円形	0.30m	0.41m	0.14m	N-34°-E	268	199	147
IV北	古代~古墳時代	32ビット	55-21-0-10	楕円形	0.29m	0.31m	0.05m	N-42°-E	268	199	147
IV北	古代~古墳時代	33ビット	55-21-0・H-10	楕円形	0.26m	0.34m	0.11m	N-80°-E	268	199	147
IV北	古代~古墳時代	34ビット	55-21-0-10	楕円形	0.32m	0.41m	0.15m	N-47°-E	268	199	147
IV北	古代~古墳時代	37ビット	55-21-0-11	1号竪石積跡97							
IV北	古代~古墳時代	38ビット	55-21-0-11	1号竪石積跡96							
IV北	古代~古墳時代	39ビット	55-21-11	1号竪石積跡92							
IV北	古代~古墳時代	40ビット	55-21-11	1号竪石積跡93							
IV北	古代~古墳時代	41ビット	55-21-0-10・11	1号竪石積跡94							
IV北	古代~古墳時代	42ビット	55-21-0-10	円形	0.23m	0.24m	0.20m	N-57°-E	268	198	147
IV北	古代~古墳時代	43ビット	55-21-0-11	楕円形	0.22m	0.28m	0.23m	N-11°-E	268	199	147
IV北	古代~古墳時代	94ビット	55-21-F-Q-23	円形	0.24m	0.27m	0.20m	N-65°-E	268	199	147
IV北	古代~古墳時代	95ビット	55-21-F-Q-24	不整形円形	0.28m	0.36m	0.14m	N-82°-E	268	199	147
V南	古代~古墳時代	9ビット	55-21-C-13	方形	0.24m	0.30m	0.07m	N-33°-E	268	214	163
V南	古代~古墳時代	11ビット	55-21-F-17	楕円形	0.26m	0.42m	0.20m	N-13°-E	268	214	163
V北	古代~古墳時代	33ビット	55-21-L-H-14	不整形円形	0.47m	0.49m	0.20m	N-23°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	36ビット	55-21-L-H-14	不整形円形	計測不能	計測不能	1.5m	計測不能	268	209	214
V北	古代~古墳時代	44ビット	55-21-0-16	円形	0.49m	0.39m以上	0.44m	N-0°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	45ビット	55-21-0-13	楕円形	0.37m	0.59m	0.35m	N-22°-E	268	209	210
V北	古代~古墳時代	46ビット	55-21-0・13	楕円形	0.27m	0.34m	0.51m	N-74°-E	268	209	210
V北	古代~古墳時代	47ビット	55-21-0-12	楕円形	0.38m	0.50m	0.35m	N-70°-E	268	209	210
V北	古代~古墳時代	48ビット	55-21-0-13	円形	0.22m	0.23m	0.06m	N-24°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	49ビット	55-21-0-14	円形	0.30m	0.32m	0.21m	N-30°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	50ビット	55-21-0-14	楕円形	0.20m	0.25m	0.24m	N-50°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	51ビット	55-21-0-15	方形	0.28m	0.30m	0.26m	N-66°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	52ビット	55-21-0-15	楕円形	0.45m	0.52m	0.53m	N-81°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	53ビット	55-21-0-15	円形	0.32m	0.32m	0.36m	N-0°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	54ビット	55-21-0-15	円形	0.44m	0.45m	0.42m	N-22°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	55ビット	55-21-0-15	円形	0.34m	0.40m	0.39m	N-57°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	56ビット	55-21-0・H-15	楕円形	0.34m	0.41m	0.39m	N-46°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	57ビット	55-21-0-15	楕円形	0.30m	0.36m	0.15m	N-41°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	58ビット	55-21-0-14	楕円形	0.31m	0.39m	0.33m	N-11°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	59ビット	55-21-0-14	楕円形	0.59m	0.84m	0.39m	N-70°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	60ビット	55-21-0-14	楕円形	0.36m	0.42m	0.42m	N-42°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	61ビット	55-21-0・H-14	円形	0.42m	0.46m	0.61m	N-54°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	62ビット	55-21-0-14	円形	0.28m	0.29m	0.26m	N-42°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	63ビット	55-21-0-14	楕円形	0.37m	0.42m	0.23m	N-56°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	64ビット	55-21-0-13	円形	0.27m	0.29m	0.21m	N-42°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	65ビット	55-21-0-13	楕円形	0.40m	0.45m	0.30m	N-46°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	66ビット	55-21-0-13	円形	0.23m	0.26m	0.12m	N-15°-E	268	209	210
V北	古代~古墳時代	67ビット	55-21-0-13・14	楕円形	0.32m	0.34m	0.50m	N-13°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	68ビット	55-21-0-14	円形	0.23m	0.23m	0.19m	N-0°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	69ビット	55-21-0-15	円形	0.23m	計測不能	0.15m	N-0°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	70ビット	55-21-0-15	楕円形	0.34m	0.32m	0.18m	N-63°-E	268	209	214
V北	古代~古墳時代	71ビット	55-21-0-13	楕円形	0.47m	0.59m	0.19m	N-13°-E	268	209	210
V北	古代~古墳時代	72ビット	55-21-0-13	円形	0.33m	0.35m	0.25m	N-72°-E	268	209	210
V北	古代~古墳時代	73ビット	55-21-0-12	円形	0.37m	0.41m	0.13m	N-50°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	74ビット	55-21-0-12	円形	0.54m	0.58m	0.22m	N-51°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	75ビット	55-21-0-12	円形	0.36m	0.40m	0.23m	N-18°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	76ビット	55-21-0-12	円形	0.40m	0.45m	0.24m	N-15°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	77ビット	55-21-0-17	楕円形	0.20m	0.23m	0.19m	N-18°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	78ビット	55-21-0-17	円形	0.31m	0.32m	0.31m	N-13°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	79ビット	55-21-0-17	円形	0.25m	0.29m	0.25m	N-36°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	80ビット	55-21-0-17	円形	0.36m	0.37m	0.16m	N-22°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	81ビット	55-21-0-15	楕円形	0.29m	0.41m	0.58m	N-55°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	82ビット	55-21-0-16	楕円形	0.23m	0.24m	0.26m	N-84°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	83ビット	55-21-0-13	円形	0.29m	0.31m	0.42m	N-46°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	84ビット	55-21-0-15	楕円形	0.16m	0.17m	0.12m	N-61°-E	268	209	215
V北	古代~古墳時代	85ビット	55-21-F-Q-14	楕円形跡	0.40m	計測不能	0.11m	計測不能	268	209	216
V北	古代~古墳時代	86ビット	55-21-F-Q-14	円形跡	0.25m	計測不能	0.30m	計測不能	268	209	216
V北	古代~古墳時代	87ビット	55-21-F-Q-14	楕円形跡	0.32m	計測不能	0.19m	計測不能	268	209	216
V北	古代~古墳時代	88ビット	55-21-F-Q-14	楕円形跡	計測不能	計測不能	0.30m	計測不能	268	209	216
V北	古代~古墳時代	89ビット	55-21-0-13	楕円形	0.55m	0.83m	0.28m	N-20°-E	268	209	210

区 編分	番	通稱名称	グリッド	形態	積算			軸方位	本文	挿印	写真取説
					短軸	長軸	残存長さ				
V北	古代～古墳時代	90 ビット	55-21-N12・13	楕円形	0.32m	0.44m	0.24m	N-69°-E	288・289	210	-
V北	古代～古墳時代	91 ビット	55-21-N13	楕円形	0.31m	0.40m	0.33m	N-53°-E	288・289	210	158
V北	古代～古墳時代	92 ビット	55-21-N・0-12・13	楕円形	0.28m	0.30m	0.31m	N-62°-E	288・289	210	158
V北	古代～古墳時代	93 ビット	55-21-O12・13	楕円形	0.23m	0.29m	0.46m	N-71°-E	288・289	210	159
V北	古代～古墳時代	94 ビット	55-21-N13	円形	0.23m	0.26m	0.11m	N-91°-E	288・289	210	159
V北	古代～古墳時代	97 ビット	55-21-N15	楕円形	0.10m	0.32m	0.10m	N-62°-E	288・289	216	165
V北	古代～古墳時代	98 ビット	55-21-N15	楕円形	0.26m	0.35m	0.33m	N-43°-E	288・289	216	165
V西	中近世	99 ビット	55-31-2	圓丸方形	0.30m	0.64m	0.22m	N-5°-E	76	43	29
V西	中近世	100ビット	55-31-I-4	不整形円形	0.30m	0.49m	0.06m	N-56°-E	76	43	29
VI	中近世	1 ビット	55-41-G-13	楕円形	0.41m	0.40m	0.30m	N-37°-E	85	49	35
VI	古代～古墳時代	2 ビット	55-41-I-5	楕円形	0.43m	0.40m	0.14m	N-55°-E	320・326	238	182
VI	古代～古墳時代	3 ビット	55-41-I-3	楕円形	0.46m	0.53m	0.14m	N-20°-E	320・326	238	182
VI	古代～古墳時代	4 ビット	55-41-I-3	楕円形	0.34m	0.50m	0.26m	N-12°-E	320・326	238	182
VI	古代～古墳時代	5 ビット	55-41-I-3	楕円形	0.37m	0.62m	0.16m	N-46°-E	320・326	238	182
VI	古代～古墳時代	6 ビット	55-41-I-4	2号住跡P5							
VI	古代～古墳時代	7 ビット	55-41-I-4	2号住跡P1							
VI	古代～古墳時代	8 ビット	55-41-I-4	1号住跡P5							
VI	古代～古墳時代	9 ビット	55-41-I-4	1号住跡P5							
VI	古代～古墳時代	10ビット	55-41-I-3	2号住跡P2							
VI	古代～古墳時代	11ビット	55-41-I-4	不整形円形	0.50m	0.57m	0.07m	N-46°-E	320・326	238	-
VI	古代～古墳時代	12ビット	55-41-I-3	2号住跡P2							
VI	古代～古墳時代	13ビット	55-41-I-3	2号住跡P8							
VI	古代～古墳時代	14ビット	55-41-I-3	2号住跡P4							
VI	古代～古墳時代	15ビット	55-41-I-3	2号住跡P3							
VI	古代～古墳時代	16ビット	55-41-I-3	2号住跡P7							
VI	古代～古墳時代	17ビット	55-41-I-6	楕円形	0.26m	0.42m	0.24m	N-54°-E	320・326	238	182
VI	古代～古墳時代	18ビット	55-41-I-6	楕円形	0.28m	0.30m	0.19m	N-56°-E	320・326	238	182
VI	古代～古墳時代	19ビット	55-41-I-6	楕円形	0.28m	0.30m	0.24m	N-69°-E	320・326	238	182
VI	古代～古墳時代	20ビット	55-41-I-6	不整形円形	0.32m	0.30m	0.22m	N-83°-E	320・326	238	182
VI	古代～古墳時代	21ビット	55-41-I-6	楕円形	0.25m	0.27m	0.26m	N-31°-E	320・326	238	-
VI	古代～古墳時代	22ビット	55-41-I-6	圓丸方形	0.27m	0.29m	0.22m	N-30°-E	320・326	239	-
VI	古代～古墳時代	23ビット	55-41-I-4	楕円形	0.28m	0.31m	0.30m	N-15°-E	320・326	239	-
VI	古代～古墳時代	24ビット	55-41-I-3	不整形円形	0.31m	0.45m	0.45m	N-3°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	25ビット	55-41-I-2	楕円形	0.39m	0.57m	0.16m	N-19°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	26ビット	55-41-I-5	1号独立住跡P9							
VI	古代～古墳時代	27ビット	55-41-I-4・5	1号独立住跡P9							
VI	古代～古墳時代	28ビット	55-41-I-6	円形	0.25m	0.29m	0.26m	N-10°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	29ビット	55-41-I-4	1号独立住跡P2							
VI	古代～古墳時代	30ビット	55-41-I-5	不整形円形	0.30m	0.60m	0.34m	N-50°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	31ビット	55-41-I-5	1号独立住跡P5							
VI	古代～古墳時代	32ビット	55-41-I-4	1号独立住跡P9							
VI	古代～古墳時代	33ビット	55-41-I-5	1号独立住跡P9							
VI	古代～古墳時代	34ビット	55-41-I-6	楕円形	0.22m	0.27m	0.24m	N-50°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	35ビット	55-41-I-6	円形	0.23m	0.24m	0.13m	N-17°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	36ビット	55-41-I-6	楕円形	0.22m	0.27m	0.11m	N-13°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	37ビット	55-41-I-6	楕円形	0.42m	0.44m	0.14m	N-31°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	38ビット	55-41-I-7	円形	0.37m	0.62m	0.31m	N-67°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	39ビット	55-41-I-7	不整形円形	0.30m	0.44m	0.23m	N-1°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	40ビット	55-41-I-7	不整形円形	0.27m	0.32m	0.27m	N-21°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	41ビット	55-41-I-6	楕円形	0.31m	0.40m	0.32m	N-72°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	42ビット	55-41-J・6	楕円形	0.29m	0.39m	0.43m	N-10°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	43ビット	55-41-I-7	楕円形	0.25m	0.40m	0.21m	N-77°-E	320・326	239	-
VI	古代～古墳時代	44ビット	55-41-I-7	楕円形	0.37m	0.39m	0.09m	N-69°-E	320・326	239	-
VI	古代～古墳時代	45ビット	55-41-I-6	不整形円形	0.30m	0.41m	0.08m	N-45°-E	320・326	239	-
VI	古代～古墳時代	46ビット	55-41-I-6	楕円形	0.24m	0.32m	0.15m	N-10°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	47ビット	55-41-I・6	不整形円形	0.23m	0.77m	0.24m	N-10°-E	320・326	239	183
VI	古代～古墳時代	48ビット	55-41-I-6	不整形円形	0.33m	0.72m	0.30m	N-3°-E	320・326	239	184
VI	古代～古墳時代	49ビット	55-41-I・1-17	不整形円形	0.28m	0.67m	0.52m	N-59°-E	320・326	240	184
VI	古代～古墳時代	50ビット	55-41-I・5・6	不整形円形	0.36m	0.70m	0.41m	N-50°-E	320・326	240	184
VI	古代～古墳時代	51ビット	55-41-I-16	不整形円形	0.48m	1.01m	0.61m	N-59°-E	320・326	240	184
VI	古代～古墳時代	52ビット	55-41-I-7	不整形円形	0.37m	0.62m	0.46m	N-67°-E	320・326	240	184
VI	古代～古墳時代	53ビット	55-41-I-6	楕円形	0.26m	0.55m	0.16m	N-40°-E	320・326	240	184
VI	古代～古墳時代	54ビット	55-41-I-5	不整形円形	0.25m	0.64m	0.27m	N-38°-E	320・326	240	-
VI	古代～古墳時代	55ビット	55-41-I-6	楕円形	0.32m	0.44m	0.30m	N-12°-E	320・326	240	184
VI	古代～古墳時代	56ビット	55-41-I・6	楕円形	0.44m	0.46m	0.50m	N-58°-E	320・326	240	184
VI	古代～古墳時代	57ビット	55-41-I-5	1号柱穴P2							
VI	古代～古墳時代	58ビット	55-41-I-5	1号柱穴P3							
VI	古代～古墳時代	59ビット	55-41-I・4・5	1号柱穴P4							
VI	古代～古墳時代	60ビット	55-41-I-4	1号柱穴P5							
VI	古代～古墳時代	61ビット	55-41-I-4	1号柱穴P6							
VI	古代～古墳時代	62ビット	55-41-I-4	1号柱穴P7							
VI	古代～古墳時代	63ビット	55-41-I-4	1号柱穴P9							
VI	古代～古墳時代	64ビット	55-41-I-4	不整形円形	0.34m	1.17m	0.32m	N-40°-E	320・326	240	184
VI	古代～古墳時代	65ビット	55-41-I・4・5	楕円形	0.23m	0.27m	0.08m	N-38°-E	320・326	240	184
VI	古代～古墳時代	66ビット	55-41-I・4・5	不整形円形	0.30m	0.56m	0.34m	N-67°-E	320・326	240	184
VI	古代～古墳時代	67ビット	55-41-I-4	楕円形	0.24m	0.34m	0.12m	N-77°-E	320・326	240	184
VI	古代～古墳時代	68ビット	55-41-I・6・4	方形	0.21m	0.26m	0.10m	N-78°-E	320・326	240	-
VI	古代～古墳時代	69ビット	55-41-I-6	不整形円形	0.28m	0.28m	0.14m	N-49°-E	320・326	240	-
VI	古代～古墳時代	70ビット	55-41-I-1	不整形円形	0.24m	0.27m	0.12m	N-86°-E	320・326	240	184
VI	古代～古墳時代	71ビット	55-41-I-5	楕円形	0.26m	0.34m	0.25m	N-7°-E	320・326	240	184

区分	面	溝構名称	グリッド	形態	規模			長軸方位	本文	押込	写真図版
					短軸	長軸	残存壁高				
VI	古代~古墳時代	152ビット	55-41-1-1	2号竪立柱建物9							
VI	古代~古墳時代	153ビット	55-41-1-1	2号竪立柱建物9							
VI	古代~古墳時代	154ビット	55-41-1-1	木製戸形	0.32m	0.32m	0.08m	~	320~326	243	188
VI	古代~古墳時代	155ビット	55-41-1-1	権戸片少	0.40m	0.41m以上	0.24m	N-16°-E	320~326	243	188
VI	古代~古墳時代	156ビット	55-41-1-2	0.34m	0.44m	0.10m	N-60°-E	320~326	243	188	
VI	古代~古墳時代	157ビット	55-41-1-2	2号竪立柱建物9							
VI	古代~古墳時代	158ビット	55-41-1-2	2号竪立柱建物9							
VI	古代~古墳時代	159ビット	55-41-1-2	2号竪立柱建物9							
VI	古代~古墳時代	160ビット	55-41-1-2	2号竪立柱建物9							
VI	古代~古墳時代	161ビット	55-41-1-2	2号竪立柱建物9							
VI	古代~古墳時代	162ビット	55-41-1-2	権戸片	0.34m	0.43m	0.10m	N-62°-E	320~326	243	-
VI	古代~古墳時代	163ビット	55-41-1-2	権戸片	0.28m	0.29m	0.11m	N-36°-E	320~326	243	188
VI	古代~古墳時代	164ビット	55-41-1-2	木製戸形	0.29m	0.39m	0.18m	N-45°-E	320~326	243	188
VI	古代~古墳時代	165ビット	55-41-1-2	木製戸形	0.31m	0.31m	0.18m	~	320~326	243	188
VI	古代~古墳時代	166ビット	55-41-1-2	2号竪立柱建物9							
VI	古代~古墳時代	167ビット	55-41-1-2	2号竪立柱建物9							
VI	古代~古墳時代	168ビット	55-41-1-2	長横戸形・溝状	0.33m	0.79m以上	0.08m	N-23°-E	320~326	243	-
VI	古代~古墳時代	169ビット	55-41-1-2	権戸片	0.43m	0.65m	0.29m	N-26°-E	320~326	243	188
VI	古代~古墳時代	170ビット	55-41-1-2	木製戸形	0.24m	0.30m	0.11m	N-63°-E	320~326	243	188
VI	古代~古墳時代	171ビット	55-31-1-9	木製戸形	0.41m	0.52m	0.15m	N-30°-E	320~326	243	188
VI	古代~古墳時代	172ビット	55-31-1-20	3号竪立柱建物9							
VI	古代~古墳時代	173ビット	55-31-1-20	3号竪立柱建物9							
VI	古代~古墳時代	174ビット	55-41-1-2	木製戸形	0.37m	0.40m	0.13m	N-79°-E	320~326	243	188
VI	古代~古墳時代	175ビット	55-41-1-2	2号竪立柱建物9							
VI	古代~古墳時代	176ビット	55-41-1-1	権戸片						243	188
VI	古代~古墳時代	177ビット	55-41-1-5	1号柱穴9P1							
VI	古代~古墳時代	178ビット	55-31-1-20	3号竪立柱建物9							
VIII	古代~古墳時代	1ビット	55-61-10-11	円形	0.30m	0.30m	0.28m	~	337	251	196
VIII	古代~古墳時代	2ビット	55-61-1-7	円形	0.26m	0.30m	0.23m	N-80°-E	337	251	196
VIII	古代~古墳時代	3ビット	55-61-1-9	権戸片	0.26m	0.48m	0.14m	N-2°-E	337	251	196
IX	中世	1ビット列	55-71-1-10-2・3	木製戸形	0.25-0.3m	0.35-0.5m	0.07-0.11m	N-13°-E	143	98	47

6. 溝溝

区分	面	溝構名称	グリッド	形態	規模			長軸方位	本文	押込	写真図版	
					短軸長軸	傾斜短軸	傾斜長軸/溝底高					
IV	南	古代~古墳時代	1 溝溝	55-11-8-16-9-18	方形	8.90m	8.70m	0.36m	N-36°-E	270	200・201	148・149・221
IV	南	古代~古墳時代	2 溝溝	55-11-1-E・F-19-1	方形	計測不能	計測不能	0.35m	N-5°-E	272	202	148・149

7. 溝

区分	面	溝構名称	グリッド	調査長	規模			走向	本文	押込	写真図版	
					最小幅	最大幅	残存壁高					
I	北	中世世	45-91-E-1-6・7	17.12m	5.66m	6.30m	1.19m	N-5°-E				
I	中央	中世世	45-91-E-6-7	27.0m	計測不能	計測不能	計測不能	N-8°-E	30	12・74	3・207	
I	南	中世世	45-91-E-6-7	10.3m	計測不能	計測不能	0.63m	N-9°-E				
III	南	中世世	経堀	55-11-8-E-6-10	21.80m	4.10m	5.30m	1.19m	N-34°-E	49	26・72	16・208
IV	北	中世世	経堀	55-11-L-N-12-14	18.33m	4.30m	6.30m	1.10m	N-20°-E	64・65	35・36・71	24・209
IV	中央	中世世	経堀	55-11-W-4-12-14	18.67m	4.30m	6.52m	1.11m	N-25°-E			

8. 溝

区分	面	溝構名称	グリッド	調査長	規模			走向	本文	押込	写真図版	
					最小幅	最大幅	残存壁高					
I	北	中世世	1 溝	45-91-E-4-5・6	10.05m	0.44m	0.72m	0.29m	N-8°-E	30	12・13・74	3
I	北	中世世	2 溝	45-91-E-4-5・6	11.48m	0.58m	0.80m	0.27m	N-6°-E	32	13・74	3
I	北	中世世	3 溝	45-91-E-4-5	11.30m	0.50m	0.75m	0.17m	N-7°-E	32	13・74	3
I	北	中世世	4 溝	45-91-E-5・6	3.64m	0.60m	1.50m	0.64m	N-7°-E	32	13・74	3・4
I	北	中世世	5 溝	45-91-E-L-1-4	18.80m	0.39m	0.82m	0.12m	N-62°-E	32	13・74	4
I	北	中世世	6 溝	45-91-E-L-1-5	17.30m	0.38m	0.50m	0.06m	N-62°-E	32	13・74	4
I	北	中世世	7 溝	45-91-E-20-1・5	23.30m	0.38m	0.70m	0.16m	N-62°-E	32	13・74	4
I	北	中世世	8 溝	45-91-E-2-4	9.34m	0.22m	0.38m	0.10m	N-63°-E	32	13・74	4
I	中央	中世世	9 溝	作図なし		0.60m	1.10m	0.36m	N-4°-E	32	13・74	4
I	南	中世世	10 溝	45-81-E-9-13	7.00m	0.74m	1.30m	0.33m	N-5°-E			
I	南	中世世	10 溝	45-91-L-8-5	8.04m	0.23m	0.65m	0.03m	N-5°-E	32	13・74	4
I	中央	中世世	11 溝	45-91-E-5	2.90m	0.34m	0.50m	0.11m	N-11°-E	32	13・74	3・4
I	中央	中世世	11 溝	45-91-E-4-5	24.8m	0.10m	0.42m	0.07m	N-51°-E			
I	北	中世世	12 溝	45-91-E-5	1.70m	0.23m	0.34m	0.09m	N-75°-E	33	74	4
I	北	中世世	13 溝	45-91-E-3-4	11.40m	0.26m	0.80m	0.07m	N-30°-E	33	74	4
I	北	中世世	14 溝	45-91-E-2-4	2.48m	0.43m	1.03m	0.15m	N-76°-E	34	74	4
I	北	中世世	15 溝	45-91-E-3	8.35m	0.96m	1.24m	0.06m	N-8°-E	34	13・74	4
I	北	中世世	16 溝	45-91-E-3-5	13.00m	0.42m	1.02m	0.13m	N-81°-E		13・74	4
I	北	中世世	17 溝	45-91-E-2・3	8.84m	0.14m	0.44m	0.06m	N-62°-E		13・74	4
I	南	中世世	18 溝	45-81-E-15-18	16.82m	0.38m	0.68m	0.02m	N-51°-E	118	75・110	50
I	南	中世世	19 溝	45-81-E-20-1-2	16.10m	0.42m	0.60m	0.03m	N-55°-E	118	110	50
I	北	中世世	20 溝	45-91-E-L-3-5	10.00m	0.59m	0.88m	0.05m	N-77°-E		13・74	4
I	北	中世世	21 溝	45-91-E-2-5	14.00m	0.57m	0.64m	0.07m	N-86°-E	34	74	-
I	北	中世世	22 溝	45-81-E-11-13	10.80m	0.90m	1.50m	0.17m	N-11°-E			
I	中央	古代~古墳時代	22 溝	45-81-E-11-13	25.0m	0.50m	1.00m	0.26m	N-9°-E	213	155・268	107・236
I	南	中世世	23 溝	45-81-E-10-12	11.80m	0.90m	1.85m	0.15m	N-13°-E			
				穴溝								

遺構一覧表

区分	基	遺構名称	グリッド	調査長	規模			走向	本文	海図	写真図版	
					最小幅	最大幅	残存率					
IV北	中近世	45遺	55-11-E-13	9.55m	0.88m	1.04m	0.13m	W-30°	67	36-71	24	
IV中央	中近世		55-11-J-12・13	6.45m	0.45m	0.85m	0.45m	W-32°				
IV北	中近世	46遺	55-11-E-12・13	16.80m	0.45m	0.50m	0.10m	W-26°	67	36-71	24	
IV中央	中近世		55-11-J-K-12	5.20m	0.29m	0.57m	0.46m	W-22°				
IV北	中近世		55-11-E-11・12・14	17.45m	0.85m以上	1.09m以上	0.42m	W-28°				
IV中央	中近世	47遺	55-11-J-K-12	4.54m	0.69m以上	1.05m以上	不明	W-23°	67	36-71	24	
IV北	中近世		55-11-E-13	5.40m	0.60m	0.85m	0.07m	W-28°				
IV中央	中近世	48遺	55-11-J-K-12・13	8.38m	0.94m	1.45m	0.36m	W-33°	67	36-71	24	
IV中央	中近世	49遺	55-11-E-12・13	8.23m	0.45m以上	0.70m以上	不明	W-33°	67	36-71	24	
IV北	中近世	50遺	55-11-21-B-15・11	82.00m	0.28m	0.52m	0.03m	W-85°	70	71	-	
V南	中近世	2遺	55-21-F-13・14	5.20m	1.18m	2.00m	0.39	W-90°	77	70	30	
V南	中近世		55-21-F-14	17.83m	1.04m	1.61m	0.37m	W-87°	77	44-70	30・210	
V南	中近世	3遺	55-21-33-D-C-18・7	46.16m	1.11m	1.48m	0.30m	W-73°	77	44-70	30	
V南	中近世	4遺	55-21-F-14	15.38m	0.50m	0.80m	0.21m	W-7°	77	44-70	29	
V南	中近世	5遺	55-21-F-14	18.44m	0.94m	1.58m	0.26m	W-88°	77	44-70	30	
V南	中近世		55-21-33-F-9-14-12	113.23m	0.95m	2.72m	0.35m	W-64°	77	44-70	30	
V北	中近世	6遺	55-21-B-14	16.70m	0.40m	1.94m	0.42m	W-2°	77	44-70	31	
V南	中近世	7遺	55-21-33-F-18	16.46m	0.38m	0.84m	0.03m	W-76°	77	44-70	31	
V南	中近世		55-21-33-F-18-5	37.00m	0.34m	0.59m	0.04m	W-87°				
V南	古代～古墳時代	16遺	55-21-C-D-13	10.43m	0.42m	2.14m	0.15m	W-72°	289	217・264	166	
V南	古代～古墳時代	23遺	55-21-B-16	20.12m	0.35m	0.58m	0.15m	W-16°	289	217・264	166	
V北	中近世	31遺	55-21-J-K-12	15.32m	0.18m	0.38m	0.10m	W-89°	77	70	32	
V北	中近世	32遺	55-21-B-16	6.51m	0.47m	0.55m	0.08m	W-79°	77	70	32	
V北	中近世	33遺	55-21-E-13	4.60m	0.14m	0.29m	0.06m	W-73°	77	70	32・210	
V北	中近世	34遺	55-21-B-16	23.12m	0.80m	2.36m	0.43m	W-57°	77	44-70	31・32・210	
V北	古代～古墳時代	35遺	55-21-B-13	12.50m	0.50m	0.73m	0.20m	W-7°	289	218・264	166・167	
V北	古代～古墳時代	36遺	55-21-J-K-12	6.48m	0.22m	1.17m	0.05m	W-68°	289	217・264	165・222	
V北	古代～古墳時代	37遺	55-21-E-16・17	4.28m	0.38m	0.45m	0.17m	W-87°	293	264	167	
V北	古代～古墳時代	38遺	55-21-F-15	2.14m	0.48m	0.70m	0.29m	W-52°	293	217・264	167	
V北	古代～古墳時代	39遺	55-21-F-14	3.70m	0.20m	0.34m	0.07m	W-79°	293	217・264	166・168	
V北	古代～古墳時代	41遺	55-21-C-D-7	6.50m	0.43m	0.62m	0.03m	W-43°	293	217・264	166	
V北	古代～古墳時代	42遺	55-21-F-15	0.88m	0.27m	0.54m	0.03m	W-87°	293	264	168	
VI	中近世	1遺	55-41-B-6	39.90m	0.72m	1.28m	0.38m	W-79°	77	50-69	36・210	
VI	中近世	2遺	55-41-B-W-9	6.78m	0.21m	0.35m	0.04m	W-82°	78	51-69	36	
VI	中近世	3遺	55-41-E-8	16.91m	0.20m	0.66m	0.07m	W-1°	78	51-69	36	
VI	中近世	4遺	55-41-E-8	42.0m	0.42m	1.32m	0.09m	W-1°	78	51-69	36	
VI	中近世	5遺	55-41-B-6・7	45.27m	0.38m	0.80m	0.10m	W-6°	78	51-69	36	
VI	中近世	6遺	55-31-B-14-41-8-4	54.40m	0.76m	1.36m	0.20m	W-67°	78	51-69	36・211	
VI	中近世	7遺	55-41-B-4	4.40m	0.50m	1.09m以上	0.10m	W-2°	88	51-69	36	
VI	中近世	8遺	55-31-L-W-18	7.30m	0.46m	1.69m	0.11m	W-6°	88	51-69	36・37	
VI	中近世	9遺	55-31-E-17	52.00m	0.18m	1.50m	0.17m	W-3°	88	51-69	36・37	
VI	中近世	10遺	55-31-C-10	17.25m	0.48m	1.55m	0.14m	W-2°	136	92・103	68	
VI	中近世	11遺	55-31-B-15	6.87m	0.56m	1.80m	0.12m	W-8°	88	51-69	36	
VI	中近世	12遺	55-41-B-1・1・2	4.23m	0.42m	0.74m	0.23m	W-22°	88	51-69	37	
VI	中近世	13遺	55-31-E-F-18	20.02m	0.38m	0.86m	0.06m	W-64°	89	51-69	37	
VI	古代～古墳時代	14遺	55-41-J-K-7	3.86m	0.49m	0.70m	0.07m	W-8°	326	244・263	189・224	
VI	古代～古墳時代	15遺	55-41-J-7	2.04m	0.30m	0.85m	0.31m	W-18°	326	244・263	190	
VI	古代～古墳時代	16遺	55-41-E-1・7	5.56m	0.30m	0.56m	0.21m	W-10°	327	244・263	189・190・224	
VI	古代～古墳時代	17遺	55-41-E-W-6・7	8.97m	0.36m	0.96m	0.09m	W-31°	327	244・263	190・191	
VI	古代～古墳時代	18遺	55-41-E-F-5	6.76m	0.88m	1.88m	0.37m	W-45°	327	244・246・263	191・224	
VI	古代～古墳時代	19遺	55-31-E-16-17-D-17	37.20m	0.26m	0.52m	0.19m	W-21°	327	246・263	192	
VI	古代～古墳時代	20遺	55-41-B-8	52.80m	0.28m	0.61m	0.17m	W-34°	329	246・263	192・194	
VI	古代～古墳時代	21遺	55-41-E-W-6	17.68m	0.39m	1.08m	0.49m	W-35°	329	247・248・263	192・224・225	
VI	古代～古墳時代	22遺	55-41-E-F-11	17.64m	0.22m	0.44m	0.17m	W-83°	329	246・263	193	
VI	古代～古墳時代	23遺	55-41-E-G-10	11.85m	0.16m	0.34m	0.03m	W-39°	329	246・263	193	
VI	古代～古墳時代	24遺	55-41-E-11	13.0m	0.36m	0.70m	0.41m	W-50°	329	249・263	193・225・226	
VI	古代～古墳時代	25遺	55-41-E-W-7	13.38m	0.40m	2.50m	0.26m	W-78°	334	246・263	193・194	
VI	古代～古墳時代	26遺	55-41-J-K-6	8.14m	0.34m	1.22m	0.10m	W-58°	334	249・263	194	
VI	古代～古墳時代	27遺	55-41-E-8	13.25m	0.34m	0.72m	0.18m	W-9°	334	246・263	194	
VI	古代～古墳時代	28遺	55-31-C-17-41-B-5	62.50m	0.16m	0.82m	0.17m	W-37°	334	249・263	194	
VI	古代～古墳時代	29遺	55-41-E-11	2.04m	0.30m	0.56m	0.31m	W-42°	336	244・263	194	
VI	中近世	1遺	55-41-E-15	51.44m	1.17m	2.00m	0.42m	W-43°	91	56-68	40・211	
VI	中近世	2遺	55-51-E-7	14.48m	0.75m	1.38m	0.27m	W-86°	92	56-68	40	
VI	中近世	3遺	55-51-E-1	9.00m	1.04m	1.30m	0.26m	W-11°	92	56-68	40	
VI	中近世	4遺	55-51-J-K-8	2.90m	1.56m	1.80m	0.33m	W-16°	92	56-68	40	
VI	中近世	5遺	55-41-F-8	36.60m	0.40m	0.70m	計測不能	W-3°	92	56-68	40	
VI	中近世	6遺	55-41-E-8	37.10m	0.40m	0.80m	計測不能	W-7°	93	68	40	
VI	中近世	7遺	55-51-E-3	40.00m	0.30m	0.75m	計測不能	W-13°	93	68	40	
VI	中近世	1遺	55-51-E-16	5.20m	1.10m	1.40m	0.28m	W-88°	96	58-67	41・43	
VI	中近世	2遺	55-51-F-17	61-L-2	59.30m	0.28m	1.80m	0.33m	W-88°	96	58-67	41・43
VI	中近世	3遺	55-61-E-1	33.30m	0.36m	1.30m	0.26m	W-81°	96	58-67	41・43	
VI	中近世	4遺	55-61-G-9	15.46m	0.20m	2.50m	0.03m	W-84°	97	41		
VI	古代～古墳時代	5遺	55-61-G-9	15.46m	0.50m	0.90m	0.19m	W-59°	337	252・262	196・197	
VI	古代～古墳時代	6遺	55-61-G-12	23.70m	0.25m	0.54m	0.09m	W-44°	337	252・262	197	
VI	古代～古墳時代	7遺	55-61-G-12	14.48m	1.90m	5.45m	0.31m	W-45°	338	252・253・262	197・226	
VI	古代～古墳時代	8遺	55-61-G-13	11.48m	0.40m	1.20m	0.06m	W-47°	338	254・262	198・199	
VI	古代～古墳時代	9遺	55-61-E-1	12.65m	0.90m	1.40m	0.32m	W-40°	338	254・262	198・199	
VI	古代～古墳時代	10遺	55-61-E-3	35.60m	0.40m	1.00m	0.16m	W-64°	340	254・262	199・200	
VI	古代～古墳時代	11遺	55-51-E-16	61-L-6	46.90m	0.36m	1.20m	0.15m	W-75°	340	253・254・262	199・200・226
VI	古代～古墳時代	12遺	55-51-E-16	61-L-20	28.50m	0.78m	1.40m	0.25m	W-51°	340	254・262	200・201

区分	期	遺構名称	グリッド	調査長	規模			走向	本文	押図	写真図版
					最小幅	最大幅	残存壁高				
Ⅷ	古代～古墳時代	13 溝	55-51-6-19-61-1-3	16.20m	0.25m	1.15m	0.13m	Ⅱ-72' -E	342	262	201
Ⅷ	古代～古墳時代	14 溝	55-51-1-16-4-19	11.75m	0.36m	0.94m	0.21m	Ⅱ-45' -E	342	254・262	201
Ⅸ	中近世	1 溝	55-71-8-8-0-6	50.25m	0.80m	1.90m	0.50m	Ⅱ-55' -W	101	61・66	48・211
Ⅸ	中近世	2 溝	55-71-4-9-0-9	17.24m	0.20m	0.45m	0.09m	Ⅱ-9' -E	101	61・66	48・211
Ⅸ	中近世	3 溝	55-71-4-8-6-9	20.02m	0.60m	1.30m	0.14m	Ⅱ-84' -E	101	61・66	48
Ⅸ	中近世	4 溝	55-71-1-9-8-9	17.30m	0.40m	0.90m	0.15m	Ⅱ-4' -E	101	61・66	48・211
Ⅸ	中近世	5 溝	55-71-8-4-8-4	29.40m	1.10m	1.80m	0.37m	Ⅱ-47' -E	103	62・66	49
Ⅸ	中近世	6 溝	55-61-1-17-11-4	36.70m	0.45m	1.00m	0.10m	Ⅱ-6' -E	103	62・66	49
Ⅸ	古代～古墳時代	7 溝	55-71-4-15-8-14	14.90m	0.25m	0.50m	0.10m	Ⅱ-25' -E	346	259・261	205
Ⅸ	古代～古墳時代	8 溝	55-71-1-10-8-10	24.60m	0.65m	2.25m	0.05m	Ⅱ-3' -E	348	259・261	205・206
Ⅸ	古代～古墳時代	9 溝	55-71-4-2-8-4	14.00m	1.85m	3.20m	0.18m	Ⅱ-23' -E	348	259・261	205・206
Ⅸ	古代～古墳時代	10 溝	55-61-1-17-11-3	34.20m	0.47m	1.01m	0.16m	Ⅱ-31' -E	348	259・261	205・206
Ⅸ	古代～古墳時代	11 溝	55-61-6-17-8-19	13.20m	1.97m	3.72m	0.36m	Ⅱ-45' -E	348	259・261	205・206・226

9. 四地

区分	期	遺構名称	グリッド	調査長	規模			長軸方位	本文	押図	写真図版	
					最小幅	最大幅	残存壁高					
Ⅳ	古代～古墳時代	1 凹地	55-21-7-7-8-8-7-9	61.33m	2.42m	9.02m	0.08m	Ⅱ-16' -W		277	204・265	156・221
Ⅳ	古代～古墳時代	2 凹地	55-21-7-5-5-7	34.15m	1.10m	5.89m	0.07m	Ⅱ-55' -E				
Ⅳ	古代～古墳時代	3 凹地	55-21-8-1-7-8-9-9	9.30m	4.80m	4.80m	0.09m	Ⅱ-12' -W				
Ⅴ	古代～古墳時代	2 凹地	55-21-8-16-C9-5-6	4.08m	1.80m	3.04m	0.05m	Ⅱ-12' -E		296	219・264	168
Ⅴ	古代～古墳時代	3 凹地	55-21-1-16-0-17	28.50m	0.89m	2.36m	0.10m	Ⅱ-8' -E		296	219・264	168・222
Ⅴ	古代～古墳時代	4 凹地	55-21-1-13-1-16	22.16m	2.68m	4.51m	0.06m	Ⅱ-55' -E		296	264	165

10. 田島

区分	期	遺構名称	グリッド	検出層位	備考	本文	押図	全体図	写真図版
I 北	古代洪水層間達	牛跡跡	45-91-6-8-3-6	洪水層下		150-160	111	149	76
I 北	古代洪水層間達	2 水田直跡	45-61-8-8-20, 91-8-8-1-8	洪水層下		160	112	149	77
I 中央	古代洪水層間達	1 畝	45-91-6-6-3-6	洪水層下		160・161	113・114	150	75・79
I 中央	古代洪水層間達	2 畝	45-91-6-1-4・5	洪水層下		160・166	115	150	79・80
II 中央	中世	1 水田直跡	45-91-1-6-10-4-4	溝間B直土上面		122	79・81	107	54・55・211・212
II 中央	中世	1 耕作産	45-91-6-11	溝間B直土上面		123	80	107	55
II 中央	中世	2 耕作産	45-91-4-15	溝間B直土下面		128	84	108	59
II 中央	中世	3 耕作産	45-91-4-12	溝間B直土下面		128	84	108	-
II 北東	中世	2 水田直跡	45-91-55-1-8-10-8-4	溝間テフラ直下		124～126	82	109	56～59
II 中央	中世	1 水田直跡	55-1-4-2-2-5	溝間テフラ直下		124～126	83	109	59
II 中央	中世	1 雁形溝	45-91-8-18	溝間テフラ直下		124～126	83	109	59
II 北東	古代洪水層間達	牛跡跡	55-1-4-6-8-9	V層上面		160	-	148	84
II 中央	古代洪水層間達	牛跡跡	55-1-1-5-6-9	V層上面		160	-	148	84
II 北東	古代洪水層間達	3 水田直跡	55-1-4-4-4-9	V層上面		170	119	148	84～86
II 中央	古代洪水層間達	4 水田直跡	45-91-1-11-1-8	V層上面		170	119	148	84～86
III 南	中近世	1 耕作産	55-1-8-1-19・20, 11-1-1-1-2記録	溝間テフラ上面	顕先直跡	98	-	72	20
III 北東	中世	1 水田	55-1-4-8-15-20, 11-8-8-1-10	溝間テフラ直下		130～133	87・88	106	62・212
III 北	古代洪水層間達	2 耕作産	55-1-4-1-12・13	V層下	顕産	998	142	146	102
III 南	古代洪水層間達	3 耕作産	55-1-4-8-11・12	洪水層下水田下	顕産	998	142	147	103
III 北	古代洪水層間達	牛跡跡	55-1-4-8-10-16	ⅡB～V層		998	-	146	103
III 南	古代洪水層間達	2 水田	55-1-4-8-10-13, 1-8-6-10-14	V層上面		999	143	147	102・103
IV 北	中近世	1 耕作産	55-21-8-4-4-9で記録	溝間テフラ上面	顕先直跡	72	-	71	26・27
IV	中世	水田直跡	55-11-8-0-12-20, 71-C-0-1-10	溝間B直土下面		133・134	89	105	63～65
IV 南	古代～古墳時代	1 畝	55-21-7-1-7-8, 21-F-8-7-8	溝間(軽石混黑色土)下面		277・278	206	265	155
IV 南	古代～古墳時代	3 畝	55-11-8-0-12・13	溝間(軽石混黑色土)下面		277・278	205	265	155
V 北東	中世	水田直跡	55-21-4-1-13-20, 31-C-0-1-10	溝間B直土下面		134・135	91	104	66・67・212
V 南	古代～古墳時代	2 畝	55-21-9-4-17	溝間(軽石混黑色土)下面		297	220	264	168
VI	中近世	1 耕作産	55-31-8-15・10で記録	溝間テフラ上面	顕先直跡	89	52	69	38
VI	中世	水田直跡	55-31-4-8-14-20, 41-F-4-6-11	溝間B直土下面		136・137	92	103	68・69
VII	中世	水田	55-41-4-8-15-20, 51-E-8-1-14	溝間テフラ直下		137・138	93	102	70・212
VIII	中世	水田	55-31-1-1-16-20, 61-F-4-1-5	溝間テフラ直下		138～140	94	101	71・72
VIII	中世	1 畝	55-51-4-17-19	溝間テフラ直下		140	95	101	72
VIII	中近世	水田直跡	54-80-6-6	溝間B直土下面		306	63	66	-
IX	中世	水田	55-61-6-8-17-20, 71-G-0-1-11	溝間テフラ直下		141・142	96	100	73・74
IX	中世	水田	55-72-8-6-15・16	溝間テフラ直下		142	97	-	-

遺構一覧表

11. 復旧済

区分	期	遺構名称	グリッド	溝数	溝群の規模・方位			本文	挿図	写真図版
					短辺	長辺	方位			
I 北	中近世	1 復旧済	不明	3条	不明	不明	不明	34・35	15	5
I 北	中近世	2 復旧済	45-91-E・L-5-N-5	1条	0.80m	1.45m	N-6°-E	34・35	14	5
I 南	中近世	3 復旧済	45-91-E-6-5・6	13条	4.20m	8.98m	N-87°-E	34・35	15	5・6
I 中央	中近世		45-91-E-6-5・6	13条	4.00m	8.59m	N-78°-E			
I 南	中近世	4 復旧済	45-81-E-19・20-D-19・20	9条	5.23m	9.55m	N-85°-E	34・35	14	6
I 中央	中近世		45-81-E-19	2条	3.43m	1.27m	N-13°-E			
I 中央	中近世	5 復旧済	45-81-H-17-J-16	3条	3.35m	10.07m	N-8°-E	34・35	15	6
I 中央	中近世	6 復旧済	45-81-E-17-H-17	4条	3.45m	14.70m	N-7°-E	34~37	14	6
II 中央	中近世	1 復旧済	49-91-G-19	2条	1.20m	5.00m	N-88°-E	43	20	-
III 南	中近世	1 復旧済	55-1-E-14-C・D-20	32条	5.07m	21.30m	N-10~15°-E	58・59	30	20
III 南	中近世	2 復旧済	55-1-E-14-E-16	27条	8.75m	13.22m	N-85~90°-E	58・59	31	21
III 北	中近世	3 復旧済	55-1-L-20~11-N-1	4条	3.10m	7.52m	N-3°-E	58・59	32	21
III 北	中近世	4 復旧済	55-11-N-2-N-6	5条余	2.42m	21.70m	N-87°-E	58~60	32	21
III 南	中近世	5 復旧済	55-1-E-15	1条	0.70m	1.18m	N-81°-E	58~60	31・32	-
III 中央	中近世	6 復旧済	55-1-J-15	2条	3.35m	1.27m	N-69°-E	58~60	32	21
IV 北	中近世	1 復旧済	55-11-E-12-N-14	31条	8.19m	15.20m	N-76°-E	72~74	39	27・28
IV 北	中近世	2 復旧済	55-11-E-14-D-16	25条	7.57m	15.79m	N-66°-E	72~75	39	27・28・210
IV 北	中近世	3 復旧済	55-21-L-3-N-7	27条	5.32m	15.54m	N-7°-E	72~75	40	28
IV 中央	中近世	4 復旧済	55-11-H-13-J-14	16条	4.90m	10.80m	N-72°-E	72~75	41	28
V 西	中近世	1 復旧済	55-21・31-J・E-19~3	36条	6.26m	19.72m	N-6°-E	80・81	45	33
VI	中近世	2 復旧済	55-41-H-4-N-6	16条	3.50m	10.26m	N-14°-E	89	53	38
VI	中近世	1 復旧済	55-31-D-16・17-E-16・17	19条カ	4.25m	8.02m	N-88°-E	89・90	53	38
IX	中近世	1 復旧済	55-71-N-15-D-16	14条	6.82m	19.70m	N-2°-E	103・104	64	49
IX 北	中近世	2 復旧済	55-71-N-16-72-N-16	2条	15.40m	3.60m	N-6°-E N-58°-E	103~106	64	-
IX 南	中近世	3 復旧済	80-H-17-J-17	2条	0.36以上	9.40m	N-5°-E	106	64	49

遺物観察表

凡 例

1. 遺物観察表は石器・土器・金属器・木器・ガラス器ごとに、本文第3～6章の遺物掲載順に並べた。
2. 法量欄の()内の数値は、土器については復元値、石器については残存値である。
3. 出土位置欄は、遺構出土の遺物については遺構内の遺物の平面的位置と、床面あるいは底面との比高を併記した。遺構外の遺物については判明する限りの平面的な位置と層位を記載した。
4. 外観の特徴のうち、土器の胎土は特徴的な挟雑物について記載した。土器の焼成は酸化焰焼成か還元焰焼成か、あるいは軟調かどうかを記載した。各観察者によって記載方法が異なるが、そのままとした。土師器・須恵器の胎土記号は下位の通りである。

土師器

A：黒色鉱物(角閃石か輝石)、透明鉱物、白色から淡黄色岩片?含む。赤色粒僅かに含む。

B：鉱物を含むが黒色鉱物と透明鉱物は少ない。

C：挟雑物は少なく緻密。鉱物を含むが黒色鉱物と透明鉱物は少ない。

D：透明鉱物細粒を多く含む。キラキラ光る。

E：黒色鉱物(角閃石か輝石)と赤色粒多く含む。透明から白色鉱物少量含む。

F：片岩粒含む。雲母?細片含む。

黒色鉱物粒、透明鉱物粒を含む。片岩は三波川帯地域の土器ほど多く含まず、ごく僅かである。海面骨針は含まない。

G：雲母?細片少量含む。白色鉱物細粒少量含む。他の土器と明らかに胎土が異なる。

須恵器

A：白色鉱物と透明鉱物の細粒含む。

B：土師器Aと同様。角閃石か輝石、透明鉱物、白色から淡黄色岩片?含む。灰色粒僅かに含む。

C：鉱物粒を含む。透明?細粒鉱物が多く、キラキラ光るのが目立つ。

D：鉱物類中に片岩含む。雲母含む。片岩は三波川帯地域の土器ほど多く含まず、ごく僅かである。海面骨針は含まない。片岩以外はBに類似。

5. 外観の特徴のうち、色調は『標準土色帖』を用い、最も大きな面積を占める器面の色名を記載した。なお焼成に伴う黒斑は別途記載した。

目 次

1. 陶磁器・在土器観察表	448
2. 金属製品観察表	450
3. 銭貨観察表	451
4. 石製品観察表	451
5. ガラス製品観察表	452
6. 土師器・須恵器観察表	453
7. 土製品観察表	468
8. 木製品観察表	468
9. 弥生土器観察表	468
10. 縄文土器観察表	469
11. 縄文石器観察表	469

1. 陶磁器・在土土器観察表

Table with 7 columns: No. (No.), Site (発見 場所), Category (類別), Context (出土状況), Weight (重量), Inventory No. (目録番号), Description (形状・圖様の特徴および産出の時期). Rows list various archaeological findings from sites like 1-N1 and 1-N2, including items like 西河内瓦, 磁土, and 瓦管, with detailed descriptions of their shapes and manufacturing periods.

遺物観察表

図	番号	写真	類別	産地	出土位置	形状	口径φ	底径φ	高さφ	口径/底径	特形	色調	成形上の特徴および産物の特徴	
2	第1図	2 Pl. 211	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	-	4.4	-	-	1/4	白	外縁平直。裏付内面黒染に不明確。底を低直。底を低直。土師器。土師器。	
	第2図	3 Pl. 211	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	-	6.0	-	-	1/4	灰	内外縁平直。底を低直である。15-16世紀。	
	第3図	4 Pl. 211	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	-	4.9	-	-	1/6	灰	内面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第4図	5 Pl. 211	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	11.8	16.0	1.6	-	-	1/6	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。
	第5図	6 Pl. 211	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	-	5.8	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第6図	7 Pl. 211	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	14.2	-	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第7図	8 Pl. 211	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	17.2	-	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第8図	14 Pl. 211	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	15.0	-	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第9図	15 Pl. 211	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	4.0	-	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第10図	1	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	8.0	-	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第11図	1 Pl. 211	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	7.0	-	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第12図	2 Pl. 211	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	-	-	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第13図	3 Pl. 211	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	-	-	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第14図	4 Pl. 211	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	-	-	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第15図	5 Pl. 211	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	-	-	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第16図	1 Pl. 212	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	-	-	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第17図	2 Pl. 212	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	-	-	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第18図	3 Pl. 212	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	-	-	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	
	第19図	1 Pl. 212	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	7.3	4.8	1.8	-	-	1/2	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。
	第20図	2 Pl. 212	土師器	山口	Ⅰ区19号溝外土中	皿	-	-	-	-	-	灰	内外面以下で底縁平直。内面黒染に不明確。底を低直である。15-16世紀。	

2. 金属製品観察表

図	番号	写真	類別	産地	出土位置	形状	長さφ	幅φ	厚さφ	重さφ	材質	色調	成形上の特徴および産物の特徴
2	第1図	5 Pl. 207	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	刀子	-	-	-	-	-	緑	製造方法不明。
	第2図	6 Pl. 207	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	34.6	34.3	-	-	-	緑	製造方法不明。おしり部は上部が平なり。軸に凹かすり目跡を有す。鉄製。
	第3図	8 Pl. 207	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	41.7	14.8	8.4	-	-	緑	火口径4.8mm。小径径4mm。刃部は小口から次第に細くなり凹凹しに定まる。刃部はやや大なり。鐵製。
	第4図	9 Pl. 207	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	75	10.0	4.3	-	-	緑	全長約56cm。厚さ約4mm。小径径4.3mmと細く傾く。小口から次第に細くなり。小口付近はやや太くなる。鐵製の跡。真鍮製か。
	第5図	10 Pl. 207	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	-	-	3.0	-	-	緑	鉄製の跡。小口から次第に細くなり口付近に定まる。鐵製の跡。真鍮製か。
	第6図	11 Pl. 207	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	75.5	7.7	7.8	-	-	緑	刃部は刃の上部が平なり。刃部は口から次第に細くなり。口付近はやや太くなる。鐵製の跡。真鍮製か。
	第7図	12 Pl. 207	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	13.38	-	13.48	13.87	13.87	緑	製造方法不明。火口径4.8mm。小径径4mm。刃部は小口から次第に細くなり凹凹しに定まる。刃部はやや大なり。鐵製。
	第8図	3 Pl. 210	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	-	-	-	-	-	緑	製造方法不明。おしり部は上部が平なり。軸に凹かすり目跡を有す。鉄製。
	第9図	4 Pl. 210	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	-	-	-	-	-	緑	製造方法不明。おしり部は上部が平なり。軸に凹かすり目跡を有す。鉄製。
	第10図	5 Pl. 210	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	69	11	8	-	-	緑	全長約111.7cm。厚さ約4mm。小径径4.3mmと細く傾く。小口から次第に細くなり。小口付近はやや太くなる。鐵製の跡。真鍮製か。
	第11図	6 Pl. 211	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	72	10	7	-	-	緑	全長約107.1cm。厚さ約4mm。小径径4.3mmと細く傾く。小口から次第に細くなり。小口付近はやや太くなる。鐵製の跡。真鍮製か。
	第12図	9 Pl. 211	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	-	-	-	-	-	緑	製造方法不明。おしり部は上部が平なり。軸に凹かすり目跡を有す。鉄製。
	第13図	1 Pl. 211	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	-	-	-	-	-	緑	製造方法不明。おしり部は上部が平なり。軸に凹かすり目跡を有す。鉄製。
	第14図	2 Pl. 211	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	-	-	-	-	-	緑	製造方法不明。おしり部は上部が平なり。軸に凹かすり目跡を有す。鉄製。
	第15図	3 Pl. 211	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	-	-	-	-	-	緑	製造方法不明。おしり部は上部が平なり。軸に凹かすり目跡を有す。鉄製。
	第16図	4 Pl. 211	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	-	-	-	-	-	緑	製造方法不明。おしり部は上部が平なり。軸に凹かすり目跡を有す。鉄製。
	第17図	5 Pl. 211	金属製品	山口	Ⅰ区2区溝外	短刀	-	-	-	-	-	緑	製造方法不明。おしり部は上部が平なり。軸に凹かすり目跡を有す。鉄製。

品番号	写真	類別	材質	出土位置	特徴	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石種	成形・加工の特徴および産物の時期
第190番	1 Pk. 209	石製品	硬	V区1区1号溝墳出土中	底面磨削片	5.0	4.3	0.8	11.4	球粒鉄質石	底面磨削片、小口面には前後の斜角縁部が残る。底面は折れ、磨き面が、使用面のみが磨削されている。右側面には縦、横縁部が等間隔にある。切断痕が、折れ縁部から底面を繋ぎ、使用面は磨削が浅く残っている。
第191番	2 Pk. 209	石製品	切刃砥石	V区1区1号溝墳出土中	硬片	0.3	3.4	2.1	73.6	凝灰岩	底面磨削片、小口面には前後の斜角縁部が残る。底面は折れ、磨き面が、使用面のみが磨削されている。
第192番	3 Pk. 209	石製品	切刃砥石	V区1区1号溝墳出土中	硬片	0.3	3.4	2.1	54.0	凝灰岩	底面磨削片、小口面には前後の斜角縁部が残る。底面は折れ、磨き面が、使用面のみが磨削されている。
第193番	4 Pk. 209	石製品	切刃砥石	V区1区1号溝墳出土中	硬片	0.3	4.0	2.9	119.0	凝灰岩	底面磨削片、小口面には前後の斜角縁部が残る。底面は折れ、磨き面が、使用面のみが磨削されている。
第194番	5 Pk. 209	石製品	切刃砥石	V区1区1号溝墳出土中	硬片	0.6	3.5	3.2	64.8	凝灰岩	底面磨削片、小口面には前後の斜角縁部が残る。底面は折れ、磨き面が、使用面のみが磨削されている。
第195番	6 Pk. 209	石製品	切刃砥石	V区1区1号溝墳出土中	硬片	0.6	3.5	3.2	64.8	凝灰岩	底面磨削片、小口面には前後の斜角縁部が残る。底面は折れ、磨き面が、使用面のみが磨削されている。
第196番	7 Pk. 211	石製品	切刃砥石	V区2区溝墳21号墳出土中	硬片	0.5	3.2	1.4	43.9	球粒鉄質石	底面磨削片、小口面には前後の斜角縁部が残る。底面は折れ、磨き面が、使用面のみが磨削されている。
第197番	8 Pk. 211	石製品	切刃砥石	V区2区溝墳24号墳出土中	硬片	0.6	3.2	1.4	63.9	球粒鉄質石	底面磨削片、小口面には前後の斜角縁部が残る。底面は折れ、磨き面が、使用面のみが磨削されている。
第198番	12 Pk. 211	石製品	水打石	V区2区溝墳24号墳出土中	硬片	3.4	3.6	2.5	23.9	石	底面磨削片、小口面には前後の斜角縁部が残る。底面は折れ、磨き面が、使用面のみが磨削されている。
第199番	13 Pk. 211	石製品	水打石	V区2区溝墳24号墳出土中	硬片	1.9	3.1	1.4	9.4	石	底面磨削片、小口面には前後の斜角縁部が残る。底面は折れ、磨き面が、使用面のみが磨削されている。
第200番	2 Pk. 211	石製品	石臼	IX区東溝墳出土	上臼部分 (径18.3)	10.5	20.6	10.0	294.0	凝灰岩	上臼部分のみで、分形不明。断面は縦に切り磨かれ、方角性が残る。下臼部分も同様。
第201番	7 Pk. 211	石製品	硬片	IV区中區1号溝墳出土	下臼部分 (径12.0)	(5.0)	19.2	6.6	42.0	凝灰岩	下臼部分のみで、分形不明。断面は縦に切り磨かれ、方角性が残る。上臼部分も同様。
第202番	11 Pk. 212	石製品	磨石	IV区中區1号溝墳出土	磨石	3.5	2.2	0.6	4.2	凝灰岩	小口・底面磨削の上側に粗面に目を穿つ。底面も粗面に目を穿つ。使用面は磨削が浅く残っている。
第203番	14 Pk. 212	石製品	磨石	IV区中區1号溝墳出土	磨石	5.7	4.5	1.7	67.7	凝灰岩	小口・底面磨削の上側に粗面に目を穿つ。底面も粗面に目を穿つ。使用面は磨削が浅く残っている。
第204番	15 Pk. 212	石製品	磨石	IV区中區1号溝墳出土	磨石	10.6	16.9	10.8	205.4	凝灰岩	小口・底面磨削の上側に粗面に目を穿つ。底面も粗面に目を穿つ。使用面は磨削が浅く残っている。
第205番	16 Pk. 220	石製品	碧玉	北北区34号溝墳出土中	硬片	0.5	1.0	0.4	0.7	薄石	底面磨削片、小口面には前後の斜角縁部が残る。底面は折れ、磨き面が、使用面のみが磨削されている。
第206番	17 Pk. 220	石製品	碧玉	北北区34号溝墳出土中	硬片	1.6	0.4	0.4	0.4	薄石	底面磨削片、小口面には前後の斜角縁部が残る。底面は折れ、磨き面が、使用面のみが磨削されている。
第207番	1 Pk. 220	石製品	碧玉	北北区34号溝墳出土中	硬片	0.5	(4.8)	(3.1)	111.2	赤ルゾエリス	小口部分打穿・磨削跡確認。断面は縦向きによる。
第208番	1 Pk. 221	石製品	碧玉	V区2区溝墳外21号墳出土	硬片	7.9	2.5	1.5	45.2	砂岩	材料使用不明。小口部分磨削を覗く打穴で、エッジを穿入し、エッジは濡れる。
第209番	1 Pk. 220	石製品	碧玉	V区2区溝墳外21号墳出土	硬片	18.4	6.1	4.1	547.9	磨石	材料使用不明。小口部分磨削を覗く打穴で、エッジを穿入し、エッジは濡れる。
第210番	1 Pk. 221	石製品	碧玉	V区2区溝墳外21号墳出土	硬片	0.8	0.7	0.8	0.7	凝灰岩	底面磨削片、小口面には前後の斜角縁部が残る。底面は折れ、磨き面が、使用面のみが磨削されている。
第211番	2 Pk. 221	石製品	碧玉	V区2区溝墳外21号墳出土	硬片	0.3	4.0	12.5	1.5	磨石	底面磨削片、小口面には前後の斜角縁部が残る。底面は折れ、磨き面が、使用面のみが磨削されている。

5. ガラス製品観察表

品番号	写真	類別	材質	出土位置	特徴	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重さ (g)	色調	成形・加工の特徴および産物の時期
第209番	1 Pk. 210	ガラス製品	瓶	V区1号溝墳出土中	底部	1.91	18.3*	6.14	6.14	緑色透明	口縁部は平角の形。底面は底面から上部外壁まで、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。口縁部から上部外壁にかけては、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。
第210番	2 Pk. 210	ガラス製品	瓶	V区1号溝墳出土中	底部	1.78	2.07	3.34	3.44	無色透明	口縁部は平角の形。底面は底面から上部外壁まで、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。
第211番	3 Pk. 210	ガラス製品	瓶	V区1号溝墳出土中	底部	1.78	2.07	3.34	3.44	無色透明	口縁部は平角の形。底面は底面から上部外壁まで、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。
第212番	4 Pk. 210	ガラス製品	瓶	V区1号溝墳出土中	底部	1.78	2.07	3.34	3.44	無色透明	口縁部は平角の形。底面は底面から上部外壁まで、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。
第213番	5 Pk. 210	ガラス製品	瓶	V区1号溝墳出土中	底部	1.78	2.07	3.34	3.44	無色透明	口縁部は平角の形。底面は底面から上部外壁まで、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。
第214番	6 Pk. 210	ガラス製品	瓶	V区1号溝墳出土中	底部	1.78	2.07	3.34	3.44	無色透明	口縁部は平角の形。底面は底面から上部外壁まで、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。
第215番	7 Pk. 210	ガラス製品	瓶	V区1号溝墳出土中	底部	1.78	2.07	3.34	3.44	無色透明	口縁部は平角の形。底面は底面から上部外壁まで、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。
第216番	8 Pk. 210	ガラス製品	瓶	V区1号溝墳出土中	底部	1.78	2.07	3.34	3.44	無色透明	口縁部は平角の形。底面は底面から上部外壁まで、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。
第217番	9 Pk. 211	ガラス製品	瓶	V区2区溝墳出土中	底部	1.97	3.32	4.26	4.26	無色透明	口縁部は平角の形。底面は底面から上部外壁まで、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。
第218番	3 Pk. 211	ガラス製品	瓶	V区2区溝墳出土中	底部	1.40	1.40	1.40	1.40	無色透明	口縁部は平角の形。底面は底面から上部外壁まで、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。
第219番	1 Pk. 211	ガラス製品	瓶	V区2区溝墳出土中	底部	1.40	1.40	1.40	1.40	無色透明	口縁部は平角の形。底面は底面から上部外壁まで、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。
第220番	6 Pk. 211	ガラス製品	瓶	V区2区溝墳出土中	底部	1.40	1.40	1.40	1.40	無色透明	口縁部は平角の形。底面は底面から上部外壁まで、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。
第221番	1 Pk. 211	ガラス製品	瓶	V区2区溝墳出土中	底部	1.40	1.40	1.40	1.40	無色透明	口縁部は平角の形。底面は底面から上部外壁まで、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。
第222番	6 Pk. 211	ガラス製品	瓶	V区2区溝墳出土中	底部	1.40	1.40	1.40	1.40	無色透明	口縁部は平角の形。底面は底面から上部外壁まで、傾斜した円錐形に削られ、両側面に「E」の文字が刻まれている。

前部心臓部の特長および通病の時期

項目	写真	種別	特徴	出土位置	保存	口径cm	底径cm	高さcm	胎土	色別	構成	説明	
第1379号	9	灰筒器	埴	甲斐区少男真砂原遺跡上	底部	-	6.3	-	D	灰白	還元	焼き締まりなく軟弱。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1380号	10	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡分中	口縁部	-	6.9	-	A	灰白	還元	焼き締まりなく軟弱。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1381号	11	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡分中	口縁部	-	6.7	-	C	灰白	還元	焼き締まりなく軟弱。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1382号	12	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡分中	口縁部	-	10.2	-	D	にぶい青緑	還元	焼き締まりなく軟弱。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1383号	13	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部1/2, 11/8	12.6	6.5	3.7	B	灰白	還元	焼き締まりなく軟弱。口縁部外反。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1384号	14	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部1/2, 11/8	13.2	5.8	4.0	B	灰白	還元	焼き締まりなく軟弱。底径小く。胎土粗く。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1385号	15	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	-	17.0	-	A	灰	還元	焼き締まりなく軟弱。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1386号	16	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡分中	口縁部1/2, 11/8	11.9	6.6	3.2	B	青	還元	焼き締まりなく軟弱。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1387号	17	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡分中	口縁部1/2, 11/8	11.9	7.9	3.3	A	灰白	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1388号	18	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡分中	口縁部	12	15.2	8.0	4.9	赤黄	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1389号	19	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡分中	口縁部	12	15.9	-	A	赤黄	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1390号	20	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	下部部	-	9.0	-	赤黄	灰白	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1391号	21	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	17	25.5	-	C	灰白	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1392号	3	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	胎土粗く付	-	-	-	B	灰白	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1393号	4	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	胎土粗く付	-	-	-	B	灰白	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1394号	5	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部1	13.1	6.0	-	C/D	青	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1395号	6	P.214	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	14	17.0	-	C/D	赤黄	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1396号	7	P.215	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	14	13.8	-	A	青	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1397号	8	P.215	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	14	12.7	-	A	青	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1398号	9	P.215	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部1/2, 11/8	12.2	6.2	4.0	B	灰白・灰	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1399号	10	P.215	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部1/2, 11/8	12.8	6.1	3.4	C	赤黄	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1400号	11	P.215	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡分中	口縁部	12.6	7.2	3.4	A	赤黄	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1401号	12	P.215	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	12.6	6.0	-	C/D	赤黄	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1402号	13	土師器	埴	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	2.3	-	-	C	灰白	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1403号	14	土師器	埴	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	1/2	-	6.6	-	C	胎土粗く付	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。
第1404号	15	土師器	埴	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	1/4	-	6.2	-	D	胎土粗く付	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。
第1405号	16	P.215	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部1/2, 11/8	14.6	6.2	4.6	C	胎土粗く付	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1406号	17	土師器	埴	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	2.3	-	-	D	灰白	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1407号	18	土師器	埴	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	1/2	-	17.0	-	C	灰白	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。
第1408号	19	土師器	埴	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	1/4	-	-	D	灰白	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1409号	20	土師器	埴	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	1/4	-	6.6	-	D	灰白	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。
第1410号	21	P.215	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	-	7.2	-	B	灰白	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1411号	22	P.215	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	-	-	-	B	灰	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1412号	23	P.215	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	-	-	-	A	灰	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1413号	1	P.215	土師器	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	11.8	7.0	3.1	A	灰白	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	
第1414号	4	土師器	埴	甲斐区少男真砂原遺跡上	口縁部	-	16.0	-	B	灰	還元	胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。胎土粗く付け。高台胎土の切り履ける。前部直壁。	

品	品番号	写真	類別	産地	出土位置	保存	口径(φ)	底径(φ)	高さ	胎土	色調	構成	説明
第1440号	5	Pl. 215	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	1/4	112.0	10.2	3.9	B	灰白	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	6	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	1/3	-	10.9	-	-	B	灰白	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	7	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	底部	-	6.2	-	-	B	灰	還元	中や浅く締まる。底径が胎土色切脚調整。
第1440号	8	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	底部	-	6.2	-	-	B	灰	還元	中や浅く締まる。底径が胎土色切脚調整。
第1440号	9	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	底部	-	6.9	-	-	B	灰	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	10	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	1/2	-	10.9	-	-	B	灰白	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	11	Pl. 215	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	1/2	112.2	6.3	7.0 ~ 7.2	A ~ C	灰白・黄緑	還元	1 胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。 2 胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	12	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	上部	-	17.0	-	-	A	灰白	還元	外反り胎土色切脚調整。胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	13	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	7下部	-	17.0	-	-	B	灰白	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	14	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	1/4	-	12.0	-	-	B	灰	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	15	Pl. 215	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	底部	-	7.1	-	C	灰	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	16	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	底部	-	6.9 ~ 7.4	-	-	B	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	17	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	1/3	112.9	-	-	-	A	灰白	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	18	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	1/2	-	10.9	-	-	B	灰白	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	19	須恵器	高松	山田区高内1-18-196	胎土色切脚	-	-	-	-	B	灰白	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	20	須恵器	高松	山田区高内1-18-196	胎土色切脚	-	-	-	-	B	灰白	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	21	Pl. 215	土師器	伊予	山田区高内1-18-196	1/8	113.3	-	-	B	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	22	Pl. 215	土師器	伊予	山田区高内1-18-196	1/4	111.0	-	-	A	浅褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	23	土師器	伊予	山田区高内1-18-196	胎土色切脚	-	-	-	-	A	浅褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	24	土師器	伊予	山田区高内1-18-196	胎土色切脚	-	116.1	-	-	A	にぶい黄	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	25	土師器	伊予	山田区高内1-18-196	口縁部片	109.9	-	-	-	A	明確	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	26	土師器	小笠台村	伊予	山田区高内1-18-196	1/3	-	10.0	-	D	にぶい赤黒	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	27	土師器	伊予	山田区高内1-18-196	口縁部片	-	-	-	-	A	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	28	須恵器	伊予	山田区高内1-18-196	口縁部片	-	-	-	-	A	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	1	Pl. 215	土師器	高松	北区3号土師器発土中	口縁部片	13.6	-	-	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	2	Pl. 215	土師器	高松	北区11～13号土師器発土中	口縁部片	116.0	-	-	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	3	Pl. 215	土師器	高松	北区11号土師器発土中	胎土上	-	-	-	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	1	Pl. 215	土師器	小笠台	北区4号土師器発土中	口縁部片	7.6	4.8	16.5	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	2	Pl. 215	土師器	小笠台	北区4号土師器発土中	口縁部片	5.8	4.5	15.2	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	4	Pl. 216	土師器	高松	北区4号土師器発土中	胎土上	-	-	-	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	5	Pl. 215	土師器	高松	北区4号土師器発土中	口縁部片	10.6	-	-	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	6	Pl. 216	土師器	高松	北区4号土師器発土中	胎土上	-	-	-	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	7	Pl. 216	土師器	高松	北区4号土師器発土中	胎土上	15.3	-	-	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	8	Pl. 216	土師器	高松	北区4号土師器発土中	胎土上	7.4	-	-	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	9	Pl. 215	土師器	高松	北区4号土師器発土中	口縁部片	-	-	-	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	10	Pl. 215	土師器	高松	北区4号土師器発土中	胎土上	-	-	-	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	1	Pl. 216	土師器	高松	北区2号土師器発土中	胎土上	-	-	-	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	2	Pl. 216	土師器	高松	北区2号土師器発土中	胎土上	-	-	-	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。
第1440号	1	Pl. 216	土師器	高松	北区3号土師器発土中	胎土上	-	-	-	-	褐色	還元	胎土多量石灰質。口縁部外反り。草履のため底径より径上呈下明。

遺物観察表

図	番号	写真	類別	素材	出土位置	保存	口徑cm	底径cm	高さcm	胎土	色	焼成	説明
第1408	3	Pl. 217	土師器	杯	1 北沢少中遺跡東遺土中	ほぼ成形	10.8	-	3.9	褐色・黒色	赤	良好	口縁部は手持ちへうすり、やや厚威
第1409	4	Pl. 217	土師器	杯	1.4 遺跡 中央式大塚	-	10.6	-	-	褐色	青	良好	口縁部は手持ち、下半から底面は手持ちへうすり、やや厚威
第1410	5	Pl. 217	土師器	杯	1 北沢少中遺跡東遺土中	1.4 遺跡 中央式大塚	10.6	-	-	褐色	明赤	良好	口縁部は手持ち、体部から底面は手持ちへうすり、やや厚威
第1411	6	Pl. 217	土師器	杯	1 北沢少中遺跡東遺土中	中央式大塚	-	7.4	-	灰黄緑	灰黄緑	良好	口縁部は手持ち、胴部はへうすり、一部はへうすり、断面の一部は厚威
第1412	7	Pl. 217	土師器	5号鏡	1 北沢少中遺跡東遺土中	中央式大塚	17.2	-	-	灰黄緑	灰黄緑	良好	口縁部はへうすり、胴部はへうすり、断面の一部は厚威
第1413	8	Pl. 217	土師器	杯	1 北沢少中遺跡東遺土中	中央式大塚	11.8	-	3.3	褐色	青	良好	口縁部は手持ち、胴部はへうすり、断面の一部は厚威
第1414	2	Pl. 217	土師器	杯	1 北沢遺跡外	口縁一部	11.8	-	-	褐色	青	良好	口縁部は手持ち、体部はへうすり、断面の一部は厚威
第1415	3	Pl. 217	土師器	杯	1 南沢遺跡外	口縁一部	11.8	-	-	褐色	青	良好	口縁部は手持ち、体部は手持ちへうすり、断面の一部は厚威
第1416	4	Pl. 217	土師器	杯	1 北沢遺跡外	口縁一部	12.8	-	-	褐色	青	良好	口縁部は手持ち、体部は手持ちへうすり、断面の一部は厚威
第1417	5	Pl. 217	土師器	短冊鏡	1 北沢遺跡外	口縁一部	-	6.0	-	褐色・白	灰	還元	口縁部は手持ち、体部は手持ちへうすり、断面の一部は厚威
第1418	6	Pl. 217	土師器	杯	1 北沢遺跡外	口縁一部	10.8	-	-	褐色	青	還元	口縁部は手持ち、体部は手持ちへうすり、断面の一部は厚威
第1419	7	Pl. 217	土師器	杯	1 北沢遺跡外	口縁一部	11.0	-	-	褐色	青	良好	口縁部は手持ち、体部は手持ちへうすり、断面の一部は厚威
第1420	8	Pl. 217	土師器	杯	1 北沢遺跡外	口縁一部	11.8	-	-	褐色	青	良好	口縁部は手持ち、体部は手持ちへうすり、断面の一部は厚威
第1421	9	Pl. 217	土師器	杯	1 北沢遺跡外	口縁一部	15.4	-	-	褐色・黒	赤	良好	口縁部は手持ち、胴部は手持ちへうすり、断面の一部は厚威
第1422	10	Pl. 217	土師器	葉	1 北沢遺跡外	口縁一部	-	-	-	褐色	青	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1423	11	Pl. 217	土師器	杯	1 北沢遺跡外	口縁一部	-	-	-	褐色	青	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1424	12	Pl. 217	土師器	葉	1 北沢遺跡外	口縁一部	-	-	-	褐色	青	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1425	13	Pl. 217	土師器	豆	1 北沢遺跡外H-400遺土中	口縁一部	10.8	-	5.7	褐色	灰黄緑	良好	口縁部は手持ち、断面の一部は厚威、断面の一部は厚威
第1426	14	Pl. 217	土師器	短冊鏡	1 北沢遺跡外H-500遺土中	口縁一部	-	-	-	褐色	青	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1427	15	Pl. 217	土師器	杯	1 北沢遺跡外H-600遺土中	口縁一部	-	10.8	-	褐色・黒	赤	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1428	16	Pl. 217	土師器	葉	1 北沢遺跡外	口縁一部	-	-	-	褐色	青	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1429	3	Pl. 217	土師器	豆	1 北沢遺跡外	口縁一部	-	-	-	褐色	灰	還元	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1430	4	Pl. 217	土師器	豆	1 北沢遺跡外	口縁一部	-	-	-	褐色	灰	還元	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1431	5	Pl. 217	土師器	小鏡	1 北沢少中遺跡東遺土中	上半部	10.2	-	6.4	褐色	濃赤	良好	口縁部は手持ち、断面の一部は厚威、断面の一部は厚威
第1432	6	Pl. 217	土師器	小鏡	1 北沢少中遺跡東遺土中	上半部	10.6	-	6.7	褐色	濃赤	良好	口縁部は手持ち、断面の一部は厚威、断面の一部は厚威
第1433	7	Pl. 217	土師器	小鏡	1 北沢少中遺跡東遺土中	上半部	12.8	-	-	褐色	濃赤	良好	口縁部は手持ち、断面の一部は厚威、断面の一部は厚威
第1434	8	Pl. 217	土師器	小鏡	1 北沢少中遺跡東遺土中	上半部	9.4	5.0	4.5	褐色	濃赤	良好	口縁部は手持ち、断面の一部は厚威、断面の一部は厚威
第1435	9	Pl. 217	土師器	葉	1 北沢少中遺跡東遺土中	口縁一部	8.0	11.7	8.0	褐色	灰	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1436	10	Pl. 217	土師器	葉	1 北沢少中遺跡東遺土中	口縁一部	13.0	-	-	褐色	灰黄緑	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1437	11	Pl. 217	土師器	葉	1 北沢少中遺跡東遺土中	口縁一部	16.1	-	-	褐色	濃赤	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1438	12	Pl. 218	土師器	葉	1 北沢少中遺跡東遺土中	口縁一部	15.8	-	-	褐色	濃赤	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1439	13	Pl. 218	土師器	5号鏡	1 北沢少中遺跡東遺土中	口縁一部	11.5	8.4	26.3	褐色	濃赤	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1440	14	Pl. 218	土師器	5号鏡	1 北沢少中遺跡東遺土中	口縁一部	13.0	8.3	23.2	褐色	濃赤	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1441	15	Pl. 218	土師器	5号鏡	1 北沢少中遺跡東遺土中	口縁一部	16.8	-	-	褐色	濃赤	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1442	16	Pl. 218	土師器	5号鏡	1 北沢少中遺跡東遺土中	口縁一部	14.8	-	-	褐色	濃赤	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威
第1443	17	Pl. 218	土師器	5号鏡	1 北沢少中遺跡東遺土中	口縁一部	10.2	-	-	褐色	濃赤	良好	断面の一部は厚威、口縁部は手持ち、断面の一部は厚威

図	番号	写真	類別	出土位置	埋存	口径φ	底径φ	高さφ	胎土	色別	構成	形状と装飾の特徴および遺物の時期
第2905図	3	Pl. 226	土師器	Ⅱ区E111号溝壁土中	1/70	110.5	-	A	灰白	褐色	底をあまりなく、頸部、口縁部は上位外壁に凹線1条。	
第2906図	4	土師器	Ⅱ区E111号溝壁土中	1/8	115.6	-	B	灰白	褐色	底をあまりなく、頸部、口縁部は上位外壁に凹線1条。		
第2907図	1	土師器	Ⅱ区E111号溝壁土中	埋部	-	5.8	-	B	灰白	褐色	底をあまりなく、頸部、口縁部は上位外壁に凹線1条。	
第2908図	2	土師器	Ⅱ区E111号溝壁土中	埋部	-	7.0	-	B	灰白	褐色	底をあまりなく、頸部、口縁部は上位外壁に凹線1条。	

7. 土製品観察表

図	番号	写真	類別	出土位置	埋存	長さφ	幅φ	厚さφ	高さφ	胎土	色別	構成	形状と装飾の特徴および遺物の時期
第100図	8	Pl. 212	土師器	Ⅱ区中央部西溝壁外	埋存	4.4	1.9	3.0	4.4	褐色	褐色	良好	表面はナシ。
第101図	9	Pl. 212	土師器	Ⅱ区中央部西溝壁外1号16号	埋存	4.5	2.2	3.0	4.4	20.1	褐色	良好	表面はナシ。
第102図	10	Pl. 212	土師器	Ⅱ区中央部西溝壁外1号15号	埋存	5.2	2.3	3.0	4.4	21.1	褐色	良好	表面はナシ。
第103図	21	Pl. 212	土師器	Ⅱ区E26号下米田土内	埋存	3.6	2.0	1.6	9.9	8	褐色	良好	表面はナシ。
第104図	2	Pl. 212	土師器	Ⅱ区E26号外中	埋存	4.6	1.9	2.0	13.6	A	褐色	良好	表面はナシ。
第105図	8	Pl. 212	土師器	Ⅱ区E26号外中	埋存	4.7	1.9	1.6	14.8	褐色	良好	表面はナシ。	
第106図	8	Pl. 213	土師器	Ⅱ区E26号外中1号56号中	埋存	2.4	0.7	0.7	3.3	A	褐色	良好	小笠で一段欠損。中央部は3本の凹線1条の間に、外側の間に乳歯状の突起あり。
第107図	9	Pl. 213	土師器	Ⅱ区E26号外中1号56号中	埋存	5.5	1.7	1.5	7.9	A	褐色	良好	同上。
第108図	5	Pl. 213	土師器	Ⅱ区E26号外中埋存土中	埋存	3.9	1.0	1.0	3.6	A	褐色	良好	中央が太く、上部が細い。乳歯状の突起あり。
第109図	1	Pl. 214	土師器	Ⅱ区E26号外中埋存土中	埋存	1.7	-	-	2.5	B	褐色	良好	埋存。中央付近から幅が急に欠損。表面がかなり粗雑。
第110図	2	Pl. 214	土師器	Ⅱ区E26号外中埋存土中	埋存	1.3	-	-	2.0	B	褐色	良好	同上。
第111図	1	Pl. 214	土師器	Ⅱ区E26号外中埋存土中	埋存	5.5	1.8	1.6	14.1	8	褐色	良好	形がやや変。乳歯状の突起あり。
第112図	2	Pl. 215	土師器	Ⅱ区E26号外中埋存土中	埋存	2.2	0.9	0.75	1.9	A	褐色	良好	形がやや変。乳歯状の突起あり。
第113図	1	Pl. 215	土師器	Ⅱ区E26号外中埋存土中	埋存	3.2	1.6	1.4	6.1	B	褐色	良好	形がやや変。乳歯状の突起あり。
第114図	2	Pl. 215	土師器	Ⅱ区E26号外中埋存土中	埋存	3.4	1.3	1.2	7.9	B	褐色	良好	形がやや変。乳歯状の突起あり。
第115図	3	Pl. 215	土師器	Ⅱ区E26号外中埋存土中	埋存	4.7	0.9	0.9	3.3	A	褐色	良好	形がやや変。乳歯状の突起あり。
第116図	2	Pl. 215	土師器	Ⅱ区E26号外中埋存土中	埋存	1.7	0.9	0.9	3.3	A	褐色	良好	形がやや変。乳歯状の突起あり。
第117図	6	Pl. 215	土師器	Ⅱ区E26号外中埋存土中	埋存	3.2	1.9	1.7	2.8	A	褐色	良好	形がやや変。乳歯状の突起あり。

8. 木製品観察表

図	番号	写真	類別	出土位置	埋存	長さφ	幅φ	厚さφ	高さφ	胎土	色別	構成	形状と装飾の特徴および遺物の時期
第1000図	7	Pl. 207	加工材	Ⅱ区溝壁外	埋存	10.4	3.0	1.4	5.8	褐色	褐色	良好	中央部、両端の一端を削り加工し込ませている。
第1001図	7	Pl. 209	木製品	Ⅱ区溝壁外土中	埋存(一部)	22	8.6	2.5	7.7	A	褐色	良好	中央部、両端の一端を削り加工し込ませている。
第1002図	1	Pl. 210	木製品	V区E111号溝壁土中	埋存(一部)	18.8	-	1.5	2.2	褐色	褐色	良好	中央部、両端の一端を削り加工し込ませている。
第1003図	1	Pl. 210	木製品	V区E111号溝壁土中	埋存(一部)	6.8	-	1.5	2.2	褐色	褐色	良好	中央部、両端の一端を削り加工し込ませている。
第1004図	12	Pl. 216	加工材	Ⅱ区E26号外中	埋存	6.8	2.9	0.9	5.8	褐色	褐色	良好	中央部、両端の一端を削り加工し込ませている。
第1005図	13	Pl. 216	加工材	Ⅱ区E26号外中	埋存	17	4.5	0.7	4.7	褐色	褐色	良好	中央部、両端の一端を削り加工し込ませている。
第1006図	14	Pl. 216	加工材	Ⅱ区E26号外中	埋存	27	4.5	0.7	4.7	褐色	褐色	良好	中央部、両端の一端を削り加工し込ませている。
第1007図	15	Pl. 216	加工材	Ⅱ区E26号外中	埋存	41.5	4.3	4	クマヤ	褐色	褐色	良好	中央部、両端の一端を削り加工し込ませている。
第1008図	16	Pl. 216	加工材	Ⅱ区E26号外中	埋存	58.6	6	4	クマヤ	褐色	褐色	良好	中央部、両端の一端を削り加工し込ませている。
第1009図	17	Pl. 216	加工材	Ⅱ区E26号外中	埋存	67.5	7	4	クマヤ	褐色	褐色	良好	中央部、両端の一端を削り加工し込ませている。
第1010図	18	Pl. 216	加工材	Ⅱ区E26号外中	埋存	36	5.6	5.3	クマヤ	褐色	褐色	良好	中央部、両端の一端を削り加工し込ませている。
第1011図	19	Pl. 217	加工材	Ⅱ区E26号外中	埋存	55	11.3	5.8	クマヤ	褐色	褐色	良好	中央部、両端の一端を削り加工し込ませている。
第1012図	1	Pl. 217	漆器類の付録	Ⅱ区E26号外中埋存土中	埋存	21.5	1.2	-	漆器類	褐色	褐色	良好	中央部、両端の一端を削り加工し込ませている。

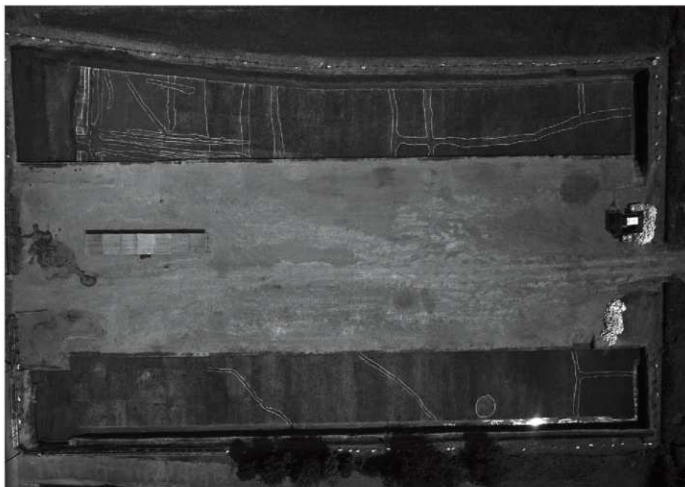
9. 赤土土器観察表

図	番号	写真	類別	出土位置	埋存	口径φ	底径φ	高さφ	胎土	色別	構成	形状と装飾の特徴および遺物の時期	
第1500図	Pl. 215	3	赤土土器	Ⅱ区E4号土師器埋土中	埋存	9.6	5.8	16.5	石炭質	褐色	褐色	良好	口縁部は、口縁部から約1cmの間に凹線1条あり。口縁部から約1cmの間に凹線1条あり。口縁部から約1cmの間に凹線1条あり。口縁部から約1cmの間に凹線1条あり。
第2000図	Pl. 212	2	赤土土器	Ⅱ区E111号溝壁外西溝壁埋存土中	埋存	19.0	-	-	石炭質	褐色	褐色	良好	口縁部は、口縁部から約1cmの間に凹線1条あり。口縁部から約1cmの間に凹線1条あり。口縁部から約1cmの間に凹線1条あり。口縁部から約1cmの間に凹線1条あり。

遺物観察表

図	写真	番号	種類	組織	出土位置	保存	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石材	成形と特徴の特長および遺物の説明
20	227	20	射打石	石	Ⅱ北区遺構外	先端部欠損	(3.9)	(1.7)	0.8	2.2	灰色山石	円錐筒状。灰色状態。成形不明。本型で加工した事。
21	227	21	射打石	石	Ⅱ北区遺構外	先端部欠損	(3.1)	2.2	0.9	1.8	チャート	円錐筒状。灰色状態。成形不明。本型の遺物の状態で、先端を磨いた穴。
22	228	22	射打石	石	Ⅱ北区34号溝内1-1-20G埋設土中	先端部欠損	(2.8)	1.5	0.8	1.6	灰色頁岩	円錐筒状。灰色状態。成形不明。遺物は灰色で、先端は鋭利な状態で、断面には刃に似ている。
23	228	23	射打石	石	Ⅱ北区46-8下水田跡土中	完好	3.5	1.4	0.5	1.7	灰色頁岩	有蓋蓋。灰色状態。下部は筒状の丸い断面の小径の突起、側面には縦溝状の線に入る。
24	228	24	射打石	石	Ⅳ地区10号溝遺構上10cm	完好	(2.9)	1.8	1.0	1.7	灰色山石	有蓋蓋。断面が筒状の突起、蓋し蓋は平らな状態で、加工状態は粗い。
25	228	25	射打石	有蓋蓋	Ⅳ区遺構外218-11GV埋中	筒部・蓋部欠損	7.0	2.3	0.7	10.5	灰色頁岩	細筒状。灰色状態。断面が筒状。筒部・蓋部を欠損。小径の穴タイプの筒型。
26	228	26	射打石	有蓋蓋	Ⅱ北区遺構外1-16-20G埋中	下部部欠損	3.0	(1.8)	0.7	1.6	チャート	細筒状。灰色状態。蓋部蓋の中心部は筒状。先端部破片。
27	228	27	射打石	有蓋蓋	Ⅱ北区遺構外91-G-25V埋中	完好	5.2	1.7	1.2	5.5	チャート	細筒状。灰色状態。蓋部蓋は筒状の突起、筒部蓋を欠損。筒部蓋を欠損。蓋し蓋は筒状。
28	228	1	射打石	石	Ⅱ北区遺構外1-16-20G埋設土中	完好	7.5	5.2	1.3	45.4	緑頁岩	細筒状。断面が筒状の突起、筒部蓋を欠損。蓋部蓋は筒状。
2	228	2	射打石	有蓋蓋	Ⅱ北区遺構外1-16-17G	完好	4.5	7.1	1.1	31.5	緑頁岩	細筒状。断面が筒状の突起、筒部蓋を欠損。蓋部蓋は筒状。
3	228	3	射打石	有蓋蓋	Ⅳ北区10号溝遺構土中	完好	(2.2)	9.1	1.9	24.0	硬質粘土	分厚型。灰色状態。断面が筒状。筒部蓋を欠損。蓋部蓋は筒状。
4	228	4	射打石	有蓋蓋	Ⅱ北区遺構外	下部部欠損	(6.3)	(4.0)	1.8	42.8	赤いアズキ	筒状。灰色状態。断面が筒状。筒部蓋を欠損。蓋部蓋は筒状。
5	228	5	射打石	石	V北区34号溝遺構土中	上部・下部欠損	25.5	11.8	5.5	2012.5	緑色片岩	筒状。断面が筒状。筒部蓋を欠損。蓋部蓋は筒状。

写真図版



1. I区中近世面全景(北・南区/上空から)



2. I区中近世面全景(中央区/上空から)



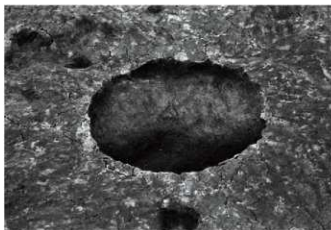
1. I区中近世面全景(南・北区/東上空から)



2. I区中近世面全景(中央区/東上空から)



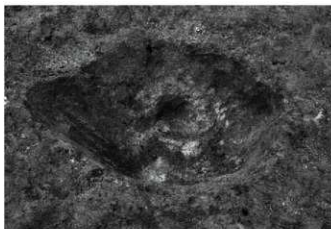
3. I区1号土坑土層断面(南から)



4. I区1号土坑全景(南から)



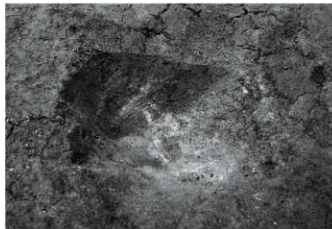
5. I区17号土坑土層断面(西から)



6. I区17号土坑全景(東から)



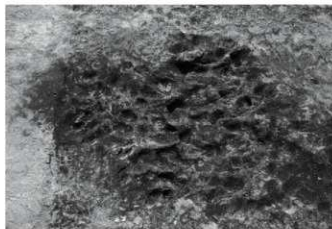
1. I区18号土坑土層断面(北西から)



2. I区18号土坑全景(北東から)



3. I区19号土坑土層断面(西から)



4. I区19号土坑全景(北から)



5. I区1号堀土層断面(北から)



6. I区1号堀全景(南から)



7. I区1号～4号・11号溝全景(南西から)



8. I区1号～4号・11号溝全景(南から)



1. I区4号溝土層断面(北から)



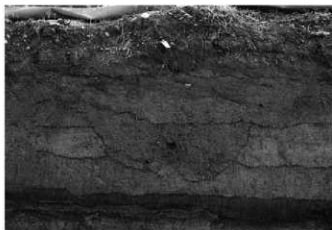
2. I区4号溝全景(南から)



3. I区5号～8号・10号～17号溝全景(東から)



4. I区9号溝全景(北区/北から)



5. I区9号溝土層断面(北から)



6. I区9号溝全景(中央区/北から)



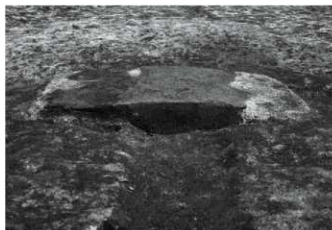
7. I区11号溝全景(北から)



8. I区29号溝全景(南から)



1. I区47号溝土層断面(南から)



2. I区48号溝土層断面(東から)



3. I区47号溝全景(南から)



4. I区48号溝全景(東から)



5. I区1号復旧溝群土層断面(北から)



6. I区2号復旧溝群全景(南から)



7. I区3号復旧溝群全景(北から)



8. I区3号復旧溝群土層断面(東から)



1. I区3号復旧溝全景(西から)



2. I区4号復旧溝全景(北区/北から)



3. I区4号復旧溝土層断面(東から)



4. I区4号復旧溝全景(中央区/北東から)



5. I区5号復旧溝土層断面(南から)



6. I区6号復旧溝土層断面(南から)



7. I区5号・6号復旧溝全景(南から)



8. I区6号復旧溝調査風景(南から)



1. II区中近世面全景(南・北区/東上空から)



2. II区中近世面全景(北区/上空から)



3. II区中近世面全景(中央区西半部/東から)



4. II区中近世面全景(中央区西半部/北から)



1. Ⅱ区1号土坑土層断面(南から)



2. Ⅱ区1号土坑全景(南から)



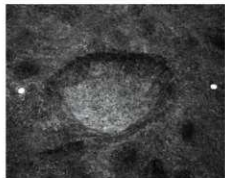
3. Ⅱ区2号土坑土層断面(北から)



4. Ⅱ区2号土坑全景(南から)



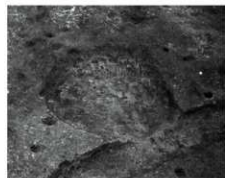
5. Ⅱ区3号土坑土層断面(南から)



6. Ⅱ区3号土坑全景(南から)



7. Ⅱ区5号土坑土層断面(南から)



8. Ⅱ区5号土坑全景(南から)



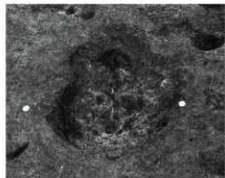
9. Ⅱ区6号土坑土層断面(南から)



10. Ⅱ区6号土坑全景(東から)



11. Ⅱ区7号土坑土層断面(南から)



12. Ⅱ区7号土坑全景(南から)



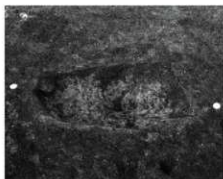
13. Ⅱ区9号土坑土層断面(北東から)



14. Ⅱ区9号土坑全景(南西から)



15. Ⅱ区10号土坑土層断面(南東から)



1. Ⅱ区10号土坑全景(南西から)



2. Ⅱ区1号ピット土層断面(南から)



3. Ⅱ区2号ピット土層断面(北から)



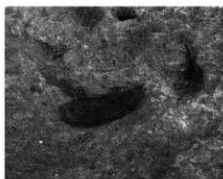
4. Ⅱ区3号ピット土層断面(東から)



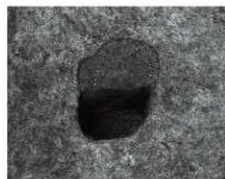
5. Ⅱ区4号ピット土層断面(西から)



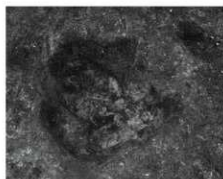
6. Ⅱ区5号ピット全景(南から)



7. Ⅱ区6号ピット土層断面(西から)



8. Ⅱ区7号ピット土層断面(南から)



9. Ⅱ区12号ピット全景(南から)



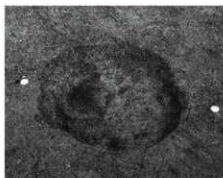
10. Ⅱ区13号ピット土層断面(南から)



11. Ⅱ区13号ピット全景(南から)



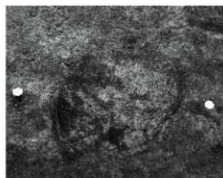
12. Ⅱ区14号ピット土層断面(南から)



13. Ⅱ区14号ピット全景(南から)



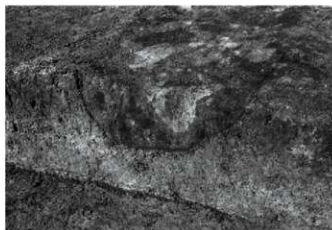
14. Ⅱ区15号ピット土層断面(南東から)



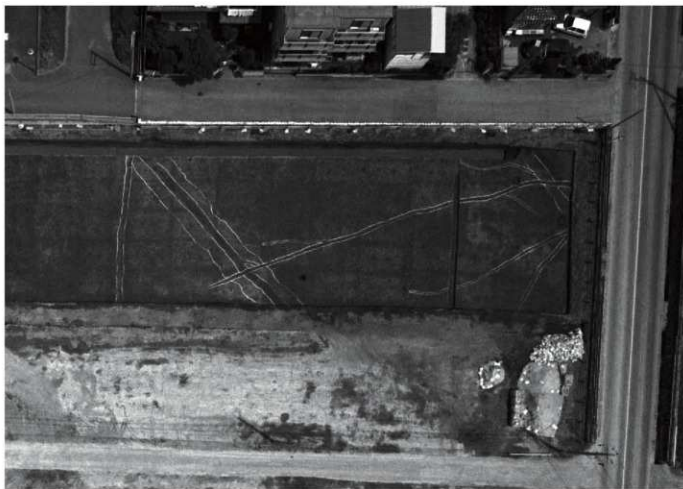
15. Ⅱ区15号ピット全景(南東から)



1. Ⅱ区1号溝土層断面(北から)



2. Ⅱ区3号溝土層断面(西から)



3. Ⅱ区3号～10号溝全景(上空から)



4. Ⅱ区21号溝土層断面(西から)



5. Ⅱ区21号溝全景(東から)



1. Ⅱ区22号溝土層断面(南から)



2. Ⅱ区22号溝全景(南東から)



3. Ⅱ区23号溝土層断面(西から)



4. Ⅱ区23号溝全景(南から)



5. Ⅱ区25号溝土層断面(東から)



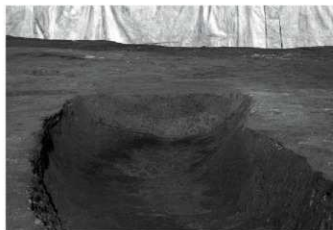
6. Ⅱ区25号溝全景(東から)



7. Ⅱ区26号溝土層断面(東から)



8. Ⅱ区26号溝全景(東から)



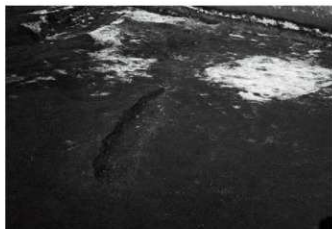
1. Ⅱ区27号溝土層断面(南東から)



2. Ⅱ区27号溝全景(南東から)



3. Ⅱ区28号溝土層断面(南東から)



4. Ⅱ区28号溝全景(南東から)



5. Ⅱ区中近世面全景(中央区東半部/西から)



1. Ⅲ区中近世面全景(北・南区/上空から)



2. Ⅲ区中近世面全景(南・北区/東から)



3. Ⅲ区1号掘立柱建物全景(南から)



4. Ⅲ区1号掘立柱P13礎出土状態(南から)



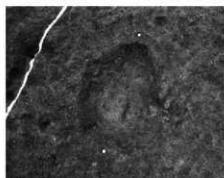
1. Ⅲ区1号土坑土層断面(東から)



2. Ⅲ区1号土坑全景(東から)



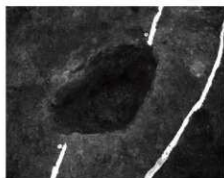
3. Ⅲ区4号土坑土層断面(北から)



4. Ⅲ区4号土坑全景(東から)



5. Ⅲ区5号土坑土層断面(南から)



6. Ⅲ区5号土坑全景(東から)



7. Ⅲ区6号土坑土層断面(西から)



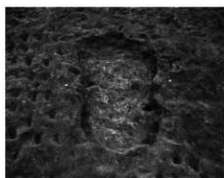
8. Ⅲ区7号土坑土層断面(南から)



9. Ⅲ区7号土坑全景(西から)



10. Ⅲ区8号土坑土層断面(東から)



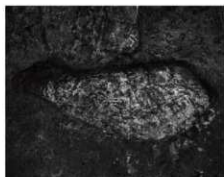
11. Ⅲ区8号土坑全景(東から)



12. Ⅲ区9号土坑土層断面(西から)



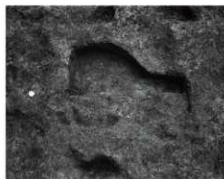
13. Ⅲ区9号土坑全景(西から)



14. Ⅲ区10号土坑全景(西から)



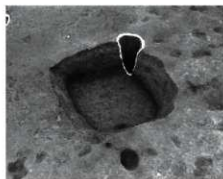
15. Ⅲ区11号土坑土層断面(東から)



1. Ⅲ区11号土坑全景(西から)



2. Ⅲ区12号土坑土層断面(南から)



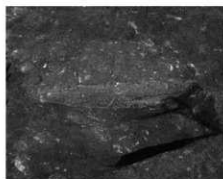
3. Ⅲ区12号土坑全景(東から)



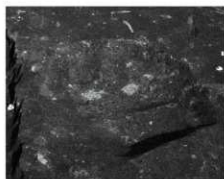
4. Ⅲ区13号土坑全景(東から)



5. Ⅲ区14号土坑全景(東から)



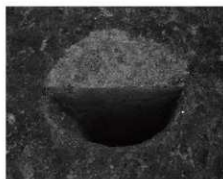
6. Ⅲ区110号土坑土層断面(南から)



7. Ⅲ区110号土坑全景(南から)



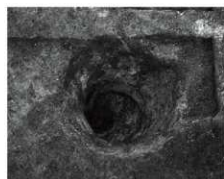
8. Ⅲ区119号土坑土層断面(南から)



9. Ⅲ区3号ピット土層断面(南から)



10. Ⅲ区86号ピット土層断面(南から)



11. Ⅲ区86号ピット全景(南から)



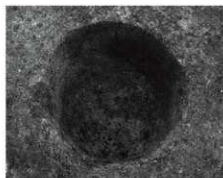
12. Ⅲ区87号ピット土層断面(南から)



13. Ⅲ区87号ピット全景(南から)



14. Ⅲ区88号ピット土層断面(南から)



15. Ⅲ区88号ピット全景(南から)



1. Ⅲ区蛭堀土層断面(南区/北東から)



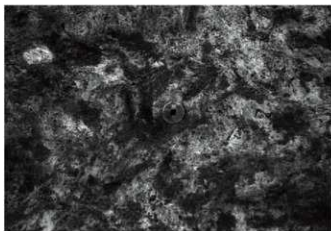
2. Ⅲ区蛭堀全景(南区/南から)



3. Ⅲ区1号溝全景(南から)



4. Ⅲ区1号溝土層断面(北から)



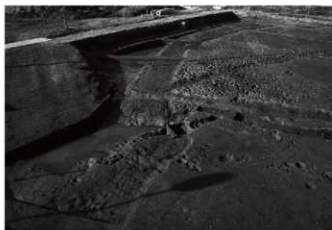
5. Ⅲ区1号溝銭貨出土状態(西から)



6. Ⅲ区1号・2号溝土層断面(北西から)



7. Ⅲ区2号溝遺物出土状態(北から)



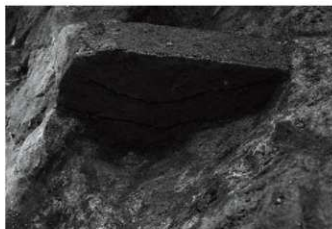
1. Ⅲ区2号・41号・42号溝全景(南東から)



2. Ⅲ区3号溝土層断面(西から)



3. Ⅲ区2号溝全景(南から)



4. Ⅲ区4号溝土層断面(南から)



5. Ⅲ区5号溝土層断面(北から)



6. Ⅲ区5号溝全景(南から)



1. Ⅲ区5号・6号・40号溝他全景(東から)



2. Ⅲ区5号溝土層断面(南から)



3. Ⅲ区5号・6号・40号溝全景(南東から)



4. Ⅲ区6号溝土層断面(南から)



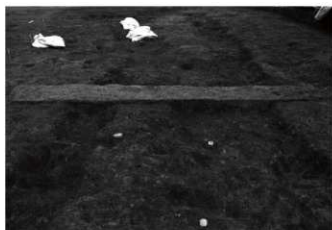
5. Ⅲ区6号溝土層断面(北から)



6. Ⅲ区6号溝土層断面(西から)



7. Ⅲ区7号溝土層断面(北から)



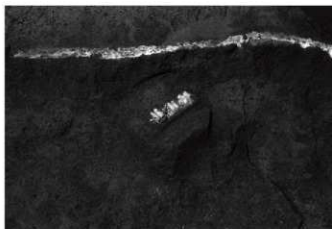
8. Ⅲ区8号・21号溝土層断面(西から)



1. Ⅲ区9号～12号・17号～20号溝全景(南から)



3. Ⅲ区13号溝全景(南から)



2. Ⅲ区18号溝牛歯出土状態(南から)



4. Ⅲ区36号溝土層断面(南から)



5. Ⅲ区37号溝土層断面(南から)



6. Ⅲ区39号・38号溝全景(南から)



7. Ⅲ区40号溝土層断面(西から)



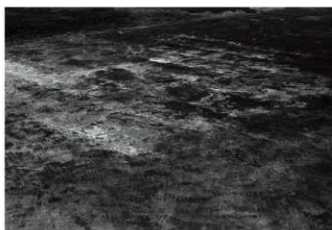
1. Ⅲ区浅間B軽石上耕作痕検出状況(南区)



2. Ⅲ区浅間B軽石上耕作痕の形態(南区)



3. Ⅲ区浅間B軽石上耕作痕全景(南区/東から)



4. Ⅲ区1号復旧溝群検出状況全景(南から)



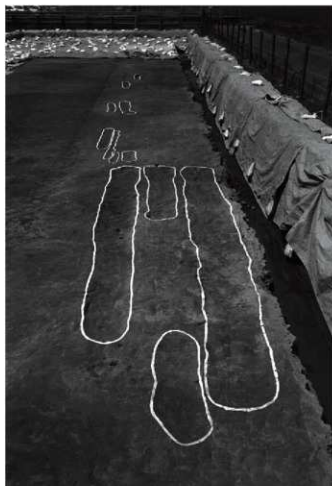
5. Ⅲ区1号復旧溝群近景(東から)



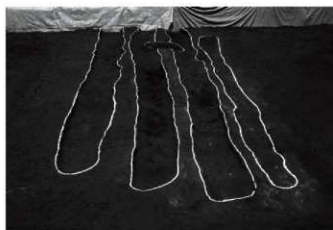
6. Ⅲ区1号復旧溝群全景(東から)



1. Ⅲ区2号復旧溝全景(北から)



3. Ⅲ区4号復旧溝全景(東から)



2. Ⅲ区3号復旧溝全景(南から)



4. Ⅲ区6号復旧溝全景(北から)



5. Ⅲ区浅間B 軽石上層遺構全景(南区/西から)



6. Ⅲ区浅間A 軽石復旧溝群土層断面(中央区/南から)



7. Ⅲ区遺構確認調査風景(東から)



1. IV区中近世面全景(南区/東から)



2. IV区中近世面全景(北区/東から)



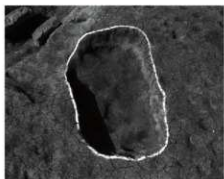
3. IV区中近世面全景(中央区/東から)



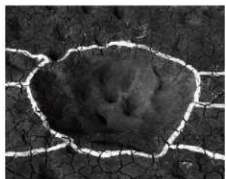
4. IV区中近世面全景(北区/上空から)



5. IV区中近世面全景(南区/上空から)



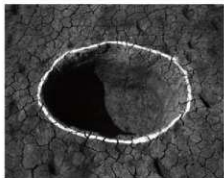
1. IV区1号土坑全景(北から)



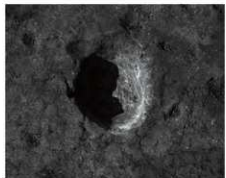
2. IV区2号土坑全景(東から)



3. IV区3号土坑全景(北から)



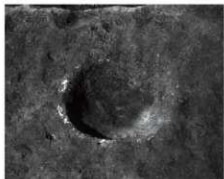
4. IV区4号土坑全景(北から)



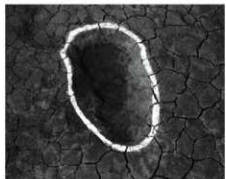
5. IV区5号土坑全景(北から)



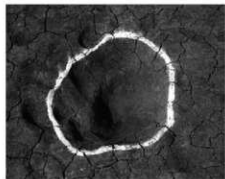
6. IV区6号土坑全景(北から)



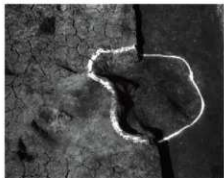
7. IV区7号土坑全景(北から)



8. IV区8号土坑全景(北から)



9. IV区9号土坑全景(北から)



10. IV区11号土坑全景(北から)



11. IV区12号土坑全景(北から)



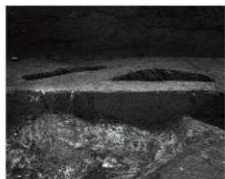
12. IV区15号土坑全景(東から)



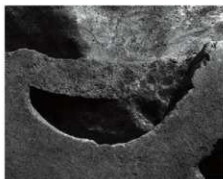
13. IV区77号土坑土層断面(南から)



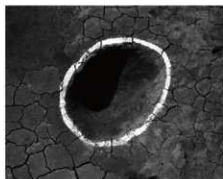
14. IV区77号土坑全景(南から)



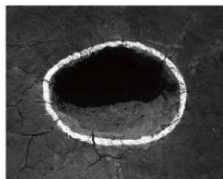
15. IV区78号土坑土層断面(南から)



1. IV区78号土坑全景(北から)



2. IV区1号ビット全景(北から)



3. IV区2号ビット全景(北から)



4. IV区蛭堀全景(北区/北から)



5. IV区蛭堀土層断面(北区/北から)



6. IV区45号～49号溝土層断面(北から)



7. IV区蛭堀・45号～49号溝全景(中央区/南から)



8. IV区蛭堀土層断面(中央区/南東から)



9. IV区45号～49号溝土層断面(中央区/南東から)



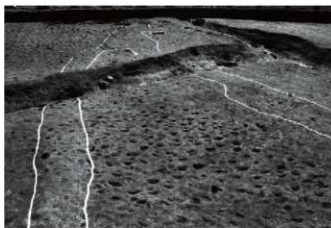
1. IV区1号溝全景(南東から)



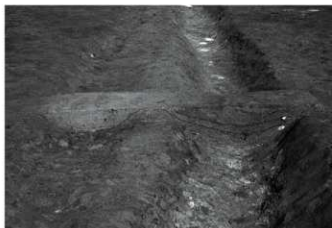
2. IV区1号溝土層断面(西から)



3. IV区1号溝全景(北から)



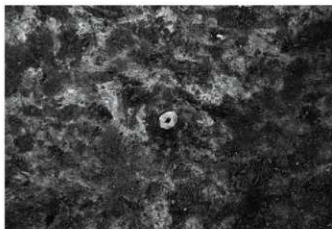
4. IV区1号溝全景(北から)



5. IV区43号・1号溝土層断面(南から)



6. IV区43号・1号溝全景(南から)



7. IV区1号溝遺物出土状態



8. IV区2号溝全景(西から)



1. IV区8号溝全景(南から)



2. IV区8号・10号溝全景(南西から)



3. IV区11号・10号溝全景(南西から)



4. IV区8号・13号溝全景(西から)



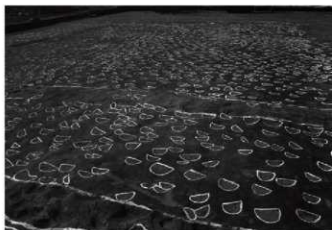
5. IV区浅間B軽石上耕作痕全景(北区/上空から)



6. IV区8号・10号～12号溝全景(北東から)



7. IV区耕作痕と溝・アゼの重複状況(北区/南から)



1. IV区耕作痕の分布状況(北区/北東から)



2. IV区耕作痕の形態(北区/西から)



3. IV区1号復旧溝群土層断面(南から)



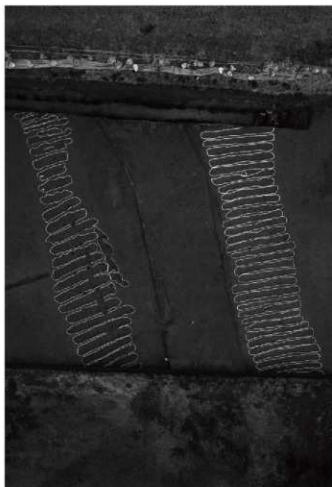
4. IV区1号復旧溝群近景(東から)



5. IV区1号復旧溝群全景(南から)



6. IV区2号復旧溝群全景(南から)



1. IV区2号・1号復旧溝群全景(南から)



2. IV区2号復旧溝群近景(東から)



3. IV区3号復旧溝群土層断面(南東から)



4. IV区3号復旧溝群近景(南から)



5. IV区3号復旧溝群全景(南から)



6. IV区4号復旧溝群土層断面(西から)



7. IV区4号復旧溝群全景(南西から)



1. V区79号土坑土層断面(南から)



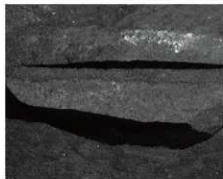
2. V区79号土坑全景(北から)



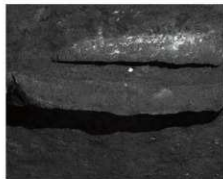
3. V区80号土坑土層断面(南から)



4. V区80号土坑全景(北から)



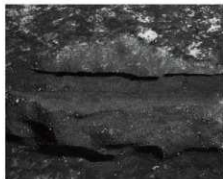
5. V区81号土坑土層断面(南から)



6. V区82号土坑土層断面(南から)



7. V区81号・82号土坑全景(北から)



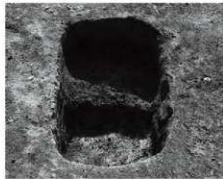
8. V区83号土坑土層断面(南から)



9. V区83号土坑全景(北から)



10. V区99号ピット土層断面(南から)



11. V区99号ピット全景(北から)



12. V区100号ピット土層断面(南から)



13. V区100号ピット全景(北から)



14. V区4号溝全景(北から)



15. V区4号溝土層断面(北から)



1. IV・V区中近世面全景(北区/西から)



2. IV・V区中近世面全景(南区/西から)



3. V区中近世面全景(南区/東から)



4. V区2号溝土層断面(西から)



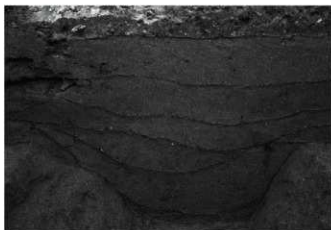
5. V区3号・5号・7号溝全景(北から)



6. V区3号溝土層断面(東から)



1. V区中近世面全景(西区/東から)



2. V区5号溝土層断面(中央区/東から)



3. V区5号溝近景(西から)



5. V区6号・34号溝全景(南から)



4. V区7号溝全景(北区/東から)



6. V区7号溝土層断面(東から)



7. V区7号溝全景(中央区/東から)



1. V区31号溝全景(西から)



2. V区32号溝全景(西から)



3. V区33号溝全景(西から)



4. V区34号溝全景(東から)



1. V区1号復旧溝群全景(南から)



2. V区1号復旧溝群全景(西から)



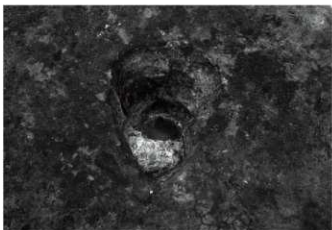
3. VI区中近世面・中世面全景(西から)



4. VI区1号井戸土層断面(南から)



5. VI区1号井戸全景(南から)



6. VI区2号井戸・13号土坑全景(南から)



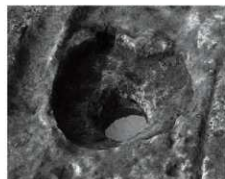
7. VI区1号土坑土層断面(南から)



8. VI区1号土坑全景(南から)



1. VI区2号土坑土層断面(南から)



2. VI区2号土坑全景(南から)



3. VI区3号土坑土層断面(東から)



4. VI区4号土坑土層断面近景(南から)



5. VI区4号土坑土層断面(南から)



6. VI区5号土坑土層断面(南から)



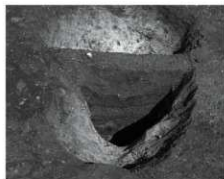
7. VI区5号土坑全景(南から)



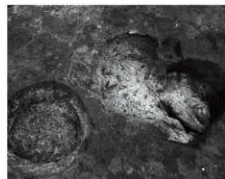
8. VI区6号土坑土層断面(南から)



9. VI区7号土坑土層断面(南から)



10. VI区10号土坑土層断面(南から)



11. VI区12号・11号土坑全景(南から)



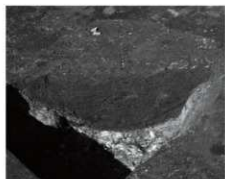
12. VI区11号土坑土層断面(西から)



13. VI区12号土坑土層断面(西から)



14. VI区13号土坑・2号井戸土層断面(東から)



15. VI区14号土坑土層断面(南から)



1. VI区15号土坑土層断面(北東から)



2. VI区16号土坑土層断面(南から)



3. VI区17号土坑土層断面(南から)



4. VI区17号土坑全景(南から)



5. VI区18号土坑土層断面(南から)



6. VI区18号土坑全景(北から)



7. VI区19号土坑土層断面(北東から)



8. VI区19号土坑全景(北東から)



9. VI区20号土坑土層断面(東から)



10. VI区20号土坑全景(東から)



11. VI区22号土坑土層断面(南西から)



12. VI区23号土坑土層断面(南から)



13. VI区24号土坑土層断面(西から)



14. VI区25号土坑土層断面(南から)



15. VI区1号ビット土層断面(南から)



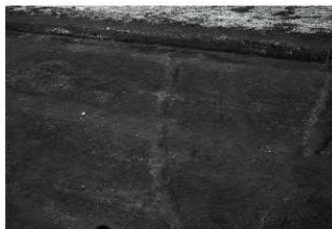
1. VI区1号溝土層断面(東から)



2. VI区1号溝土層断面(南から)



3. VI区2号溝土層断面(南から)



4. VI区2号溝全景(南東から)



5. VI区3号・4号溝土層断面(南から)



6. VI区5号溝土層断面(南から)



7. VI区6号・7号溝土層断面(南から)



8. VI区6号～11号溝全景(東から)



1. VI区8号溝土層断面(南から)



2. VI区9号溝土層断面(南から)



3. VI区9号・13号溝近景(東から)



4. VI区10号溝全景(北東から)



5. VI区12号溝土層断面(南から)



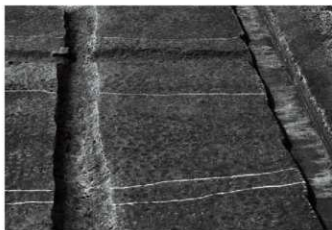
6. VI区9号・13号溝土層断面(東から)



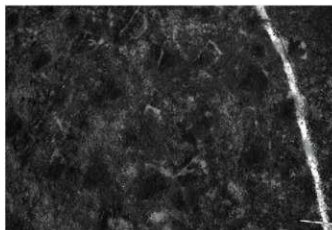
7. VI区10号・13号溝土層断面(東から)



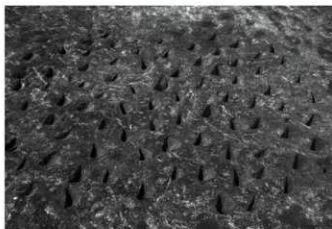
8. VI区13号溝全景(北東から)



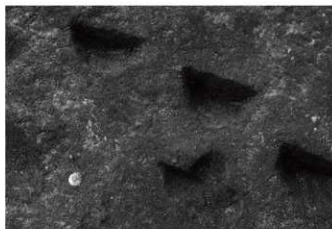
1. VI区1号耕作痕検出状況全景(東から)



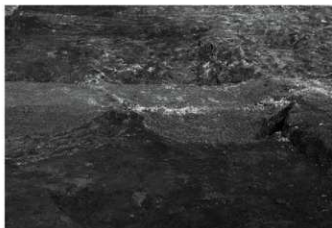
2. VI区1号耕作痕の分布状況(南から)



3. VI区1号耕作痕の分布(南から)



4. VI区1号耕作痕の形態(南から)



5. VI区1号復旧溝土層断面(南から)



6. VI区1号復旧溝群全景(西から)



7. VI区2号復旧溝土層断面(西から)



8. VI区2号復旧溝群全景(西から)



1. Ⅶ区中近世面全景(東から)



2. Ⅶ区中近世面全景(西から)



3. Ⅶ区1号井戸土層断面(南から)



4. Ⅶ区1号土坑土層断面(南から)



5. Ⅶ区1号土坑全景(北から)



6. Ⅶ区2号土坑土層断面(南から)



1. Ⅶ区1号～7号溝全景(東から)



2. Ⅶ区1号・2号溝全景(西から)



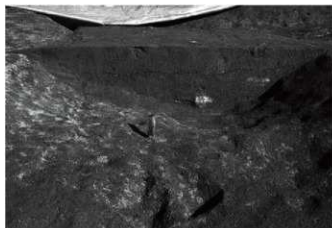
3. Ⅶ区1号溝土層断面(東から)



4. Ⅶ区2号溝土層断面(東から)



5. Ⅶ区3号溝土層断面(北から)



6. Ⅶ区4号溝土層断面(南から)



7. Ⅶ区中近世面調査風景



8. Ⅶ区中近世面測量風景



1. Ⅷ区中近世面全景(東から)



2. Ⅷ区中近世面全景(北から)



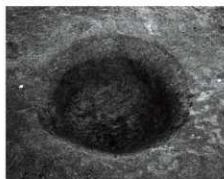
1. Ⅶ区1号井戸土層断面(南から)



2. Ⅶ区1号井戸全景(南から)



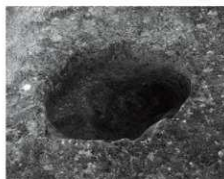
3. Ⅶ区1号土坑土層断面(南から)



4. Ⅶ区1号土坑全景(南から)



5. Ⅶ区2号土坑土層断面(南から)



6. Ⅶ区2号土坑全景(南から)



7. Ⅶ区3号土坑全景(南から)



8. Ⅶ区4号土坑土層断面(南から)



9. Ⅶ区4号・5号土坑全景(南から)



10. Ⅶ区4・5号土坑・1号井戸全景(南から)



11. Ⅶ区5号土坑土層断面(南から)



12. Ⅶ区6号土坑土層断面(南から)



13. Ⅶ区6号土坑全景(南から)



14. Ⅶ区7号土坑土層断面(南から)



15. Ⅶ区7号土坑全景(南から)



1. Ⅷ区8号土坑土層断面(東から)



2. Ⅷ区8号・11号土坑全景(東から)



3. Ⅷ区8号土坑全景(南から)



4. Ⅷ区9号土坑土層断面(東から)



5. Ⅷ区9号土坑全景(南から)



6. Ⅷ区10号土坑土層断面(南から)



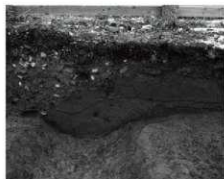
7. Ⅷ区10号土坑全景(南から)



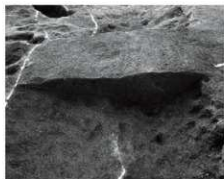
8. Ⅷ区11号土坑土層断面(東から)



9. Ⅷ区11号土坑全景(東から)



10. Ⅷ区1号溝土層断面(西から)



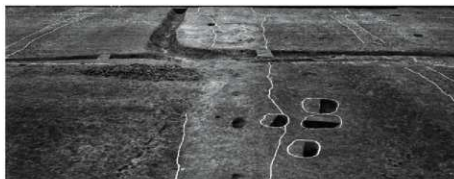
11. Ⅷ区2号溝土層断面(東から)



12. Ⅷ区2号溝調査風景(東から)



13. Ⅷ区3号溝土層断面(東から)



14. Ⅷ区中近世土坑群と溝(南から)



1. IX区中近世面全景(西から)



2. IX区中近世面全景(東から)



3. IX区中近世面全景(南区/南から)



4. IX区北壁剥ぎ取り地点土層断面(中央区/南から)



5. IX区北壁土層断面(南区/南から)



1. IX区1号土坑土層断面(東から)



2. IX区1号土坑全景(東から)



3. IX区2号土坑土層断面(東から)



4. IX区2号土坑全景(東から)



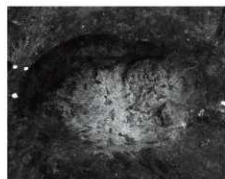
5. IX区3号土坑土層断面(南東から)



6. IX区3号土坑全景(南から)



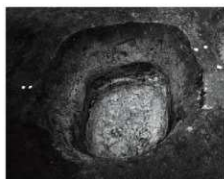
7. IX区4号土坑土層断面(東から)



8. IX区4号土坑全景(東から)



9. IX区5号土坑土層断面(東から)



10. IX区5号土坑全景(東から)



11. IX区6号・7号土坑土層断面(南から)



12. IX区6号・7号土坑全景(南から)



13. IX区8号土坑土層断面(北から)



14. IX区8号土坑全景(北から)



15. IX区9号土坑土層断面(南から)



1. IX区9号土坑全景(南から)



2. IX区10号土坑土層断面(東から)



3. IX区10号土坑全景(東から)



4. IX区11号土坑土層断面(南から)



5. IX区11号土坑全景(南から)



6. IX区12号土坑土層断面(南から)



7. IX区13号・14号土坑土層断面(南から)



8. IX区13号・14号土坑全景(南から)



9. IX区15号土坑土層断面(東から)



10. IX区15号土坑全景(東から)



11. IX区16号土坑土層断面(西から)



12. IX区16号土坑全景(西から)



13. IX区17号土坑土層断面(東から)



14. IX区17号土坑全景(東から)



15. IX区18号土坑土層断面(南から)



1. IX区18号土坑全景(南から)



2. IX区19号土坑土層断面(東から)



3. IX区19号土坑全景(東から)



4. IX区20号～22号土坑全景(南から)



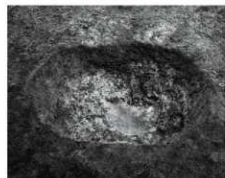
5. IX区20号・21号土坑土層断面(南から)



6. IX区22号土坑土層断面(南から)



7. IX区23号土坑土層断面(北東から)



8. IX区23号土坑全景(南西から)



9. IX区ビット列土層断面(東から)



10. IX区ビット列検出状況(南から)



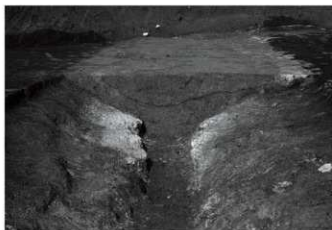
11. IX区ビット列全景(南から)



12. IX区ビット列土層断面(東から)



13. IX区ビット列部分近景(南東から)



1. IX区1号溝土層断面(南東から)



2. IX区1号溝全景(南東から)



3. IX区2号溝土層断面(南から)



4. IX区2号・4号溝全景(南から)



5. IX区3号溝土層断面(東から)



6. IX区3号溝全景(西から)



7. IX区4号溝土層断面A-A' (南から)



8. IX区4号溝土層断面B-B' (南から)



1. IX区5号溝・大アゼ土層断面(北から)



2. IX区5号溝全景(南から)



3. IX区6号溝土層断面(西から)



4. IX区6号溝全景(南から)



5. IX区1号復旧溝検出状況(南から)



6. IX区1号復旧溝全景(南から)



7. IX区1号復旧溝土層断面部分(南から)



8. IX区3号復旧溝全景(南から)



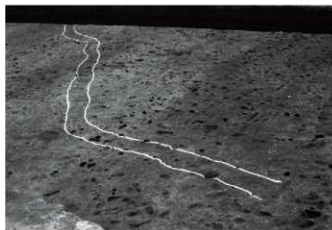
1. I区浅間Bテフラ直下水田全景(南・北区/東から)



2. I区浅間Bテフラ直下水田全景(中央区/東から)



3. I区18号溝全景(北から)



4. I区19号溝全景(北西から)



5. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北区/東から)



6. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北区/南から)



1. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北区/西から)



2. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ交差部近景(北区/西から)



3. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北区/北西から)



4. I区道状遺構土層断面



5. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区東端/南から)



6. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区東半/南から)



7. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区中央/南から)



8. I区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区西半/南から)



1. I 区浅間Bテフラ直下水田アゼ土層断面E-E' (中央区/西から)



2. I 区浅間Bテフラ直下水田アゼ断割り調査 (中央区/西から)



3. I 区浅間Bテフラ直下水田アゼE-E' 断割り土層断面 (中央区/西から)



4. I 区浅間Bテフラ直下水田アゼE-E' 断割り土層断面近景 (中央区/西から)



5. I 区浅間Bテフラ直下水田遺構確認調査風景



6. I 区浅間Bテフラ直下水田面精査風景



7. I 区浅間Bテフラ直下水田面確認状況



8. I 区浅間Bテフラ直下水田耕作土土層断面 (南から)



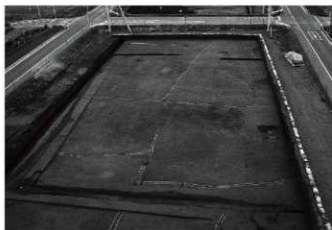
1. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田全景(南・北区/東上空から)



2. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田全景(中央区/東上空から)



3. Ⅱ区2号溝とアゼ(南東から)



1. Ⅱ区浅間B混土上面水田痕跡全景(中央区西半/西から)



2. Ⅱ区浅間B混土上面疑似畦畔近景(中央区西半/東から)



3. Ⅱ区浅間B混土上面疑似畦畔近景(中央区東半/東から)



4. Ⅱ区浅間B混土上面疑似畦畔近景(中央区東半/北から)



5. Ⅱ区浅間B混土上面疑似畦畔土層断面(中央区東半/東から)



6. Ⅱ区浅間B混土上面大アゼ調査風景(中央区東半/北から)



7. Ⅱ区浅間B混土上面大アゼ土層断面A-A'(中央区東半/南から)



8. Ⅱ区浅間B混土上面大アゼ土層断面B-B'(中央区東半/南から)



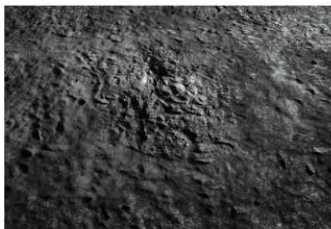
1. Ⅱ区浅間B混土上面大アゼ土層断面C-C' (中央区東半/北から)



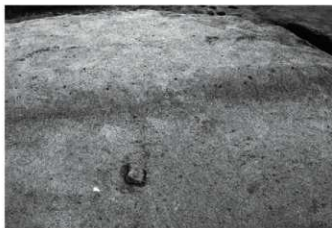
2. Ⅱ区浅間B混土上面水田痕跡調査風景 (中央区東半/南東から)



3. Ⅱ区1号耕作痕検出状況 (中央区東半/東から)



4. Ⅱ区1号耕作痕全景 (中央区東半/南から)



5. Ⅱ区茶白出土状態 (中央区東半/東から)



6. Ⅱ区土錘出土状態 (中央区東半/南から)



7. Ⅱ区土錘出土状態 (中央区西半/北東から)



8. Ⅱ区不明金属製品出土状態 (中央区東半/北から)



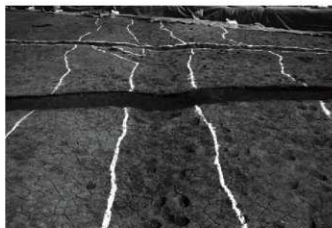
1. Ⅱ区2号溝土層断面(北区/北から)



2. Ⅱ区2号溝土層断面(北区/南から)



3. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北区/南東から)



4. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼと2号溝(北区/北西から)



5. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ(南区/北から)



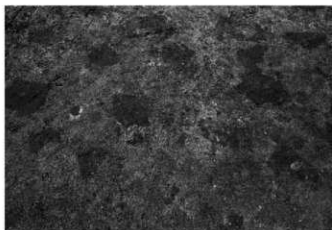
6. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ(南区/南から)



7. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田土層断面(北区/南から)



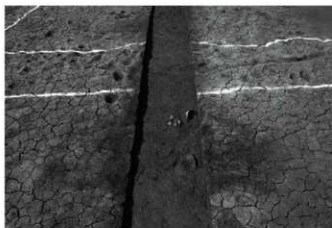
8. Ⅱ区浅間Bテフラ上面耕作痕(南区/東から)



1. II区浅間Bテフラ上面耕作痕(南区/東から)



2. II区浅間Bテフラ上面耕作痕確認状況(南区/東から)



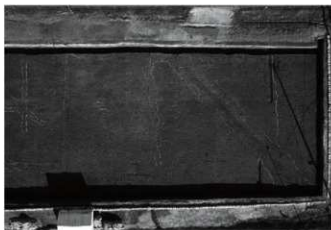
3. II区浅間Bテフラ直下水田耕土遺物出土状態(南区/南から)



4. II区浅間Bテフラ直下水田耕土遺物出土状態(南区/南から)



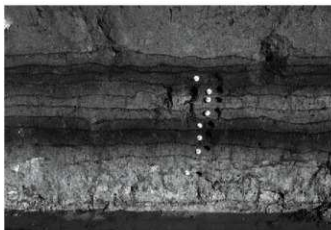
5. II区浅間Bテフラ直下水田全景(中央区西半/上空から)



6. II区浅間Bテフラ直下水田全景(中央区東半/上空から)



7. II区北壁土層断面(中央区/南から)



8. II区北壁土層断面(中央区/南から)



1. Ⅱ区2号溝全景(中央区東半/南東から)



2. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区東半/南から)



3. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区東半/南東から)



4. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区中央/南から)



5. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田全景(中央区西半/東から)



6. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田全景(中央区西半/南から)



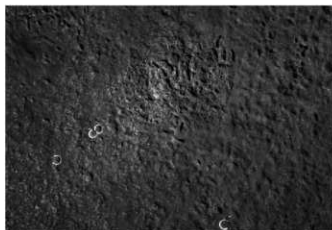
7. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区西半/南東から)



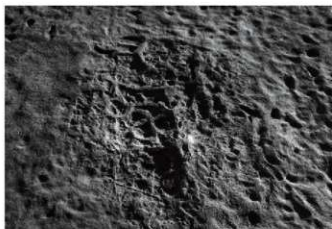
8. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(中央区西半交差部/南から)



1. Ⅱ区浅間Bテフラ直下水田全景(中央区西半/北から)



2. Ⅱ区1号掘削痕(中央区東半/上空から)



3. Ⅱ区1号掘削痕全景(中央区東半/南から)



4. Ⅱ区1号掘削痕土層断面(中央区東半/南から)



5. Ⅱ区2号耕作痕調査風景(中央区東半/北から)



6. Ⅱ区2号耕作痕全景(中央区東半/北から)



7. Ⅱ区馬蹄痕37全景(中央区西半/北から)



8. Ⅱ区馬蹄痕全景(中央区西半/北から)



1. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕全景(中央区西半/東から)



2. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕近景(中央区西半/東から)



3. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕確認状況(中央区西半/東から)



4. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕近景(中央区西半/東から)



5. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕近景(中央区西半/北西から)



6. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕土層断面(中央区西半/西から)



7. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕幅広の近景(中央区西半/西から)



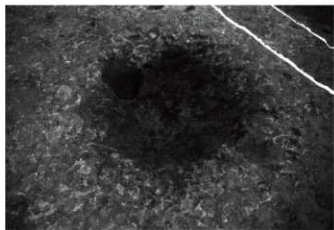
8. Ⅱ区浅間B混土下面耕作痕幅狭の近景(中央区西半/西から)



1. Ⅲ区浅間Bテフラ直下水田全景(北・南区/上空から)



2. Ⅲ区2号土坑全景(東から)



3. Ⅲ区3号土坑全景(東から)



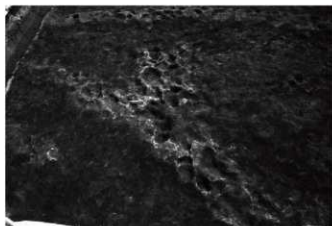
4. Ⅲ区15号溝土層断面(南から)



5. Ⅲ区16号溝土層断面(南から)



1. Ⅲ区16号溝全景(南から)



2. Ⅲ区15号溝全景(南から)



3. Ⅲ区12号溝南壁土層断面(北から)



4. Ⅲ区12号溝全景(中央区/西から)



5. Ⅲ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(南区/北から)



6. Ⅲ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北区/東から)



7. Ⅲ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北区/北東から)



1. IV区浅間B混土下面水田痕跡全景(北区/南上空から)



2. IV区浅間B混土下面水田痕跡全景(南区/北上空から)



1. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(北区西端/南から)



2. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(北区西半/南西から)



3. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(北区西半/南から)



4. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(北区西半/南東から)



5. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(北区西半/東から)



6. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(北区西半/西から)



7. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(北区西半/北西から)



8. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(南区西半/西から)



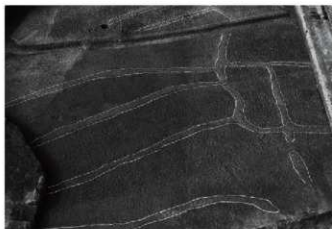
1. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(南区中央/南から)



2. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(南区中央/南西から)



3. IV区浅間B混土下面水田痕跡全景(中央区/東から)



4. IV区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(中央区/東から)



5. IV区北壁基本土層断面(中央区/南から)



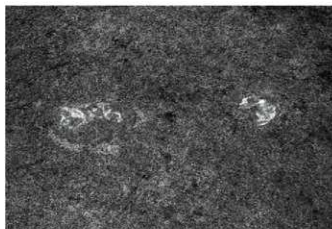
1. V区浅間B混土下面水田痕跡全景(北区/南から)



2. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(南区/北から)



3. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(南区/西から)



4. V区浅間B混土下面水田痕跡馬蹄痕(南区/上から)



5. V区浅間B混土下面水田痕跡全景(西区/東から)



1. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(西区南端/東から)



2. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(西区南半/東から)



3. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(西区北半/東から)



4. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(西区北端/東から)



5. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(西区北半/西から)



6. V区浅間B混土下面水田痕跡アゼ近景(西区南半/西から)



7. V区浅間B混土下面水田痕跡調査風景(西区/東から)



8. V区浅間B混土下面水田痕跡調査風景(西区/北西から)



1. VI区北壁基本土層(南から)



2. VI区10号溝土層断面(南から)



3. VI区10号溝近景(北東から)



4. VI区浅間B混土上面耕作痕近景(東から)



5. VI区浅間B混土下面水田痕跡全景(東から)



1. VI区浅間B混土下面水田痕跡全景(西から)



2. VI区6号・11号溝全景(東から)



1. Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田全景(東から)



2. Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田大アゼ全景(南から)



3. Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田全景(西から)



4. Ⅶ区北壁基本土層(南から)



1. Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田全景(西から)



2. Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田アゼ土層断面(北から)



3. Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田大アゼ近景(北から)



4. Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田全景(上空から)



1. Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(北から)



2. Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田水口検出状況(北から)



3. Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田と馬蹄痕(南東から)



4. Ⅶ区浅間Bテフラ直下水田部分(北から)



5. Ⅶ区浅間Bテフラ直下畠全景(南から)



6. Ⅶ区浅間Bテフラ直下畠検出状況(南から)



7. Ⅶ区浅間Bテフラ直下畠土層断面(南から)



8. Ⅶ区浅間Bテフラ直下畠近景(西から)



1. IX区浅間Bテフラ直下水田全景(北1区北半/南から)



2. IX区浅間Bテフラ直下水田アゼ土層断面B-B'(北1区/南から)



3. IX区浅間Bテフラ直下水田アゼ土層断面C-C'(西から)



4. IX区浅間Bテフラ直下水田全景(上空から)



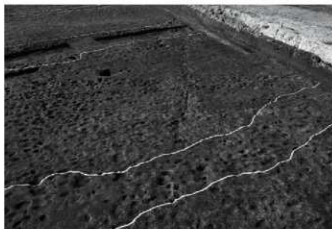
1. IX区浅間Bテフラ直下水田全景(東から)



2. IX区浅間Bテフラ直下水田全景(西半/東から)



3. IX区浅間Bテフラ直下水田全景(西から)



4. IX区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(東から)



5. IX区浅間Bテフラ直下水田アゼ近景(南から)



6. IX区浅間Bテフラ直下水田馬跡痕(南から)



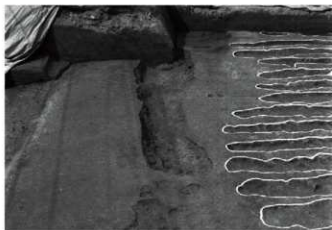
7. IX区北壁剥ぎ取り作業風景(南から)



8. IX区浅間Bテフラ直下水田調査風景(南西から)



1. I区古代洪水層関連遺構全景(北区/上空から)



2. I区27号溝土層断面(南から)



3. I区27号・28号溝全景(南から)



4. I区33号溝全景(東から)



5. I区32号・33号溝全景(東から)



1. I区52号溝土層断面(東から)



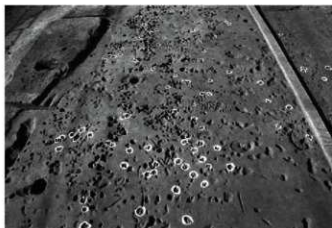
2. I区52号溝全景(西から)



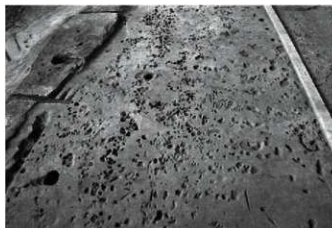
3. I区53号溝土層断面(南から)



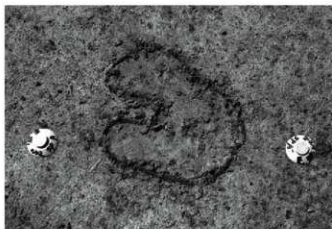
4. I区54号溝土層断面(南から)



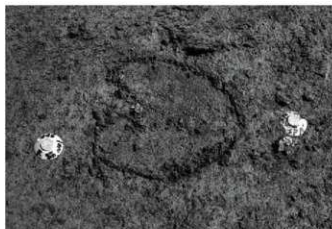
5. I区古代①IVB層上面牛蹄跡検出状況(南から)



6. I区古代①IVB層上面牛蹄跡掘り下げ後状況(南から)



7. I区古代①IVB層上面牛蹄跡検出状況近景(北から)



8. I区古代①IVB層上面牛蹄跡検出状況近景(東から)



1. I区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区西北部/東から)



2. I区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区東半/北から)



3. I区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区中央/北から)



4. I区古代②VI層上面水田痕跡近景(南東から)



5. I区1号大アゼ全景(南から)



6. I区1号大アゼレンチ土層断面(南から)



7. I区古代②VI層上面土錘出土状態(東から)



1. I区1号畠土層断面南半(東から)



2. I区1号畠土層断面北半(東から)



3. I区1号畠全景



4. I区1号畠確認状況(北西から)



5. I区1号畠全景(西から)



1. I区1号畠検出状況全景(東から)



2. I区1号畠調査風景(西から)



3. I区2号畠最終面確認全景(南から)



4. I区勾玉出土状態(北から)



5. I区2号畠土層断面(南西から)



6. I区2号畠土層断面拡大(1)(西から)



7. I区2号畠土層断面拡大(2)(西から)



8. I区2号畠土層断面拡大(3)(西から)



1. I区2号畠土層断面拡大(4)(西から)



2. I区2号畠全景(西から)



3. I区2号畠全景北半(西から)



4. I区2号畠全景南半(西から)



5. I区2号畠耕作痕全景(東から)



6. I区2号畠最終面全景(西から)



7. I区2号畠最終面全景(東から)



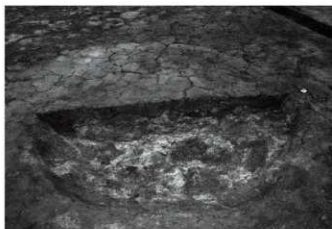
8. I区2号畠最終面調査風景(東から)



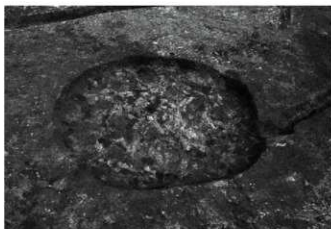
1. I区21号土坑土層断面(南から)



2. I区24号土坑全景(北から)



3. I区22号土坑土層断面(南から)



4. I区22号土坑全景(西から)



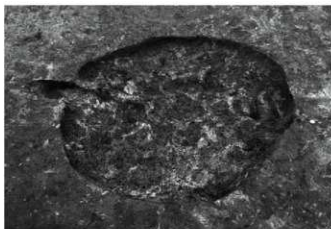
5. I区23号土坑土層断面(東から)



6. I区23号土坑全景(北から)



7. I区25号土坑土層断面(南から)



8. I区25号土坑全景(北から)



1. Ⅱ区古代洪水層関連遺構全景(北・南区/南から)



2. Ⅱ区古代洪水層関連遺構全景(中央区/西から)



3. Ⅱ区14号溝全景(南から)



4. Ⅱ区15号溝全景(南から)



5. Ⅱ区17号溝土層断面(北から)



1. II区17号溝全景(北区/南から)



2. II区17号溝土層断面(西から)



3. II区古代洪水層関連遺構全景(中央区東半/北西から)



4. II区17号溝土層断面(南から)



5. II区17号溝土層断面(南東から)



6. II区17号溝全景(南東から)



7. II区19号溝土層断面(南から)



8. II区24号溝土層断面(南から)



1. Ⅱ区24号溝全景(南西から)



2. Ⅱ区24号溝下層部全景(南西から)



3. Ⅱ区古代①IVB層上面牛蹄跡検出状況(南区/北から)



4. Ⅱ区古代①IVB層上面牛蹄跡掘り下げ状況(南区/北から)



5. Ⅱ区古代②VI層上面水田耕作痕全景(南区/東から)



6. Ⅱ区古代②VI層上面水田耕作痕近景(南区/北西から)



1. Ⅱ区古代②VI層上面水田耕作痕近景(南区/北から)



2. Ⅱ区古代②VI層上面水田耕作痕検出状況(南区/北から)



3. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡全景(中央区西半/上空から)



4. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡全景(中央区東半/上空から)



5. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区東半/南東から)



6. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区東半/南から)



7. Ⅱ区古代②VI層上面水田耕作痕全景(中央区東半/南から)



8. Ⅱ区西壁土層断面(中央区東半/東から)



1. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区東半/南から)



2. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区西端/南から)



3. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡近景(中央区西半/南から)



4. Ⅱ区古代②VI層上面水田痕跡馬跡痕(中央区西半/南から)



5. Ⅱ区・Ⅲ区古代②VI層上面遺構面全景(北・南区/西から)



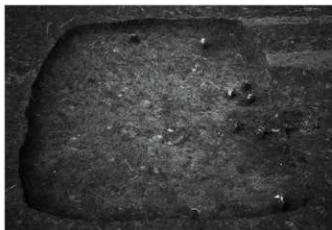
1. Ⅲ区古代洪水層関連遺構断面全景(中央区/東から)



2. Ⅲ区古代遺構群全景(中央区/東から)



3. Ⅲ区古代遺構群全景(中央区/西から)



4. Ⅲ区1号住居全景(南から)



5. Ⅲ区1号住居土層断面(南から)



6. Ⅲ区1号住居土層断面(東から)



7. Ⅲ区1号住居カマド全景(西から)



1. Ⅲ区1号住居カマド土層断面(南から)



2. Ⅲ区1号住居掘り方全景(南から)



3. Ⅲ区1号住居掘り方土層断面(南から)



4. Ⅲ区1号住居カマド掘り方土層断面(西から)



5. Ⅲ区2号住居全景(南から)



6. Ⅲ区2号住居土層断面(東から)



7. Ⅲ区2号住居カマド全景(西から)



8. Ⅲ区2号住居カマド土層断面(西から)



1. Ⅲ区2号住居掘り方全景(南から)



2. Ⅲ区2号住居掘り方土層断面(南から)



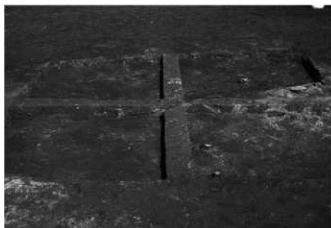
3. Ⅲ区2号住居カマド掘り方土層断面(西から)



4. Ⅲ区2号住居カマド土層断面(南から)



5. Ⅲ区3号住居全景(南から)



6. Ⅲ区3号住居土層断面(南から)



7. Ⅲ区3号住居土層断面(東から)



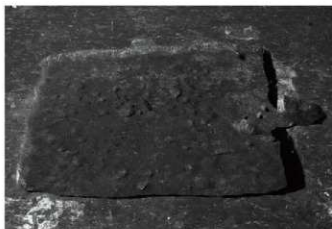
8. Ⅲ区3号住居カマド全景(西から)



1. Ⅲ区3号住居カマド土層断面(西から)



2. Ⅲ区3号住居カマド土層断面(南から)



3. Ⅲ区3号住居掘り方全景(南から)



4. Ⅲ区3号住居掘り方土層断面(南から)



5. Ⅲ区3号住居掘り方土層断面(東から)



6. Ⅲ区3号住居カマド掘り方土層断面(西から)



7. Ⅲ区4号住居全景(南から)



8. Ⅲ区4号住居土層断面(南から)



1. Ⅲ区4号住居カマド掘り方土層断面(西から)



2. Ⅲ区4号住居カマド掘り方土層断面(南から)



3. Ⅲ区4号住居掘り方全景(南から)



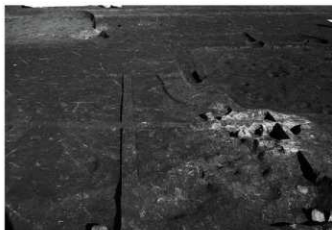
4. Ⅲ区4号住居掘り方土層断面(南から)



5. Ⅲ区5号住居全景(西から)



6. Ⅲ区5号住居土層断面(東から)



7. Ⅲ区5号住居土層断面(南から)



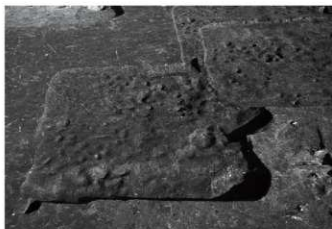
8. Ⅲ区5号住居貯蔵穴土層断面(南から)



1. Ⅲ区5号住居カマド土層断面(南から)



2. Ⅲ区5号住居カマド土層断面(西から)



3. Ⅲ区5号住居掘り方全景(南から)



4. Ⅲ区5号住居掘り方土層断面(南から)



5. Ⅲ区5号住居カマド掘り方土層断面(南から)



6. Ⅲ区5号住居カマド掘り方土層断面(西から)



7. Ⅲ区6号住居全景(南から)



8. Ⅲ区6号住居土層断面(東から)



1. Ⅲ区6号住居貯蔵穴土層断面(東から)



2. Ⅲ区6号住居貯蔵穴土層断面(南から)



3. Ⅲ区6号住居カマド土層断面(南から)



4. Ⅲ区6号住居カマド土層断面(西から)



5. Ⅲ区6号住居掘り方全景(南から)



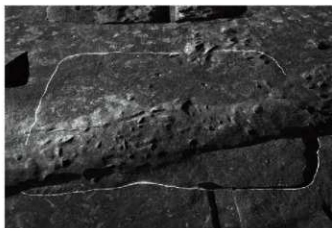
6. Ⅲ区6号住居カマド掘り方土層断面(西から)



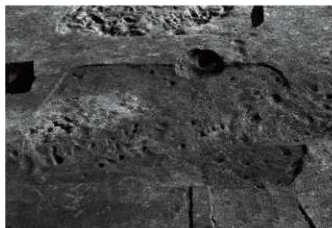
7. Ⅲ区6号住居カマド掘り方土層断面(南から)



8. Ⅲ区6号住居掘り方全景(西から)



1. Ⅲ区7号住居全景(西から)



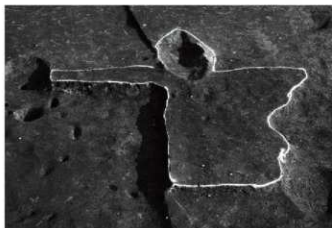
2. Ⅲ区7号住居掘り方全景(西から)



3. Ⅲ区7号住居掘り方土層断面(東から)



4. Ⅲ区7号住居掘り方土層断面(南から)



5. Ⅲ区8号住居全景(西から)



6. Ⅲ区8号住居土層断面(南から)



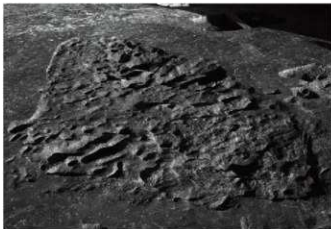
7. Ⅲ区8号住居カマド土層断面(西から)



8. Ⅲ区8号住居カマド掘り方土層断面(西から)



1. Ⅲ区8号住居掘り方全景(西から)



2. Ⅲ区1号竪穴遺構全景(西から)



3. Ⅲ区1号竪穴遺構土層断面(東から)



4. Ⅲ区2号竪穴遺構土層断面(南から)



5. Ⅲ区2号竪穴遺構土層断面(東から)



6. Ⅲ区3号竪穴遺構土層断面(南から)



7. Ⅲ区4号竪穴遺構全景(南から)



8. Ⅲ区4号竪穴遺構土層断面(南から)



1. Ⅲ区1号井戸土層断面(南から)



2. Ⅲ区1号・3号井戸土層断面(南から)



3. Ⅲ区1号・3号井戸全景(南から)



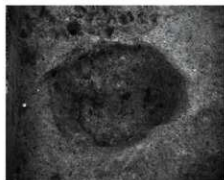
4. Ⅲ区2号井戸土層断面(南から)



5. Ⅲ区2号井戸全景(南から)



6. Ⅲ区15号土坑土層断面(東から)



7. Ⅲ区15号土坑全景(東から)



8. Ⅲ区16号土坑全景(北から)



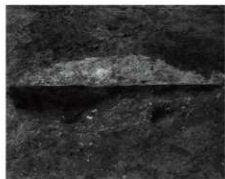
9. Ⅲ区17号土坑全景(北から)



10. Ⅲ区18号土坑土層断面(東から)



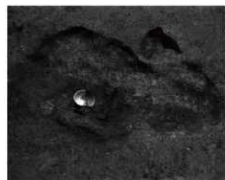
11. Ⅲ区18号土坑全景(南から)



12. Ⅲ区19号土坑土層断面(南から)



13. Ⅲ区19号土坑全景(南から)



14. Ⅲ区20号・21号土坑全景(西から)



15. Ⅲ区111号土坑土層断面(南から)



1. Ⅲ区111号土坑全景(南から)



2. Ⅲ区115号土坑土層断面(東から)



3. Ⅲ区115号土坑土層断面(南から)



4. Ⅲ区115号土坑土層断面(東から)



5. Ⅲ区115号土坑全景(南から)



6. Ⅲ区89号ピット土層断面(南から)



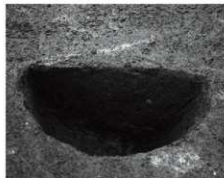
7. Ⅲ区90号ピット土層断面(南から)



8. Ⅲ区91号ピット土層断面(南から)



9. Ⅲ区92号ピット土層断面(南から)



10. Ⅲ区93号ピット土層断面(南から)



11. Ⅲ区94号ピット土層断面(南から)



12. Ⅲ区95号ピット土層断面(南から)



13. Ⅲ区97号ピット土層断面(南から)



14. Ⅲ区99号ピット土層断面(南から)



15. Ⅲ区101号ピット土層断面(東から)



1. Ⅲ区102号ビット土層断面(東から)



2. Ⅲ区103号ビット土層断面(東から)



3. Ⅲ区104号ビット土層断面(東から)



4. Ⅲ区25号溝土層断面(西から)



5. Ⅲ区26号溝土層断面(西から)



6. Ⅲ区25号～27号溝全景(西から)



7. Ⅲ区27号溝土層断面(西から)



8. Ⅲ区古代遺構群調査風景(東から)



9. Ⅲ区28号・29号溝土層断面(北から)



1. Ⅲ区古代洪水層関連遺構断面全景(南・北区/東から)



2. Ⅲ区28号・29号溝全景(北区/南から)



3. Ⅲ区28号溝全景(中央区/南から)



4. Ⅲ区古代洪水層関連遺構断面全景(北・南区/上空から)



5. Ⅲ区28号溝全景(南区/南から)



1. Ⅲ区28号溝遺物出土状態(南区/南から)



2. Ⅲ区28号溝遺物出土状態(南区/北から)



3. Ⅲ区28号溝遺物出土状態(北区/南から)



4. Ⅲ区28号溝遺物出土状態(南区/南から)



5. Ⅲ区28号溝土層断面(中央区/南から)



6. Ⅲ区28号溝全景(中央区/東から)



7. Ⅲ区28号溝土層断面(北区東半/北西から)



8. Ⅲ区28号溝土層断面(北区西半/北西から)



1. Ⅲ区29号溝遺物出土状態(東から)



2. Ⅲ区29号溝全景(東から)



3. Ⅲ区29号溝全景(西から)



4. Ⅲ区29号溝西部遺物出土状態(東から)



5. Ⅲ区29号溝土鍾出土状態(東から)



6. Ⅲ区29号溝東部遺物出土状態(東から)



7. Ⅲ区13号・35号溝土層断面(北から)



8. Ⅲ区35号溝全景(南から)



1. Ⅲ区2号耕作痕検出状況(北区/西から)



2. Ⅲ区古代①ⅣB層上面耕作痕・牛蹄跡全景(北区/南から)



3. Ⅲ区古代①ⅣB層上面牛蹄跡検出状況(北区/西から)



4. Ⅲ区古代①ⅣB層上面牛蹄跡分布状況(北区/南から)



5. Ⅲ区古代②Ⅵ層上面水田痕跡全景(南区/西から)



6. Ⅲ区古代②Ⅵ層上面水田痕跡土層断面(北区/南東から)



7. Ⅲ区古代②Ⅵ層上面水田痕跡西部土層断面(北区/南から)



8. Ⅲ区古代②Ⅵ層上面水田痕跡東部土層断面(北区/南から)



1. Ⅲ区古代②VI層上面水田痕跡土層断面(南区/南東から)



2. Ⅲ区古代②VI層上面水田痕跡東部土層断面(南区/南から)



3. Ⅲ区古代②VI層上面水田痕跡西部土層断面(南区/南から)



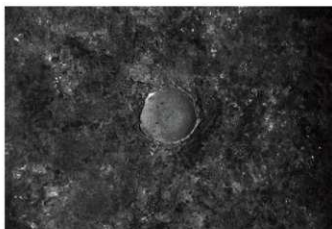
4. Ⅲ区3号耕作痕全景(北区/南から)



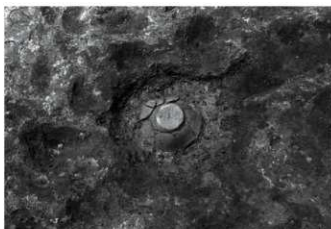
5. Ⅲ区古代①IV B層管玉出土状態(北区/北から)



6. Ⅲ区古代②VI層石嶽出土状態(北区/東から)



7. Ⅲ区古代①IV B層土器出土状態



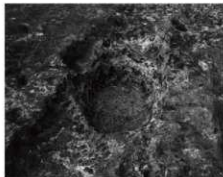
8. Ⅲ区古代①IV B層須恵器出土状態



1. I区古代～古墳時代遺構面全景(北区西半/上空から)



2. I区古代～古墳時代遺構面全景(中央区/東から)



1. I区3号土坑全景(南から)



2. I区4号土坑S字竅出土状態(北から)



3. I区4号土坑上層遺物出土状態(東から)



4. I区4号土坑中層遺物出土状態(東から)



5. I区4号土坑下層遺物出土状態(東から)



6. I区4号土坑最下層遺物出土状態(東から)



7. I区4号土坑弥生竅出土状態



8. I区4号土坑竅出土状態(東から)



9. I区4号土坑小型壺出土状態



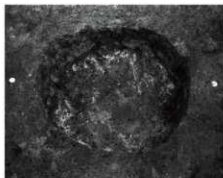
10. I区4号土坑底面検出状況



11. I区4号土坑・1号・3号・4号ピット全景(西から)



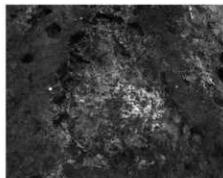
12. I区9号土坑土層断面(南から)



13. I区9号土坑全景(南から)



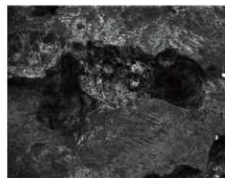
14. I区10号土坑土層断面(南から)



15. I区10号土坑全景(南から)



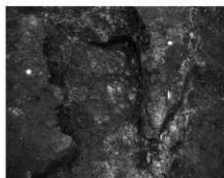
1. I区11号～13号土坑土層断面(南から)



2. I区11号～13号土坑全景(南から)



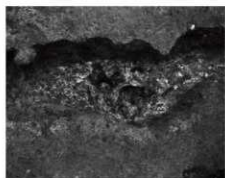
3. I区14号土坑土層断面(南から)



4. I区14号土坑全景(南から)



5. I区15号土坑遺物出土状態(南から)



6. I区15号土坑全景(南から)



7. I区16号土坑全景(東から)



8. I区1号ピット土層断面(南東から)



9. I区2号ピット土層断面(南東から)



10. I区3号ピット土層断面(南東から)



11. I区4号ピット土層断面(南から)



12. I区谷調査風景(北西から)



13. I区谷土層断面(北から)



14. I区谷全景(北東から)



15. I区谷全景(南東から)



1. I区22号溝土層断面(北区/北から)



2. I区22号溝全景(北区/北から)



3. I区22号溝土層断面(中央区/北から)



4. I区22号溝全景(中央区/南から)



5. I区22号溝土層断面(南区/南から)



6. I区23号溝全景(南区/南から)



7. I区22号溝遺物出土状態(北から)



8. I区22号溝遺物出土状態(南から)



1. I区24号～26号溝全景(南区/上空から)



2. I区24号～26号溝全景(南区/南から)



3. I区24号溝土層断面(南区/南から)



4. I区25号溝土層断面(南区/南から)



5. I区24号溝土層断面(中央区/南東から)



6. I区24号溝全景(中央区/南から)



7. I区25号溝土層断面(中央区/北から)



8. I区25号溝土層断面(中央区/南東から)



1. I区26号溝土層断面(中央区/北から)



2. I区26号溝土層断面(中央区/南から)



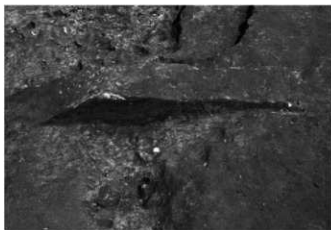
3. I区24号～26号溝全景(中央区/北西から)



4. I区30号・31号溝全景(南から)



5. I区34号～38号・40号・41号溝全景(南から)



6. I区34号・38号溝土層断面(南から)



7. I区40号溝土層断面(南から)



8. I区34号・40号溝遺物出土状態(南から)



1. I区34号・40号溝全景(南から)



2. I区35号溝土層断面(南から)



3. I区35号溝・7号土坑遺物出土状態(南から)



4. I区36号・49号・50号溝全景(南から)



5. I区36号・49号溝土層断面(南から)



6. I区37号溝土層断面(南から)



7. I区37号溝遺物出土状態(南から)



8. I区37号溝調査風景(北区/南から)



1. I区38号・41号溝遺物出土状態(南から)



2. I区39号溝土層断面A-A'(南から)



3. I区39号溝土層断面B-B'(南から)



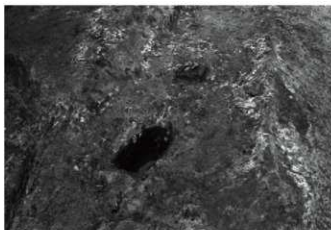
4. I区39号溝土層断面北壁B-B'(南から)



5. I区39号・42号溝全景(南から)



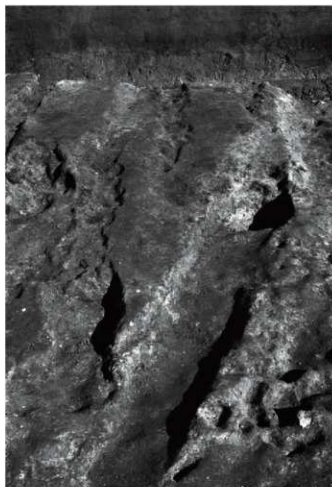
6. I区42号溝全景(東から)



7. I区39号溝遺物出土状態(南から)



1. I区39号溝遺物出土状態(北から)



2. I区43号～45号溝全景(南から)



3. I区46号溝全景(西から)



4. I区古代～古墳時代遺構面調査風景(南西から)



5. I区50号溝土層断面(南から)



6. I区51号溝土層断面(南から)



1. I区55号溝土層断面(南から)



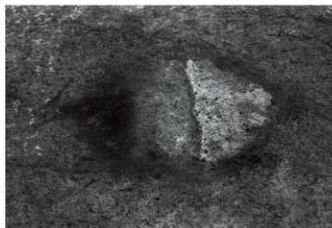
2. I区55号溝全景(南から)



3. I区古代～古墳時代遺構面倒木痕全景(中央区/東から)



4. I区古代～古墳時代遺構面倒木痕土層断面(南区/北から)



5. I区古代～古墳時代遺構面倒木痕全景(北区/南から)



6. I区古代～古墳時代遺構面倒木痕土層断面(北区/南から)



7. I区古代～古墳時代遺構面粗粒輝石安山岩出土状態(北区/南から)



1. Ⅱ区古代～古墳時代遺構断面遺構確認状況(南区/東から)



2. Ⅱ区南壁土層断面(南区/北から)



3. Ⅱ区古代～古墳時代遺構面全景(中央区東半/西から)



4. Ⅱ区古代～古墳時代遺構面全景(中央区西半/東から)



5. Ⅱ区8号土坑遺物・焼土検出状況(南から)



6. Ⅱ区8号土坑焼土除去後土層断面(南から)



7. Ⅱ区8号土坑遺物出土状態(北から)



8. Ⅱ区8号土坑遺物出土状態(南から)



1. II区8号土坑漆樹液の棒状塊出土状態(北東から)



2. II区8号土坑全景(東から)



3. II区20号溝土層断面(南から)



4. II区20号溝全景(南から)



5. II区1号倒木痕土層断面(北から)



6. II区2号倒木痕土層断面(西から)



7. II区古代～古墳時代遺構面石鏃出土状態(北区/南から)



8. II区古代～古墳時代遺構面北東隅遺物出土状態(北区/南から)



1. Ⅲ区古代～古墳時代遺構面全景(北区/西から)



2. Ⅲ区古代～古墳時代遺構面全景(中央区/西から)



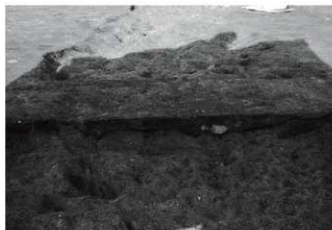
3. Ⅲ区古代～古墳時代遺構面遺構群近景(中央区/東から)



4. Ⅲ区9号住居全景(南から)



5. Ⅲ区9号住居東周溝土層断面(南から)



6. Ⅲ区9号住居西周溝土層断面(南から)



1. Ⅲ区9号住居東周溝遺物出土状態(北から)



2. Ⅲ区9号住居東周溝遺物出土状態(南から)



3. Ⅲ区9号住居P1土層断面(南から)



4. Ⅲ区9号住居P2土層断面(南から)



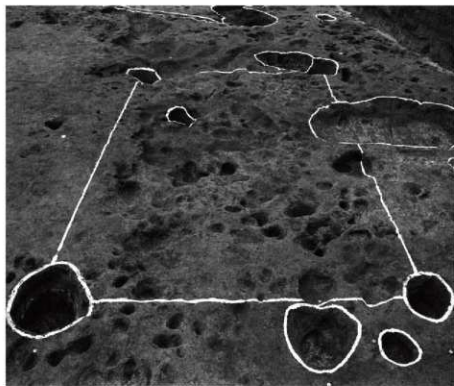
5. Ⅲ区9号住居P3土層断面(南から)



6. Ⅲ区9号住居P4土層断面(南から)



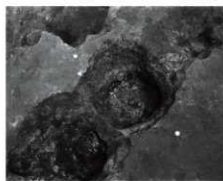
7. Ⅲ区古代～古墳時代遺構面全景(北区/上空から)



1. Ⅲ区2号掘立柱建物全景(東から)



2. Ⅲ区2号掘立P 1土層断面(北から)



3. Ⅲ区2号掘立P 1全景(南から)



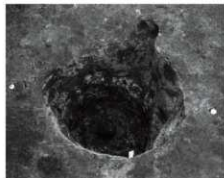
4. Ⅲ区2号掘立P 2土層断面(南から)



5. Ⅲ区2号掘立P 2全景(南から)



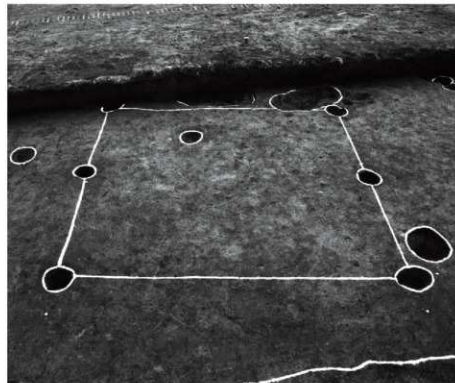
6. Ⅲ区2号掘立P 3土層断面(南から)



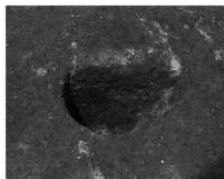
7. Ⅲ区2号掘立P 3全景(南から)



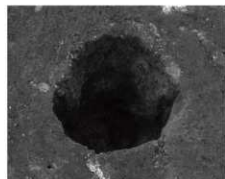
8. Ⅲ区2号掘立P 4全景(南から)



9. Ⅲ区3号掘立柱建物全景(北から)



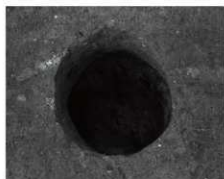
1. Ⅲ区3号掘立P1土層断面(東から)



2. Ⅲ区3号掘立P1全景(東から)



3. Ⅲ区3号掘立P2土層断面(東から)



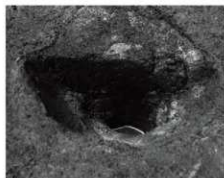
4. Ⅲ区3号掘立P2全景(南から)



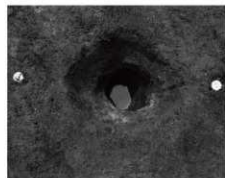
5. Ⅲ区3号掘立P3土層断面(北から)



6. Ⅲ区3号掘立P4土層断面(南から)



7. Ⅲ区3号掘立P5土層断面(東から)



8. Ⅲ区3号掘立P5全景(東から)



9. Ⅲ区3号掘立P6土層断面(東から)



10. Ⅲ区3号掘立P6全景(南から)



11. Ⅲ区3号掘立P7土層断面(南から)



12. Ⅲ区3号掘立P7全景(南から)



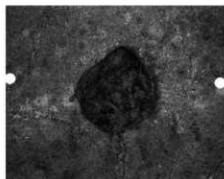
13. Ⅲ区3号掘立P8土層断面(南から)



14. Ⅲ区3号掘立P8全景(南から)



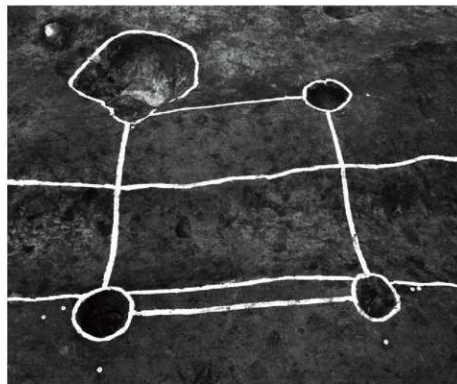
15. Ⅲ区3号掘立P9土層断面(南から)



1. Ⅲ区3号掘立P9全景(南から)



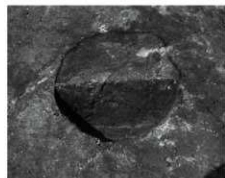
3. Ⅲ区4号掘立P1土層断面(東から)



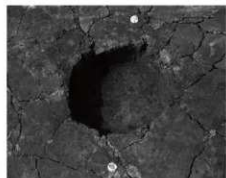
2. Ⅲ区4号掘立柱建物全景(南から)



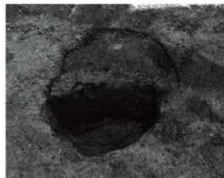
4. Ⅲ区4号掘立P1全景(南から)



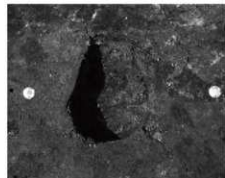
5. Ⅲ区4号掘立P2土層断面(東から)



6. Ⅲ区4号掘立P2全景(南から)



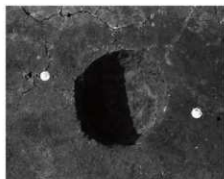
7. Ⅲ区4号掘立P3土層断面(南から)



8. Ⅲ区4号掘立P3全景(南から)



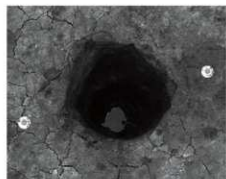
9. Ⅲ区4号掘立P4土層断面(南から)



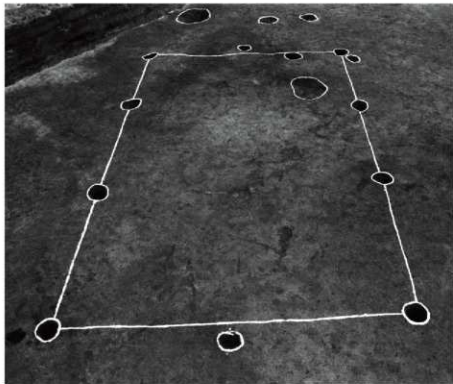
10. Ⅲ区4号掘立P4全景(南から)



11. Ⅲ区5号掘立P1土層断面(南から)



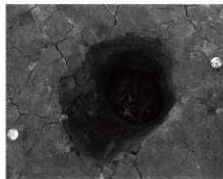
12. Ⅲ区5号掘立P1全景(南から)



1. Ⅲ区5号掘立柱建物全景(西から)



2. Ⅲ区5号掘立P2土層断面(南から)



3. Ⅲ区5号掘立P2全景(南から)



4. Ⅲ区5号掘立P3土層断面(南から)



5. Ⅲ区5号掘立P3全景(南から)



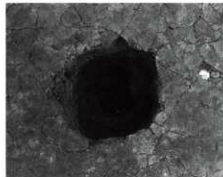
6. Ⅲ区5号掘立P4土層断面(南から)



7. Ⅲ区5号掘立P4遺物出土状態(南から)



8. Ⅲ区5号掘立P5土層断面(南から)



9. Ⅲ区5号掘立P5全景(南から)



10. Ⅲ区5号掘立P6土層断面(南から)



11. Ⅲ区5号掘立P6全景(南から)



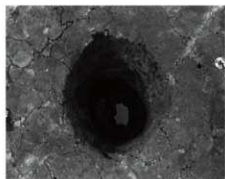
12. Ⅲ区5号掘立P7土層断面(南から)



1. Ⅲ区5号掘立P7全景(南から)



2. Ⅲ区5号掘立P8土層断面(南から)



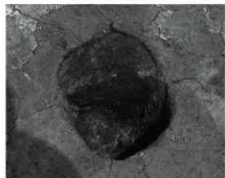
3. Ⅲ区5号掘立P8全景(南から)



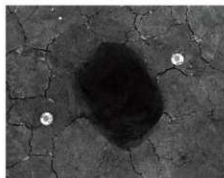
4. Ⅲ区5号掘立P9土層断面(南から)



5. Ⅲ区5号掘立P9全景(南から)



6. Ⅲ区5号掘立P10土層断面(南から)



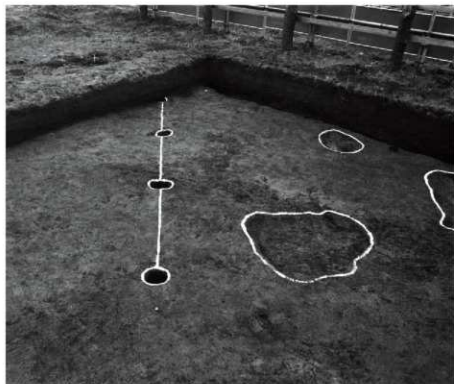
7. Ⅲ区5号掘立P10全景(南から)



8. Ⅲ区5号掘立P11土層断面(南から)



9. Ⅲ区5号掘立P11全景(南から)



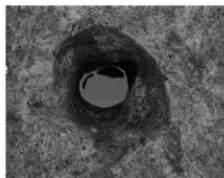
10. Ⅲ区1号柱穴列全景(北から)



11. Ⅲ区1号柱穴列P1土層断面(南から)



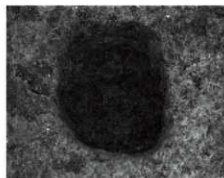
12. Ⅲ区1号柱穴列P2土層断面(南から)



1. Ⅲ区1号柱穴列P 2全景(南から)



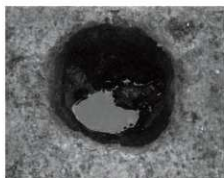
2. Ⅲ区1号柱穴列P 3土層断面(南から)



3. Ⅲ区1号柱穴列P 3全景(南から)



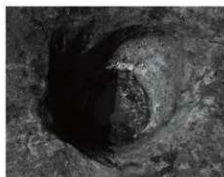
4. Ⅲ区1号柱穴列P 4土層断面(南から)



5. Ⅲ区1号柱穴列P 4全景(南から)



6. Ⅲ区22号土坑全景(南から)



7. Ⅲ区23号土坑全景(南から)



8. Ⅲ区24号土坑全景(南から)



9. Ⅲ区25号土坑土層断面(南から)



10. Ⅲ区26号～28号土坑全景(南から)



11. Ⅲ区27号土坑土層断面(南東から)



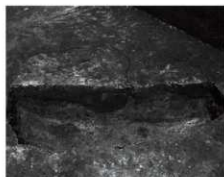
12. Ⅲ区28号土坑土層断面(南から)



13. Ⅲ区29号土坑土層断面(南から)



14. Ⅲ区29号土坑全景(北から)



15. Ⅲ区30号・31号土坑土層断面(南から)



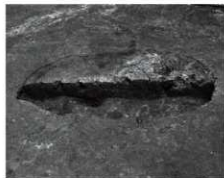
1. Ⅲ区30号・31号土坑全景(北から)



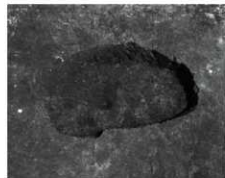
2. Ⅲ区32号土坑土層断面(南から)



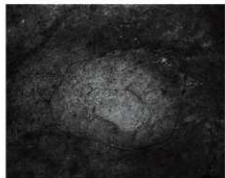
3. Ⅲ区32号土坑全景(南から)



4. Ⅲ区33号土坑土層断面(南から)



5. Ⅲ区33号土坑全景(南から)



6. Ⅲ区34号土坑全景(南から)



7. Ⅲ区35号土坑土層断面(南から)



8. Ⅲ区36号土坑土層断面(東から)



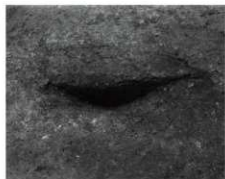
9. Ⅲ区35号・36号土坑全景(南から)



10. Ⅲ区37号土坑土層断面(南から)



11. Ⅲ区37号土坑全景(南から)



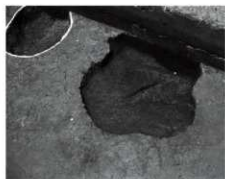
12. Ⅲ区38号土坑土層断面(東から)



13. Ⅲ区38号土坑全景(南から)



14. Ⅲ区47号土坑土層断面(東から)



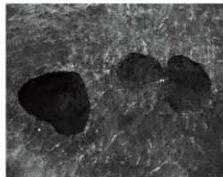
15. Ⅲ区47号土坑全景(南から)



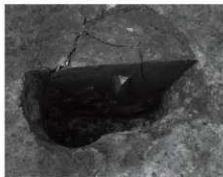
1. Ⅲ区49号・48号土坑土層断面(東から)



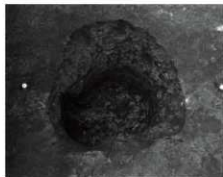
2. Ⅲ区50号土坑土層断面(南から)



3. Ⅲ区50号・49号・48号土坑全景(東から)



4. Ⅲ区39号土坑土層断面(南から)



5. Ⅲ区39号土坑全景(南から)



6. Ⅲ区40号土坑土層断面(南から)



7. Ⅲ区40号土坑全景(南から)



8. Ⅲ区41号土坑土層断面(南から)



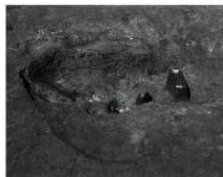
9. Ⅲ区41号土坑全景(西から)



10. Ⅲ区42号土坑土層断面(南から)



11. Ⅲ区42号土坑土層断面(西から)



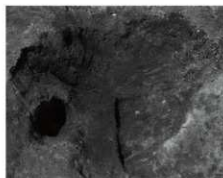
12. Ⅲ区42号土坑全景(東から)



13. Ⅲ区43号土坑土層断面(南から)



14. Ⅲ区43号土坑土層断面(東から)



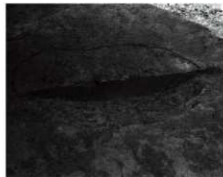
15. Ⅲ区43号土坑全景(南から)



1. Ⅲ区44号土坑土層断面(南から)



2. Ⅲ区44号土坑全景(南から)



3. Ⅲ区45号土坑土層断面(南から)



4. Ⅲ区45号土坑全景(南から)



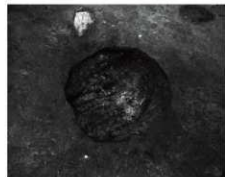
5. Ⅲ区46号土坑土層断面(東から)



6. Ⅲ区46号土坑全景(東から)



7. Ⅲ区51号土坑土層断面(東から)



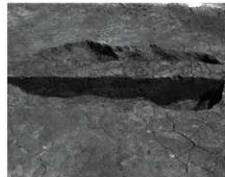
8. Ⅲ区51号土坑全景(南から)



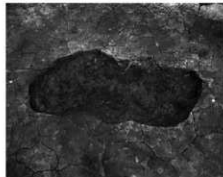
9. Ⅲ区52号・53号土坑土層断面(南から)



10. Ⅲ区52号・53号土坑全景(南から)



11. Ⅲ区54号土坑土層断面(南から)



12. Ⅲ区54号土坑全景(南から)



13. Ⅲ区55号土坑土層断面(南から)



14. Ⅲ区55号土坑全景(南から)



15. Ⅲ区56号土坑出土土状態(南から)



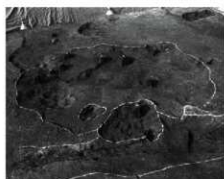
1. Ⅲ区56号・96号土坑土層断面(西から)



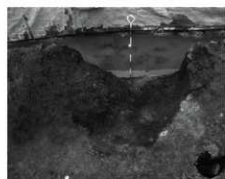
2. Ⅲ区56号土坑土層断面(南から)



3. Ⅲ区97号土坑土層断面(東から)



4. Ⅲ区56・96・97号土坑全景(南から)



5. Ⅲ区57号土坑全景(南から)



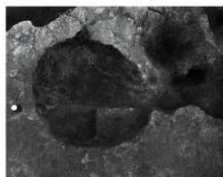
6. Ⅲ区58号土坑土層断面(南から)



7. Ⅲ区58号土坑全景(南から)



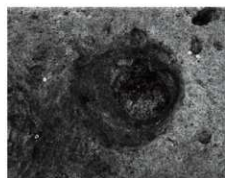
8. Ⅲ区70号土坑土層断面(南から)



9. Ⅲ区70号土坑全景(南から)



10. Ⅲ区59号土坑土層断面(南から)



11. Ⅲ区59号土坑全景(南から)



12. Ⅲ区61号土坑土層断面(東から)



13. Ⅲ区61号土坑全景(南から)



14. Ⅲ区62号土坑土層断面(南から)



15. Ⅲ区62号土坑全景(南から)



1. Ⅲ区63号土坑遺物出土状態(南から)



2. Ⅲ区63号土坑土層断面(南から)



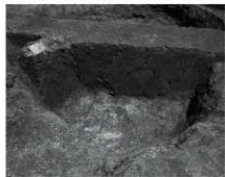
3. Ⅲ区63号土坑全景(南から)



4. Ⅲ区64号土坑土層断面(北から)



5. Ⅲ区64号土坑全景(東から)



6. Ⅲ区65号土坑土層断面(南から)



7. Ⅲ区65号土坑全景(東から)



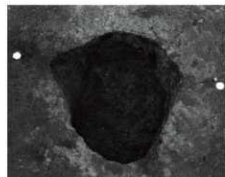
8. Ⅲ区66号・95号土坑土層断面(南から)



9. Ⅲ区66号・95号土坑全景(東から)



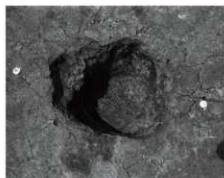
10. Ⅲ区67号土坑土層断面(南から)



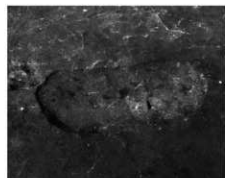
11. Ⅲ区67号土坑全景(南から)



12. Ⅲ区68号土坑土層断面(東から)



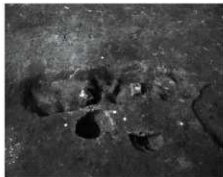
13. Ⅲ区68号土坑全景(南から)



14. Ⅲ区71号土坑全景(南から)



15. Ⅲ区72号土坑土層断面(東から)



1. Ⅲ区72号土坑全景(南から)



2. Ⅲ区73号土坑土層断面(東から)



3. Ⅲ区73号土坑全景(南から)



4. Ⅲ区74号土坑土層断面(西から)



5. Ⅲ区74号土坑全景(北から)



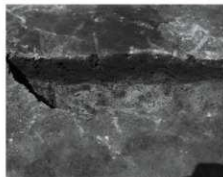
6. Ⅲ区75号土坑土層断面(北から)



7. Ⅲ区76号土坑土層断面(東から)



8. Ⅲ区76号土坑全景(東から)



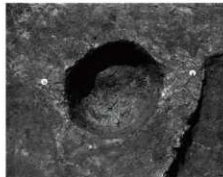
9. Ⅲ区77号土坑土層断面(南から)



10. Ⅲ区77号土坑全景(北から)



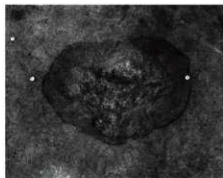
11. Ⅲ区78号土坑土層断面(東から)



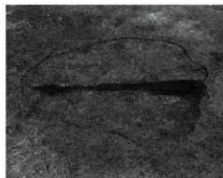
12. Ⅲ区78号土坑全景(東から)



13. Ⅲ区79号土坑土層断面(南から)



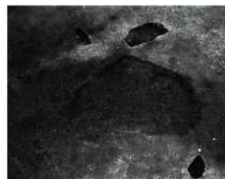
14. Ⅲ区79号土坑全景(南から)



15. Ⅲ区80号土坑土層断面(南から)



1. Ⅲ区81号土坑土層断面(南から)



2. Ⅲ区81号土坑全景(東から)



3. Ⅲ区101号土坑土層断面(西から)



4. Ⅲ区82号土坑土層断面(南から)



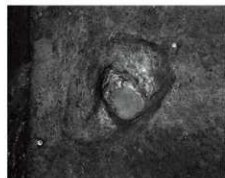
5. Ⅲ区82号土坑土層断面(東から)



6. Ⅲ区82号土坑全景(東から)



7. Ⅲ区83号土坑土層断面(南から)



8. Ⅲ区83号土坑全景(東から)



9. Ⅲ区84号土坑土層断面(南から)



10. Ⅲ区85・86・91号土坑全景(南から)



11. Ⅲ区85号土坑焼土確認状況(東から)



12. Ⅲ区85号土坑焼土確認状況(南から)



13. Ⅲ区85号土坑土層断面(南から)



14. Ⅲ区85・86・91号土坑土層断面(南から)



15. Ⅲ区85号土坑全景(西から)



1. Ⅲ区86号土坑土層断面(南から)



2. Ⅲ区86号土坑全景(西から)



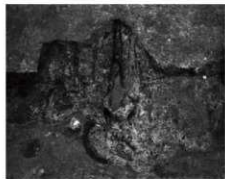
3. Ⅲ区91号土坑土層断面(西から)



4. Ⅲ区91号土坑全景(西から)



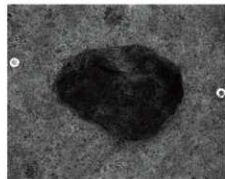
5. Ⅲ区87号土坑土層断面(東から)



6. Ⅲ区87号土坑全景(東から)



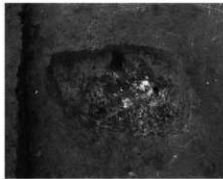
7. Ⅲ区88号土坑土層断面(南から)



8. Ⅲ区88号土坑全景(南から)



9. Ⅲ区89号土坑土層断面(南から)



10. Ⅲ区89号土坑全景(南から)



11. Ⅲ区90号土坑焼土確認状況(南から)



12. Ⅲ区90号土坑土層断面(南から)



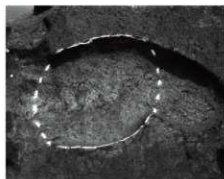
13. Ⅲ区90号土坑土層断面(西から)



14. Ⅲ区90号土坑全景(南から)



15. Ⅲ区92号土坑土層断面(西から)



1. Ⅲ区92号土坑全景(西から)



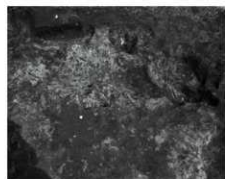
2. Ⅲ区93号土坑土層断面(西から)



3. Ⅲ区93号土坑全景(南から)



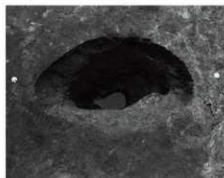
4. Ⅲ区94号土坑土層断面(東から)



5. Ⅲ区94号土坑全景(南から)



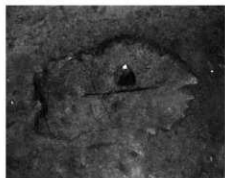
6. Ⅲ区98号土坑土層断面(東から)



7. Ⅲ区98号土坑全景(東から)



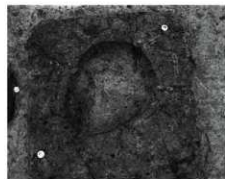
8. Ⅲ区99号・100号土坑土層断面(東から)



9. Ⅲ区99号・100号土坑全景(東から)



10. Ⅲ区102号土坑土層断面(南から)



11. Ⅲ区102号土坑全景(南から)



12. Ⅲ区103号土坑土層断面(南から)



13. Ⅲ区103号土坑全景(南から)



14. Ⅲ区104号土坑土層断面(南から)



15. Ⅲ区104号土坑全景(南から)



1. Ⅲ区105号土坑土層断面(西から)



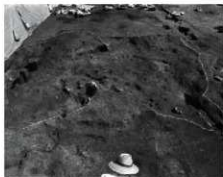
2. Ⅲ区105号土坑全景(南から)



3. Ⅲ区106号土坑土層断面(南から)



4. Ⅲ区107号土坑土層断面(南から)



5. Ⅲ区106号・107号土坑全景(西から)



6. Ⅲ区108号土坑土層断面(西から)



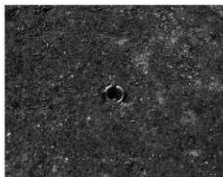
7. Ⅲ区108号土坑全景(西から)



8. Ⅲ区109号土坑土層断面(南から)



9. Ⅲ区109号土坑全景(西から)



10. Ⅲ区北区耳環出土状態(東から)



11. Ⅲ区114号土坑土層断面(南から)



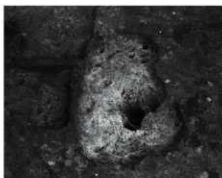
12. Ⅲ区116号土坑土層断面(南から)



13. Ⅲ区117号土坑土層断面(南から)



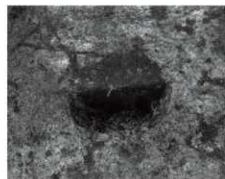
14. Ⅲ区117号土坑土層断面(西から)



15. Ⅲ区118号土坑全景(南から)



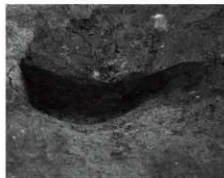
1. Ⅲ区8号ビット土層断面(南から)



2. Ⅲ区9号ビット土層断面(南から)



3. Ⅲ区10号ビット土層断面(南から)



4. Ⅲ区11号ビット土層断面(南から)



5. Ⅲ区12号ビット土層断面(南から)



6. Ⅲ区13号ビット土層断面(南から)



7. Ⅲ区14号ビット土層断面(西から)



8. Ⅲ区19・20号ビット土層断面(北から)



9. Ⅲ区21号ビット土層断面(東から)



10. Ⅲ区23号ビット土層断面(南から)



11. Ⅲ区24号ビット土層断面(東から)



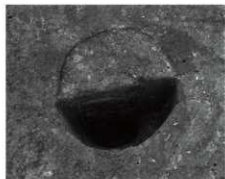
12. Ⅲ区25号ビット土層断面(東から)



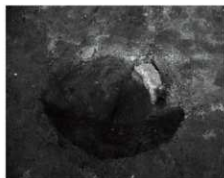
13. Ⅲ区26・27号ビット土層断面(南から)



14. Ⅲ区29号ビット土層断面(東から)



15. Ⅲ区31号ビット土層断面(東から)



1. Ⅲ区38号ビット全景(東から)



2. Ⅲ区39号ビット土層断面(南から)



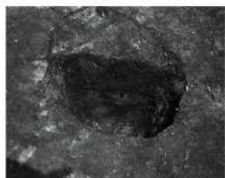
3. Ⅲ区40号ビット土層断面(南から)



4. Ⅲ区43号ビット土層断面(南から)



5. Ⅲ区57号ビット土層断面(南から)



6. Ⅲ区58号ビット土層断面(南から)



7. Ⅲ区59号ビット土層断面(東から)



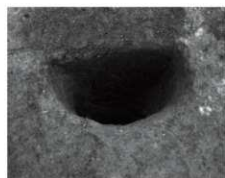
8. Ⅲ区60号ビット土層断面(東から)



9. Ⅲ区63号ビット土層断面(東から)



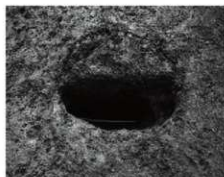
10. Ⅲ区64号ビット土層断面(南から)



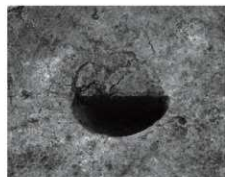
11. Ⅲ区65号ビット土層断面(東から)



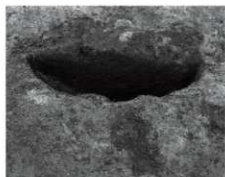
12. Ⅲ区66号ビット土層断面(東から)



13. Ⅲ区67号ビット土層断面(東から)



14. Ⅲ区68号ビット土層断面(南から)



15. Ⅲ区69号ビット土層断面(東から)



1. Ⅲ区70号ビット土層断面(東から)



2. Ⅲ区71号ビット土層断面(北から)



3. Ⅲ区72号ビット土層断面(南から)



4. Ⅲ区75号ビット土層断面(東から)



5. Ⅲ区76号ビット土層断面(南から)



6. Ⅲ区77号ビット土層断面(西から)



7. Ⅲ区78号ビット土層断面(西から)



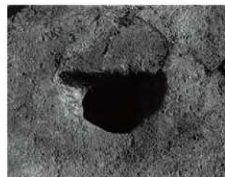
8. Ⅲ区79号ビット土層断面(西から)



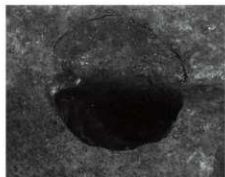
9. Ⅲ区80号ビット土層断面(西から)



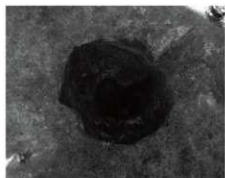
10. Ⅲ区81号ビット土層断面(東から)



11. Ⅲ区83号ビット土層断面(西から)



12. Ⅲ区84号ビット土層断面(南から)



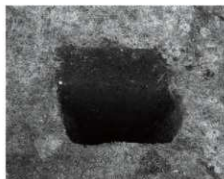
13. Ⅲ区84号ビット全景(南から)



14. Ⅲ区98号ビット土層断面(南から)



15. Ⅲ区100号ビット土層断面(南から)



1. Ⅲ区105号ビット土層断面(東から)



2. Ⅲ区106号ビット土層断面(東から)



3. Ⅲ区107号ビット土層断面(南から)



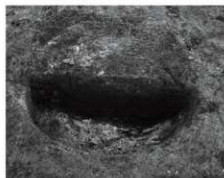
4. Ⅲ区108号ビット土層断面(南から)



5. Ⅲ区109号ビット土層断面(南から)



6. Ⅲ区110号ビット土層断面(南から)



7. Ⅲ区111号ビット土層断面(南から)



8. Ⅲ区112号ビット土層断面(南から)



9. Ⅲ区113号ビット土層断面(南から)



10. Ⅲ区114号ビット土層断面(南から)



11. Ⅲ区115号ビット土層断面(南から)



12. Ⅲ区116号ビット土層断面(南から)



13. Ⅲ区117号ビット土層断面(南から)



14. Ⅲ区118号ビット土層断面(南から)



15. Ⅲ区119号ビット土層断面(南から)



1. Ⅲ区33号溝全景(北区/北から)



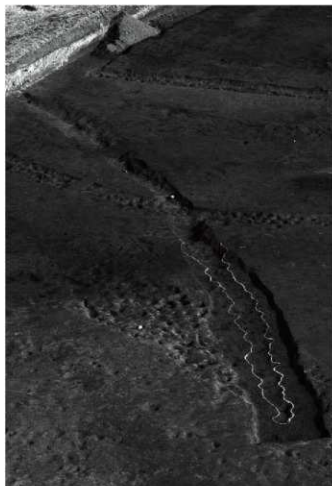
2. Ⅲ区33号溝遺物出土状態(北区/北から)



3. Ⅲ区33号溝土層断面(北区/北から)



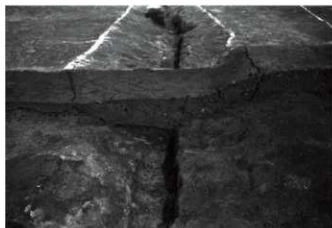
4. Ⅲ区33号溝勾玉出土状態(北区)



5. Ⅲ区33号溝全景(中央区/西から)



1. Ⅲ区34号溝全景(東から)



2. Ⅲ区34号溝土層断面A-A' (西から)



3. Ⅲ区34号溝土層断面B-B' (西から)



4. Ⅲ区34号溝全景(東から)



5. Ⅲ区34号溝須恵器出土状態(西から)



6. Ⅲ区34号溝土踵出土状態(西から)



7. Ⅲ区倒木痕土層断面(南から)



1. IV区古代～古墳時代遺構面全景(南区/東から)



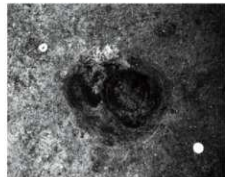
2. IV区古代～古墳時代遺構面全景(北区/東から)



3. IV区・V区古代～古墳時代遺構群近景(北区/上空から)



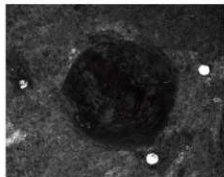
1. IV区1号掘立P 1土層断面(南西から)



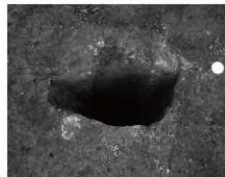
2. IV区1号掘立P 1全景(南から)



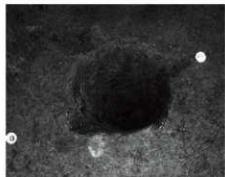
3. IV区1号掘立P 2土層断面(西から)



4. IV区1号掘立P 2全景(西から)



5. IV区1号掘立P 3土層断面(西から)



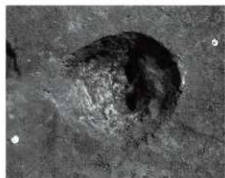
6. IV区1号掘立P 3全景(西から)



7. IV区1号掘立P 4土層断面(南西から)



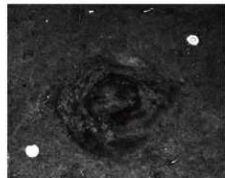
8. IV区1号掘立P 5土層断面(東から)



9. IV区1号掘立P 5全景(西から)



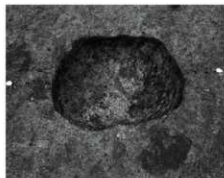
10. IV区1号掘立P 6土層断面(南西から)



11. IV区1号掘立P 6全景(西から)



12. IV区13号土坑土層断面(東から)



13. IV区13号土坑全景(西から)



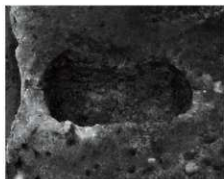
14. IV区14号土坑土層断面(南から)



15. IV区14号土坑全景(南から)



1. IV区10号土坑土層断面(東から)



2. IV区10号土坑全景(東から)



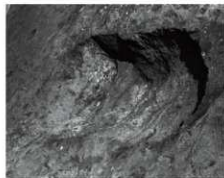
3. IV区16号土坑土層断面(南から)



4. IV区16号土坑全景(南から)



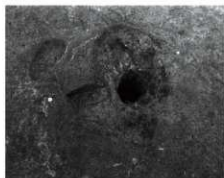
5. IV区17号土坑土層断面(北から)



6. IV区17号土坑全景(南から)



7. IV区18号土坑土層断面(南から)



8. IV区18号土坑全景(南から)



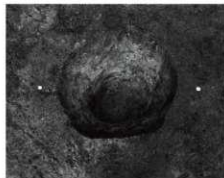
9. IV区19号土坑土層断面(南から)



10. IV区19号土坑全景(西から)



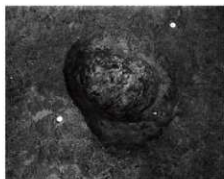
11. IV区27号土坑土層断面(南から)



12. IV区27号土坑全景(南から)



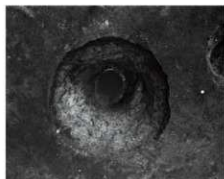
13. IV区28号土坑土層断面(南から)



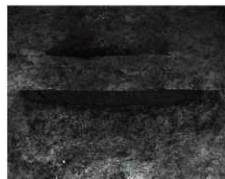
14. IV区28号土坑全景(南から)



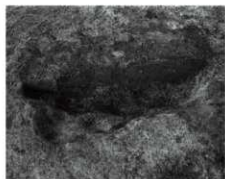
15. IV区29号土坑土層断面(東から)



1. IV区29号土坑全景(南から)



2. IV区30号土坑土層断面(北から)



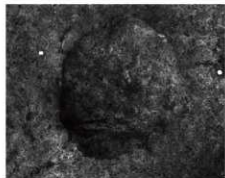
3. IV区31号土坑土層断面(南から)



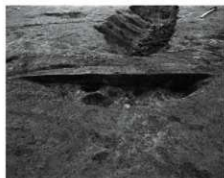
4. IV区32号土坑土層断面(南から)



5. IV区33号土坑土層断面(南から)



6. IV区33号土坑全景(南から)



7. IV区34号土坑土層断面(南から)



8. IV区34号土坑全景(南から)



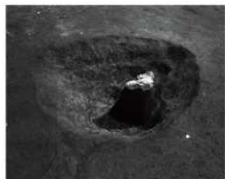
9. IV区38号土坑土層断面(南から)



10. IV区38号土坑全景(西から)



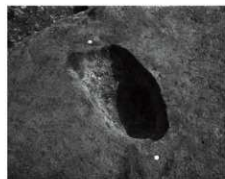
11. IV区39号土坑土層断面(南から)



12. IV区39号土坑遺物出土状態(西から)



13. IV区40号土坑土層断面(南から)



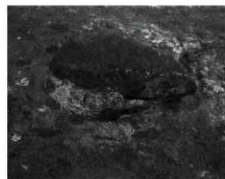
14. IV区40号土坑全景(西から)



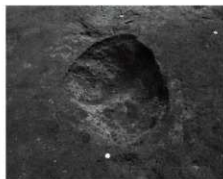
15. IV区41号土坑土層断面(南から)



1. IV区41号土坑全景(西から)



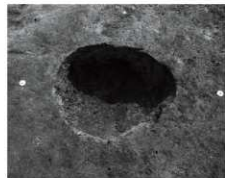
2. IV区42号土坑土層断面(西から)



3. IV区42号土坑全景(南から)



4. IV区43号土坑土層断面(南から)



5. IV区43号土坑全景(西から)



6. IV区44号土坑土層断面(南から)



7. IV区44号土坑全景(西から)



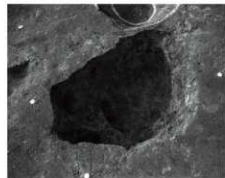
8. IV区45号土坑土層断面(南から)



9. IV区45号土坑全景(西から)



10. IV区46号土坑土層断面(南東から)



11. IV区46号土坑全景(東から)



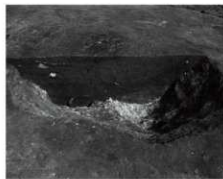
12. IV区47号土坑土層断面(東から)



13. IV区48号土坑土層断面(南西から)



14. IV区47号・48号土坑全景(東から)



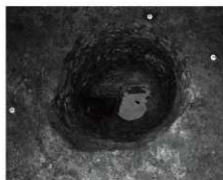
15. IV区49号土坑土層断面(南から)



1. IV区49号土坑全景(東から)



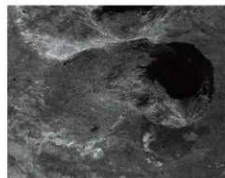
2. IV区50号土坑土層断面(東から)



3. IV区50号土坑全景(東から)



4. IV区56号・57号土坑土層断面(南から)



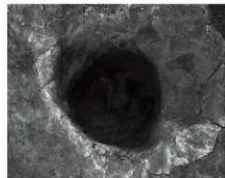
5. IV区56号・57号土坑全景(北から)



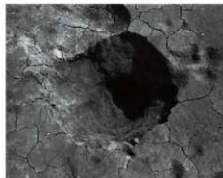
6. IV区63号土坑土層断面(南から)



7. IV区63号土坑全景(東から)



8. IV区66号土坑全景(北から)



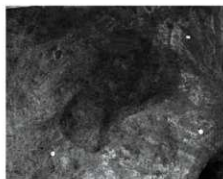
9. IV区67号土坑全景(北から)



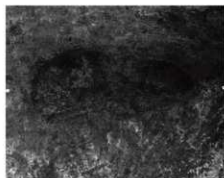
10. IV区4号ピット全景(東から)



11. IV区5号ピット全景(北から)



12. IV区6号・7号ピット全景(東から)



1. IV区8号ビット全景(北から)



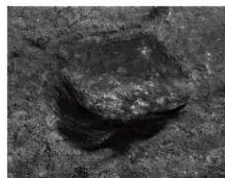
2. IV区10号ビット土層断面(東から)



3. IV区12号ビット土層断面(西から)



4. IV区13号ビット土層断面(西から)



5. IV区14号ビット土層断面(南から)



6. IV区15号ビット土層断面(南から)



7. IV区16号ビット土層断面(南から)



8. IV区17号ビット土層断面(南から)



9. IV区18号ビット土層断面(東から)



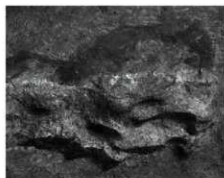
10. IV区19号ビット土層断面(東から)



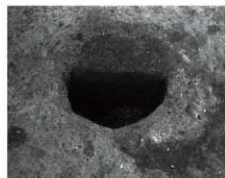
11. IV区20号ビット土層断面(東から)



12. IV区21号ビット土層断面(南西から)



13. IV区22号ビット土層断面(南から)



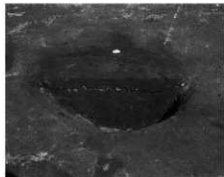
14. IV区23号ビット土層断面(南から)



15. IV区24号ビット土層断面(西から)



1. IV区25号ビット土層断面(南から)



2. IV区26号ビット土層断面(南から)



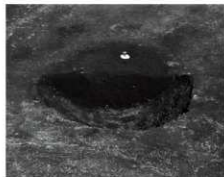
3. IV区28号ビット土層断面(南から)



4. IV区29号ビット土層断面(南から)



5. IV区30号ビット土層断面(南から)



6. IV区31号ビット土層断面(南から)



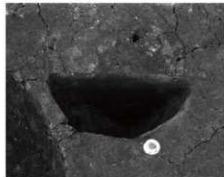
7. IV区32号ビット土層断面(南東から)



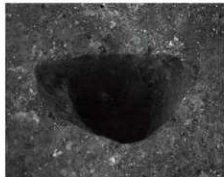
8. IV区33号ビット土層断面(南から)



9. IV区34号ビット土層断面(南東から)



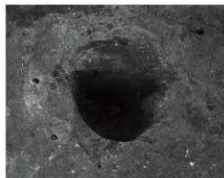
10. IV区42号ビット土層断面(南から)



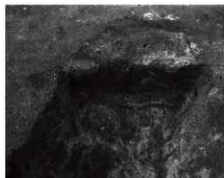
11. IV区43号ビット土層断面(南から)



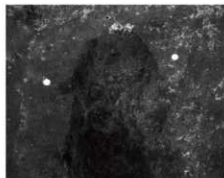
12. IV区古代～古墳時代遺構面調査風景



13. IV区94号ビット土層断面(南から)



14. IV区95号ビット土層断面(南から)



15. IV区95号ビット全景((南から)



1. IV区1号・2号方形周溝墓全景(上空から)



2. IV区1号方形周溝墓全景(北西から)



1. IV区1号方形周溝墓周溝土層断面(南東から)



2. IV区1号方形周溝墓周溝土層断面(南西から)



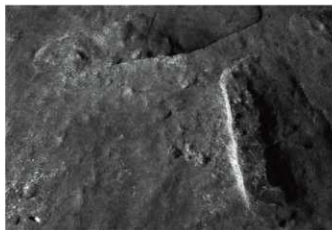
3. IV区1号方形周溝墓周溝遺物出土状態(北東から)



4. IV区1号方形周溝墓周溝遺物出土状態(南西から)



5. IV区1号方形周溝墓全景(北東から)



6. IV区2号方形周溝墓全景(上空から)



7. IV区2号方形周溝墓周溝土層断面(西から)



8. IV区2号方形周溝墓周溝土層断面(北から)



1. IV区17号溝全景(南から)



2. IV区16号溝全景(西から)



3. IV区17号溝土層断面(南から)



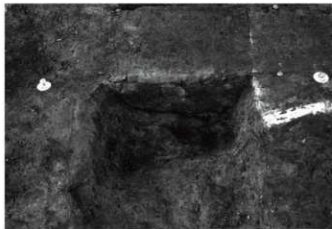
4. IV区17号溝全景(南から)



5. IV区18号溝土層断面(南から)



6. IV区18号溝土層断面(南東から)



1. IV区19号溝土層断面(南から)



2. IV区18号・19号溝・1号凹地全景(南区/南から)



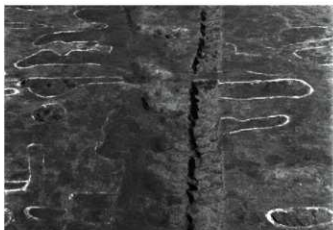
3. IV区18号・19号溝土層断面(南から)



4. IV区18号・19号溝・1号凹地全景(北区/上空から)



5. IV区南区18号・19号溝全景(南区/南から)



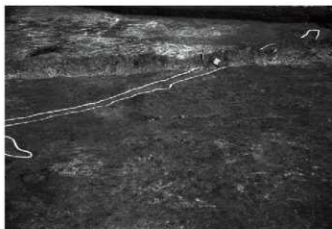
6. IV区南区18号・19号溝近景(南区/南から)



1. IV区20号溝南半全景(東から)



2. IV区20号溝北半全景(南東から)



3. IV区21号溝全景(東から)



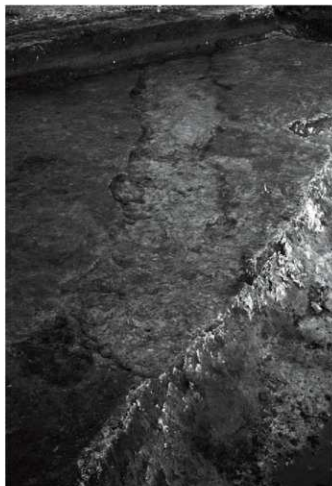
4. IV区20号～22号溝全景(東から)



5. IV区20号溝全景(南から)



6. IV区21号溝土層断面(南から)



7. IV区24号溝全景(南西から)



1. IV区24号溝土層断面(南から)



2. IV区25号溝土層断面(南から)



3. IV区26号溝土層断面(西から)



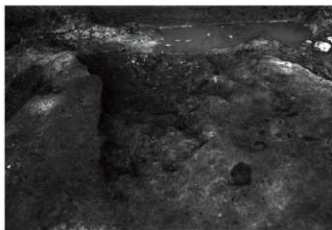
4. IV区27号溝土層断面(北から)



5. IV区26号溝・34号土坑全景(北東から)



6. IV区27号溝遺物出土状態全景(北から)



1. IV区29号溝全景(南から)



2. IV区28号溝土層断面(北東から)



3. IV区30号溝土層断面(南から)



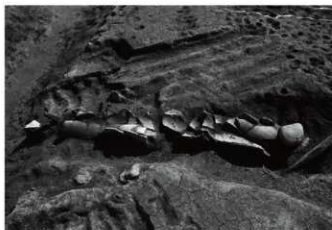
4. IV区28号溝全景(北から)



5. IV区30号溝全景(南から)



7. IV区40号溝・75号土坑全景(南西から)



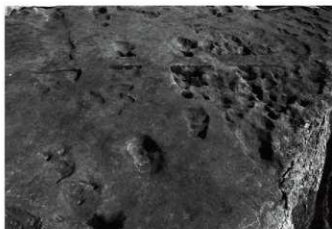
6. IV区36号溝全景(西から)



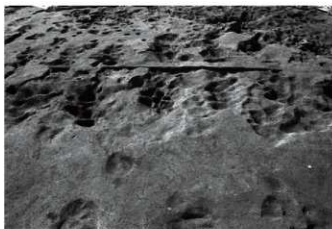
1. IV区1号畠南半確認状況(東から)



2. IV区1号畠北半確認状況(東から)



3. IV区1号畠土層断面(南西から)



4. IV区1号畠土層断面(北東から)



5. IV区1号畠・1号凹地近景(北東から)



6. IV区1号畠近景(北東から)



7. IV区1号畠・2号全全景(北東から)



8. IV区3号畠全景(北から)



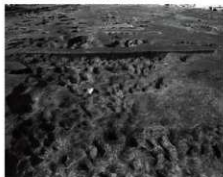
1. IV区1号凹地全景(北から)



2. IV区1号凹地土層断面(南から)



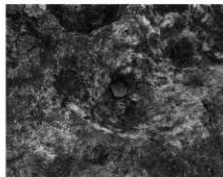
3. IV区1号凹地全景(南から)



4. IV区18号凹地土層断面(南から)



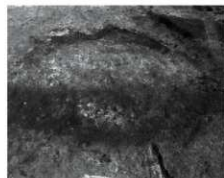
5. IV区18号凹地全景(南から)



6. IV区1号凹地遺物出土状態(南から)



7. IV区1号倒木痕土層断面(南から)



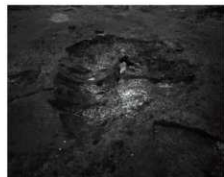
8. IV区2号倒木痕焼土(西から)



9. IV区2号倒木痕土層断面(南から)



10. IV区2号倒木痕土層断面(南東から)



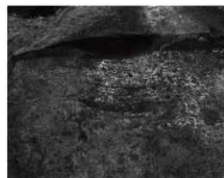
11. IV区2号倒木痕全景(南から)



12. IV区3号倒木痕土層断面(南から)



13. IV区4号倒木痕土層断面(北西から)



14. IV区5号倒木痕土層断面(南から)



15. IV区5号倒木痕全景(南から)



1. V区古代～古墳時代遺構面全景(西区/東から)



2. V区1号住居確認状況(西から)



3. V区古代～古墳時代遺構面全景(東から)



4. V区1号住居土層断面(南から)



5. V区2号住居掘り方土層断面(南西から)



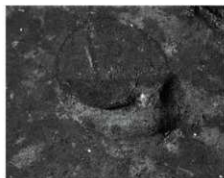
6. V区1号住居全景(西から)



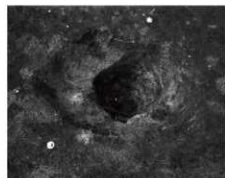
7. V区2号住居掘り方東側部土層断面(南西から)



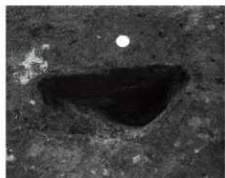
8. V区2号住居全景(南西から)



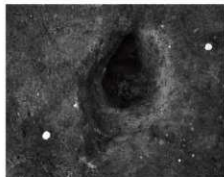
1. V区45号ビット土層断面(南西から)



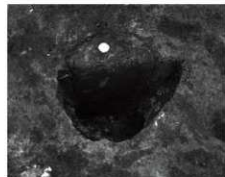
2. V区45号ビット全景(東から)



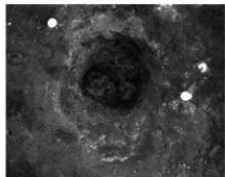
3. V区92号ビット土層断面(南から)



4. V区92号ビット全景(南西から)



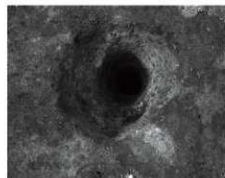
5. V区91号ビット土層断面(南から)



6. V区91号ビット全景(北から)



7. V区46号ビット土層断面(南から)



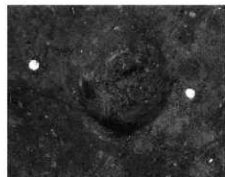
8. V区46号ビット全景(東から)



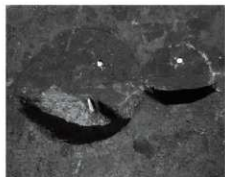
9. V区47号ビット土層断面(南から)



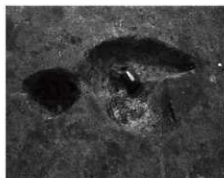
10. V区47号ビット遺物出土状態(南から)



11. V区66号ビット全景(南から)



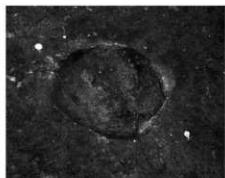
12. V区71号・72号ビット土層断面(南から)



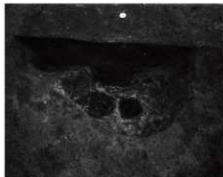
13. V区72号・71号ビット全景(北から)



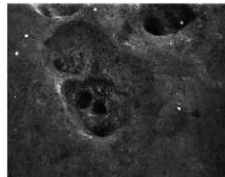
14. V区73号ビット土層断面(南から)



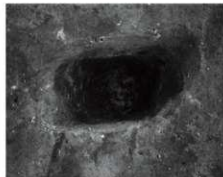
15. V区73号ビット全景(南から)



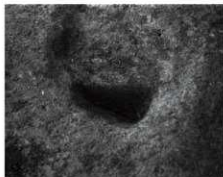
1. V区89号ビット土層断面(北から)



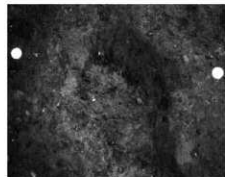
2. V区89号ビット全景(北から)



3. V区93号ビット全景(北から)



4. V区96号ビット土層断面(南から)



5. V区96号ビット全景(北から)



6. V区2号住居調査風景



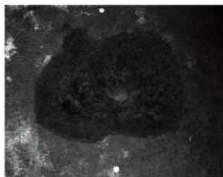
7. V区20号土坑土層断面(東から)



8. V区20号土坑全景(東から)



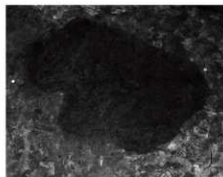
9. V区21号土坑土層断面(西から)



10. V区21号土坑全景(北から)



11. V区22号土坑土層断面(南から)



12. V区22号土坑全景(北から)



13. V区23号土坑土層断面(南から)



14. V区23号土坑全景(西から)



15. V区24号土坑土層断面(南から)



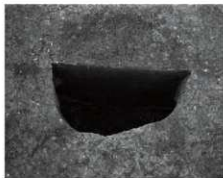
1. V区24号土坑全景(北から)



2. V区36号土坑土層断面(南から)



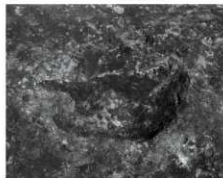
3. V区36号土坑遺物出土状態(南西から)



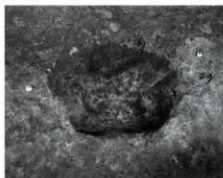
4. V区37号土坑土層断面(南から)



5. V区37号土坑全景(東から)



6. V区51号土坑土層断面(西から)



7. V区51号土坑全景(西から)



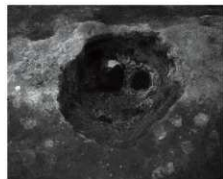
8. V区52号土坑土層断面(南から)



9. V区52号土坑全景(南から)



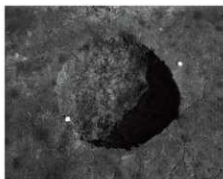
10. V区53号土坑土層断面(南西から)



11. V区53号土坑遺物出土状態(北から)



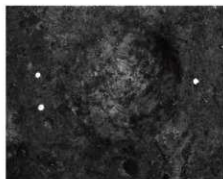
12. V区54号土坑土層断面(南から)



13. V区54号土坑全景(南から)



14. V区55号土坑土層断面(南から)



15. V区55号土坑全景(南から)



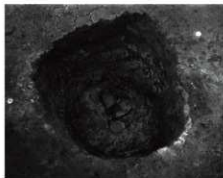
1. V区58号土坑上層土層断面(東から)



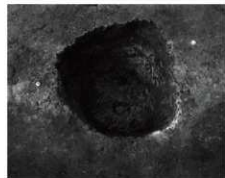
2. V区58号土坑土層断面(東から)



3. V区58号土坑上層遺物出土状態(東から)



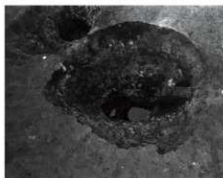
4. V区58号土坑下層遺物出土状態(東から)



5. V区58号土坑全景(東から)



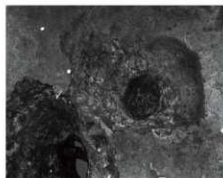
6. V区59号土坑土層断面(南西から)



7. V区59号土坑全景(北から)



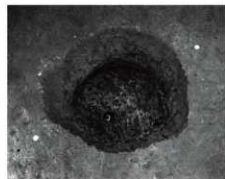
8. V区60号土坑土層断面(南から)



9. V区60号土坑全景(西から)



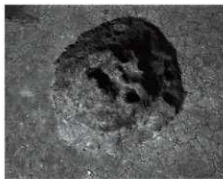
10. V区61号土坑土層断面(東から)



11. V区61号土坑全景(西から)



12. V区62号土坑土層断面(南から)



13. V区62号土坑全景(西から)



14. V区64号土坑土層断面(南から)



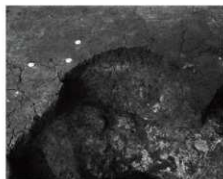
15. V区64号土坑全景(南から)



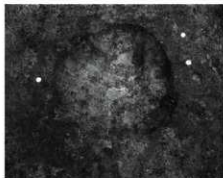
1. V区65号土坑土層断面(西から)



2. V区68号土坑土層断面(南東から)



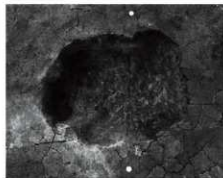
3. V区68号土坑全景(東から)



4. V区69号土坑全景(南から)



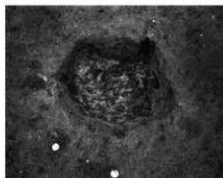
5. V区70号土坑土層断面(東から)



6. V区70号土坑全景(北から)



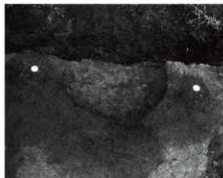
7. V区71号土坑土層断面(南から)



8. V区71号土坑全景(東から)



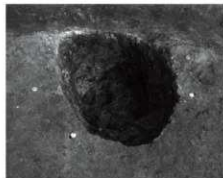
9. V区72号土坑土層断面(北から)



10. V区72号土坑全景(南から)



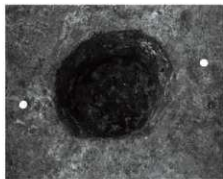
11. V区73号土坑土層断面(北東から)



12. V区73号土坑全景(西から)



13. V区74号土坑土層断面(南から)



14. V区74号土坑全景(南から)



15. V区76号土坑・85号ピット土層断面(北から)



1. V区9号ビット土層断面(南から)



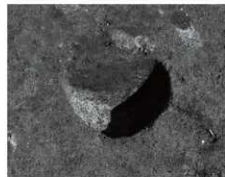
2. V区11号ビット土層断面(東から)



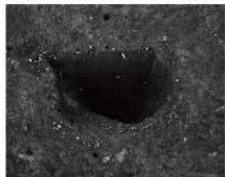
3. V区35・36号ビット土層断面(南西から)



4. V区48号ビット土層断面(南から)



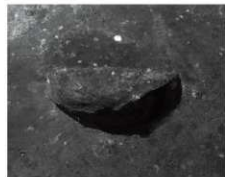
5. V区49号ビット土層断面(南から)



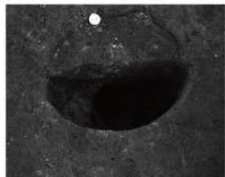
6. V区50号ビット土層断面(南から)



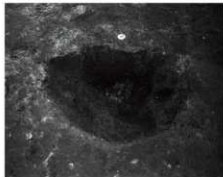
7. V区51号ビット土層断面(南から)



8. V区52号ビット土層断面(南東から)



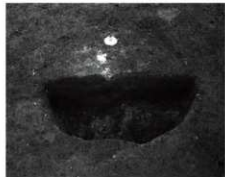
9. V区53号ビット土層断面(南から)



10. V区54号ビット土層断面(南から)



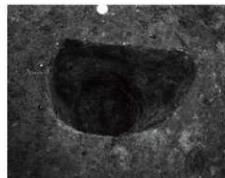
11. V区55号ビット土層断面(南から)



12. V区56号ビット土層断面(南から)



13. V区57号ビット土層断面(南から)



14. V区58号ビット土層断面(東から)



15. V区59号ビット土層断面(南から)



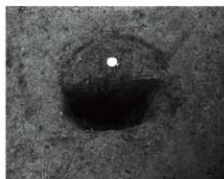
1. V区59号ビット遺物出土状態(東から)



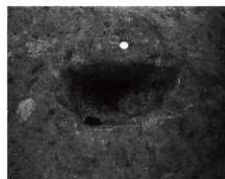
2. V区60号ビット土層断面(南から)



3. V区61号ビット土層断面(南西から)



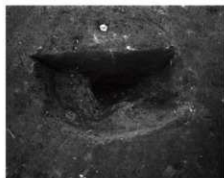
4. V区62号ビット土層断面(南から)



5. V区63号ビット土層断面(南から)



6. V区64号ビット土層断面(南から)



7. V区65号ビット土層断面(南から)



8. V区67号ビット土層断面(南から)



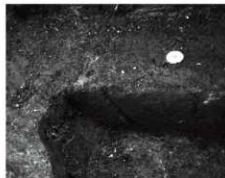
9. V区68号ビット土層断面(南西から)



10. V区69・70号ビット土層断面(南西から)



11. V区74号ビット土層断面(南から)



12. V区75号ビット土層断面(西から)



13. V区76号ビット土層断面(西から)



14. V区77号ビット全景(東から)



15. V区78号ビット全景(東から)



1. V区79号ビット土層断面(南から)



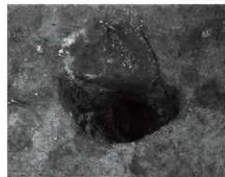
2. V区80号ビット土層断面(南から)



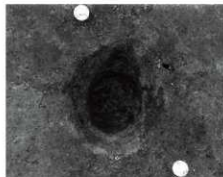
3. V区81号ビット土層断面(南東から)



4. V区82号ビット土層断面(東から)



5. V区83号ビット土層断面(南東から)



6. V区84号ビット全景(東から)



7. V区85号ビット全景(南から)



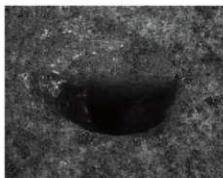
8. V区86・87号ビット土層断面(北から)



9. V区88号ビット土層断面(北から)



10. V区97号ビット土層断面(南東から)



11. V区98号ビット土層断面(西から)



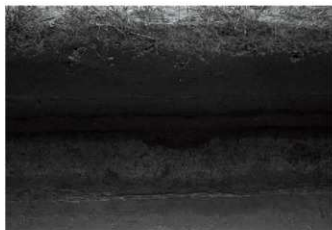
12. IV区・V区古代～古墳時代遺構群集中部近景(上空から)



1. V区16号溝全景(東から)



2. V区16号溝土層断面(東から)



3. V区16号溝土層断面(西から)



4. V区23号溝全景(南から)



5. V区23号溝土層断面(南から)



6. V区35号溝土層断面(南から)



1. V区35号溝全景(南から)



2. V区古代～古墳時代遺構面遺物出土状態(南から)



3. V区古代～古墳時代遺構面東端遺物出土状態(南から)



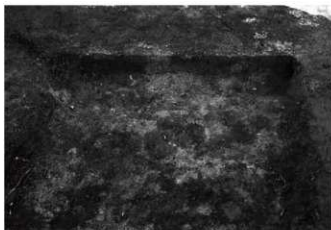
4. V区37号溝全景(西から)



5. V区38号溝土層断面(東から)



6. V区38号溝全景(北西から)



7. V区39号溝土層断面(南から)



1. V区39号溝全景(北から)



2. V区41号溝土層断面(南西から)



3. V区42号溝全景(西から)



4. V区41号溝全景(南から)



5. V区2号畠土層断面(南から)



7. V区3号凹地全景(北から)



6. V区2号凹地土層断面(北から)



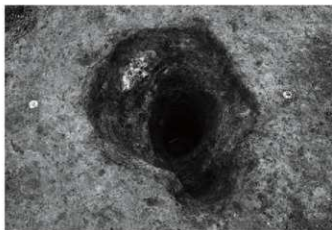
1. VI区古代～古墳時代遺構面全景(西から)



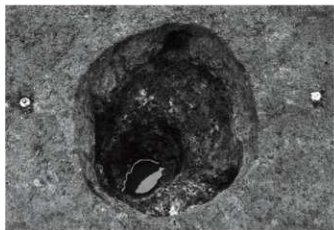
2. VI区古代～古墳時代遺構面全景(東から)



1. Ⅵ区1号住居全景(南から)



2. Ⅵ区1号住居P1全景(南から)



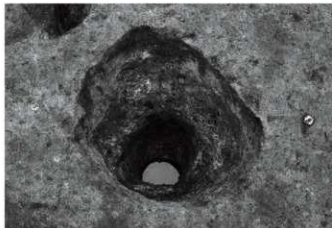
3. Ⅵ区1号住居P2全景(南から)



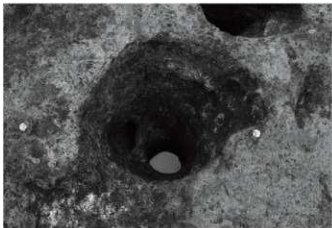
4. Ⅵ区1号住居P1土層断面(南から)



5. Ⅵ区1号住居P2土層断面(南から)



1. VI区1号住居P3全景(南から)



2. VI区1号住居P4全景(南から)



3. VI区1号住居P3土層断面(南から)



4. VI区1号住居P4土層断面(南から)



5. VI区1号住居P5土層断面(南から)



6. VI区1号住居P6土層断面(南から)



7. VI区1号住居周溝土層断面(南から)



8. VI区1号住居確認状況全景(南から)



1. Ⅵ区2号住居全景(南東から)



2. Ⅵ区2号住居P1・P5土層断面(南から)



3. Ⅵ区2号住居P2土層断面(南から)



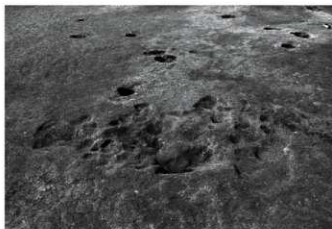
4. Ⅵ区2号住居P3・P7土層断面(南から)



5. Ⅵ区2号住居P4・P8土層断面(南東から)



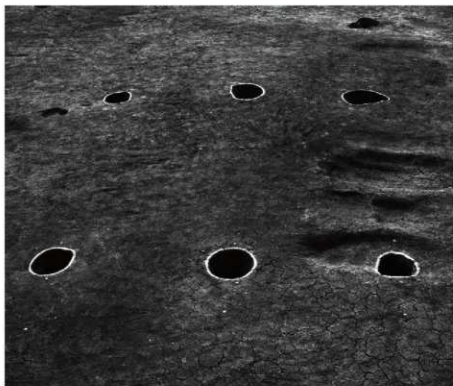
6. Ⅵ区2号住居P6土層断面(南から)



7. Ⅵ区1号竪穴遺構全景(東から)



8. Ⅵ区1号竪穴遺構土層断面(南東から)



1. VI区1号掘立柱建物全景(北東から)



2. VI区1号掘立P1土層断面(南から)



3. VI区1号掘立P2土層断面(南から)



4. VI区1号掘立P3土層断面(南から)



5. VI区1号掘立P4土層断面(南から)



6. VI区1号掘立P5土層断面(南から)



7. VI区1号掘立P6土層断面(南から)



9. VI区2号掘立P1土層断面(南から)



8. VI区2号掘立柱建物全景(南東から)



1. Ⅵ区2号掘立P 2土層断面(南から)



2. Ⅵ区2号掘立P 3土層断面(南から)



3. Ⅵ区2号掘立P 4土層断面(南から)



4. Ⅵ区2号掘立P 5土層断面(南から)



5. Ⅵ区2号掘立P 6土層断面(南から)



6. Ⅵ区2号掘立P 7土層断面(南から)



7. Ⅵ区2号掘立P 8土層断面(南から)



8. Ⅵ区2号掘立P 9土層断面(南から)



9. Ⅵ区2号掘立P 10土層断面(南から)



10. Ⅵ区2号掘立P 11土層断面(南から)



11. Ⅵ区2号掘立P 12土層断面(南から)



12. Ⅵ区2号掘立P 13土層断面(南から)



13. Ⅵ区2号掘立P 14土層断面(南から)



14. Ⅵ区2号掘立P 15土層断面(南から)



15. Ⅵ区2号掘立P 16土層断面(南から)



1. VI区2号掘立P17土層断面(南から)



2. VI区2号掘立P18土層断面(南から)



3. VI区2号掘立P19土層断面(南から)



4. VI区2号掘立P20土層断面(南から)



5. VI区2号掘立P21土層断面(南から)



6. VI区2号掘立P22土層断面(南から)



7. VI区2号掘立P23土層断面(南から)



8. VI区2号掘立P24土層断面(南から)



10. VI区3号掘立P1土層断面(南から)



9. VI区3号掘立柱建物全景(南西から)



11. VI区3号掘立P2土層断面(南から)



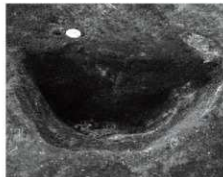
12. VI区3号掘立P4土層断面(南から)



1. Ⅵ区3号掘立P 5土層断面(南から)



2. Ⅵ区3号掘立P 6土層断面(南から)



3. Ⅵ区3号掘立P 7土層断面(南から)



4. Ⅵ区1号柱穴列全景(南東から)



5. Ⅵ区1号柱穴列P 1土層断面(南から)



6. Ⅵ区1号柱穴列P 2土層断面(南から)



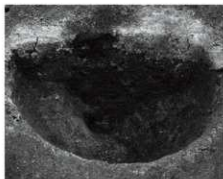
7. Ⅵ区1号柱穴列P 3土層断面(南から)



8. Ⅵ区1号柱穴列P 4土層断面(南から)



9. Ⅵ区1号柱穴列P 5土層断面(南から)



10. Ⅵ区1号柱穴列P 6土層断面(南から)



11. Ⅵ区1号柱穴列P 7土層断面(南から)



12. Ⅵ区1号柱穴列P 8土層断面(南から)



1. VI区3号井戸土層断面(南から)



2. VI区3号井戸全景(南から)



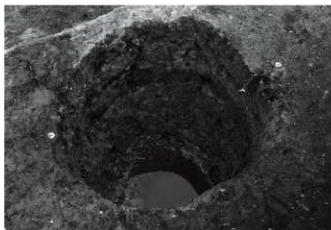
3. VI区4号井戸土層断面(南から)



4. VI区4号井戸全景(南から)



5. VI区5号井戸土層断面(南から)



6. VI区5号井戸全景(南から)



7. VI区6号井戸土層断面(北西から)



8. VI区6号井戸・43号土坑全景(南から)



1. VI区7号井戸土層断面(南から)



2. VI区7号井戸全景(南から)



3. VI区古代～古墳時代遺構面遺構集中部近景(南東から)



4. VI区古代～古墳時代遺構面遺構集中部近景(西から)



5. VI区古代～古墳時代遺構面調査風景(南西から)



1. VI区8号土坑土層断面(南から)



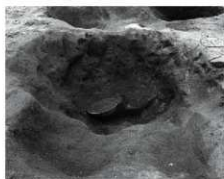
2. VI区8号・10号土坑全景(南から)



3. VI区9号土坑土層断面(南から)



4. VI区21号土坑全景(東から)



5. VI区21号土坑土層断面(東から)



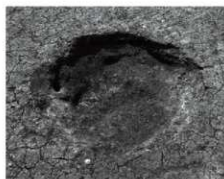
6. VI区27号土坑土層断面(南から)



7. VI区28号土坑全景(南から)



8. VI区29号土坑土層断面(南から)



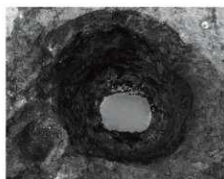
9. VI区29号土坑全景(南から)



10. VI区30号土坑土層断面(南から)



11. VI区30号土坑全景(南から)



12. VI区31号土坑全景(南から)



13. VI区32号土坑土層断面(南から)



14. VI区32号土坑全景(南から)



15. VI区33号土坑土層断面(南から)



1. VI区34号土坑土層断面(南から)



2. VI区34号土坑全景(南から)



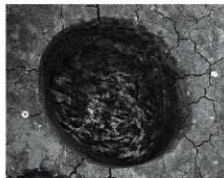
3. VI区35号土坑土層断面(南から)



4. VI区35号土坑全景(南から)



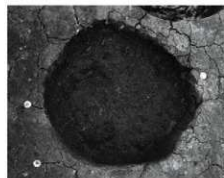
5. VI区36号土坑土層断面(南西から)



6. VI区36号土坑全景(東から)



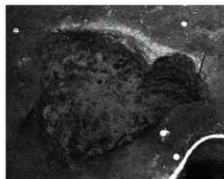
7. VI区37号土坑土層断面(南東から)



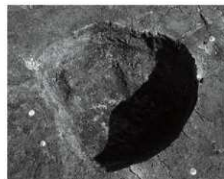
8. VI区37号土坑全景(東から)



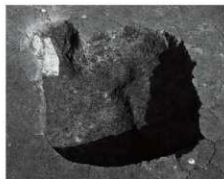
9. VI区38号土坑土層断面(南から)



10. VI区38号土坑全景(東から)



11. VI区39号土坑全景(南から)



12. VI区40号土坑全景(南から)



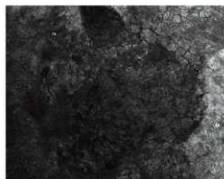
13. VI区41号土坑土層断面(南から)



14. VI区41号土坑全景(南から)



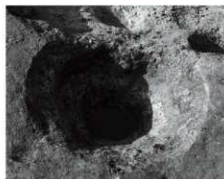
15. VI区42号土坑土層断面(南西から)



1. VI区42号土坑全景(東から)



2. VI区43号土坑土層断面(南西から)



3. VI区43号土坑全景(南から)



4. VI区44号土坑土層断面(南西から)



5. VI区44号土坑全景(南から)



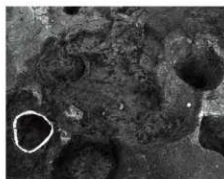
6. VI区45号土坑土層断面(南から)



7. VI区45号土坑全景(東から)



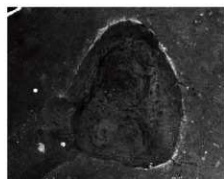
8. VI区46号土坑土層断面(南から)



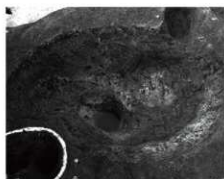
9. VI区46号土坑全景(東から)



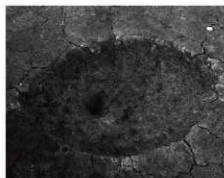
10. VI区47号土坑土層断面(南から)



11. VI区47号土坑全景(東から)



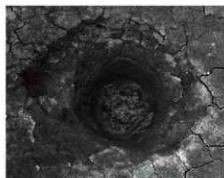
12. VI区48号土坑全景(東から)



13. VI区49号土坑全景(東から)



14. VI区50号土坑土層断面(南から)



15. VI区50号土坑全景(東から)



1. VI区51号土坑土層断面(南から)



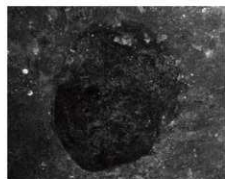
2. VI区52号土坑土層断面(東から)



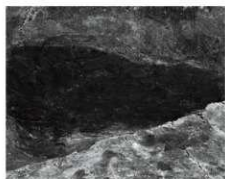
3. VI区52号土坑全景(東から)



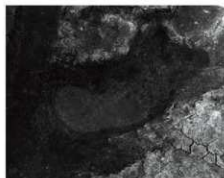
4. VI区53号土坑土層断面(南から)



5. VI区53号土坑全景(東から)



6. VI区54号土坑土層断面(南から)



7. VI区54号土坑全景(東から)



8. VI区2号ピット土層断面(南から)



9. VI区3号ピット土層断面(南から)



10. VI区4号ピット土層断面(南から)



11. VI区5号ピット土層断面(南から)



12. VI区17号ピット土層断面(南から)



13. VI区18号ピット土層断面(南から)



14. VI区19号ピット土層断面(南から)



15. VI区20号ピット土層断面(南から)



1. VI区24号ビット土層断面(南から)



2. VI区25号ビット土層断面(南から)



3. VI区28号ビット土層断面(南から)



4. VI区30号ビット土層断面(南から)



5. VI区34号ビット土層断面(南から)



6. VI区35号ビット土層断面(南から)



7. VI区36号ビット土層断面(南から)



8. VI区37号ビット土層断面(南から)



9. VI区38号ビット土層断面(南から)



10. VI区39号ビット土層断面(東から)



11. VI区40号ビット土層断面(東から)



12. VI区41号ビット土層断面(南から)



13. VI区42号ビット土層断面(南から)



14. VI区46号ビット土層断面(東から)



15. VI区47号ビット土層断面(東から)



1. Ⅵ区48号ビット土層断面(東から)



2. Ⅵ区49号ビット土層断面(南から)



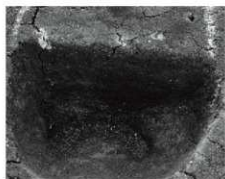
3. Ⅵ区50号ビット土層断面(南から)



4. Ⅵ区51号ビット土層断面(南から)



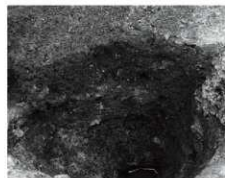
5. Ⅵ区52号ビット土層断面(南から)



6. Ⅵ区53号ビット土層断面(南から)



7. Ⅵ区55号ビット土層断面(南から)



8. Ⅵ区56号ビット土層断面(南から)



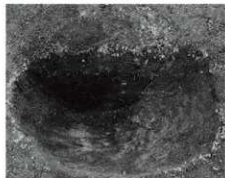
9. Ⅵ区64号ビット土層断面(南から)



10. Ⅵ区65号ビット土層断面(南から)



11. Ⅵ区66号ビット土層断面(南から)



12. Ⅵ区67号ビット土層断面(南から)



13. Ⅵ区70号ビット土層断面(南から)



14. Ⅵ区71号ビット土層断面(南から)



15. Ⅵ区72号ビット土層断面(南から)



1. VI区73号ビット土層断面(南から)



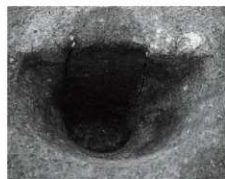
2. VI区74号ビット土層断面(南から)



3. VI区86号ビット土層断面(南から)



4. VI区89号ビット土層断面(南から)



5. VI区90号ビット土層断面(南から)



6. VI区91号ビット土層断面(南から)



7. VI区92号ビット土層断面(南から)



8. VI区93号ビット土層断面(南から)



9. VI区94号ビット土層断面(南から)



10. VI区95号ビット土層断面(南から)



11. VI区96号ビット土層断面(南から)



12. VI区98号ビット土層断面(南から)



13. VI区100号ビット土層断面(南から)



14. VI区101号ビット土層断面(南から)



15. VI区102号ビット土層断面(南から)



1. VI区104号ビット土層断面(南から)



2. VI区107号ビット土層断面(南から)



3. VI区108号ビット土層断面(西から)



4. VI区110号ビット土層断面(西から)



5. VI区111号ビット土層断面(南から)



6. VI区112号ビット土層断面(東から)



7. VI区114・113号ビット土層断面(東から)



8. VI区115・116号ビット土層断面(南から)



9. VI区117号ビット土層断面(南から)



10. VI区119号ビット土層断面(南から)



11. VI区120・121号ビット土層断面(南から)



12. VI区122号ビット土層断面(南から)



13. VI区123号ビット土層断面(南から)



14. VI区124号ビット土層断面(南から)



15. VI区125号ビット土層断面(南から)



1. VI区144号ビット土層断面(南から)



2. VI区145号ビット土層断面(南から)



3. VI区147号ビット土層断面(南から)



4. VI区149号ビット土層断面(南から)



5. VI区154号ビット土層断面(南から)



6. VI区155号ビット土層断面(北から)



7. VI区156号ビット土層断面(南から)



8. VI区163号ビット土層断面(東から)



9. VI区164号ビット土層断面(南から)



10. VI区165号ビット土層断面(南から)



11. VI区169号ビット土層断面(南東から)



12. VI区170号ビット土層断面(南東から)



13. VI区171号ビット土層断面(南から)



14. VI区174号ビット土層断面(南から)



15. VI区176号ビット土層断面(南から)



1. VI区15号・14号溝全景(南から)



2. VI区14号溝土層断面(南から)



3. VI区14号溝遺物出土状態(北から)



4. VI区14号溝上層遺物出土状態(北から)



5. VI区15号溝土層断面(南から)



6. VI区16号溝全景(南から)



1. Ⅵ区16号溝遺物出土状態全景(北から)



2. Ⅵ区16号溝遺物出土状態近景(南から)



3. Ⅵ区16号溝土層断面(南から)



4. Ⅵ区16号溝遺物出土状態(北から)



5. Ⅵ区16号溝遺物出土状態(南東から)



6. Ⅵ区16号溝遺物出土状態(南から)



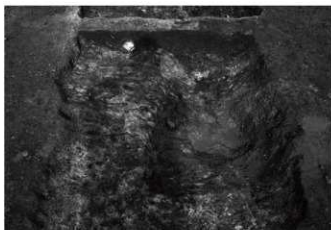
7. Ⅵ区17号溝全景(南から)



1. VI区18号溝全景(南東から)



2. VI区17号溝土層断面(南から)



3. VI区18号溝遺物出土状態(南東から)



4. VI区18号溝遺物集中出土状態(東から)



5. VI区18号溝遺物出土状態(南から)



6. VI区18号溝遺物集中出土状態(南から)



7. VI区18号溝遺物出土状態(南から)



1. Ⅵ区19号溝全景(南東から)



2. Ⅵ区19号溝土層断面(南から)



3. Ⅵ区20号溝全景(南東から)



4. Ⅵ区20号溝土層断面(南から)



5. Ⅵ区21号溝全景(南東から)



6. Ⅵ区21号溝土層断面(南東から)



7. Ⅵ区21号溝遺物出土状態(北から)



8. Ⅵ区21号溝遺物出土状態(南から)



1. VI区22号溝全景(南西から)



2. VI区22号溝土層断面(東から)



3. VI区23号溝全景(南東から)



4. VI区23号溝土層断面(南西から)



5. VI区24号溝全景(南東から)



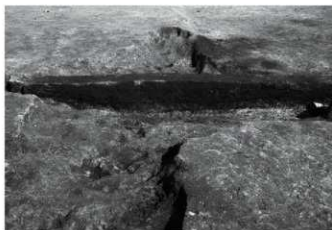
6. VI区24号溝土層断面(東から)



7. VI区24号溝遺物出土状態(西から)



8. VI区25号溝全景(南東から)



1. Ⅵ区25号溝土層断面(西から)



2. Ⅵ区26号溝土層断面(南から)



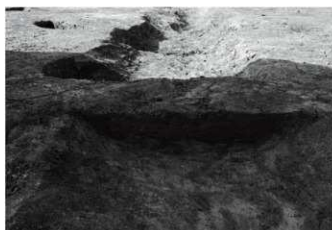
3. Ⅵ区27号溝土層断面(北東から)



4. Ⅵ区27号・20号溝土層断面(北から)



5. Ⅵ区28号溝全景(南東から)



6. Ⅵ区28号溝土層断面(南から)



7. Ⅵ区29号溝全景(東から)



8. Ⅵ区29号溝土層断面(南から)



1. Ⅷ区古代～古墳時代遺構面全景(東から)



2. Ⅷ区古代～古墳時代遺構面全景(上空から)



1. Ⅷ区12号土坑土層断面(東から)



2. Ⅷ区12号土坑全景(東から)



3. Ⅷ区1号ピット土層断面(南西から)



4. Ⅷ区2号ピット土層断面(南から)



5. Ⅷ区3号ピット土層断面(南から)



6. Ⅷ区5号溝土層断面(東から)



7. Ⅷ区5号溝全景(南東から)



8. Ⅷ区5号溝全景(北西から)



9. Ⅷ区5号溝土層断面(南東から)



10. Ⅷ区5号・8号溝土層断面(南西から)



11. Ⅷ区5号溝土層断面(北東から)



1. Ⅶ区 5号～7号溝全景(北西から)



2. Ⅶ区 6号溝土層断面(東から)



3. Ⅶ区 6号溝土層断面(東から)



4. Ⅶ区 6号・7号溝全景(北西から)



5. Ⅶ区 7号溝土層断面(東から)



6. Ⅶ区 7号溝土層断面(南東から)



7. Ⅶ区 7号溝土層断面(北から)



8. Ⅶ区 7号溝全景(南東から)



1. Ⅶ区8号溝全景(北東から)



2. Ⅶ区8号溝土層断面(南西から)



3. Ⅶ区1号ビット列全景(南西から)



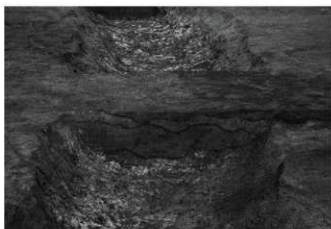
4. Ⅶ区1号ビット列土層断面(1)(南東から)



5. Ⅶ区1号ビット列土層断面(2)(南東から)



6. Ⅶ区9号溝土層断面A-A'(南東から)



7. Ⅶ区9号溝土層断面B-B'(南東から)



1. Ⅶ区8号・9号溝土層断面C-C' (南西から)



2. Ⅶ区9号溝土層断面E-E' (東から)



3. Ⅶ区9号溝土層断面D-D' (東から)



4. Ⅶ区9号～11号溝土層断面(南から)



5. Ⅶ区9号溝全景(北西から)



6. Ⅶ区10号溝全景(北東から)



1. Ⅶ区10号・11号溝全景(北東から)



2. Ⅶ区10号溝土層断面(南から)



3. Ⅶ区10号・11号溝土層断面(南西から)



4. Ⅶ区3号・11号溝土層断面(北東から)



5. Ⅶ区11号溝全景(南西から)



7. Ⅶ区12号溝全景(北西から)



6. Ⅶ区12号溝全景(南東から)



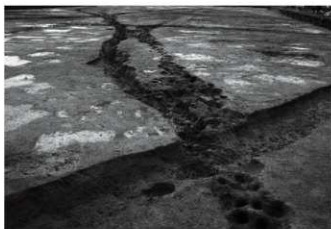
1. Ⅶ区12号溝土層断面(南東から)



2. Ⅶ区12号溝土層断面(東から)



3. Ⅶ区12号・14号溝土層断面(北東から)



4. Ⅶ区13号溝全景(東から)



5. Ⅶ区13号溝全景(西から)



6. Ⅶ区14号溝全景(北東から)



7. Ⅶ区14号溝全景(南から)



8. Ⅶ区14号溝土層断面(南西から)



1. I区古代～古墳時代遺構面全景(東から)



2. I区古代～古墳時代遺構面全景(上空から)



1. IX区1号井戸土層断面(南西から)



2. IX区1号井戸全景(南から)



3. IX区1号井戸遺物出土状態(南から)



4. IX区1号井戸完掘状況(南から)



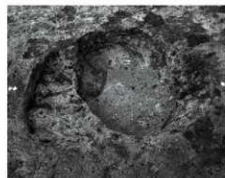
5. IX区24号土坑土層断面(東から)



6. IX区24号土坑全景(東から)



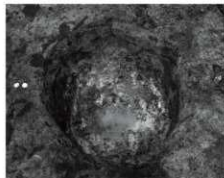
7. IX区25号・26号土坑土層断面(南から)



8. IX区25号・26号土坑全景(南から)



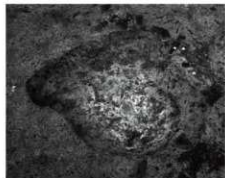
9. IX区27号土坑土層断面(南から)



10. IX区27号土坑全景(南から)



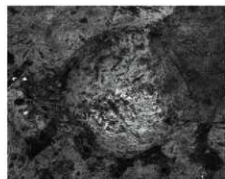
11. IX区28号土坑土層断面(南から)



12. IX区28号土坑全景(南から)



13. IX区29号土坑土層断面(南から)



14. IX区29号土坑全景(南から)



15. IX区30号土坑土層断面(南から)



1. IX区30号土坑全景(南から)



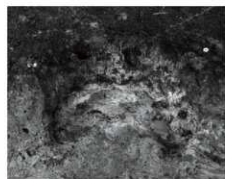
2. IX区31号土坑土層断面(東から)



3. IX区31号土坑全景(東から)



4. IX区32号土坑土層断面(南から)



5. IX区32号土坑全景(南西から)



6. IX区33号土坑土層断面(南西から)



7. IX区33号土坑全景(南西から)



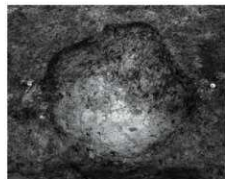
8. IX区34号土坑土層断面(北東から)



9. IX区34号土坑全景(東から)



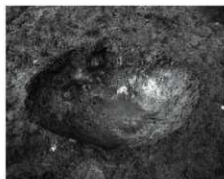
10. IX区35号土坑土層断面(南西から)



11. IX区35号土坑全景(南西から)



12. IX区36号土坑土層断面(南から)



13. IX区36号土坑全景(南から)



14. IX区37号土坑土層断面(北西から)



15. IX区37号土坑全景(北西から)



1. IX区7号溝全景(北から)



2. IX区7号溝土層断面(南から)



3. IX区8号溝全景(南から)



4. IX区8号溝土層断面(北から)



5. IX区9号溝全景(南東から)



6. IX区9号・10号溝土層断面(南東から)



7. IX区10号・11号溝全景(南東から)



1. IX区10号溝全景(西から)



2. IX区10号溝土層断面(東から)



3. IX区9号・10号溝土層断面(南東から)



4. IX区11号溝全景(北西から)



5. IX区11号溝全景(南東から)

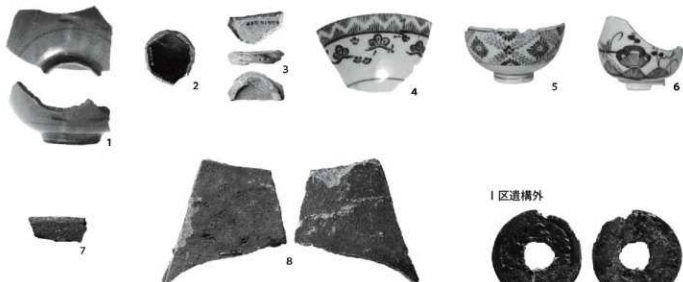


6. IX区11号溝土層断面A-A' (南東から)

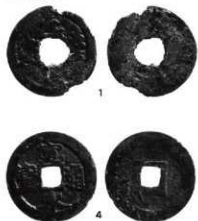


7. IX区11号溝土層断面B-B' (南東から)

I 区 1 号窑



I 区道横外



II 区 1 号溝



II 区 10 号溝

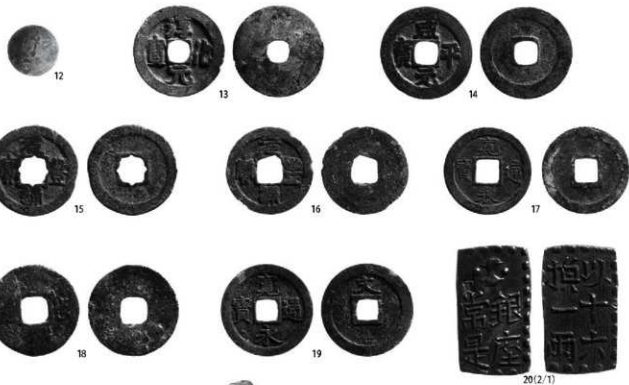


II 区 27 号溝



II 区道横外





III区6号土坑



III区蛭堀



III区5号溝



III区42号溝



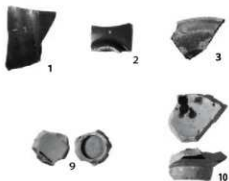
III区11号溝

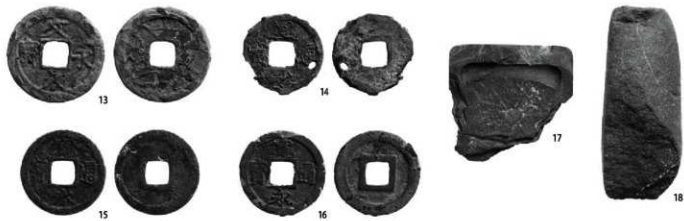


III区1号溝



III区遺構外

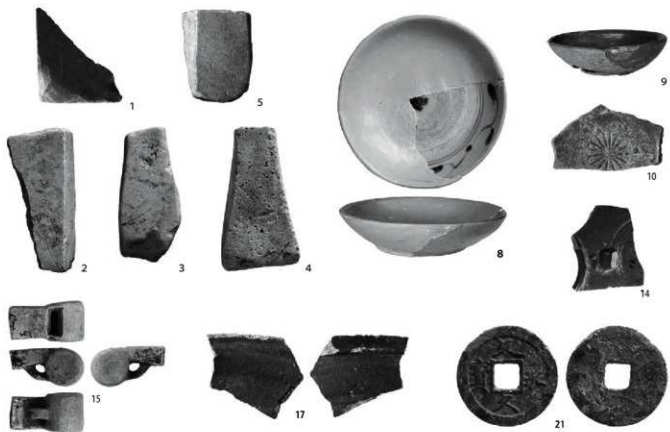




IV区蛭堀



IV区1号・2号溝





22



23



24

IV区2号復旧溝



3 (1/1)

IV区遺構外



2

3

4

V区34号溝



9

V区3号溝



1

V区遺構外



1



2



3



4



5

V区33号溝



1



6



7

VI区1号溝



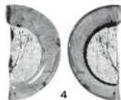
1



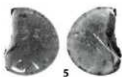
2



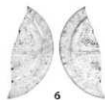
3



4

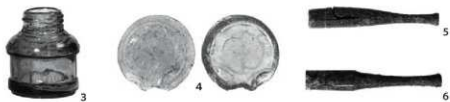


5



6

VI区6号溝



VII区1号溝



VI区遺構外



VIII区1号~4号溝



IX区2号溝



IX区4号溝



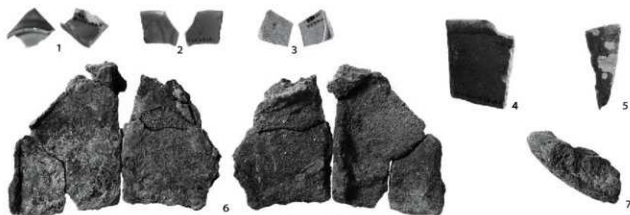
IX区1号溝



IX区遺構外



II区浅間B混土上層水田痕跡



II区浅間B混土上層水田痕跡



VII区浅間Bテフラ直下水田

II区遺構外



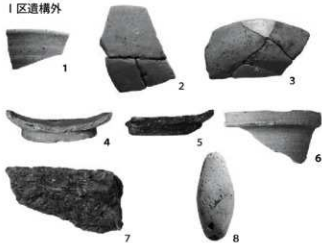
V区B混土下面水田痕跡



III区浅間Bテフラ直下水田



I区遺構外



II区遺構外



III区1号住居



Ⅲ区2号住居



Ⅲ区3号住居



Ⅲ区5号住居



Ⅲ区6号住居



Ⅲ区4号竪穴



Ⅲ区1号井戸



Ⅲ区3号井戸



Ⅲ区20号土坑

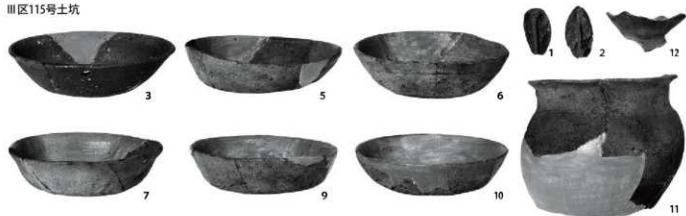


Ⅲ区111号土坑



PL.214

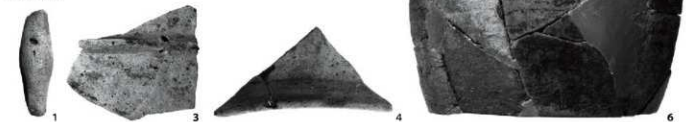
Ⅲ区115号土坑



Ⅲ区28号溝



Ⅲ区29号溝





III区31号沟

III区遺構外



I区3号土坑

I区11~13号土坑

I区15号土坑



I区4号土坑





I区22号溝



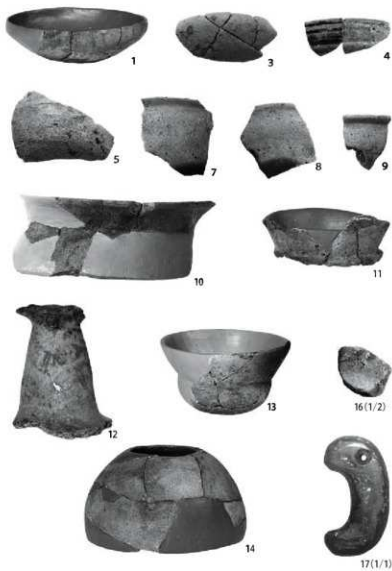
I区34号溝



I 区39号溝



I 区遺構外

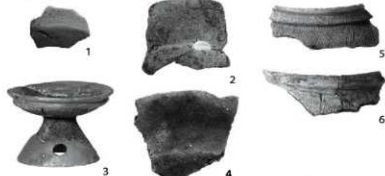


II 区8号土坑





II区遺構外



III区9号住居



Ⅲ区5号掘立



Ⅲ区26号土坑



Ⅲ区55号土坑



Ⅲ区56号土坑



Ⅲ区75号土坑



Ⅲ区74号土坑



Ⅲ区63号土坑



Ⅲ区89号土坑



Ⅲ区117号土坑



Ⅲ区33号溝



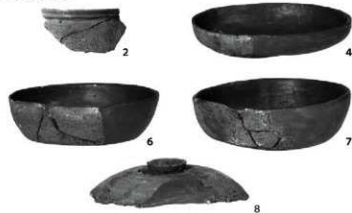
Ⅲ区34号溝



Ⅲ区遺構外



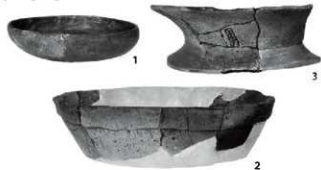
IV区49号土坑



IV区50号土坑



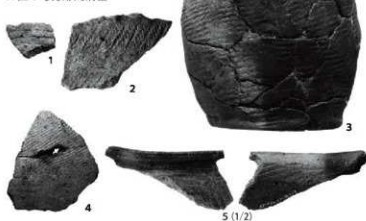
IV区1号凹地



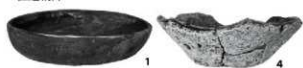
IV区29号ピット



IV区1号方形周溝墓



IV区遺構外



V区1号住居



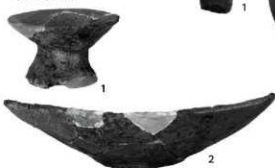
V区2号住居



V区36号土坑



V区58号土坑

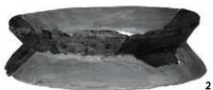


PL.222

V区71号土坑



V区74号土坑



V区3号凹地

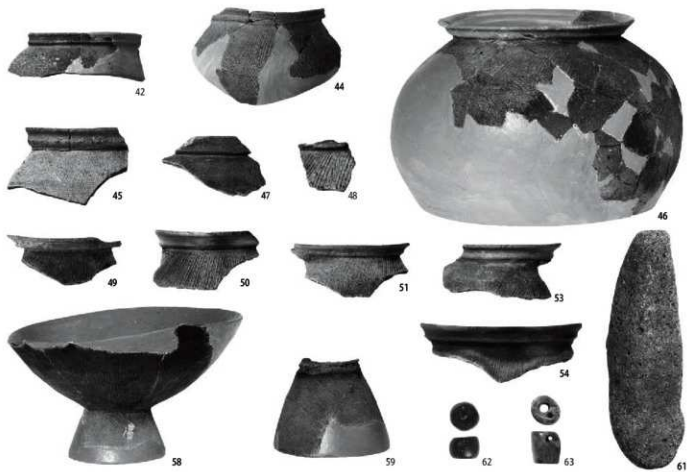


V区36号沟



V区遗構外





VI区1号住居



VI区4号井戸



VI区6号井戸



VI区7号井戸



VI区21号土坑



VI区27号土坑



VI区39号土坑



PL.224

VI区41号土坑



VI区14号溝



VI区43号土坑



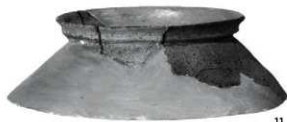
VI区16号溝



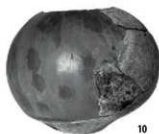
VI区30号ピット



VI区18号溝



VI区21号溝





11



15



17



16



19



21



18

VI区24号溝



2



3



5



7



8



9

VI区遺構外



8

VII区11号溝



6

IX区1号井戸



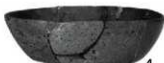
1



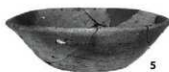
2



3



4



5



6



8



9



10



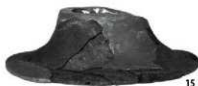
12



13



14



15

VIII区7号溝



1



4

VIII区遺構外



1

IX区遺構外



1

IX区8号溝



1

IX区11号溝

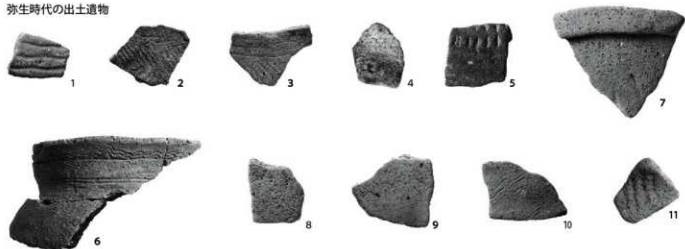


2



3

弥生時代の出土遺物



縄文時代の出土遺物





22



23



24



25



26



27



30



1



2



3



4



5

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第528集

上新田中道東遺跡

国道354号高崎玉村バイパス(玉村工区)社会資本総合整備
(活力創出基盤整備事業)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成24(2012)年2月20日 印刷

平成24(2012)年2月27日 発行

編集・発行/財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話(0270)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/●●●●●●●●●●

